乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II

乙金地区遺跡群II

～薬師の森遺跡第４・６次調査・雉子ヶ尾遺跡第３次調査～

大野城市文化財調査報告書　第92集

２０１０

大野城市教育委員会

乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II

乙金地区遺跡群II

～薬師の森遺跡第４・６次調査・雉子ヶ尾遺跡第３次調査～

大野城市文化財調査報告書　第92集

２０１０

大野城市教育委員会



薬師の森遺跡第４次調査全景（西から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査東側全景（東から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査西側全景（東から）

序

大野城市乙金地区では事業面積が41.2haにおよぶ大規模な区画整理事業が計画され、これに伴い平成19年度より本格的な発掘調査を実施しております。

今回報告する薬師の森遺跡第４・６次調査、雉子ヶ尾遺跡第３次調査は乙金第二土地区画整理事業地内の南側に位置します。調査の結果、旧石器・縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が出土し、人々の暮らしが連綿と続いていたことがわかりました。薬師の森遺跡第４次調査では古墳時代後期や平安時代の集落跡が確認されたほか、平安時代から鎌倉時代の墓が発見されました。墓からは土師器や青磁などの土器が完形品の状態で出土しており、貴重な資料といえます。また薬師の森遺跡第６次調査では鎌倉時代から室町時代にかけての集落の一部が確認され、乙金地区における中世期の土地利用を考える上で重要な発見となりました。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、我々にたくさんのことを教えてくれます。こうした遺跡を記録し、報告書というかたちで広く一般に公開するとともに、後世へと伝えていけるよう努めています。本書が文化財の理解と認識を深める一助となるとともに、学術研究や教育の面で広く活用していただけたら幸いです。

最後になりましたが、乙金第二土地区画整理組合をはじめ、㈱清水建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成２２年３月３１日

大野城市教育委員会
教育長　古賀　宮太

例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が乙金第二土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市乙金３丁目所在の「薬師の森遺跡第４次調査」、「薬師の森遺跡第６次調査」及び大野城市大字乙金所在の「雉子ヶ尾遺跡第３次調査」の報告書である。

2．発掘調査は大野城市乙金第二土地区画整理組合の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。

3．遺構写真は、薬師の森遺跡第４次調査を上田龍児、薬師の森遺跡第６次調査・雉子ヶ尾遺跡第３次調査を中島圭が撮影した。

4．遺物写真は、(有)文化財写真工房(岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員)が撮影した。

5．遺構平面実測図は、薬師の森遺跡第４次調査の全体図を㈱埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に委託し、個別の実測図・地形測量図を甲斐康大、上田が作成した。薬師の森遺跡第６次調査を梶原詩織（福岡大学学生）、甲斐、中島が作成し、雉子ヶ尾遺跡第３次調査を中島が作成した。なお、地形測量図のコンタは25cm間隔である。

6．遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標(第Ⅱ系)を示す。また図中の標高は、乙金第二土地区画整理組合が提供した４級基準点網図の成果を使用している。

7．遺物実測図は、薬師の森遺跡第４次調査を大里弥生、甲斐、中島、上田、薬師の森遺跡第６次調査の一部と雉子ヶ尾遺跡第３次調査を中島が作成し、薬師の森遺跡第６次調査の一部を㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

8．製図は、薬師の森遺跡第４・６次調査の遺構平面配置図および薬師の森遺跡第６次調査の遺物を㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、他は渡辺美香が作成した。

9．拓本は大里が作成した。

10．観察表は、薬師の森遺跡第４次調査を吉田浩之が作成し、他は中島が作成した。

11．本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の１／25000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用した。

12．遺物の名称のうち、須恵器蓋杯については平城京分類、輸入陶磁器については太宰府分類(太宰府市教育委員会『太宰府条坊跡XV』2000年(太宰府市の文化財第49集))による呼称を用いる。また須恵器の編年に関しては、大野城市教育委員会『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』2008年（大野城市文化財調査報告書第77集）に拠る。

13．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

14．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用している。

15．本書の執筆は、Ⅰを林潤也、Ⅱ・Ⅲを上田、Ⅳ・Ⅴを中島、Ⅵを上田・中島が担当し、編集は上田がおこなった。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　１．調査にいたる経緯……１～２
　２．平成20年度の調査経過 ……３～７
　３．調査体制 ……８
Ⅱ．位置と環境
　１．地理的環境 ……９
　２．歴史的環境 ……９～14
Ⅲ．薬師の森遺跡第４次調査
　Ａ．調査概要 ……15
　Ｂ．遺構と遺物 ……15～60
　Ｃ．小結 ……60
Ⅳ．薬師の森遺跡第６次調査
　Ａ．調査概要 ……61～64
　Ｂ．遺構と遺物 ……65～94
　Ｃ．小結 ……95
Ⅴ．雉子ヶ尾遺跡第３次調査
　Ａ．調査概要 ……97
　Ｂ．遺構と遺物 ……97～100
　Ｃ．小結……100
Ⅵ．まとめ ……101～108

挿　図　目　次

第1図　乙金第二土地区画整理事業地計画平面図 ……2
第2図　平成20年度乙金第二土地区画整理事業地内試掘調査および
薬師の森遺跡第4・6次調査・雉子ヶ尾遺跡第3次調査地位置図（1／5,000）…4
第3図　乙金第二土地区画整理事業地周辺旧地形図（1961年撮影）（1／5,000） ……5
第4図　周辺遺跡分布地図 ……11～12
第5図　薬師の森遺跡第4次調査遺構配置図（1／600）……16
第6図　薬師の森遺跡第4次調査SB01実測図（1／60） ……17
第7図　薬師の森遺跡第4次調査SB02実測図（1／60） ……18
第8図　薬師の森遺跡第4次調査SB01～05出土遺物実測図（1／3）……18
第9図　薬師の森遺跡第4次調査SB03・05実測図（1／60）……19
第10図　薬師の森遺跡第4次調査SB04実測図（1／60） ……20
第11図　薬師の森遺跡第4次調査SX17・24実測図（1／60）……21
第12図　薬師の森遺跡第4次調査SX17出土遺物実測図（1）（1／3） ……22
第13図　薬師の森遺跡第4次調査SX17出土遺物実測図（2）
（39は1／2、他は1／3） …23
第14図　薬師の森遺跡第4次調査SX24出土遺物実測図（1／3）……25
第15図　薬師の森遺跡第4次調査SX26 実測図（1／60）……26
第16図　薬師の森遺跡第4次調査SX26出土遺物実測図
（59・60は1／2、61・62は1／4、他は1／3） …27
第17図　薬師の森遺跡第4次調査SX01実測図（1／20） ……28
第18図　薬師の森遺跡第4次調査SX02実測図（1／20） ……29
第19図　薬師の森遺跡第4次調査SX03・11実測図（1／20）……31
第20図　薬師の森遺跡第4次調査SX12・27実測図（1／20）……32
第21図　薬師の森遺跡第4次調査SX28実測図（1／20） ……33
第22図　薬師の森遺跡第4次調査SX01・02・12・27・28出土遺物実測図
（75は1／2、他は1／3）…35
第23図　薬師の森遺跡第4次調査SX04～06・09・10実測図（1／40） ……36
第24図　薬師の森遺跡第4次調査SX04・05出土遺物実測図（1／3）……37
第25図　薬師の森遺跡第4次調査SX13・14実測図（1／40）……39
第26図　薬師の森遺跡第4次調査SX16・18・19実測図（1／40）……40
第27図　薬師の森遺跡第4次調査SX14・16・19出土遺物実測図（1／3） ……41
第28図　薬師の森遺跡第4次調査SX20・21実測図（1／40）……42
第29図　薬師の森遺跡第4次調査SX30実測図（1／40） ……43
第30図　薬師の森遺跡第4次調査SX30出土遺物実測図（1）（1／3） ……44

第31図　薬師の森遺跡第4次調査SX30出土遺物実測図（2）（1／3）……45
第32図　薬師の森遺跡第4次調査SX30出土遺物実測図（3）（1／3）……46
第33図　薬師の森遺跡第4次調査SX33～35実測図（SX34は1／60、他は1／40）…48
第34図　薬師の森遺跡第4次調査SX34出土遺物実測図（1／3）……49
第35図　薬師の森遺跡第4次調査SX38・44・45・47・50実測図
（SX47は1／60、他は1／40）…50
第36図　薬師の森遺跡第4次調査SX51・53・56～58実測図（1／40）……52
第37図　薬師の森遺跡第4次調査SX38・47・50・53・56～58・62・65出土遺物
実測図（1／3）…53
第38図　薬師の森遺跡第4次調査SX61～66・69・70実測図（1／40）……55
第39図　薬師の森遺跡第4次調査その他の出土遺物実測図（1）（1／3）……57
第40図　薬師の森遺跡第4次調査その他の出土遺物実測図（2）
（159・160は1／2、他は1／3）…58
第41図　薬師の森遺跡第4次調査出土石器実測図（179・180は1／2、他は2／3）…59
第42図　薬師の森遺跡第6次調査調査区壁面土層実測図（1／40）……61
第43図　薬師の森遺跡第6次調査包含層土層実測図（1／60）……62
第44図　薬師の森遺跡第6次調査遺構配置図（1／200）……63
第45図　薬師の森遺跡第6次調査SB02～04実測図（SP440は1／30、他は1／60）…65
第46図　薬師の森遺跡第6次調査SB03（SP440・475・502）出土遺物実測図
（181は1／6、他は1／3）…66
第47図　薬師の森遺跡第6次調査SC01実測図（1／60）……67
第48図　薬師の森遺跡第6次調査SC01出土遺物実測図（1／3）……67
第49図　薬師の森遺跡第6次調査SX05～07実測図（1／40）……68
第50図　薬師の森遺跡第6次調査SX09・11・28実測図（1／40）……69
第51図　薬師の森遺跡第6次調査SX05・09・11・28出土遺物実測図
（193は1／2、他は1／3）…70
第52図　薬師の森遺跡第6次調査SX29実測図（1／40）……71
第53図　薬師の森遺跡第6次調査SX29出土遺物実測図（1／3）……72
第54図　薬師の森遺跡第6次調査SX34・37・40実測図（1／40）……73
第55図　薬師の森遺跡第6次調査SX42・47実測図（1／40）……74
第56図　薬師の森遺跡第6次調査SX34・37・42・47出土遺物実測図（1／3）……75
第57図　薬師の森遺跡第6次調査SX51実測図（1／40）……76
第58図　薬師の森遺跡第6次調査SX51出土遺物実測図（1／3）……77
第59図　薬師の森遺跡第6次調査SX52実測図（1／60）……78
第60図　薬師の森遺跡第6次調査SX56・57・60実測図（1／40）……79
第61図　薬師の森遺跡第6次調査SX61・62・64・65実測図（1／40）……81

第62図　薬師の森遺跡第6次調査SX52・56・57・60～62・64・65
出土遺物実測図（231は1／2、他は1／3）…82
第63図　薬師の森遺跡第6次調査SX66～68・83・86・89・95・96
実測図（1／40）…83
第64図　薬師の森遺跡第6次調査SX94・97・102実測図（1／40）……85
第65図　薬師の森遺跡第6次調査SX68・78・83・86・95・96・102
出土遺物実測図（1／3）…85
第66図　薬師の森遺跡第6次調査SD02～05土層実測図（1／40）……86
第67図　薬師の森遺跡第6次調査SD03～05出土遺物実測図（1／3）……87
第68図　薬師の森遺跡第6次調査SD08～11出土遺物実測図（1／3）……88
第69図　薬師の森遺跡第6次調査SP出土遺物実測図
（275・278・279は1／2、他は1／3）…91
第70図　薬師の森遺跡第6次調査包含層出土遺物実測図
（300は1／4、301・302は1／2、他は1／3）…93
第71図　薬師の森遺跡第6次調査表土剥ぎ・その他出土遺物実測図
（308は1／2、他は1／3）…94
第72図　雉子ヶ尾遺跡第3次調査遺構配置図（1／200）……98
第73図　雉子ヶ尾遺跡第3次調査SX01実測図（1／40）……99
第74図　雉子ヶ尾遺跡第3次調査谷部包含層土層実測図（1／40）……99
第75図　雉子ヶ尾遺跡第3次調査SX01・谷部包含層出土遺物実測図（1／3）……99
第76図　雉子ヶ尾遺跡第3次調査試掘調査時・表土剥ぎ時出土遺物実測図（1／3）…100

表　目　次

第1表　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物観察表①～④……109～112
第2表　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物観察表①～③……112～114
第3表　雉子ヶ尾遺跡第3次調査出土遺物観察表……114

付　図

薬師の森遺跡第4次調査遺構配置図（1／200）

図　版　目　次

巻頭図版１　薬師の森遺跡第４次調査全景(西から)

巻頭図版２　(１)薬師の森遺跡第６次調査東側全景(東から)

(２)薬師の森遺跡第６次調査西側全景(東から)

図版１　(１)薬師の森遺跡第４次調査区全景①(西上空から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査区全景②(西上空から)

図版２　(１)薬師の森遺跡第４次調査SB01全景(西から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SB02・04全景(北西から)

図版３　(１)薬師の森遺跡第４次調査SB02・04全景(北から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SB03全景(北から)

図版４　(１)薬師の森遺跡第４次調査SB02～04全景(真上から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SB05全景(西から)

図版５　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX17・24・26全景(真上から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX17・24・26全景(西上空から)

図版６　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX17全景(西から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX17遺物出土状況(南から)

図版７　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX17土層(東から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX17土層(南から)

図版８　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX24全景(西から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX24土層(西から)

(３)薬師の森遺跡第４次調査SX24土層(南から)

(４)薬師の森遺跡第４次調査SX24カマド土層(西から)

(５)薬師の森遺跡第４次調査SX24カマド全景(西から)

図版９　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX26全景(西から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX26土層(東から)

(３)薬師の森遺跡第４次調査SX26土層(北西から)

(４)薬師の森遺跡第４次調査SX26焼土検出状況(北から)

(５)薬師の森遺跡第４次調査SX26焼土土層(北から)

図版10　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX01全景(南から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX01検出状況(南から)

(３)薬師の森遺跡第４次調査SX01全景(西から)

(４)薬師の森遺跡第４次調査SX01土層(東から)

(５)薬師の森遺跡第４次調査SX01土層(南から)

図版11　(１)薬師の森遺跡第４次調査SX02全景(南東から)

(２)薬師の森遺跡第４次調査SX02全景(南から)

図版12　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX02土層(東から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX02土層(南から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX02全景(南から)
図版13　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX03全景(南から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX11全景(北から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX12全景(西から)
図版14　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX27全景(南西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX27土層(西から)
図版15　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX28全景(南西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX28土層(東から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX28土層(南から)
(4)薬師の森遺跡第4次調査SX28全景(南から)
図版16　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX13全景(北西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX14全景(東から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX14土層・遺物出土状況(南から)
図版17　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX18全景(西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX19全景(西から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX20全景(西から)
図版18　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX21全景(西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX30全景(北東から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX30土層(南西から)
図版19　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX30土層(北から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX30遺物出土状況(北西から)
図版20　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX33土層(東から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX33全景(東から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX34土層(南から)
図版21　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX34土層(西から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX34全景(北東から)
図版22　(1)薬師の森遺跡第4次調査SX38全景(南から)
(2)薬師の森遺跡第4次調査SX38土層(北から)
(3)薬師の森遺跡第4次調査SX50土層(東から)
(4)薬師の森遺跡第4次調査SX50土層(西から)
(5)薬師の森遺跡第4次調査SX50全景(北東から)
図版23　(1)薬師の森遺跡第6次調査調査前風景(東から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査西側調査区全景(東から)
図版24　(1)薬師の森遺跡第6次調査SC01検出状況(東から)

(2)薬師の森遺跡第6次調査SC01全景(東から)
図版25　(1)薬師の森遺跡第6次調査SC01カマド東西土層(南から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SC01カマド南北土層(東から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査SC01カマド全景(南から)
図版26　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX05全景(南から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX05土層(南から)
図版27　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX06・07全景(東から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX06土層(南から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査SX07土層(南から)
図版28　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX28全景(西から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX28土層(南から)
図版29　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX29全景(西から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX29南北土層(東から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査SX29東西土層(南から)
図版30　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX34全景(南から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX34土層(西から)
図版31　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX51全景(南西から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX51土層(南から)
図版32　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX56土層(南から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX66・83全景(北から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査SX66・83土層(北から)
図版33　(1)薬師の森遺跡第6次調査SX86全景(西から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SX95全景(東から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査SX96全景(東から)
図版34　(1)薬師の森遺跡第6次調査調査区西部第1面全景(北東から)
(2)薬師の森遺跡第6次調査SB03 (SP440) 板碑出土状況(東から)
(3)薬師の森遺跡第6次調査東側調査区遠景(北から)
図版35　(1)雉子ヶ尾遺跡第3次調査検出状況(北から)
(2)雉子ヶ尾遺跡第3次調査SX01東西土層(北から)
(3)雉子ヶ尾遺跡第3次調査SX01南北土層(東から)
図版36　(1)雉子ヶ尾遺跡第3次調査SX01全景(北から)
(2)雉子ヶ尾遺跡第3次調査谷部包含層土層(西から)
(3)雉子ヶ尾遺跡第3次調査調査区全景(西から)
図版37　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物①
図版38　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物②
図版39　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物③

図版40　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物④
図版41　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物⑤
図版42　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物⑥
図版43　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物①
図版44　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物②
図版45　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物③
図版46　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物④
図版47　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物⑤
図版48　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物⑥・雉子ヶ尾遺跡第3次調査出土遺物

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

大野城市乙金地区は、市域北東側に位置し、大城山（通称 四王寺山）（標高410ｍ）および乙金山（標高263ｍ）の西側裾部にあたる。調査の原因となった乙金第二土地区画整理事業は、乙金地区の東側、九州縦貫自動車道の西側に沿うように計画され、現在の行政区域では大字乙金、乙金２・３丁目、乙金東１丁目の各一部に相当する。事業地は南北に長く（約1.6km）、施行面積41.2haにもおよぶ。事業前の土地利用状況は、住宅地2.6ha（6.7％）、農地8.5ha（21.7％）、公共用地3.0ha（7.5％）、山林・その他25.3ha（64.1％）からなり、概ね事業地の東側は山林、西側は既存集落を含む田園風景が広がっている。区画整理事業によって、この景観は一変し、豊かな自然を生かしながらも、計画戸数約500戸、計画人口約1,600人からなる利便性の高い街づくりが計画されている。乙金第二土地区画整理事業の経緯については下表のとおりである。

平成8年	『世話人会』発足
平成14年	『推進委員会』発足
平成17年　9月	『組合設立準備委員会』発足
平成19年　3月	組合設立認可公示・第１回総会開催
平成19年 10月	都市計画決定・市街化区域編入
平成19年 12月	起工式開催
平成20年　2月	事業計画認可公示

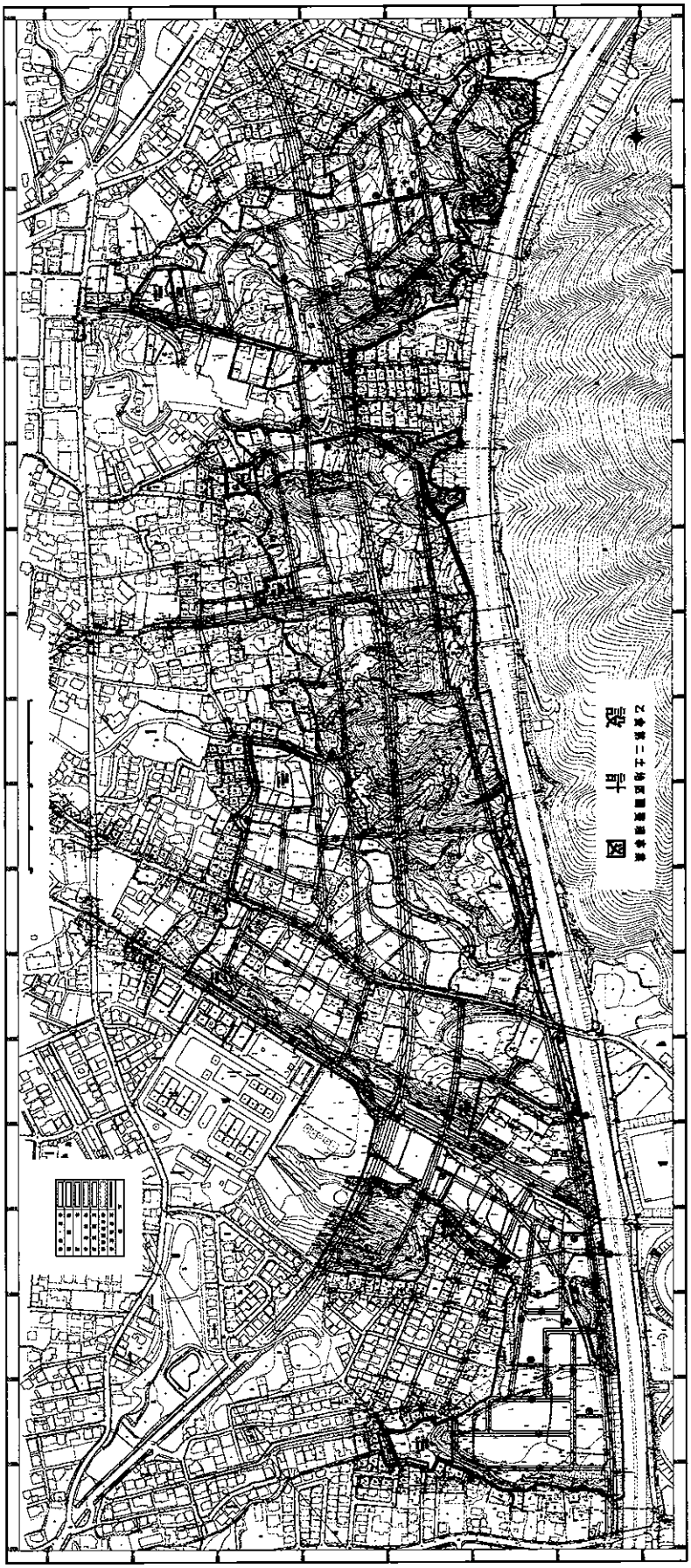
文化財については、平成16年11月より区画整理課企画指導担当と協議を開始した。埋蔵文化財に関しては、九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査の際に、王城山古墳群、喜一田古墳群、古野古墳群などの古墳群や窯跡が調査された一方で、元来宅地開発等の事業が少ない地域であったことから集落遺跡の存在は全く知られておらず、早期の試掘調査の実施と、すでに確認されている古墳群の一部について現地保存の協力を求めた。

また埋蔵文化財以外の文化財に関しては、未指定物件ながら「享保子丑餓死枯骨塔」（享保の大飢饉の際に無縁仏となった死者への供養塔）や「乙金宝満宮社叢」などが地域を代表する貴重な文化財として知られており、これらについても可能な限り現地保存できるように求めた。

調査費用については、市の内規に基づいて原則的に市と乙金第二土地区画整理組合とが折半することとし、調査開始時期・着手箇所については、平成18年度末から休耕が確定した範囲を対象として試掘調査を実施することで協議が整った。

こうした協議を踏まえて、平成19年3月15日付けで「乙金第二土地区画整理事業地内に関する協定書」を、同月16日付けで平成18年度の契約を締結し、３月20日より試掘調査を開始した。

本格的な試掘・発掘調査は平成19年度から開始し、文化財保護法第93条に基づく届出を平成19年11月30日（大教文848号）に行い、12月７日付け（19教文第４－585号）で県教育委員会からの通知があった。



第１図　乙金第二土地区画整理事業地計画平面図

2．平成20年度の調査経過

平成18・19年度の調査経過については、『乙金地区遺跡群Ⅰ』に記載しており、ここでは平成20年度の調査経過について報告する。

平成20年度は、試掘調査を14件（17次～30次試掘調査、調査対象面積88,953㎡）、本調査を７件（雉子ヶ尾遺跡３次調査、薬師の森遺跡４次～８次調査、原口遺跡１次調査）実施した。試掘調査に関しては、文化庁および福岡県の補助事業として行った。

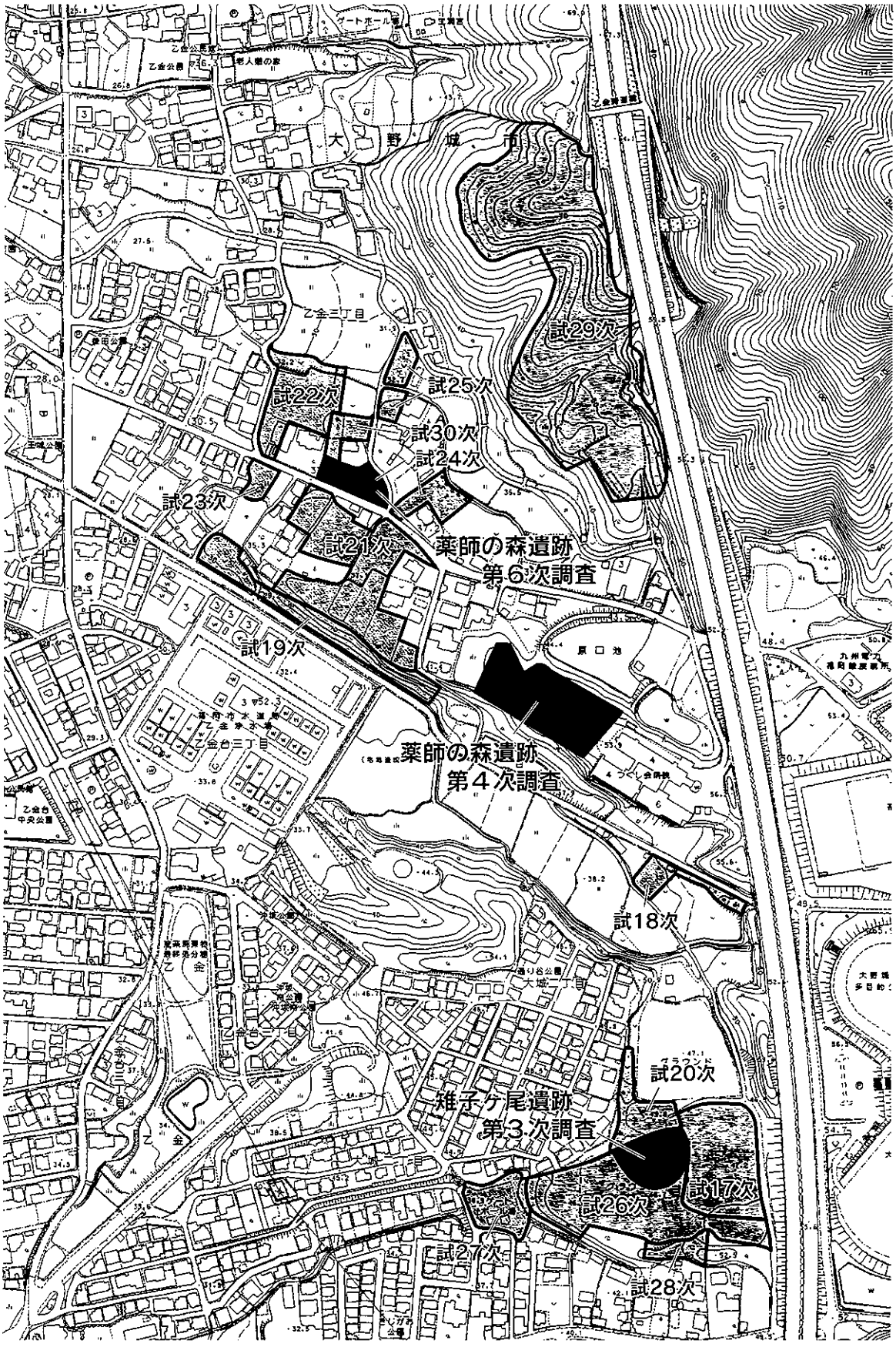
17次試掘調査（大字乙金125－1外）は、事業地の南東端近くに位置し、調査前はグラウンドとして利用されていた。バックホーを用いて計10本のトレンチを調査した。その結果、対象地の北東側で地山が急激に落ち込む状況が確認され、それ以外の場所では著しく削平されていることが明らかとなった。遺構・遺物とも検出することはできなかった。

18次試掘調査（大字乙金554－7外）は、平成19年度に実施した５次試掘調査地点の北側に隣接する。バックホーを用いて１本のトレンチを調査するとともに、斜面部については一部表土を剥ぎながら遺構検出を試みた。調査の結果、北側道路に接する部分では表土直下で地山（淡黄褐色バイラン土）が検出されたものの、南西に向かい急激に落ち込んでいく状況が明らかとなった。遺構・遺物とも確認することはできなかった。

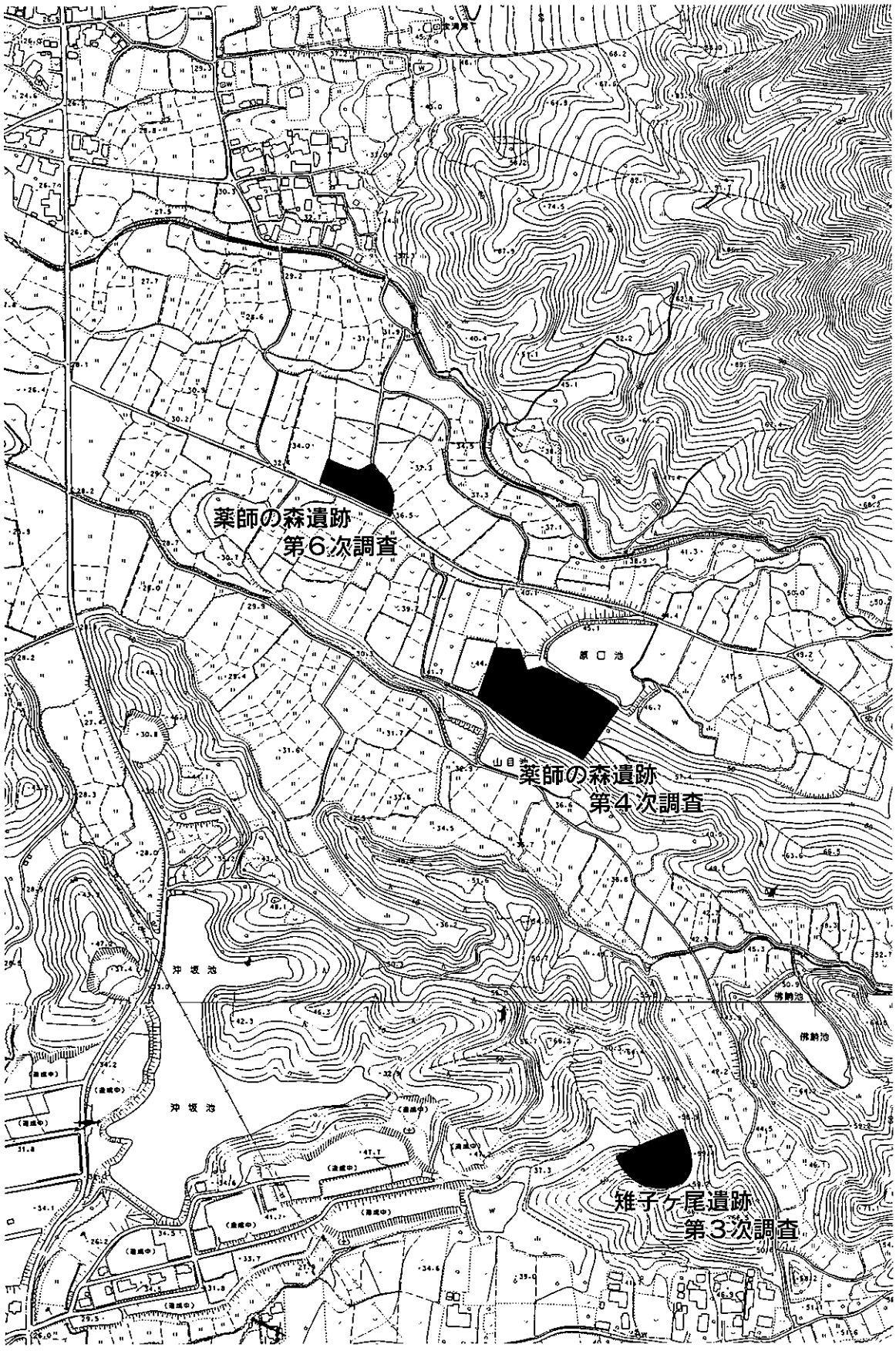
19次試掘調査（乙金３丁目188－1外）は、区画整理事業地の南西端、福岡市水道局乙金浄水場の北側隣接地にあたり、丘陵の南斜面に位置する。バックホーを用いて計27本のトレンチを調査し、また一部表土を剥ぎながら遺構検出を試みた。対象地は西端の畑地として利用されていた緩斜面部と、それ以外の竹林として利用されていた崖状の急斜面部に分けられる。調査の結果、緩斜面部では現地表下20～140cmで地山（黄褐色土）を確認し、土坑・溝・ピット等の遺構を検出した。急斜面部については、上端のわずかな平坦面でピット等を検出し、また対象地ほぼ中央で土坑状の落ち込みを確認したが、これ以外に遺構を検出することはできなかった。緩斜面部については、平成21年度に**薬師の森遺跡第９次調査**として、急斜面部の遺構が確認された範囲については、21次試掘調査地と合わせて**薬師の森遺跡第７次調査**として本調査を実施した。

20次試掘調査（大字乙金120－1の一部）は、17次試掘調査地の北西側隣接地にあたる。隣地より明確に高く（比高差2～2.5m）、調査時は原野となっていた。バックホーを用いて計５本のトレンチを調査した。調査の結果、３本のトレンチでは現地表下3.5～4.8mで地山(硬質バイラン土)を確認できたが、他のトレンチでは５m以上掘削したものの、砂質土・粘質土が厚く堆積し地山に達することができなかった。このことから、対象地に谷部が入り込んでいること、隣地との比高差は盛土であることが明らかとなった。遺構・遺物とも確認することができなかった。

21次試掘調査（乙金３丁目371－1外）は、19次試掘調査地の北側に隣接し、丘陵の平坦な尾根線から北向きの緩斜面にあたる。調査前は竹林・畑・水田として利用されていた。バックホーを用いて計20本のトレンチを調査した。調査の結果、現地表下20～85cmで黄褐色～橙色主体粘質土に達し、この上面で竪穴住居、土坑、ピット等の遺構を検出した。須恵器・土師器などが出土した。対象地の東端を**薬師の森遺跡第10次**として平成21年度に、それ以外の部分は**薬師の森遺跡第７次調査**として、平成20～21年度に本調査を実施した。



第２図　平成20年度乙金第二土地区画整理事業地内試掘調査および
薬師の森遺跡４・６次調査・雑子ヶ尾遺跡第３次調査地位置図（1／5,000）



第３図　乙金第二土地区画整理事業地周辺旧地形図（1961年撮影）（1／5,000）

22次試掘調査（乙金３丁目414－2外）は、14次試掘調査地（平成19年度実施）の南側、南向きの緩やかな丘陵上に位置する。調査前は畑として利用されていた。バックホーを用いて計14本のトレンチを調査した。調査の結果、現地表下20～130cmで褐色系粗砂層を確認し、この上面で竪穴住居、土坑、ピット等の遺構を検出した。土師器・須恵器等が出土した。当該地は、平成20～21年度に**薬師の森遺跡第５次調査**として本調査を実施した。

23次試掘調査（乙金３丁目350－1外）は、22次試掘調査地南西端の南側に位置する。調査前は水田として利用されていた。バックホーを用いて計５本のトレンチを調査した。調査の結果、現地表下20～140cmで遺構面に達し、土坑・ピットを検出、須恵器・青磁・白磁が出土した。遺構面のレベルは北西側に向かい低くなり、砂層が厚く堆積する。当該地は、平成21年度に**薬師の森遺跡第13次調査**として本調査を実施した。

24次試掘調査（乙金３丁目410外）は、21次試掘調査地の北側に位置し、細い道路を挟んで東西に分かれる。調査前はいずれも畑として利用されていた。バックホーを用いて計８本のトレンチを調査した。東地区では対象地東側において現地表下90cmで黄褐色土に達し、この上面でピットを検出した。西地区では、対象地全域で現地表下30～60cmで黄褐色～褐灰色の粗砂層を確認し、この上面で土坑・ピット等を検出した。須恵器・土師器・陶器が出土した。西部分については、平成20～21年度に**薬師の森遺跡第６次調査**として本調査を実施した。東部分については、平成22年度以降に本調査実施予定である。

25次試掘調査（乙金３丁目405）は、14次試掘調査地西地区（平成19年度実施）の東側隣接地に位置する。対象地は細い道路を挟んで南北に分かれ、比高差は約２ｍ（南側が高い）を測る。調査前はいずれも畑として利用されていた。バックホーを用いて計７本のトレンチを調査した。調査の結果、南地区では現地表下35～130cmで黄灰色～黄橙色砂質土に達し、この上面でピットを検出した。北地区では、粗砂層が厚く堆積し、現地表下190～210cmで花崗岩の岩盤に達したが遺構・遺物とも確認することはできなかった。南地区に関しては、平成21年度に**薬師の森遺跡第11次調査**として本調査を実施した。

26次試掘調査（大字乙金120－1）は、区画整理事業地南端に近く17次試掘調査地の西側、20次試掘調査地の南側隣接地に位置する。調査前は、野球グラウンドおよび駐車場として利用されていた。バックホーを用いて計13本のトレンチを調査するとともに、斜面部に関しては一部表土剥ぎを行い遺構の検出を試みた。調査の結果、大部分の範囲では表土直下で地山（バイラン土）に達し、丘陵が削平されていることが明らかとなったが、北側の一部で谷部が確認され、ここで土坑状の落ち込みを検出した。北側の谷部に関しては、試掘調査直後に**雉子ヶ尾遺跡第３次調査**として本調査を実施した。

27次試掘調査（大字乙金1216－1）は、区画整理事業地南西端にあたり26次試掘調査地の西側に位置する。調査前は、ゲートボール場として利用されていたが、整備以前は池であったという。バックホーを用いて計７本のトレンチを調査した。調査の結果、対象地の大部分が池であることを確認し、池へ落ち込む斜面部を検出できたものの、遺構・遺物を確認することはできなかった。

28次試掘調査（大字乙金121－1の一部）は、区画整理事業地南端にあたり、26次試掘調査地の

南側、現存する雉子ヶ尾３号墳の西側隣接地に位置する。調査前は山林であった。バックホーを用いて計３本のトレンチを調査した。調査の結果、現地表下60～70cmで浅橙色土～黄橙色土の地山に達し、この上面で土坑等を検出した。遺物としては、須恵器、近世磁器が出土した。聞き取りによると、検出された土坑は近世墓の可能性が高い。当該地は、平成22年度以降に本調査実施予定である。

29次試掘調査（乙金３丁目905－1外）は、区画整理事業地西側にあたり、14次試掘調査西地区（平成19年度実施）の東側丘陵部に位置する。対象地は南北２つの尾根にまたがり、いずれも山林として利用されていた。バックホーを用いて計66本のトレンチを調査するとともに、一部表土を剥ぎながら遺構の検出を試みた。調査の結果、現地表下20～100cmで地山に達し、北側の尾根では頂部付近で土坑、ピットを検出し、南側の尾根では南斜面を中心に古墳、石棺墓、土坑などを検出した。遺物は、須恵器、土師器が出土した。北側の尾根は、**原口遺跡第１次調査**として平成20～21年度に、南側の尾根は**原口遺跡第２次調査**として本調査を実施した。

30次試掘調査（乙金３丁目407－1）は、22次試掘調査地の東側、24次試掘調査地の北側に位置する。調査前は、畑として利用されていた。バックホーを用いて計２本のトレンチを調査した。調査の結果、現地表下20～40cmで黄橙色～灰黄色砂質土に達し、この上面で土坑、ピット等を検出した。遺物は須恵器、土師器、磁器などが出土した。当該地は、平成20～21年度に**薬師の森遺跡第８次調査**として本調査を実施した。

以上のとおり、平成20年度には14回にわたる試掘調査を行ない、このうち８地点で遺構を確認した。平成19年の試掘調査結果とあわせて、平成20年度には下表のとおり発掘調査を実施した。

	遺跡名	試掘調査次数	発掘調査期間	調査面積（㎡）	担当
平成20年度発掘調査	薬師の森遺跡第４次調査	16次	平成20年４月17日～７月31日	約4,500㎡	上田 甲斐
	薬師の森遺跡第５次調査	14･22次	平成20年７月23日～平成21年８月10日	約10,800㎡	上田・林 甲斐
	雉子ヶ尾遺跡第３次調査	26次	平成20年11月５日～12月３日	約670㎡	中島
	薬師の森遺跡第６次調査	24次	平成20年12月25日～平成21年６月４日	約1,300㎡	中島
	薬師の森遺跡第７次調査	19･21次	平成21年１月31日～実施中（平成22年１月時点）	約8,500㎡	林・上田 中島
	薬師の森遺跡第８次調査	14･30次	平成21年２月28日～９月25日	約1,920㎡	下高 甲斐
	原口遺跡第１次調査	29次	平成21年３月10日～４月13日	約3,000㎡	上田

整理作業は、発掘調査と並行しながら行い、平成20年度には薬師の森遺跡第３次調査、雉子ヶ尾遺跡第２次調査の成果を収録した『乙金地区遺跡群Ⅰ』を刊行した。

3．調査体制

平成20・21年度

大野城市教育委員会

教育長	古賀宮太		
教育部長	森岡勉		
ふるさと文化財課長	舟山良一		
文化財担当係長	中山宏		
主査	徳本洋一	石木秀啓	丸尾博恵
主任技師	林潤也	早瀬賢	上田龍児
嘱託（調査関係）	石川健	遠藤茜	（～平成21年3月）
	大里弥生	甲斐康大	（～平成21年3月）
	中島圭	下高大輔	（平成21年4月～9月）
	吉田浩之	（平成21年4月～）	
嘱託（庶務）	玉ノ井博紀	（平成20年10月～平成21年3月）	
	井上絵美子	（平成21年4月～）	

発掘調査作業員（平成20年度のみ）

岡本妙子　大海雅子　高木幸子　藤田和子　前田チエ子　織田徹　坂本泰子　渡辺久美子　小林敏子　小林久美子　西村清子　広渡隆子　田中照子　岩切ふえ　大薗英美　深野一美　舩越桃子　穴井和子　仲前富美子　井口るみ子　日野律子　川岸晶子　溝口忍　飯田三治　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　団野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子　中山文子　槙坂陽子　大島五津子　大浦旗江　松尾純子　田中悦子　田野和代　宮原ゆかり　戸渡京子　野崎美智子　倉住孝枝　杉森宏治　有水友晴　井口薫　岩石いづみ　大津幸男　梶原久美子　河野智美　河野美智子　新山裕子　竹内純　西浦喜久子　花田博雄　林祥夫　林田洋子　平江信子　有家三代子　酒井笑子　手嶋敏則　平野伸　平江武士　松尾一重

梶原詩織（福岡大学学生）　西本成希（大阪大谷大学学生）

整理作業員

松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　渡部美香　仲村美幸

なお、薬師の森遺跡第４・６次調査出土の土師器・陶磁器については中島恒次郎氏（太宰府市教育委員会）、薬師の森遺跡第４次調査出土の皮袋形須恵器については宮田浩之氏（小郡市役所）、薬師の森遺跡第４次調査出土の弥生土器については吉留秀敏氏、森本幹彦氏、松尾奈緒子氏（福岡市教育委員会）にご教示を頂きました。感謝申し上げます。

II．位置と環境

１．地理的環境

大野城市の位置する福岡平野は、南を背振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。平野中央部に那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野東南部の最奥部に位置し、平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州縦貫自動車道・ＪＲ鹿児島本線・西鉄大牟田線・国道３号線など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。市域は東側を月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、中央に御笠川が貫流する。山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

乙金地区遺跡群は市域東部にあたり、乙金山・四王寺山から西にのびる緩やかな丘陵上に位置する。丘陵は花崗岩を基盤とするが、中小の河川によって開析された谷部では砂礫層が発達し、小規模な扇状地を形成する。

２．歴史的環境

旧石器時代

市域では釜蓋原遺跡・雉子ヶ尾遺跡・松葉園遺跡・出口遺跡・横峰遺跡・本堂遺跡群など丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃などの遺物が確認されている。周辺地域では南八幡遺跡・諸岡遺跡・諸岡城館遺跡・井尻B遺跡・門田遺跡などで後期旧石器時代に属する遺物が出土している。

縄文時代

市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形文土器が出土している。早期になると遺跡の数が増加し、釜蓋原遺跡・雉子ヶ尾遺跡・本堂遺跡群などの丘陵地で押型文土器や石器が確認されているほか、石勺遺跡など平野の微高地上にも遺跡が展開する。なお石勺遺跡ではおとし穴状遺構が検出されている。前期～中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺地域でも遺跡の数が減少する。後期の遺跡は牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡で後期後半・末～晩期にかけての竪穴住居・土坑が確認されている。また、牛頸川の河床で前期と考えられる玦状耳飾が採集されている。

弥生時代

弥生時代に入ると福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が展開する。前期の遺跡は、市域では北部の丘陵・平野部に多く、特に墳墓遺跡は北部の丘陵地に集中する。御陵前ノ椽遺跡(前期中頃)、中・寺尾遺跡(前期中頃～中期)、塚口遺跡(前期後半～末)で甕棺墓・土壙墓・木棺墓などが営まれる。南部では牛頸日ノ浦遺跡で前期後半の甕棺墓・土壙墓がある。集落遺跡は多くないが、仲島遺跡・石勺遺跡・ヒケシマ遺跡は前期末頃に出現し、中期に継続する集落である。丘陵部では御陵遺跡で前期中頃～末の集落が確認されている。また川原遺跡では板付Ⅰ式期にさかのぼりうる集落が確認されている。周辺では、板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環濠集落が成立し拠点集落とな

る。また板付遺跡に隣接する諸岡遺跡では朝鮮系無文土器が多数出土しており、渡来系集落と位置づけられる。前期末～中期初頭段階の北部九州地域では、吉武高木遺跡や板付田端遺跡のように青銅器を多数保有する墳墓が出現しており、各地にクニが成立すると考えられている。中期の遺跡として、市域では平野部の仲島遺跡・石勺遺跡・ヒケシマ遺跡が、前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡・森園遺跡で中期前半～後半に集落が展開し、南部でも本堂遺跡群で小規模な集落がある。墳墓遺跡としては前期から継続する中・寺尾遺跡があるほか、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群がある。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約30面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称されており、該期の春日丘陵は『三国志』「魏書」東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的な地域と位置づけられる。後期に入ると仲島遺跡・石勺遺跡・中・寺尾遺跡・森園遺跡・松葉園遺跡・本堂遺跡群などで集落の展開がみられるほか、村下遺跡・榎町遺跡で新たな集落が出現する。このうち仲島遺跡では貨布・銅鏡片・青銅製鋤先・銅鏃・青銅器鋳型などが出土しており拠点的集落と位置づけられる。周辺では中期以降春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続し、雀居遺跡では環濠集落が成立する。

古墳時代

前期

〔墳墓〕古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角縁神獣鏡が出土した那珂八幡古墳(全長75m)があり、このほか初期の前方後円墳として、須玖御陵古墳や三角縁神獣鏡を副葬する前方後方墳である妙法寺２号墳がある。これに後続する盟主墳として安徳大塚古墳(全長62m)や三角縁神獣鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺で三角縁神獣鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考えられている。

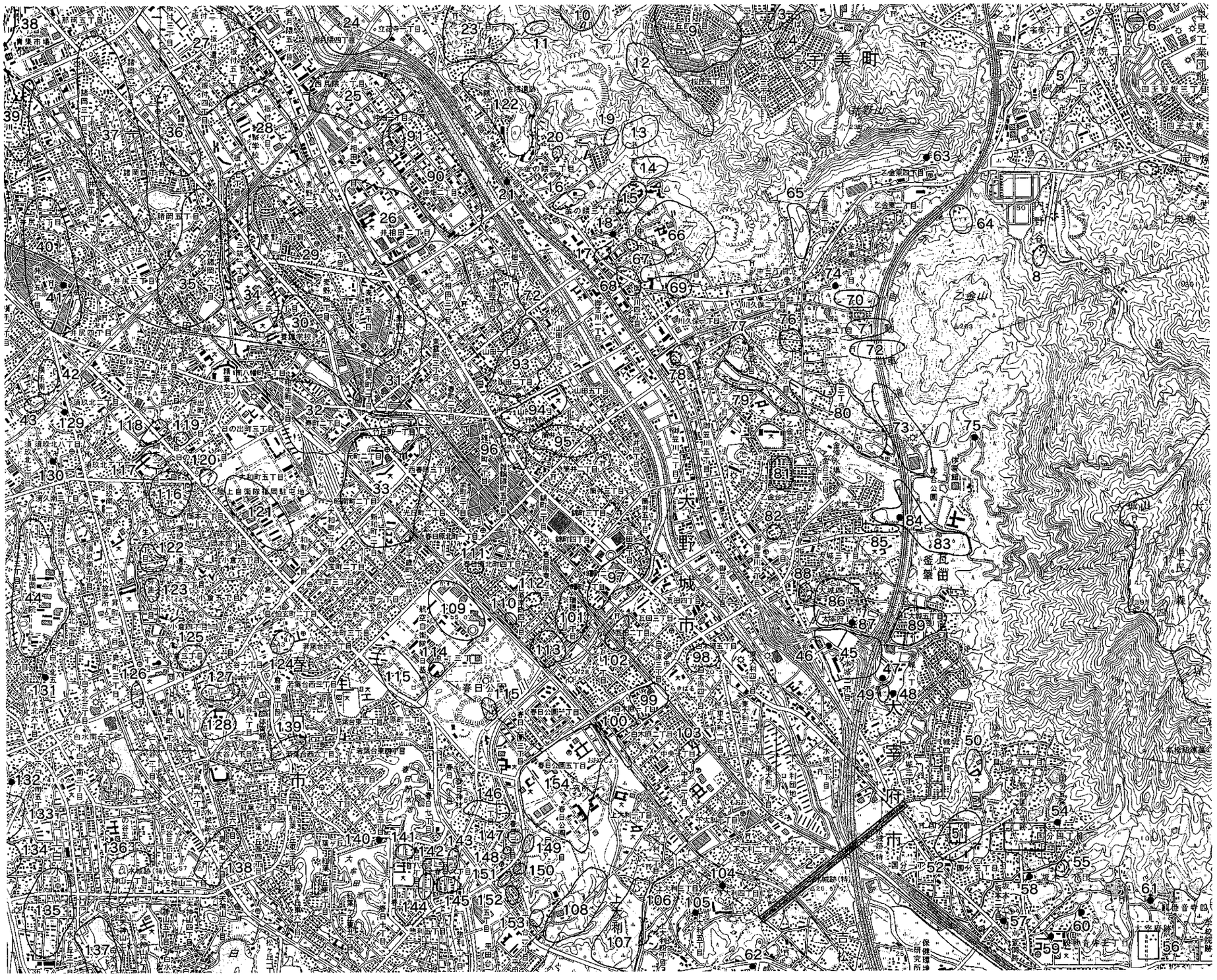
〔集落〕福岡平野の拠点集落としては、博多湾沿岸の西新町遺跡・博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群があり大規模な集落が展開する。市域では仲島遺跡・石勺遺跡・村下遺跡が弥生時代後期から継続し、瑞穂遺跡・原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡群でも再び集落の形成が認められる。

中期

〔墳墓〕５世紀代では、初期横穴式石室を導入した老司古墳(全長76m)があり、博多遺跡群でも博多１号墳(全長56m)が築造される。また剣塚北古墳・井尻B１号墳・野藤１号墳・貝徳寺古墳など中規模の前方後円墳・円墳が築造される。市域では５世紀前半の笹原古墳(円墳：30m)があり、隣接して５世紀後半の成屋形古墳(帆立貝式前方後円墳：32m、太宰府市)が築造され、御笠川流域の盟主墳と考えられている。また５世紀後半にはカクチガ浦古墳群や市域南部の牛頸塚原古墳群など古式群集墳の形成が認められる。

〔集落〕５世紀代の集落遺跡は非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では井相田C遺跡、高畑遺跡、立花寺B遺跡などで集落が展開する。市域では中・寺尾遺跡・森園遺跡・上園遺跡・仲島遺跡で散発的に集落が形成される。

後期



第４図　周辺遺跡分布図

1. 大野城跡
2. 水城跡

宇美町

3. 岩長浦古墳群
4. 観音浦古墳群
5. 正籠古墳群
6. 湯溝古墳群
7. 花ノ木古墳群
8. 内野谷古墳群

志免町

9. 桜ヶ丘古墳群

福岡市

10. 七曲古墳群
11. 金剛山古墳群
12. 特田ヶ浦古墳群A群
13. 特田ヶ浦古墳群B群
14. 特田ヶ浦古墳群C群
15. 特田ヶ浦古墳群D群
16. 特田ヶ浦古墳群E群
17. 特田ヶ浦古墳群F群
18. 今里不動古墳
19. 堤ヶ浦古墳群
20. 影ヶ浦古墳群
21. 丸山古墳
22. 金隈遺跡群
23. 立花寺遺跡群
24. 立花寺B遺跡群
25. 井相田D遺跡群
26. 井相田C遺跡群
27. 板付遺跡
28. 高畑遺跡
29. 麦野A遺跡
30. 麦野B遺跡
31. 麦野C遺跡
32. 南八幡遺跡群
33. 雑餉隈遺跡群
34. 三筑遺跡
35. 笹原遺跡群
36. 諸岡B遺跡
37. 諸岡A遺跡
38. 比恵・那珂遺跡群
39. 五十川遺跡群
40. 井尻B遺跡
41. 井尻B－1号古墳
42. 寺島遺跡
43. 笠抜遺跡
44. 弥永原遺跡群

太宰府市

45. 成屋形遺跡群
46. 成屋形古墳群
47. 裏ノ田窯跡
48. 裏ノ田古墳
49. 裏ノ田遺跡
50. 陣の尾古墳群・遺跡群
51. 筑前国分尼寺跡
52. 国分松本遺跡
53. 筑前国分寺遺跡
54. 国分瓦窯跡
55. 御笠団印出土地
56. 大宰府政庁跡
57. 松倉瓦窯跡
58. 松本瓦窯跡
59. 米木古墳群・瓦窯跡
60. 来木北瓦窯跡
61. 都府楼北瓦窯跡
62. 神ノ前窯跡群

大野城市

63. 唐山古墳群
64. 乙金北古墳群
65. 唐山遺跡
66. 御陵古墳群
67. 御陵脇遺跡
68. 塚口遺跡
69. 御陵前ノ椽遺跡
70. 善一出古墳群
71. 王城山古墳群
72. 古野古墳群
73. 原口古墳群
74. 乙金窯跡
75. 此岡古墳群
76. 松葉園遺跡
77. 森園遺跡
78. ヒケシマ遺跡
79. 中・寺尾遺跡
80. 薬師の森遺跡
81. 銀山遺跡
82. 原門遺跡
83. 雉子ヶ尾遺跡
84. 雉子ヶ尾窯跡
85. 雉子ヶ尾古墳
86. 釜蓋原古墳群
87. 笹原古墳
88. 金山遺跡
89. 釜蓋原遺跡
90. 仲島遺跡
91. 仲島本間尺遺跡
92. 川原遺跡
93. 御笠の森遺跡
94. 村下遺跡
95. 宝松遺跡
96. 雑餉隈遺跡
97. 石勺遺跡
98. 原ノ畑遺跡
99. 後原遺跡
100. 御供田遺跡
101. 瑠衛遺跡
102. 国分田遺跡
103. ハザコ遺跡
104. 谷川遺跡
105. 出口窯跡・遺跡
106. 上開遺跡
107. 本堂遺跡群
108. 梅頭遺跡群

春日市

109. 駿河A遺跡
110. 駿河B遺跡
111. 駿河D遺跡
112. 駿河E遺跡
113. 原ノ口遺跡
114. 先ノ原Ｂ遺跡
115. 立石遺跡
116. 須玖岡本遺跡
117. 須玖坂本B遺跡
118. 須玖五反田遺跡
119. 須玖永田遺跡
120. 須玖尾花町遺跡
121. 上平田・天田遺跡
122. 赤井手遺跡
123. 竹ヶ本遺跡
124. 伯玄社遺跡
125. 大南B遺跡
126. 宮の下遺跡
127. 大南遺跡
128. 大谷遺跡
129. 御陵遺跡群・古墳群
130. 野藤1号墳
131. 下白水大塚古墳
132. 日拝塚古墳
133. 辻田遺跡
134. 門田遺跡
135. 天神の木遺跡
136. 天神山水城跡
137. ウトグチ遺跡群
138. 大土居水城跡
139. 小倉水城跡
140. 大牟田窯跡
141. 惣利窯跡群
142. 惣利遺跡
143. 惣利北遺跡
144. 惣利西遺跡
145. 惣利東遺跡
146. 春日水城跡
147. 向谷北遺跡
148. 向谷西遺跡
149. 向谷遺跡
150. 向谷古墳群
151. 向谷南遺跡
152. 春日平田北遺跡
153. 春日平田遺跡
154. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群
155. 先ノ原・春日公園内遺跡

〔墳墓〕６世紀前半の首長墓として赤井出古墳(30ｍ)があり、これに続き６世紀中頃の東光寺剣塚古墳(75ｍ)・日拝塚古墳(46ｍ)といった前方後円墳がある。特に東光寺剣塚古墳は石屋形・最古式の複室両袖型横穴式石室を採用しており、八女地域・肥後北部地域との関係が指摘されている。６世紀後半には上白水天神山古墳・下白水大塚などの中規模前方後円墳が築造されるが、大型前方後円墳は姿を消す。大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里大塚古墳は直径30ｍの円墳であり、御笠川右岸地域における当該期の盟主墳と考えられる。前方後円墳の終焉にかわって６世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径10ｍほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域においては月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけての丘陵上に大規模な群集墳が営まれる。また市域南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通・後田・小田浦古墳群などがあるほか、梅頭窯跡では窯を転用した墳墓から象嵌太刀が出土しており注目できる。これらの群集墳は６世紀後半～７世紀前半頃にかけて築造が認められ、７・８世紀代を通じて追葬が行われる。

〔集落〕５世紀代に希薄であった集落遺跡は、６世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。特に比恵遺跡群では６世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島遺跡や塚原遺跡群・日ノ浦遺跡群・上園遺跡などで集落が展開する。特に仲島遺跡では移動式カマド・滑石製模造品・馬骨などが出土しており、隣接する井相田Ｃ遺跡では竪穴住居や掘立柱建物が多数検出されていることから、拠点的な集落があったと考えられる。仲島遺跡や中・西コモリ遺跡(森園遺跡の一部)では滑石製品の未製品やチップが出土し、滑石工房の存在が指摘される。

また牛頸窯跡群は６世紀中頃から操業を開始し、以後規模を拡大していく。一方、乙金地区においても６世紀後半を中心に乙金窯跡・雉子ヶ尾窯跡・裏ノ田窯跡などが操業するが、いずれも小規模なものである。

飛鳥時代

７世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代の様相を踏襲する。６世紀後半に比恵遺跡群でみられた大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期牛頸窯跡群の須恵器生産はひとつのピークを迎える。また野添４次２号窯や月ノ浦窯跡などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給されたことが知られる。牛頸窯跡群内の牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡・上園遺跡・梅頭遺跡・惣利西遺跡などは須恵器工人集落と考えられている。

７世紀後半になると朝鮮半島三国間で争いがおこり、唐の介入もあって東アジア全体が動乱の時代をむかえる。その結果、日本も白村江の戦(663年)で敗戦を経験し、日本史上初の対外的な危機に直面する。これに伴い664～665年にかけて水城・大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱(672年)が起こり、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また当該期には大宰府第Ⅰ期政庁が成立する。牛頸窯跡群では供膳具を大量生産しており、権状製品や円面硯などが出土することから、大宰府にむけた生産をおこなっていたと考えられている。

奈良時代

奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。またこの時期には官道も整備され、井相田Ｃ遺跡・板付遺跡・那珂久平遺跡(水城東門ルート)や谷川遺跡・先ノ原・春日公園内遺跡（水城西門ルート）などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田Ｃ遺跡で掘立柱建物を中心とした遺構が確

認されており、なんらかの公的施設と考えられる。御笠の森遺跡では石帯(丸鞆)が出土しており注目できる。周辺の高畑遺跡は「高畑廃寺」あるいは那珂郡衙の可能性が指摘され、麦野遺跡・南八幡遺跡で大規模な村落が成立する。このように御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落が展開している様子が窺える。墳墓の検出例は少ないが、石勺遺跡で火葬墓が確認されている。牛頸窯跡群では８世紀前半に窯の数が増加し、８世紀後半には甕の生産が認められず、８世紀代を通じて供膳具を中心に大量生産がおこなわれる。この他、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。

平安時代

平安時代前半の９・10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少し、大宰府でも遺構・遺物量が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、９世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、集落では日ノ浦遺跡で９世紀中頃までの遺構は確認できるが、これを最後に姿を消す。また前代に見られた仲島遺跡・井相田Ｃ遺跡や麦野遺跡の集落も９世紀代に消滅する。９～10世紀代の墳墓遺跡としては牛頸月ノ浦窯跡・本堂遺跡群・塚口遺跡・中・寺尾遺跡で土壙墓があり、持田ヶ浦古墳群ではマウンドを伴う塚状の遺構が確認されている。また胴ノ元古墳・中通古墳で横穴式石室を再利用した例がある。なお９世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、９世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃～後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、かわって博多遺跡群において中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代を迎える。市域においては塚口遺跡・森園遺跡・中・西コモリ遺跡(森園遺跡の一部)・松葉園遺跡・薬師の森遺跡で、輸入陶磁器を埋納する土葬墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は薬師の森遺跡・松葉園遺跡・御笠の森遺跡・上園遺跡で確認されており、本堂遺跡群では「大日如来」銘の墨書土器や木製形代などの祭祀遺物が出土している。また小水城周辺遺跡では掘立柱建物・溝などが検出されており、小水城が防衛施設として機能していないことを示す。

鎌倉時代～戦国時代

市域では御笠の森遺跡・本堂遺跡群・石勺遺跡・川原遺跡などで当該期の遺構が確認されている。なかでも御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が展開し、13～14世紀代には遺構が密に分布するようになる。その後、15世紀に一時的に遺構が減少するが、16世紀後半～17世紀中頃に多数の方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。御笠の森遺跡の方形区画溝は中世末期～近世初頭の集落像を考える上で非常に注目される遺跡である。また、市域には戦国期の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが、未調査のため詳細は不明である。

江戸時代

後原遺跡・御笠の森遺跡・雑餉隈遺跡・村下遺跡・川原遺跡・屏風田遺跡などで、遺構・遺物が確認されているが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。御笠の森遺跡では中世以来継続する集落が、17世紀後半に消滅する。これは『筑前国続風土記拾遺』の山田村の項にある「此村昔は御笠の森の辺にあり、延宝の頃(延宝年間：1674～1680年)今の地に移せり」という記載と一致しており、「中世的」集落から「近世的」集落への変質を考える上で重要な遺跡である。

薬師の森遺跡第４次調査

Ⅲ．薬師の森遺跡第４次調査

A．調査概要

調査地は事業地南側にあたり、大野城市乙金3丁目551番地ほか（小字：原口）に所在する。調査面積は約4,500㎡である。調査地は四王寺山から西側にむかって舌状に張り出した細長い丘陵尾根部にあたる。調査地北側には原口池、南側には山目池があり、調査地北辺部は池の侵食のためか崖となっており、本来丘陵は現状より北側へ続いていたようである。尾根北側は緩斜面、尾根南側は急斜面となり、尾根部と北側の緩斜面を調査対象地とした。調査地現況は山林であり、調査着手前は鬱蒼とした森であった。平成20年4月17日から重機による表土の除去を開始し、遺構面を検出した。表土の下には腐植土と考えられる黒褐色土があり、黒褐色土を除去すると、花崗岩バイラン土および花崗岩バイラン土由来と考えられる黄褐色～明褐色土があらわれたため、この面を遺構検出面と認定した。なお調査区全面で灰褐色土の落ち込みを多数検出したが、埋土の状況から人為的な遺構ではなく、自然の窪地に溜まった自然堆積土と判断した。4月24日から作業員を投入して、調査区西側より調査に着手した。人力による遺構掘削と平行して、写真・測量により記録をおこなった。7月24日に全ての遺構の掘削・記録を終了し、7月25日に薬師の森遺跡第５次調査地点へ機材を搬出し、調査を完了した。

調査の結果、掘立柱建物、竪穴住居、土壙墓の他、性格不明の土坑やピット、風倒木痕を確認した。遺構面は削平を受けており、また樹根による撹乱が著しく、遺構の残存状況は良いとは言えない。遺物は須恵器・土師器・弥生土器・陶磁器・石製品・鉄製品などが出土した。

B．遺構と遺物

（1）掘立柱建物

SB01（第６図・図版２）

中央部の緩斜面に位置する総柱建物である。主軸は略南北方向で、北東側の柱穴を欠くが、南北２間（3.5m）、東西２間（3.6m）の規模で、面積は12.6㎡を測る。柱穴は直径16～28cmの円形プランを呈する。柱穴から土師器椀の細片が出土した。

出土遺物（第８図）

土師器（1）　椀高台部分の細片で、内外面回転ナデである。

SB02（第７図・図版２～４）

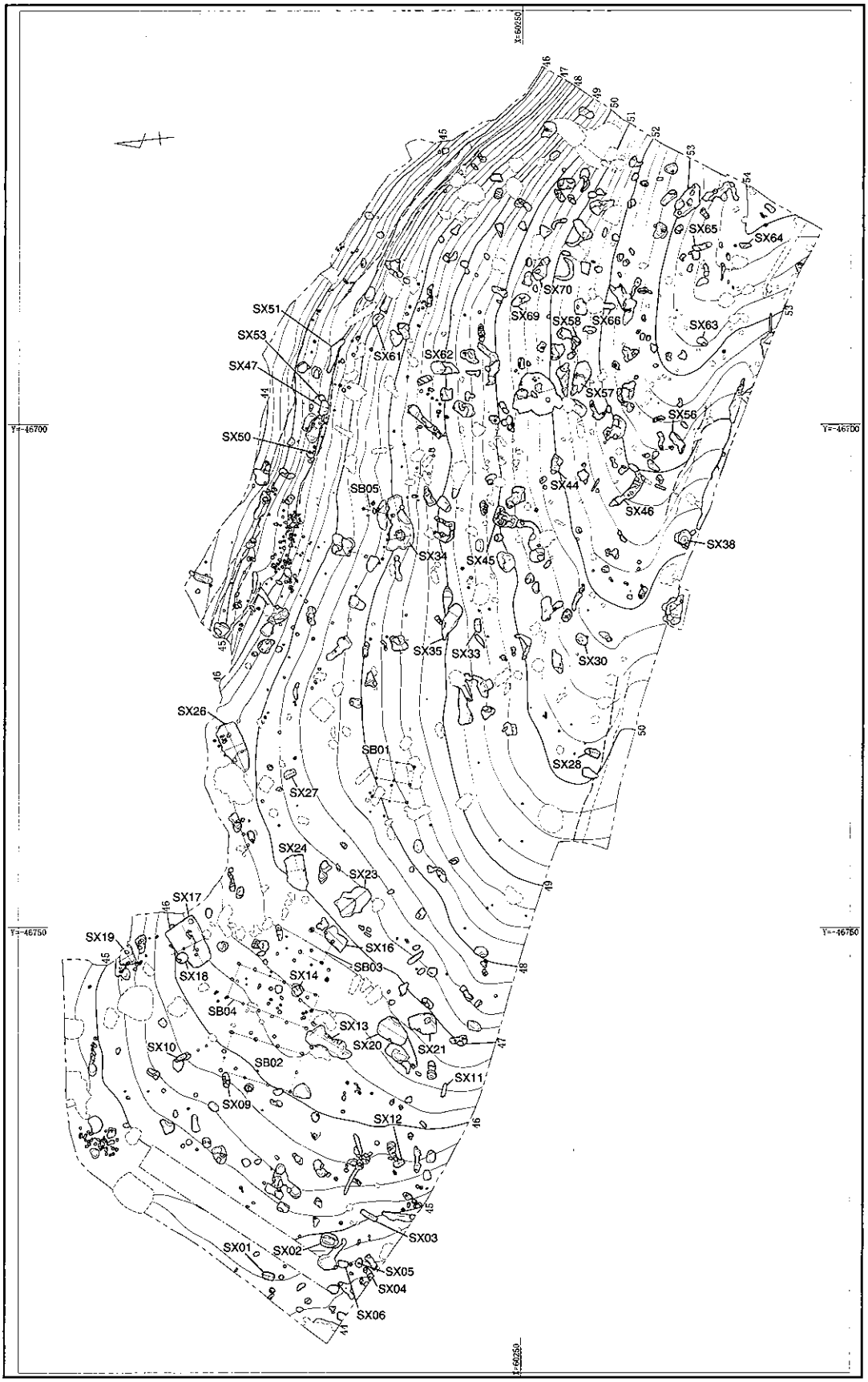
中央西側の平坦部に位置する側柱建物で、SB04に平行する。主軸は北東―南西方向にやや振れる。東西２間（梁行4.0m）、南北３間（桁行7.3～7.4m）の側柱建物で、面積は29.3㎡を測る。柱穴は直径20～30cmの円形・楕円形を呈す。遺物は須恵器杯蓋片が出土した。

出土遺物（第８図）

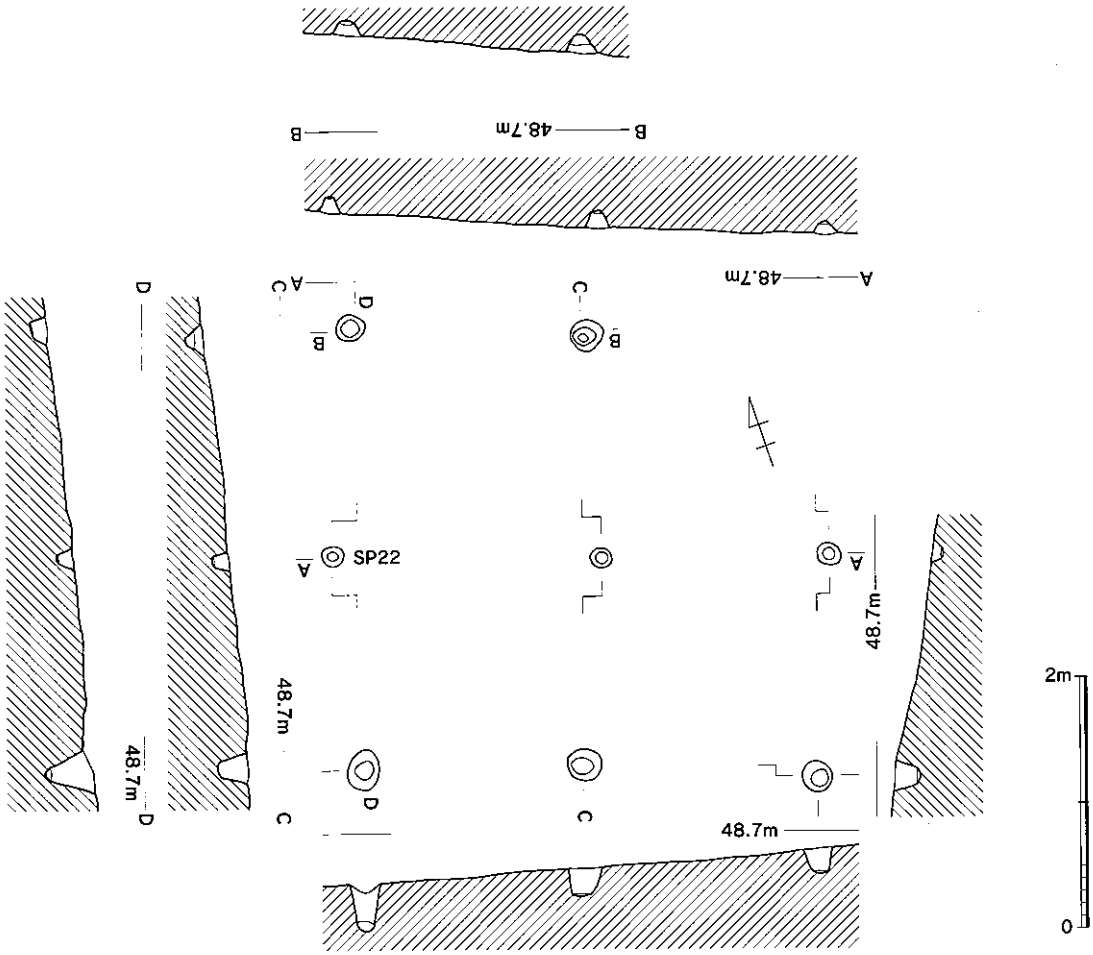
須恵器（2）杯H蓋の天井部片で、外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ。

SB03（第９図・図版３・４）

中央西側の平坦部に位置し、SB04に平行する。SX16を切る。主軸は北東―南西方向で、１間×



第５図　薬師の森遺跡第４次調査遺構配置図（1／600）



第６図　薬師の森遺跡第４次調査SB01実測図（1／60）

１間の建物である。南北2.5ｍ、東西2.5ｍの規模で面積は約６㎡を測る。柱穴は35cmほどの円形である。須恵器杯蓋・壺片が出土した。

出土遺物（第８図）

須恵器（３・４）　３は杯Ｈ蓋の天井部片で、外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデで、内面に同心円当具痕が残る。４は壺の肩部片で、内外面回転ナデ、外面は降灰。

SB04（第10図・図版２～４）

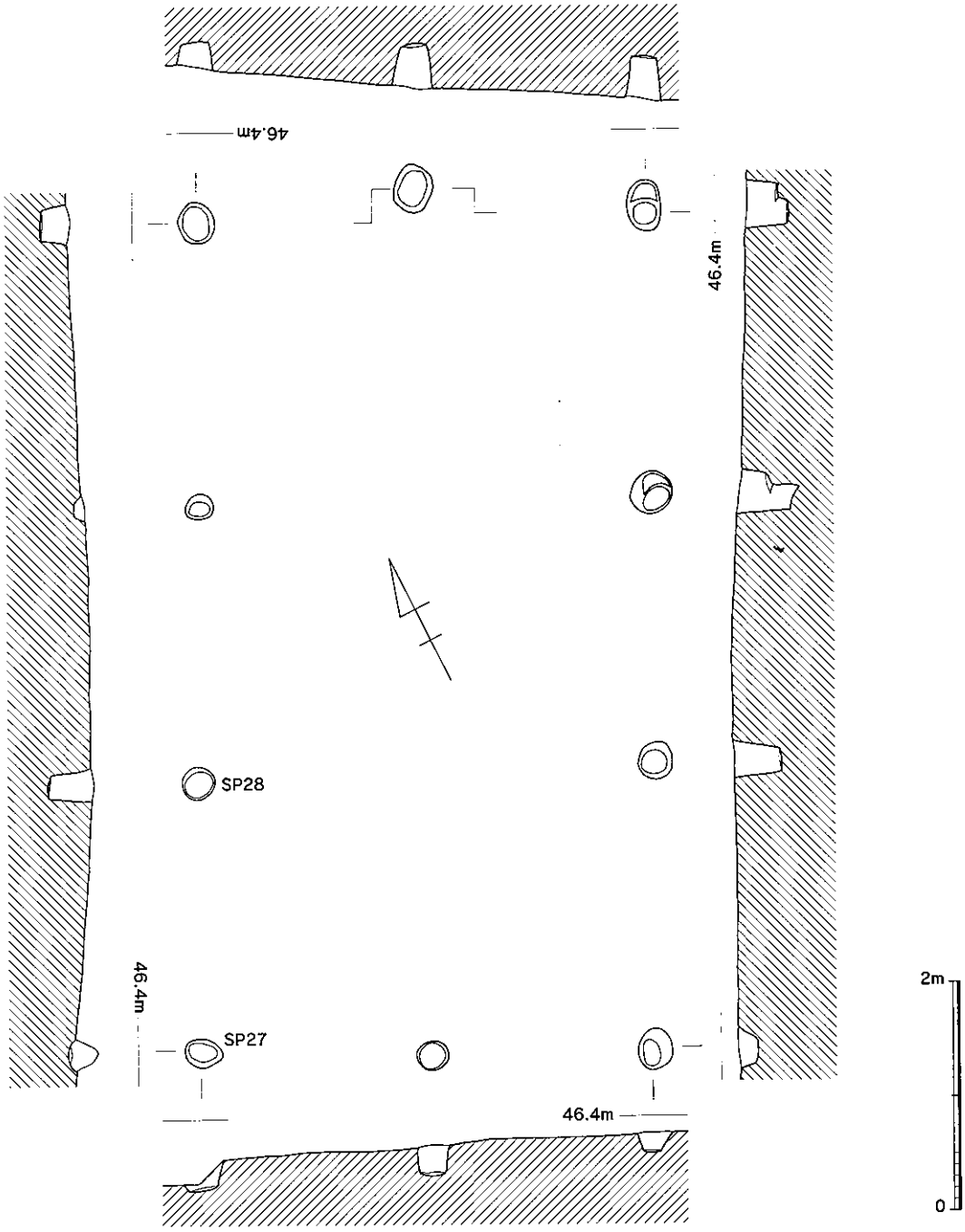
中央西側の平坦部に位置し、SB03に平行する。柱穴の一部はSX14に切られ消滅する。主軸は北東一南西方向に振れる。東西２間（梁行3.5ｍ）、南北５間（桁行8.3～8.5ｍ）の側柱建物で、面積は30.2㎡を測る。柱穴は20～30cmほどの円形プランを呈する。遺物は土師器椀・黒色土器椀が出土した。

出土遺物（第８図）

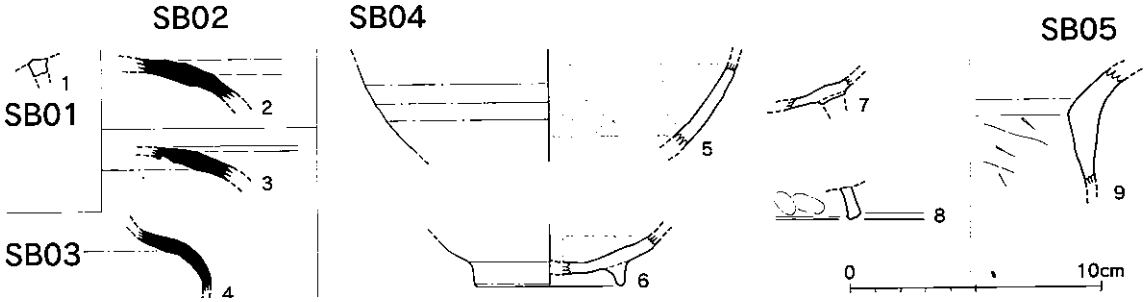
土師器（7）　椀の底部細片で、内外面摩滅のため調整不明。

黒色土器（５・６・８）　椀A類である、５・８は同一個体になる可能性が高い。５は直線的に立ち上がる体部片で、内面ヘラミガキで、外面は回転ナデであろうか。６は底部片で、やや丸みのある底部に細い高台を貼り付ける。８は高台部片で細く高い。６・８ともに摩滅のため調整不明。

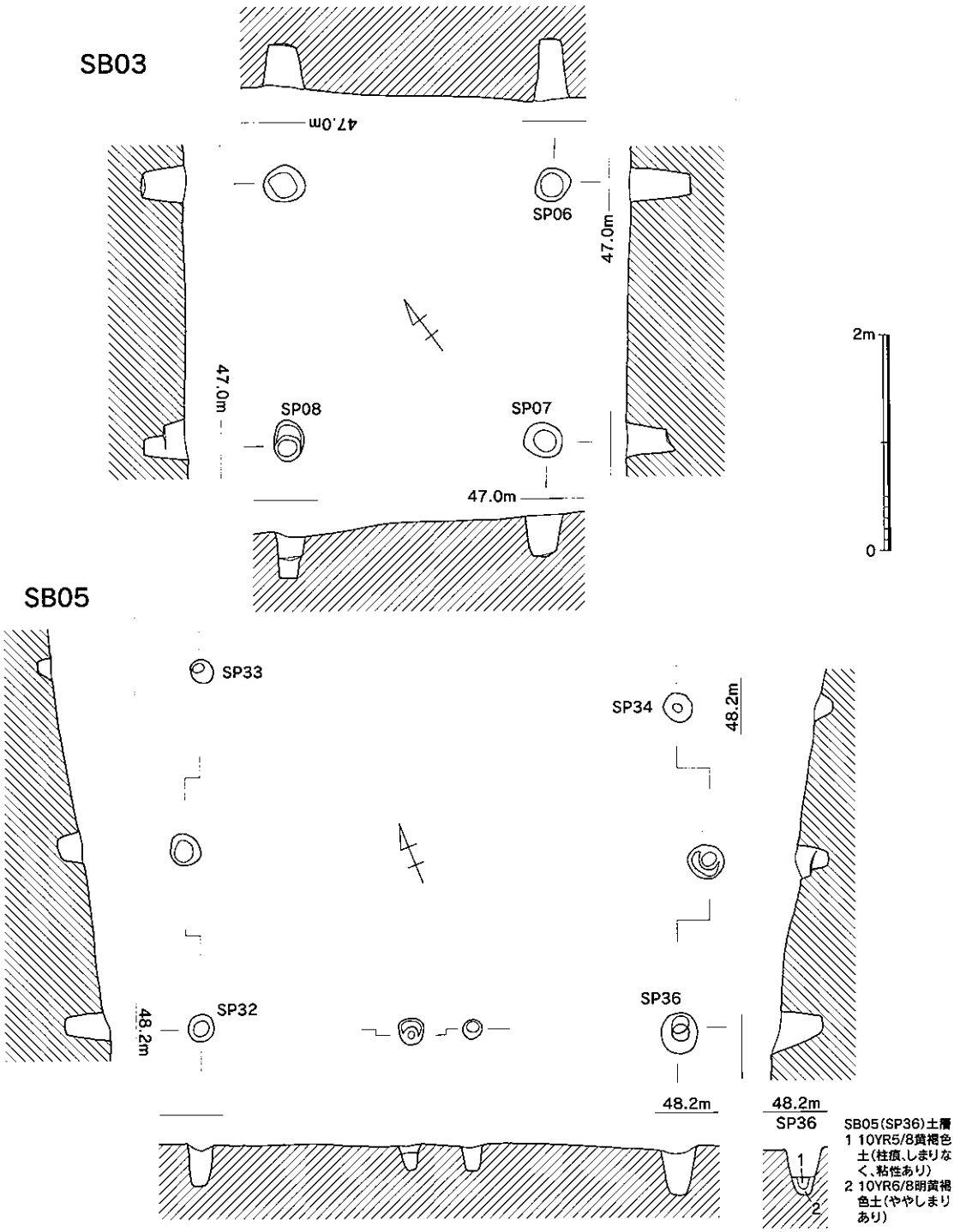
SB05（第９図・図版４）



第７図　薬師の森遺跡第４次調査SB02実測図（1／60）



第８図　薬師の森遺跡第４次調査SB01～ＳＢ05出土遺物実測図（1／3）

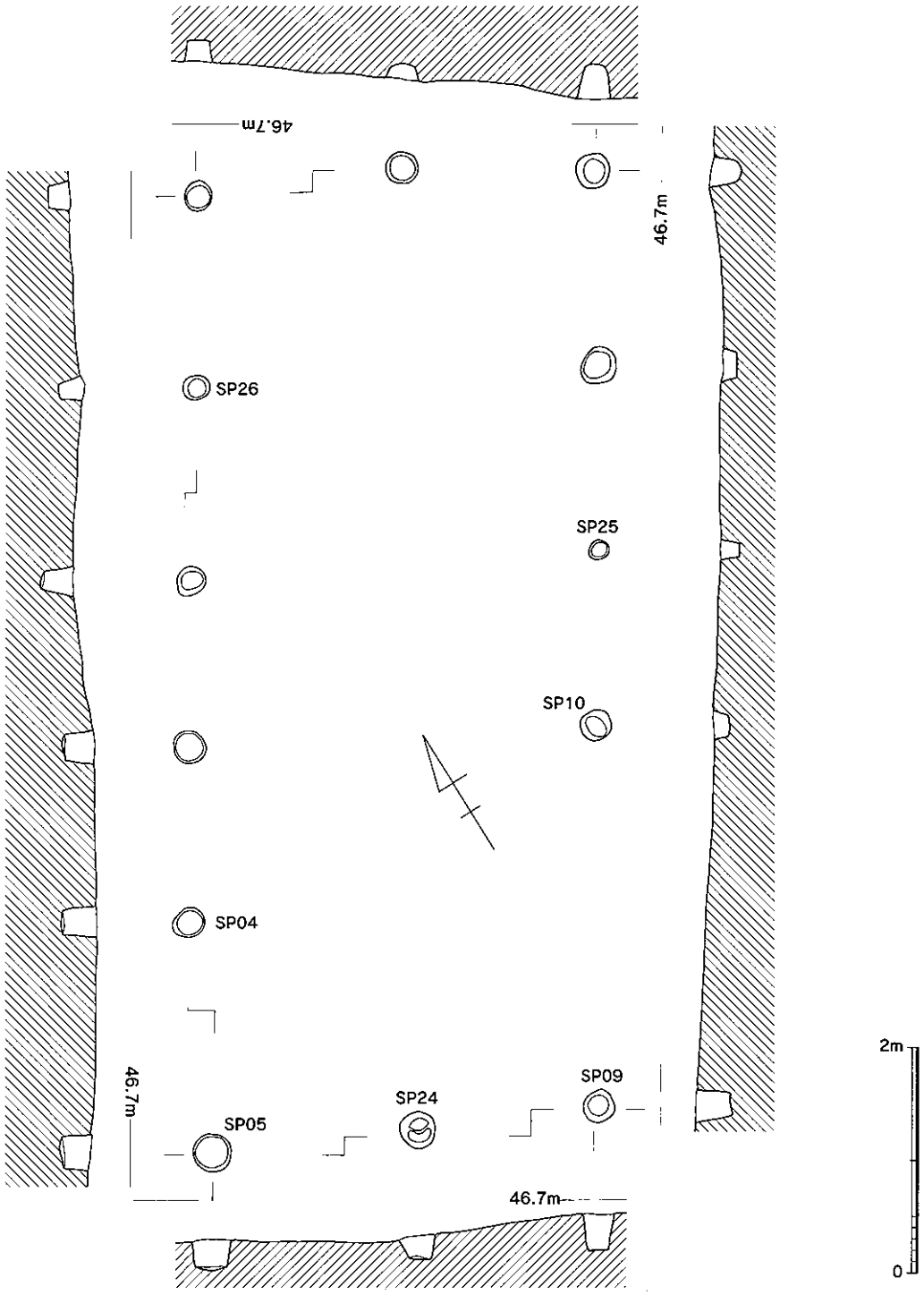


第９図　薬師の森遺跡第４次調査SB03・05実測図（1／60）

中央北よりに位置し、SX34を切る。主軸は西北―南東方向にやや振れる。北側の柱穴を一部欠くが、南北２間（梁行3.3m）、東西２間（桁行4.5m）の側柱建物と考える。面積14.3㎡を測る。柱穴は20～35cmの円形で、柱痕は直径15cmほどである。遺物は須恵器甕片、土師器甕片が出土した。

出土遺物（第８図）

土師器（9）　甕の口縁部片で、口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヘラケズリである。

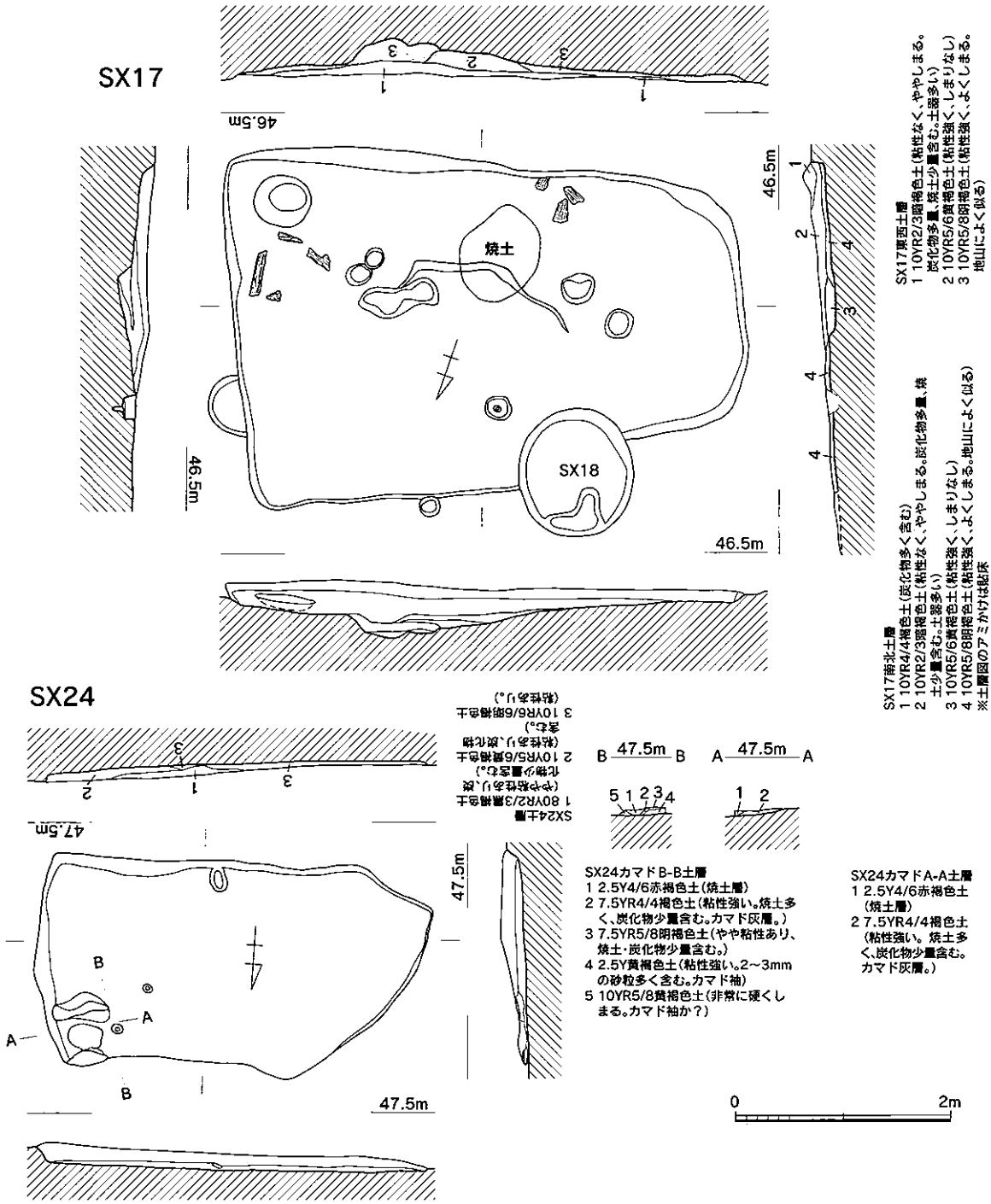


第10図　薬師の森遺跡第4次調査SB04実測図（1／60）

（2）竪穴住居跡

SX17（第11図・図版5～7）

北西側の緩斜面に位置し、一部をSX18に切られる。削平のため深さは5～10cmほどしか残っておらず、本来の形状や規模は不明だが、現状で、長軸4.75m、短軸3.16mの長方形を呈する。埋土は上層に炭化物を多く含む暗褐色土、下層に黄褐色土や明褐色土を主体とする土が堆積する。上層からは須恵器の蓋杯を中心とした遺物が多量に出土し、下層の遺物は少ない。底面は平坦で中央部

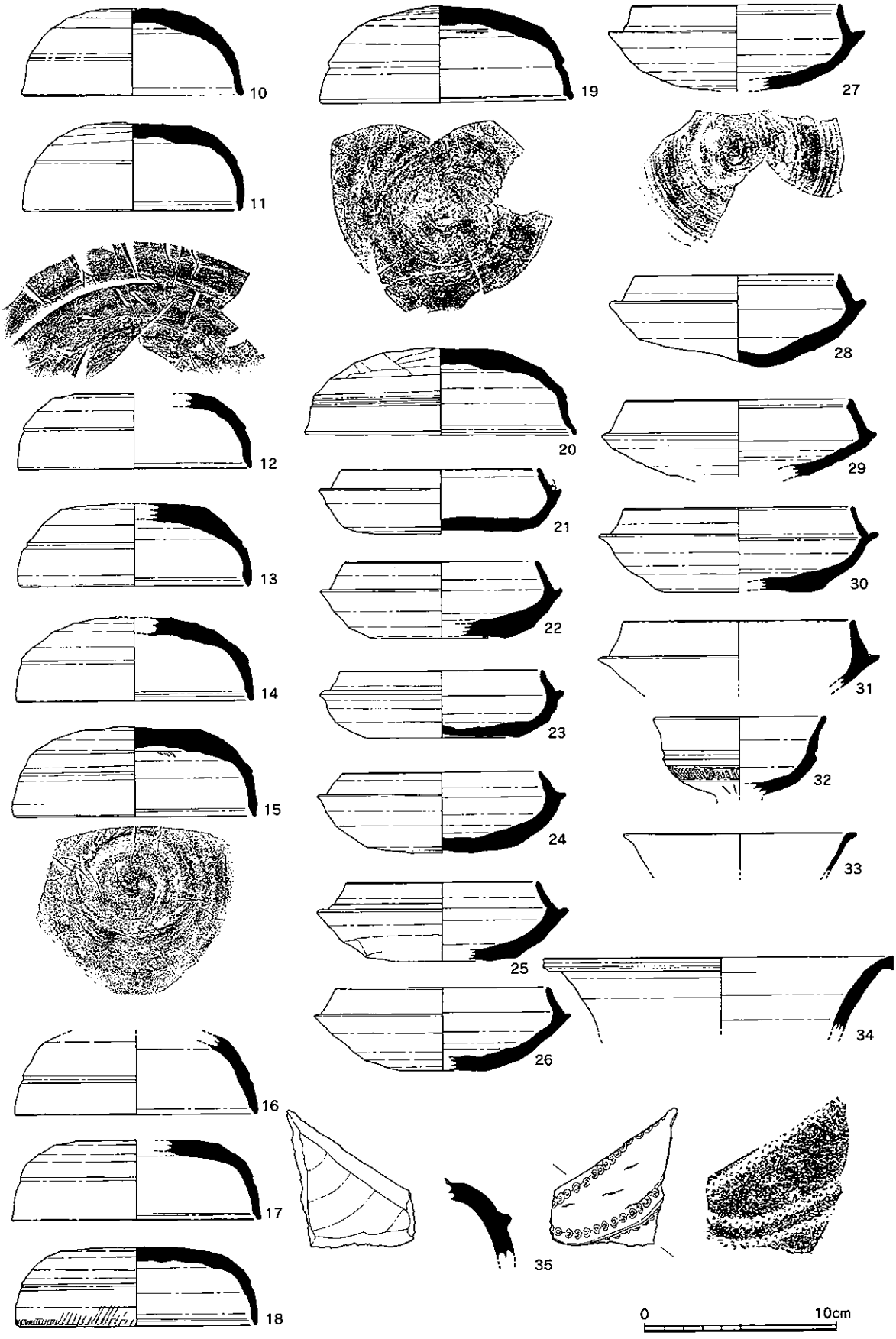


第11図　薬師の森遺跡第４次調査SX17・24実測図（1／60）

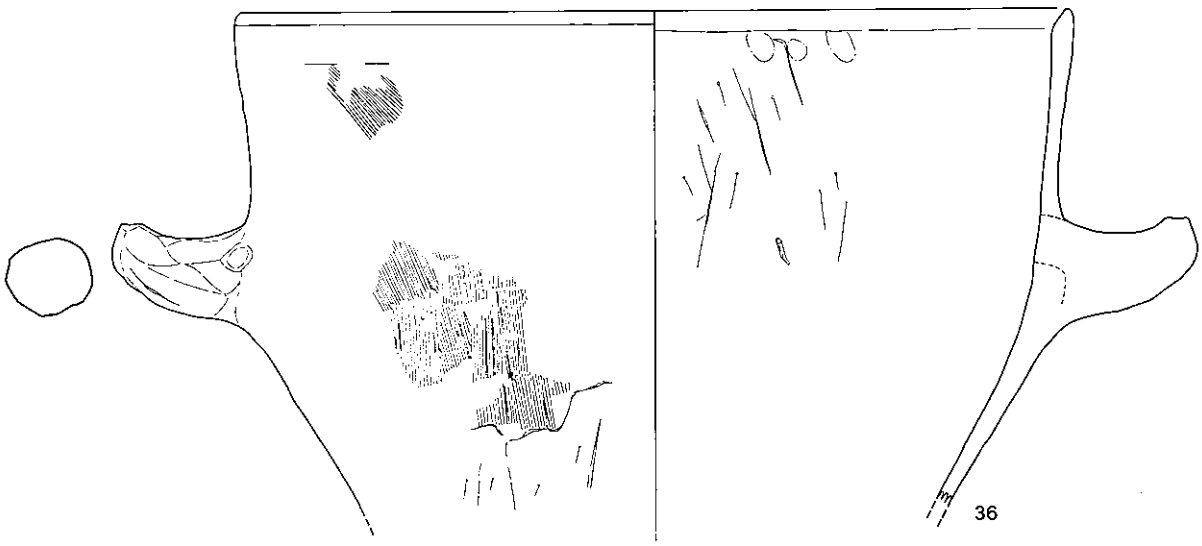
のみ土坑状に大きくくぼむ。また上層の底面近くで南壁中央部に接して、直径0.8ｍほどの範囲で焼土が分布する。カマド袖等の痕跡は確認できなかったが、本来カマドがあったと考える。遺物の出土状況や焼土・埋土・床面の状況から下層の土は貼床と考える。柱穴ははっきりしないが、焼土の両側にピットがあり、主柱穴になる可能性がある。

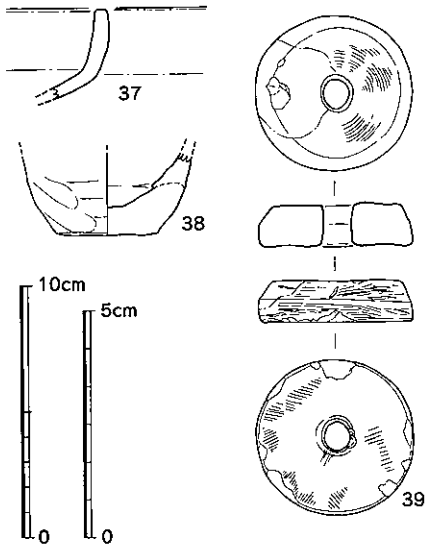
出土遺物（第12・13図・図版37・38）

須恵器（1～35）　1～20は杯H蓋である。大半が口径12cm台であるが、最大は18の14.0cm、最小は10の11.6cmと法量にややばらつきがある。口縁部立ち上がりは内傾し、天井部に丸みを持



第12図　薬師の森遺跡第４次調査SX17出土遺物実測図（1）（1／3）





第13図　薬師の森遺跡第4次調査SX17出土遺物実測図（2）（39は1／2、他は1／3）

つものが多いが、11・15・18など天井部に広い平坦面をもつものもある。いずれも天井部・口縁部の境に沈線を施し、口縁端部の内面は沈線状にくぼむ。20以外は天井部外面回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデである。天井部内面はナデで、11・15は同心円当具痕、19はシッタ痕と考えられる痕跡が残る。また12の天井部にはヘラ記号、18の口縁部には刻目状の圧痕がある。20は天井部外面手持ちのヘラケズリ、天井部・口縁部の境に2条の沈線が巡り、やや特異である。10・20は焼け歪む。21～31は杯H身である。大半が口径10cm台であるが、29～31は11cm台となる。口縁部立ち上がりは内傾し、大半は長さ1.5cmほどで、29は2cm近くになる。底部は丸みをもつものが多いが、21～23は平底である。また口縁端部に沈線を施すものは、21・27～29がある。いずれも痕跡的で、口径が大きいものに多い傾向にある。25以外は底部回転ヘラケズリ、25は底部手持ちヘラケズリ、28は底部の一部に手持ちヘラケズリを施す。口縁部から内面にかけては回転ナデで、21・27・28は底部内面にナデを施す。28の内面にはシッタ痕と考えられる痕跡が残る。21は杯蓋を重ね焼きした痕跡があり、受部に降灰が認められる。30は外面全体に降灰がある。32は無蓋高杯の杯部片である。口縁部は外側に向かって開き、体部は丸みをもつ。内外面回転ナデである。口縁部と体部の境は段をなし、底部に刺突文を施す。脚部との境には脚部穿孔時についたと考えられる工具痕が残る。33は盤の口縁部片である。口縁部は断面三角形を呈し、口縁部下でわずかにすぼまり、体部にやや丸みをもつ。内外面回転ナデである。34は壺の口頸部片で、頸部は外側に大きく開き、口縁部は強く折り曲げ、水平近くまで外反する。端部外面の下方を肥厚するため三角形状に隆起し、端部は面取りする。内外面回転ナデである。35は皮袋形須恵器の体部にあたる部分の破片で、厚さは1cmほどを測る。外面に断面三角形の突帯を施し、突帯の両側に竹管文を密に施す。内面は回転ナデで、

ナデの方向は土器の傾きに対して斜位となる。またシボリ痕がわずかに残る。外面の調整は降灰のため不明であるが、シボリにより生じたと考えられる亀裂がある。

土師器（36～38）　36は甑と考えるが、体部の下半が大きくすぼまることから鍋のような形態になる可能性がある。口縁部は直立し、端部に回転ナデを施す。外面は体部中位ハケ、下位がケズリで、上半部は摩滅のため調整不明。内面はケズリを施す。把手は挿し込みにより接合し、ナデで成形する。37は椀状を呈する口縁部片で胎土は精良である。器面摩滅のため調整不明、口縁端部は方形を呈す。38はミニチュア土器の鉢底部片である。底部は平底で、内外面に粗いナデを施す。

石製品（39）　滑石製紡錘車である。図示した上面は放射状の研磨、下面と側面は回転的な研磨により仕上げる。上面の一部は被熱し、黒色化する。

SX24（第11図・図版8）

北西側の緩斜面に位置する。大きく削平されるため壁面は東側と南側しか残っておらず、深さは最深部で0.17ｍほどである。現状では南壁3.63ｍ、東壁19.5ｍを測り、カマドと壁面との関係から本来一辺４ｍほどの規模が推測できる。床面は平坦で、埋土は上層に黒褐色土、下層に黄褐色土・明褐色土が堆積する。カマドは東壁に接して検出したが、南側の袖の一部が残るのみである。袖は粘性の強い黄褐色土で構築しており、壁面から45cmほど住居内に突出し、基底部幅は20～30cmほどである。火床はカマド中央付近の底面にあり、壁面から20cmほど離れて直径30cmほどの浅いくぼみとなる。火床には焼土層が形成され、焼土層の下には灰層と考えられる褐色粘質土が堆積する。貼床はなく、主柱穴も確認できなかった。埋土中から須恵器・土師器が少量出土した。

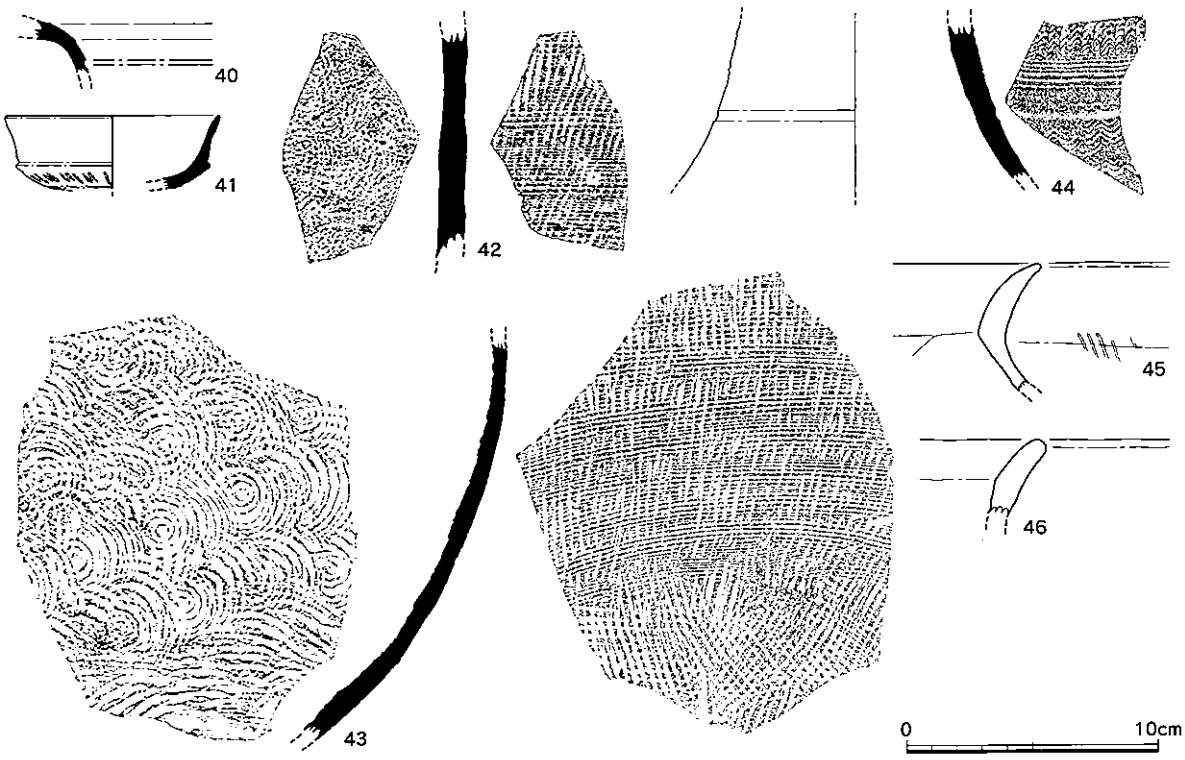
出土遺物（第14図）

須恵器（40～44）　40は杯H蓋の天井部片である。外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデで、口縁部と天井部の境は段状にくぼむ。41は無蓋高杯の杯部片である。口縁部は外側に向かって開き、体部は丸みをもつ。内外面とも回転ナデを施す。口縁部と体部の境は段をなし、底部に刺突文を施す。42・43は甕で、42は体部片で、内面同心円当具痕、外面縦位平行タタキ後カキメを施す。43は体部下半から底部にかけての破片である。内面は同心円当具痕が明瞭に残る。体部はタタキ具全面を器面に当て、工具は右→左・下方→上方へと移動する。底部はタタキ具側縁のみを器面にあて、体部成形後底部を叩き出す。外面は縦位の平行タタキ後カキメ、底部は不定方向のタタキである。44は器台の脚部片である。外面は現状で上方に１段、下方に２段の波状文が確認でき、波状文間にはカキメを施す。内面は回転ナデである。

土師器（45・46）　45は甕の口頸部片で、口縁部はく字に屈曲する。口縁部は内外面とも回転ナデで、内面はケズリを施す。46は口縁部片で、内外面回転ナデを施す。

SX26（第15図・図版9）

北側中央部の緩斜面に位置する。北側は大きく削平され、西側は樹根により撹乱を受ける。現状で隅丸長方形を呈し、東西5.18ｍ、南北2.28ｍを測る。床面は平坦で、西側はわずかに一段低くなる。埋土は上層に褐色～暗褐色土、下層ににぶい黄褐色土が堆積し、遺構中央部は部分的に焼土が散在する。埋土の状況や床面のレベルから、下層は貼床と考える。南壁側では黄褐色粘質土が半径40cmほどの範囲で広がり、粘質土中でカマド支脚と考えられる花崗岩塊を検出した。この部分を精



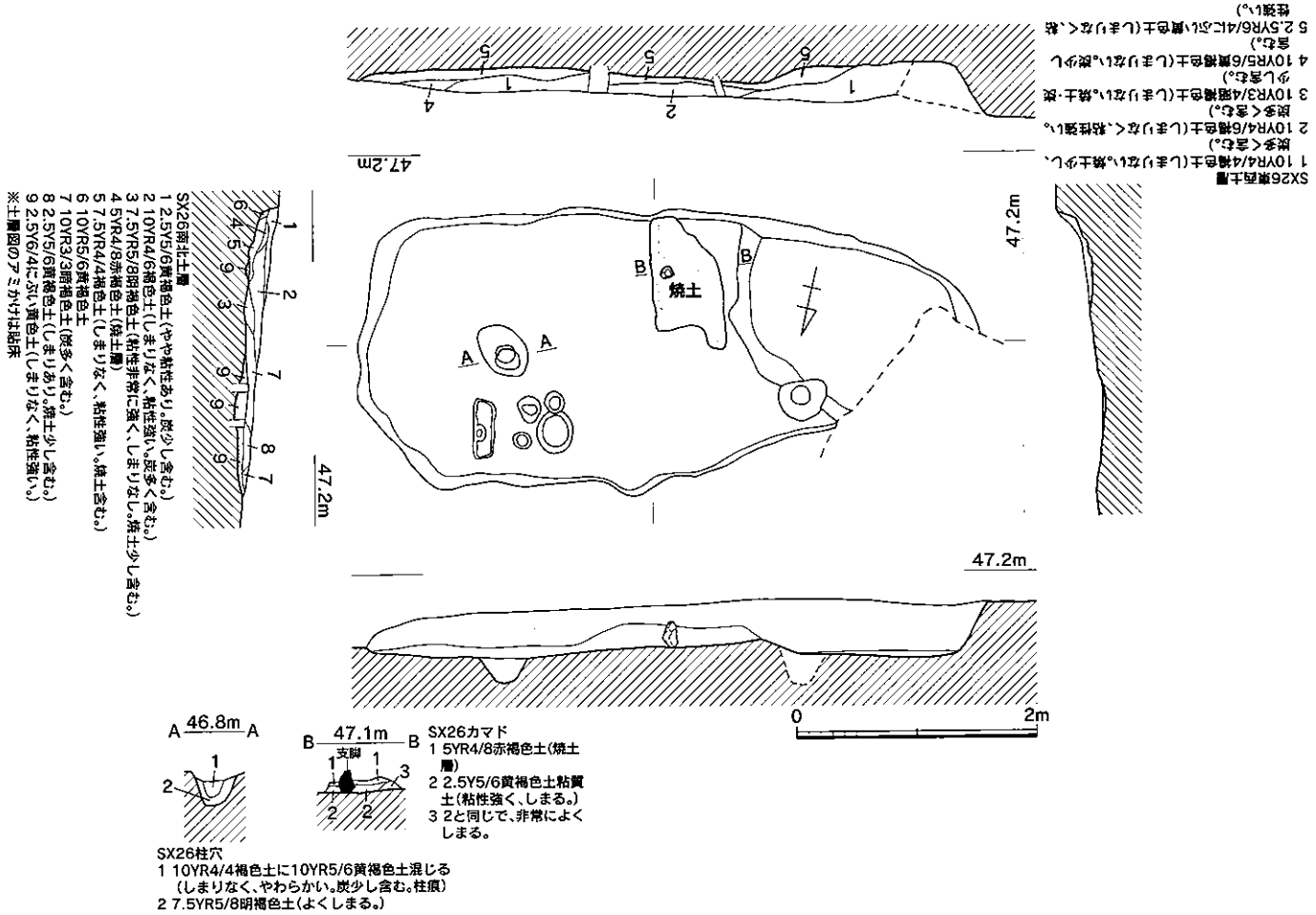
第14図　薬師の森遺跡第４次調査SX24出土遺物実測図（1／3）

査したところ、床面直上に黄褐色粘質土が広がり、その上に焼土層が堆積することを確認した。粘質土は本来カマドの構築材であろうが、カマド本体は残っていなかった。カマドの東西に深さ30cmほどの楕円形のピットがあり、東側のピットでは柱痕跡を確認したため、主柱穴となる可能性が高い。埋土中から須恵器・土師器等が出土した。

出土遺物（第16図・図版38）

須恵器（47～53）　47～49は杯H蓋で、いずれも口縁部・天井部の境と口縁端部に沈線が巡る。47・48は口縁部から天井部にかけての破片で、天井部外面回転ヘラケズリ、ほかは回転ナデを施す。47は外面に降灰が認められ、全体に焼け歪みがあり、器面の一部が焼けはじけている。49は口縁部片で内外面とも回転ナデである。外面に工具痕があるが、ヘラ記号の可能性もある。50・51は杯H身の口縁部から底部の破片である。いずれも口縁部は内傾するが、立ち上がりは2cmほどあり長い。体部は丸みがあり、底部外面は回転ヘラケズリ、ほかは回転ナデである。51は器面のほとんどが焼けはじけている。52は小型の壺で、球形を呈する体部片である。外面下半は回転ケズリ、ほかは回転ナデを施す。外面の上半部に降灰がある。53は壺上半部の破片である。頸部はしまり、口縁部は大きく開く。口縁端部は強いナデにより凹線状にくぼむ。口頸部は回転ナデ、内面は同心円と考えられる当具痕を丁寧にナデ消す。外面は縦位平行タタキ後回転ナデである。

土師器（54～57）　54は高杯杯部と考えられる小片である。屈曲部は緩い稜をもち立ち上がり、口縁部は外方へのびる。器面風化のため調整不明だが、胎土は非常に精良である。55は外反する口縁部片で、甑であろうか。内外面摩滅のため調整不明。56は甑で、体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸い。把手断面は楕円形で斜め上方に立ち上がる。外面はハケ、内面は削り、把手部分は



第15図　薬師の森遺跡第４次調査SX26実測図（1／60）

ナデである。57は凸レンズ状の底部を有する鉢で、体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はヨコナデ、内面はナデ、外面はハケ目で、底部外面はナデであろう。口縁部外面に明瞭に接合痕が残る。口縁部と底部外面から体部下半にかけて黒斑が認められる。

弥生土器（58）　壺の口頸部片と考える。口縁部は外反しながら立ち上がり、頸基部に断面三角形の突帯を貼り付ける。内外面ともヨコナデである。

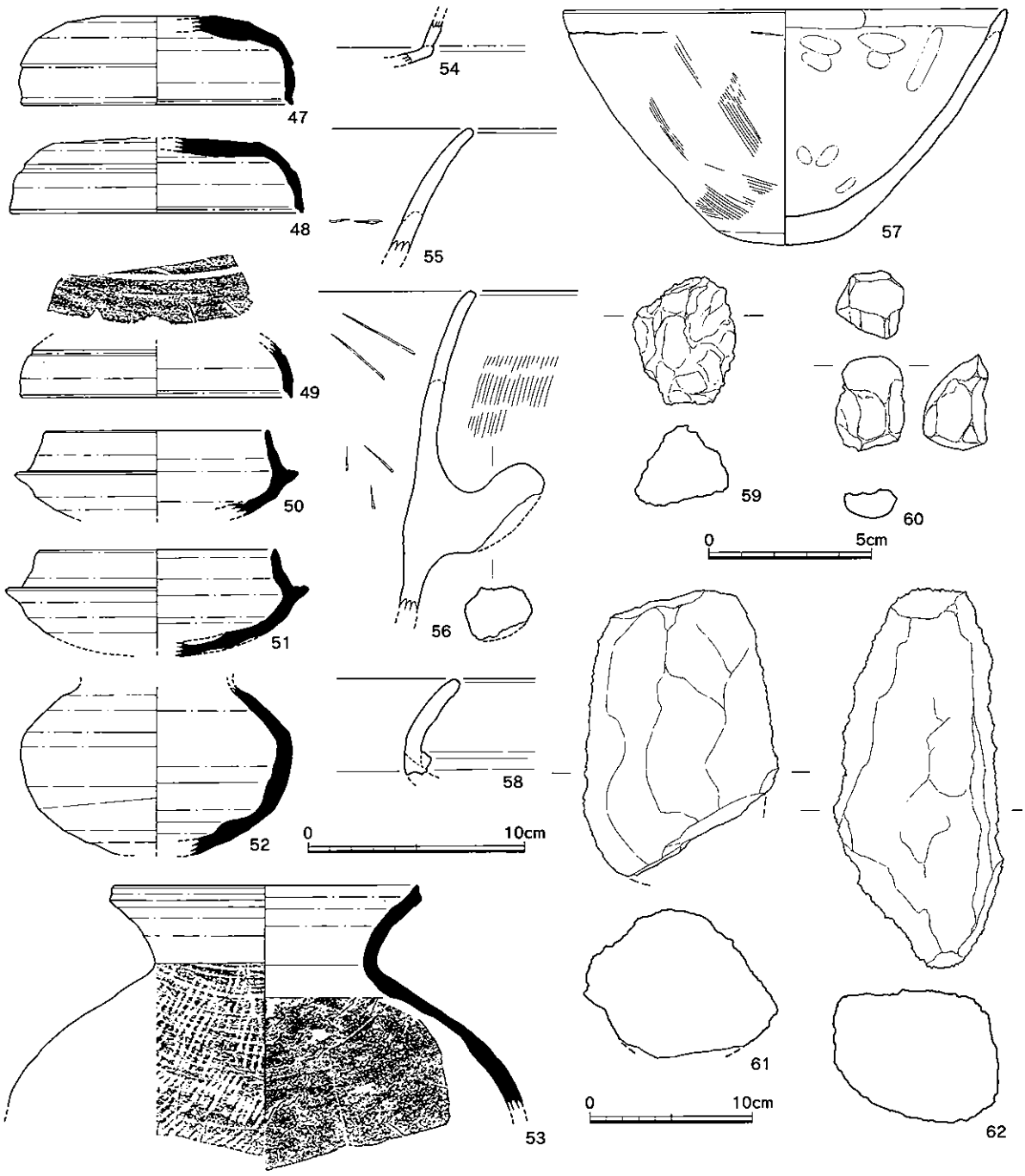
土製品（59・60）　59は焼土塊で、５mm大の砂粒を多く含む。60は粘土塊で側面を面取りする。

石製品（61・62）　花崗岩製のカマド支脚で、いずれも被熱のため表面が著しく風化する。

（3）土壙墓

SX01（第17図・図版10）

西端の南寄りで検出した土壙墓で、標高44.5ｍほどの平坦部に位置する。墓壙の平面プランは隅丸長方形で、長さ1.25ｍ、幅0.78ｍ、深さ0.19ｍを測る。底面は平坦で、壁面は断面逆台形をなす。墓壙主軸はN－22°－Eで、略南北方向をとる。遺物は北西隅で青磁椀１点が出土した。青磁椀は底面からわずかに浮いており、遺構中央にやや傾いた状態で出土した。遺体腐食後に落ち込んだか、木蓋が存在した可能性が考えられる。遺構埋土は黄褐色土の単層である。遺物の出土状況から頭位方向は北であろう。



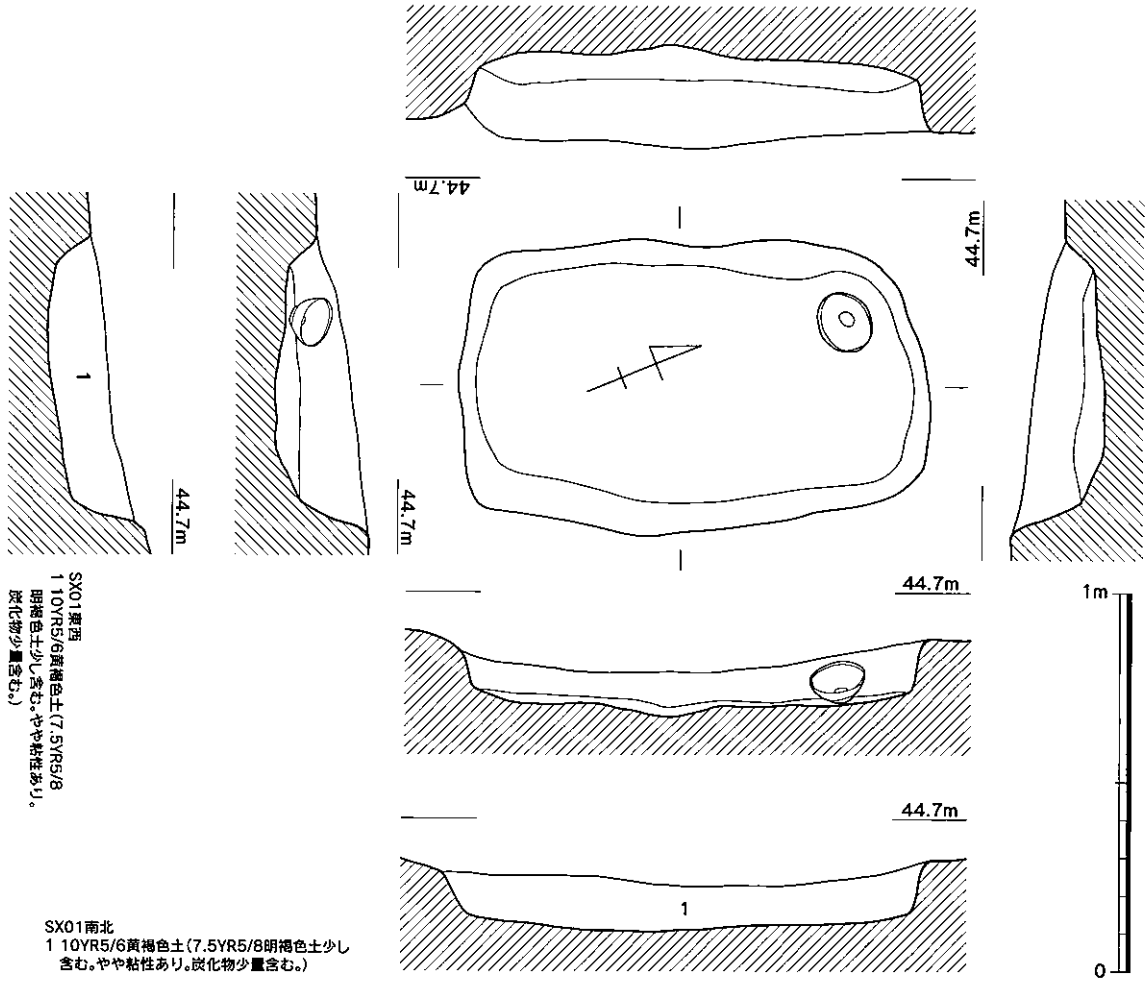
第16図　薬師の森遺跡第４次調査SX26出土遺物実測図
（59・60は1／2、61・62は1／4、他は1／3）

出土遺物（第22図・図版38）

青磁（63）　龍泉窯系青磁椀II-ｃ類で、外面に鎬蓮弁文を施し、内面見込みに草花文様を印刻する。高台部畳付け内部以外を全面施釉後、畳付け部分の釉を削りとる。釉は明緑白色で発色は良い。胎土は精良で白灰色、露胎部分はにぶい黄橙色を呈す。

SX02（第18図・図版11・12）

南西側で検出した土壙墓で、標高45ｍほどの平坦部に位置する。北東部の一部が撹乱により切られる。平面長楕円形の二段掘りで、上面は長さ1.73ｍ、幅1.41ｍ、深さ0.49ｍ、二段目は平面隅

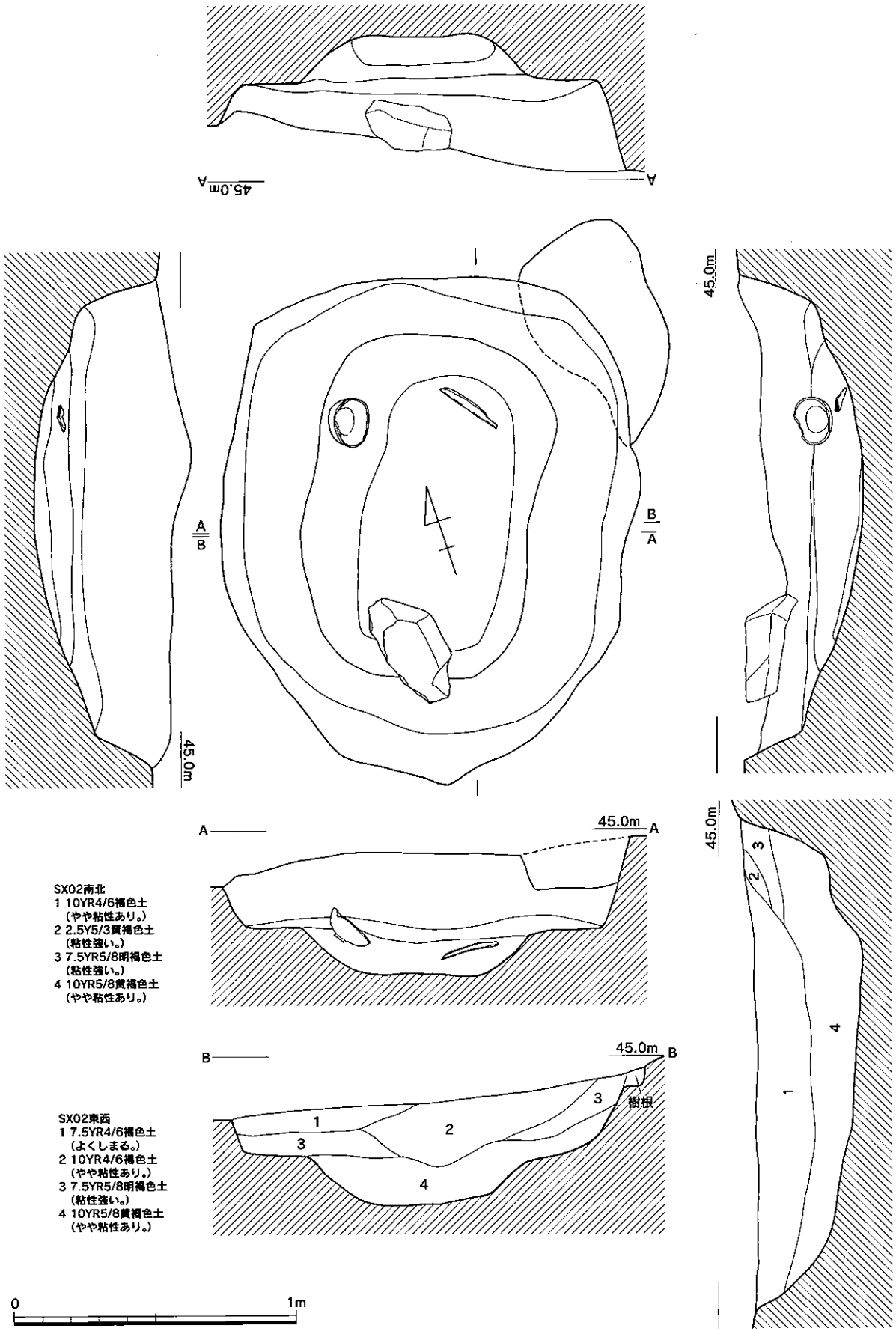


第17図　薬師の森遺跡第４次調査SX01実測図（1／20）

丸長方形、長さ1.22m、幅0.77m、深さ0.17mを測る。テラス部分は幅15～25cmほどの平坦面をなし、床面は皿状を呈す。墓壙主軸はN－22°50′－Eで、略南北方向をとる。遺構埋土は上層（1～3層）に褐色土を主体とした自然堆積土、下層（4層）に地山由来と考えられる黄褐色土が堆積する。遺物は北西側で青磁椀1点、北側中央で鉄小刀1点が出土した。青磁椀は壁面に貼りついており、遺構中央にかなり傾いた状態、鉄小刀は切先を西に向け、遺構中央に傾いた状態で出土した。二段掘りの形状や遺物の出土状態からテラス面に木蓋が存在した可能性が高い。埋土の状況も下層は墓壙埋め戻しの土が木蓋腐食後に落ち込んだもの、上層はその後に流れ込んだ自然堆積土と解釈できることから、木蓋土壙墓と考える。埋納品は遺物出土レベルから木蓋上に供献したものであろう。また遺構検出面で20×40cmほどの花崗岩があり、標石等があった可能性がある。遺物の出土状況から頭位方向は北と考えられる。

出土遺物（第22図・図版39）

青磁（64）　龍泉窯系青磁椀Ⅰ-4a類で、体部内面に片彫りにより施文する。高台部畳付け内部以外を全面施釉後、畳付け部分の釉を削りとるが、畳付けに釉垂れが認められる。釉は明緑灰色で発色は非常に良く、細かな貫入が認められる。胎土は精良で、胎土・露胎部分ともににぶい黄橙色を



第18図　薬師の森遺跡第４次調査SX02実測図（1／20）

呈す。畳付け内部には「十」字状の墨書があり、全体に滲む。

鉄製品（65）　鉄小刀で、全体に錆に覆われ、茎端部をわずかに欠く。現状で、全長27.8cm、刀身長21.0cm、身幅2.8cmを測る。茎部は柄と考えられる木質が残る。関部の形状は不明。

SX03（第19図・図版13）

南西側の標高45ｍほどの平坦部に位置する。平面プランは細長い長方形で、長さ1.87ｍ、幅0.50ｍ、深さ0.30ｍを測る。底面は平坦で、壁面はやや垂直気味に立ち上がり、断面逆台形をなす。主軸はＮ－39°－Ｅで、やや北東―南西方向に振れる。遺構埋土は大きく２層に分かれ、上層に褐色土、下層に黄褐色土が堆積する。遺構上面で土師器・須恵器が少量出土したが、細片のため図化できない。遺構の形状や主軸方位、他の土壙墓に近接することから土壙墓と判断したが、出土遺物が少なく時期は不明である。

SX11（第19図・図版13）

南西側の標高46.5ｍほどの平坦部に位置し、平面プランは隅丸長方形で、長さ1.43ｍ、幅0.40ｍ、深さ0.20ｍを測る。底面は平坦で西側がやや低くなり、断面は逆台形をなす。主軸はＮ－70°－Ｅで、略東西方向を向く。遺構埋土はにぶい黄褐色土の単層である。遺物は埋土中より土師器が少量出土したが、細片のため図化できない。遺構の形状や、他の土壙墓に近接することから土壙墓と判断したが、出土遺物が少なく時期は不明である。

SX12（第20図・図版13）

南西側の標高45.5ｍほどの平坦部に位置する。平面プランは隅丸長方形で、長さ1.15ｍ、幅0.70ｍ、深さ0.13ｍを測る。底面は平坦で西側がやや低くなり、壁面は緩やかに開きながら立ち上がる。主軸はＮ－16°－Ｗで、略南北方向を向く。遺構埋土はにぶい黄褐色土の単層である。遺物は南側で完形の土師器杯が３個体出土した。底面から浮いており、遺構中央にやや傾いた状態で出土したことから木蓋の存在が想定できる。埋納品はいずれも残存状態が悪く、１個体は取り上げ時に細片化し、復元不可能な状態となった。頭位方向は遺物出土状況より南側であろうか。

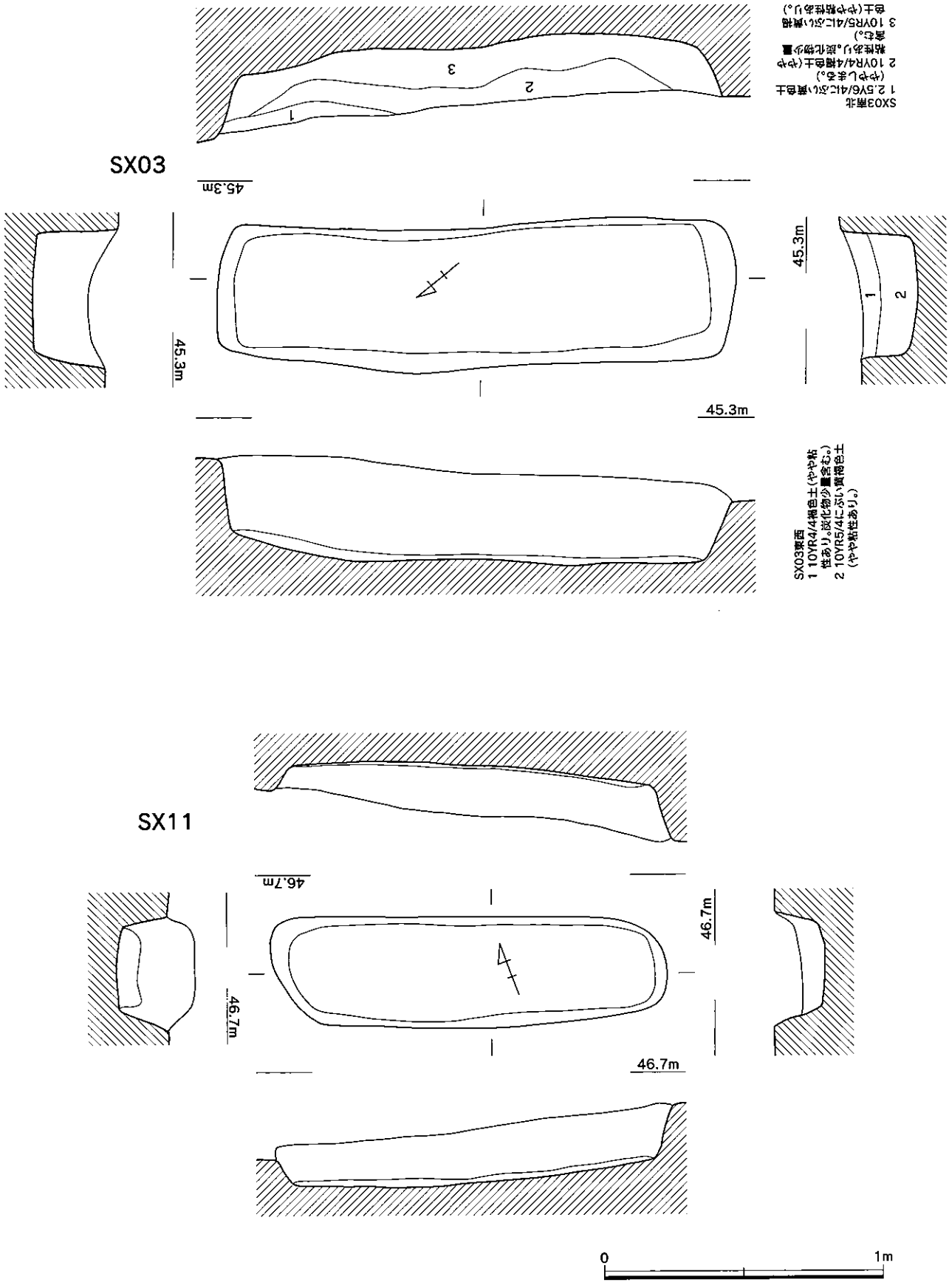
出土遺物（第22図・図版39）

土師器（66～68）　杯で、66・67はほぼ完形、68は底部片である。66は口径11.2cm、67は口径12.4cm、器高はともに2.7cmである。底部と体部の境に不明瞭な稜をもち、体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。66は底面が稜よりわずかに突出する。いずれも器面摩滅するが、回転ナデにより成形し、底部はヘラ切りである。

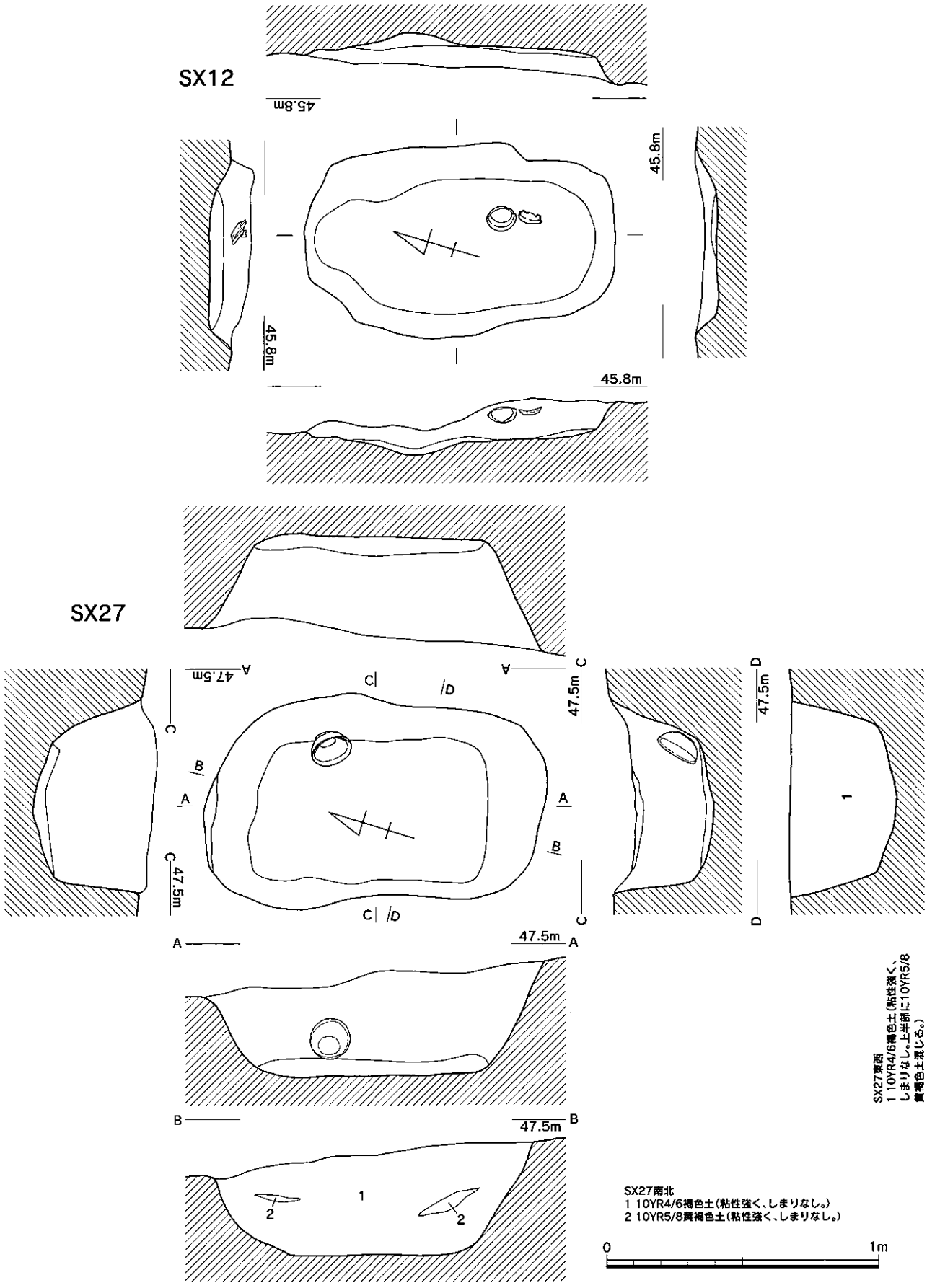
SX27（第20図・図版14）

中央のやや北寄りで検出した土壙墓で、標高47.5ｍほどの緩斜面に位置する。墓壙の平面は隅丸長方形で、長さ1.25ｍ、幅0.72ｍ、深さ0.41ｍを測る。底面は平坦で、壁面は断面逆台形をなす。墓壙主軸はＮ－17°－Ｗで、略南北方向をとる。遺物は北東側で青磁椀１点が出土した。青磁椀は底面から浮いており、遺構中央に傾いた状態で出土した。遺構埋土は黄褐色土の単層であるが、部分的に黄褐色土が帯状に堆積する。遺物の出土状態や埋土の状態から木蓋が存在した可能性が考えられる。遺物の出土状況から頭位方向は北と想定できる。

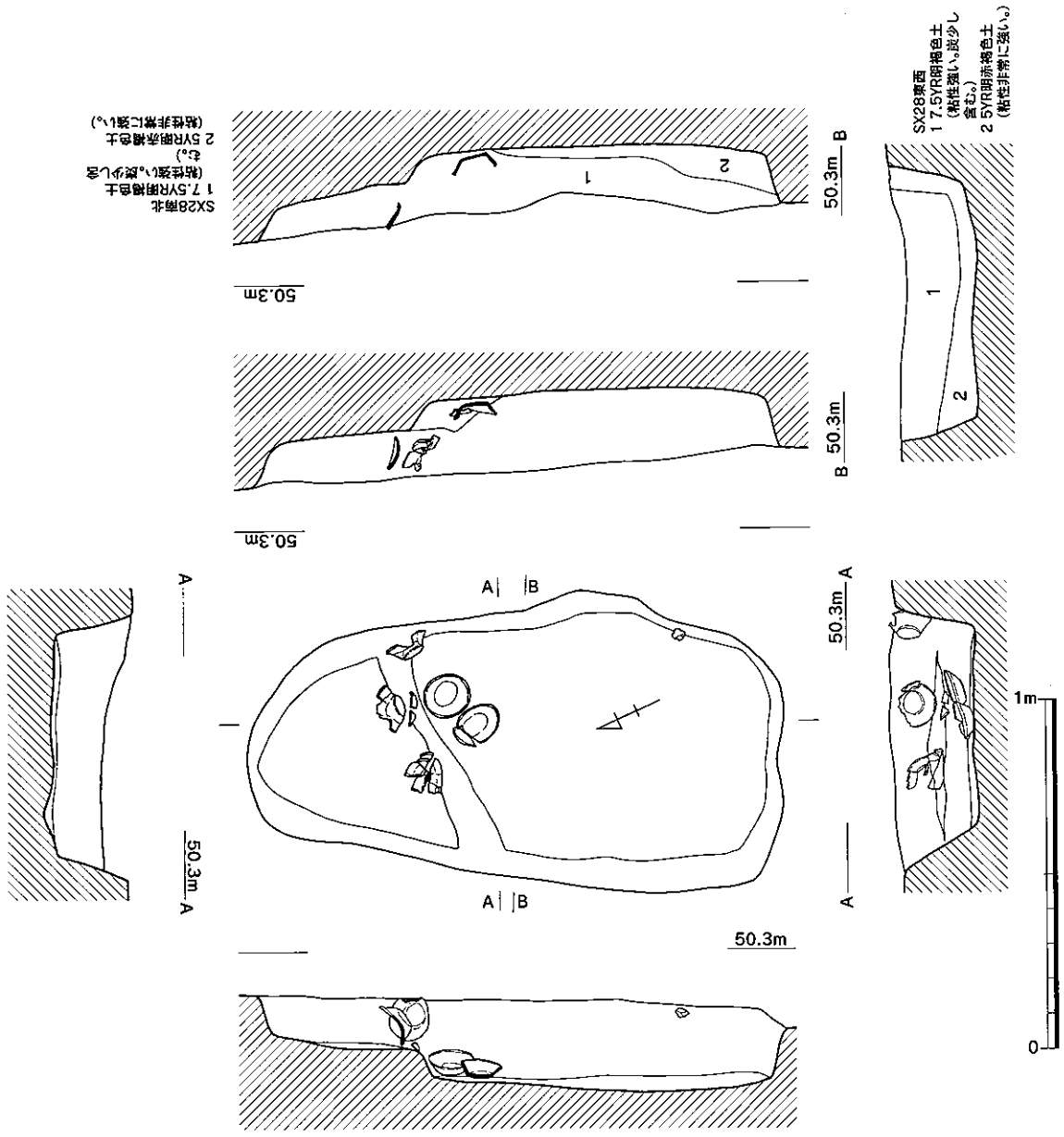
出土遺物（第22図・図版39）



第19図　薬師の森遺跡第４次調査SX03・11実測図（1／20）



第20図　薬師の森遺跡第４次調査SX12・27実測図（1／20）



第21図　薬師の森遺跡第４次調査SX28実測図（1／20）

青磁（69）　龍泉窯系青磁椀Ⅰ-2a類で、体部内面と見込みに片彫りによる花文を施す。高台部以外を全面施釉し、高台の一部に釉垂れが認められる。釉は淡緑色で、全体に貫入がある。胎土は灰赤色で白色砂粒を多く含み、露胎部分は一部赤く発色する。

SX28（第21図・図版15）

中央南端で検出した土壙墓で、標高50ｍほどの尾根上に位置する。墓壙の平面はやや不整な隅丸長方形、長さ1.52ｍ、幅0.85ｍ、深さ0.26ｍを測る。北側にテラスを有し、北側が一段高い。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がり断面逆台形をなす。墓壙主軸はＮ－24°50′－Ｅで、略南北方向をとる。埋土は２層にわかれる。遺物は北側で完形の土師器杯が５点出土した。このうち２点は北側テラス部分で、１点は東壁側にはりつくように出土し、いずれも倒立した状態であった。他２点は床面からわずかに浮いた状態で正置して出土した。遺存状態は悪く、１点は取り上げ時に細片化し復元不可能な状態となった。また遺構の南東肩で鉄滓が出土したが、出土レベルから混入

品と考える。遺物の出土状況や土層の堆積状況から木蓋が存在した可能性が高い。

出土遺物（第22図・図版39・40）

土師器（70～74）　杯で、底部は丸味を帯び、体部は直線的に外方に開く。体部と底部の境は不明瞭である。口径は11.5～13.2cmとばらつき、平均は12.5cm、器高は4.0cm前後である。器面は摩滅するが、内外面回転ナデ、底部はヘラ切りである。

鉄製品（75）　鉄滓で、重さ12.4ｇである。

（4）土坑

SX04（第23図）

南西端の尾根上に位置する。平面は楕円形を呈し、現状で長さ1.4ｍ、幅0.53ｍ、最深部で0.1ｍを測る。壁面は直立気味、床面は平坦で、西側が一段低くなる。埋土中から土師器甕が２個体出土した。

出土遺物（第24図）

土師器（76・77）　ともに甕で、口縁部は端部を肥厚し断面方形を呈す。口縁部はヨコナデ、体部は外面縦位の平行タタキ、内面同心円当具痕を丁寧にナデ消す。

SX05（第23図）

南西端の尾根上に位置し、SX06に隣接する。平面楕円形を呈し、長さ0.97ｍ、幅0.71ｍ、深さ0.16ｍを測る。壁面は直立気味に立ち上がり、床面は平坦で中央に直径0.2ｍ、深さ0.2ｍのピットがある。埋土中から須恵器杯蓋・土師器片が出土した。

出土遺物（第24図）

須恵器（78）　杯H蓋で、天井部外面回転ヘラケズリ、天井部内面ナデ、ほかは回転ナデである。天井部外面にヘラ記号がある。

土師器（79）　甑の桟部破片である。断面隅丸長方形で、ナデ・指オサエにより成形する。

SX06（第23図）

南西端の尾根上に位置し、SX05に隣接する。平面隅丸長方形を呈し、長さ0.97ｍ、幅0.75ｍ、深さ0.18ｍを測る。壁面は直立気味に立ち上がり、床面は平坦で、埋土中からSX05のものと接合する須恵器杯蓋が出土した。

SX09（第23図）

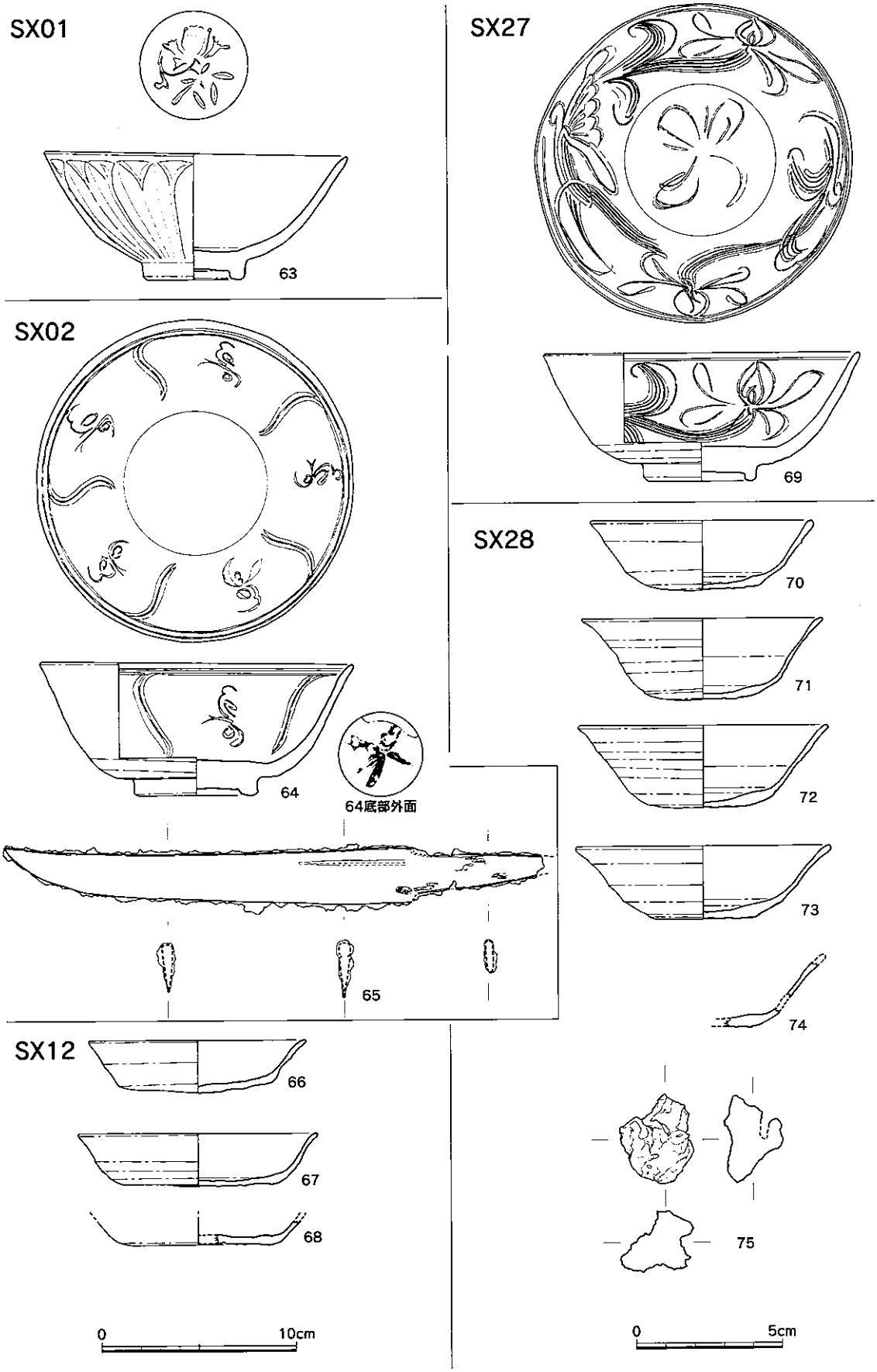
南西端の尾根上に位置し、SX06に隣接する。平面長方形を呈し、長さ1.5ｍ、幅0.7ｍ、深さは東側テラスで0.14ｍ、最深部で0.27ｍを測る。壁面は直立気味に立ち上がり、東側と中央がテラスとなり西側が深くなる。また北側に２ヶ所、ピット状の落ち込みがある。出土遺物はない。

SX10（第23図）

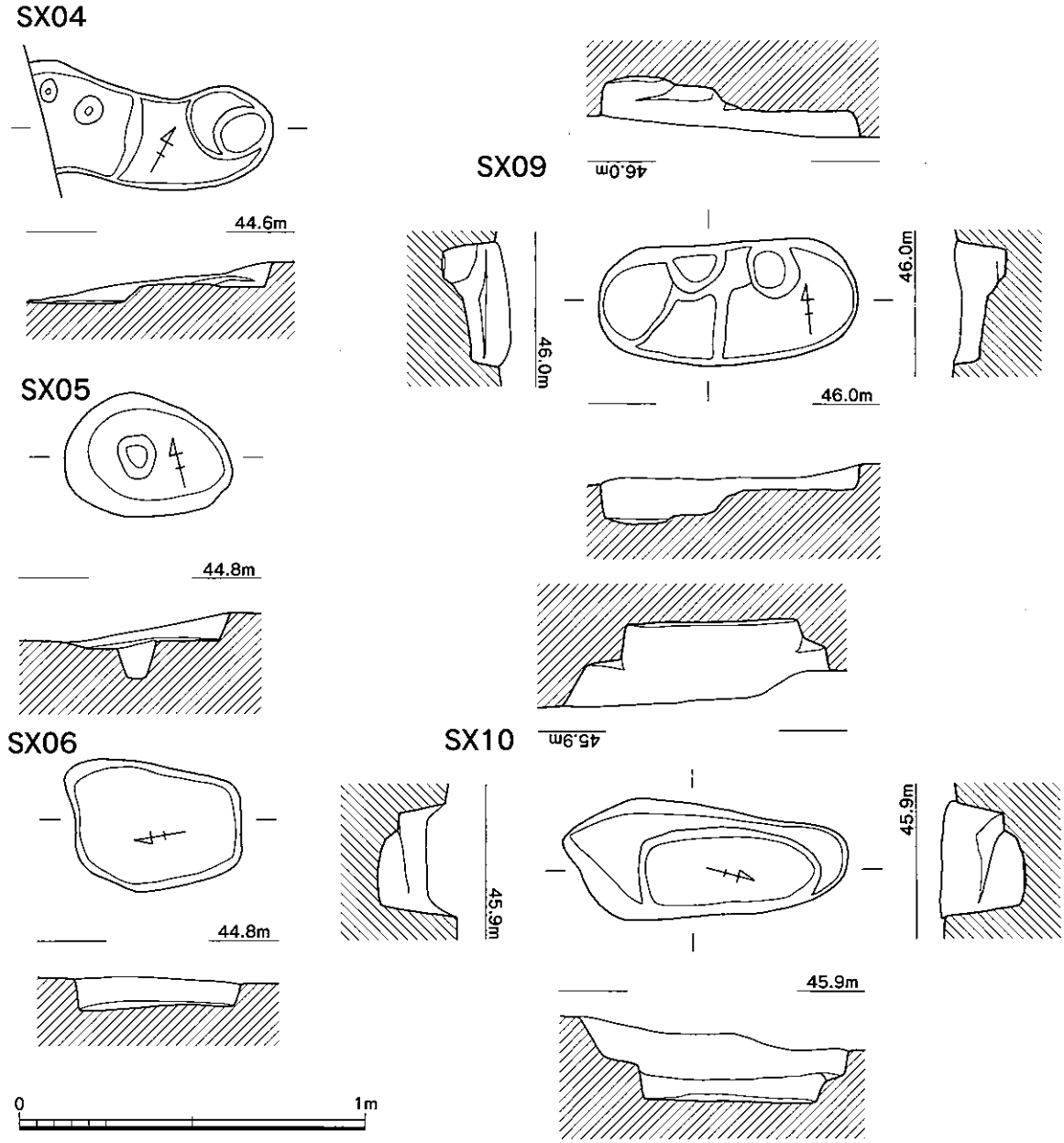
北西側の緩斜面に位置する。平面楕円形で、長さ1.67ｍ、幅0.68ｍ、深さ0.47ｍを測る。南側がテラスとなっており、北側が一段低く、土坑状に落ち込む。遺物はない。

SX13（第25図・図版16）

西側の緩斜面に位置する。平面不整形の大型土坑で、長さ4.89ｍ、幅2.27ｍ、深さ0.27ｍを測



第22図　薬師の森遺跡第４次調査SX01・02・12・27・28出土遺物実測図
（75は1／2、他は1／3）



第23図　薬師の森遺跡第４次調査SX04～06・09・10実測図（1／40）

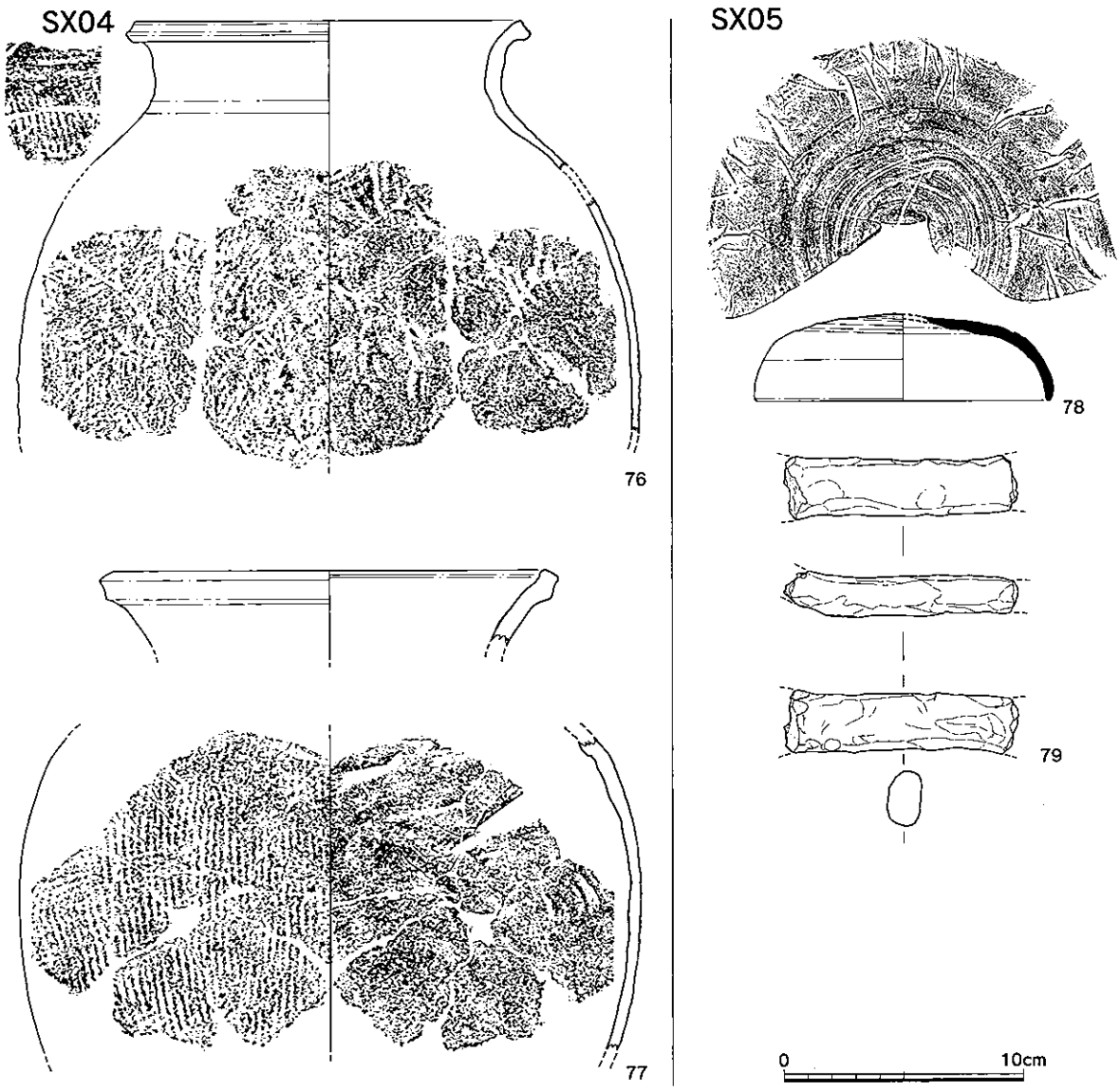
る。埋土の色は地山とよく似ており、砂質土を主体とし、全体に自然堆積した状況である。東側がやや深くなっており、南壁には直径10～15cmほどの小さなピットが10ヶ所以上ある。埋土中から黒曜石製石鏃・剥片・チップが出土した。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（168）　黒曜石製の石鏃で、先端部と基部を一部欠損する。残存長2.1cm、推定最大幅2.0cm、厚さ0.3cmを測る。

SX14（第25図・図版16）

西側の緩斜面に位置する。SB04の柱穴が想定できる位置にあり、精査をしたが、柱穴は確認できなかったため、SB04を切る遺構と判断した。平面は不整な方形で、長さ1.25m、幅1.23m、深さ1.6mを測る。埋土は黄褐色～明黄褐色を主体とし、上半部が自然堆積、下半部が人為的に埋め戻されたような堆積状況である。壁面は下半部が直立、上半部がやや外側に開きながら立ち上がる。床



第24図　薬師の森遺跡第４次調査SX04・05出土遺物実測図（1／3）

面は東側にテラスを有し、西側が一段低くなり、底面付近で40cm大の花崗岩塊を検出した。井戸の可能性を考えたが、湧水はなく、滞水した状況でもないため、性格は不明である。最上層で完形に近い土師器甑が投棄されたような状態で出土した他は、土師器の小片が少量出土したのみである。

出土遺物（第27図・図版40）

土師器（80～82）　80は甑で、底部を大きく欠くが完形に復元できる。外面は口縁部ヨコナデ、体部ハケ目、把手部分はナデ・指オサエを施す。内面は口縁部横ハケ、体部上半横方向ケズリ、下半縦方向ケズリである。把手部分の内面に器面の盛り上がりが認められ、挿し込みで接合した可能性が高い。81は杯もしくは高杯であろうか。口縁部と体部の境は明瞭な稜をもち、口縁部は直立気味に外方に立ち上がる。器面風化のため調整不明であるが、胎土は非常に精良である。82は杯もしくは椀類の底部片で、外面に高台の剥離痕が認められる。内外面摩滅のため調整不明。

SX16（第26図）

西側の緩斜面に位置し、SB03の柱穴に切られる。平面はやや不整な長方形で、長さ2.55m、幅

1.33m、深さ0.27mを測る。埋土は橙色粘質土を主体とし、地山によく似ていたため、プランの把握が困難であった。床面は平坦で、壁面は直立気味に立ち上がり断面逆台形を呈す。南西側の壁面付近では、床面からやや浮いた状態で焼土が薄く広がっていたが、性格は不明である。

出土遺物（第27図）

須恵器（83・84）　ともに杯H身の口縁部片で、立ち上がりは内傾する。内外面回転ナデで、84は口縁端部に浅い沈線が巡る。

土師器（85）　甕の口縁部片で、内外面ともに風化のため調整不明。

SX18（第26図・図版17）

北西側の緩斜面に位置し、SX17を切る。平面円形で、長さ1.19m、幅1.07m、深さ0.2mを測る。床面は平坦で、西側がピット状に一段深くなる。壁面は直立気味で断面逆台形を呈す。

SX19（第26図・図版17）

北西側の緩斜面に位置し、SX22を切る。北側の一部は削平によって消滅する。平面方形で、長さ1.76m、幅1.56m、深さ0.24mを測る。埋土は明褐色土の単層で、床面は平坦である。壁面は直立気味に立ち上がり断面逆台形を呈す。遺物は完形に近い土師器鉢が床からやや浮いた状態で出土したのみである。破片の一部はSX17から出土した。

出土遺物（第27図・図版40）

土師器（86）　ほぼ完形に復元できる鉢である。底部は平底気味で、体部は直線的に外方に立ち上がり、口縁部内面はやや内湾する。全体に風化するが、内面はケズリ、外面の底部付近にはナデによるものと考えられる面がある。

SX20（第28図・図版17）

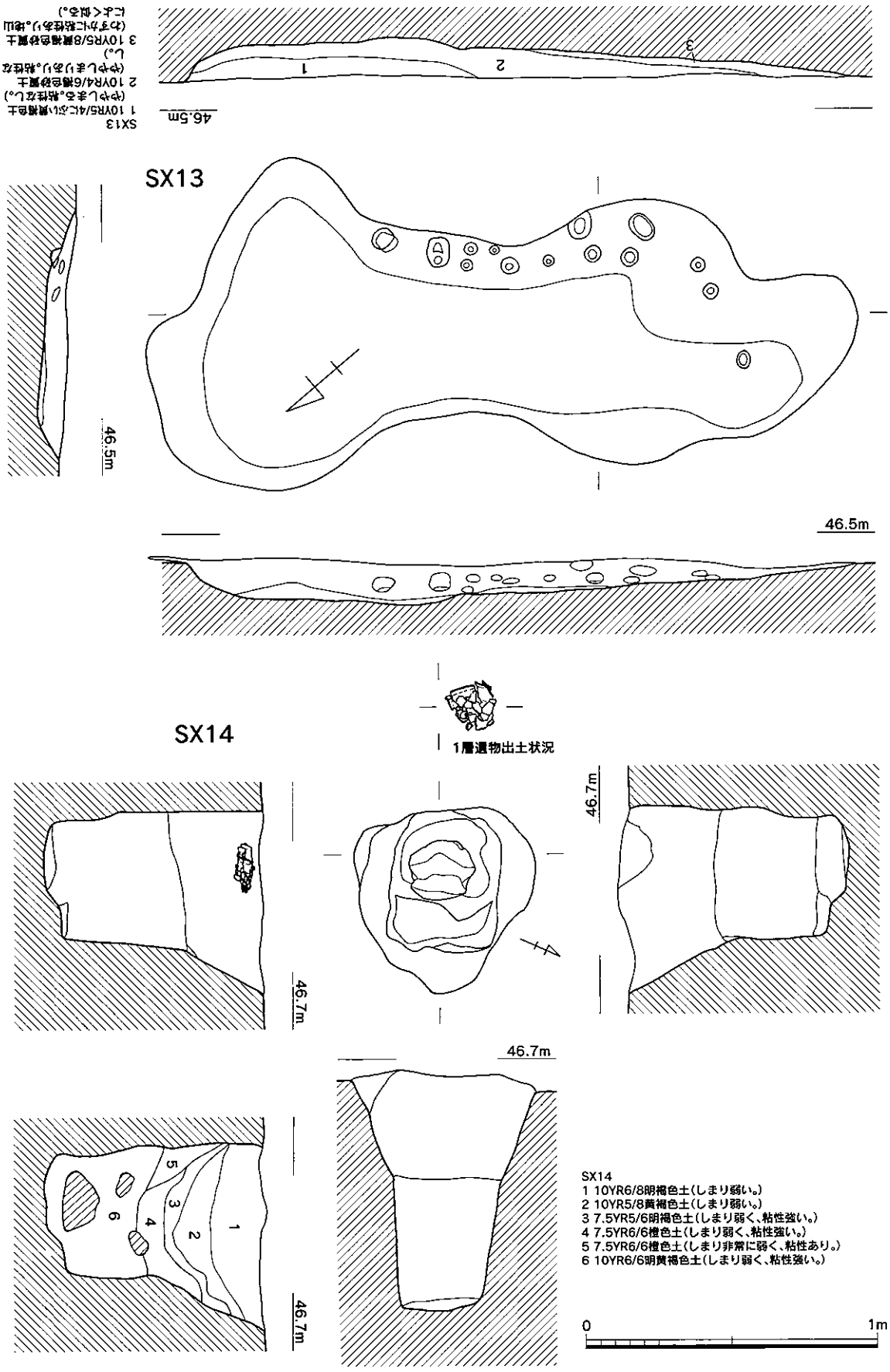
南西側の緩斜面に位置する。平面隅丸長方形の大型土坑で、長さ3.2m、幅2.28m、深さ0.28mを測る。埋土はやや砂質を帯びた黄褐色土の単層である。床面は平坦で、東側と西側に小さなテラスを有し、壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は土師器と考えられる土器片が少量出土したが、細片のため図化できない。

SX21（第28図・図版18）

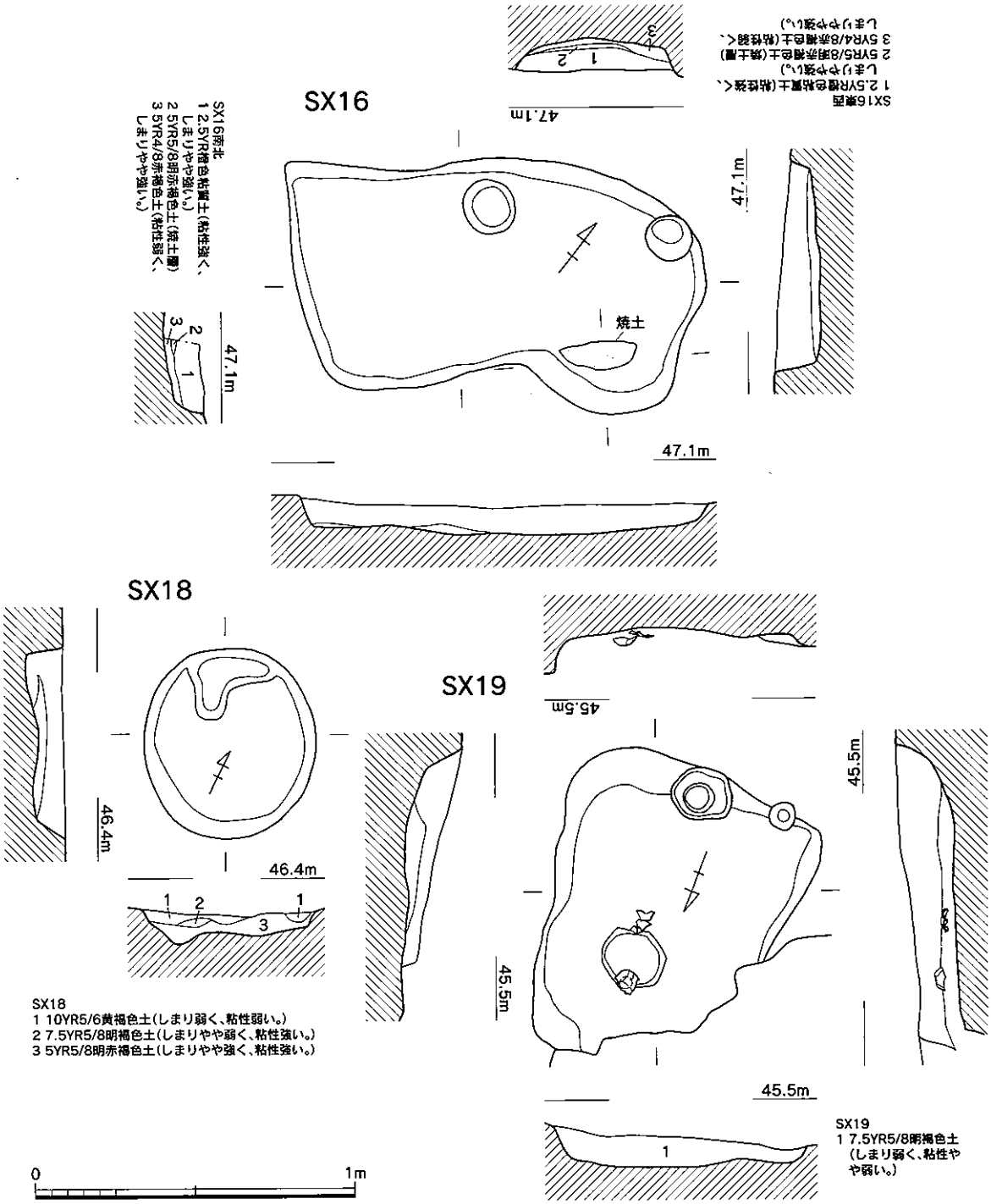
南西側の緩斜面に位置し、北側にSX20が近接する。平面不整な長方形のやや大型な土坑で、長さ2.68m、幅2.09m、深さ0.4mを測る。埋土はやや砂質を帯びた黄褐色土の単層である。床面は平坦で、床面の南東部はピット状に落ち込む。南壁側に小さなテラスを有し、壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は遺構上面で陶器片が出土したが、細片のため図化できない。

SX30（第29図・図版18・19）

中央南側の尾根部に位置する。平面楕円形で、長さ1.27m、幅0.97m、深さ0.77mを測る。埋土は4・5層が壁面沿いと床面にあり、この上に3層が厚く堆積する。3層上半部と2層中で多量の弥生土器が一括投棄された状態で出土し、2層の土は土器群の中に流入したような状況であった。なお、2層の土は、3層と同一の土質・土色で、3層と同一のものと考える。床面は直径50cmほどの円形で、北東側がやや深い。壁面は緩やかに立ち上がり、断面擂鉢状を呈す。ほとんどの遺物は2・3層上半部で出土しており、3層埋没の最終段階で一括投棄されたものと考える。また最下層



第25図　薬師の森遺跡第４次調査SX13・14実測図（1／40）

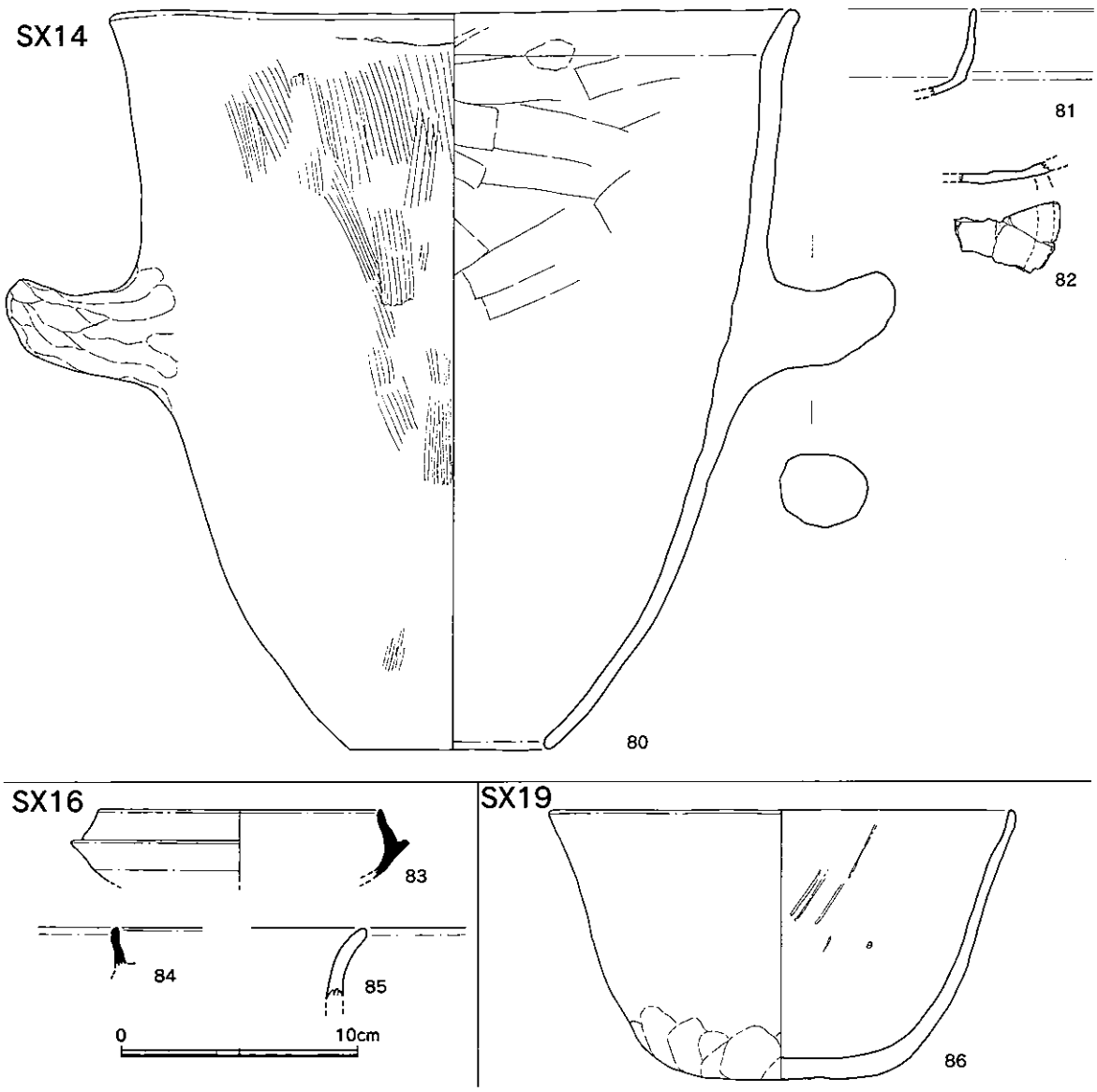


第26図　薬師の森遺跡第４次調査SX16・18・19実測図（1／40）

の５層では黒曜石製の打製石鏃・剥片が出土した。２・３層上半部出土土器は弥生時代前期の良好な一括遺物である。

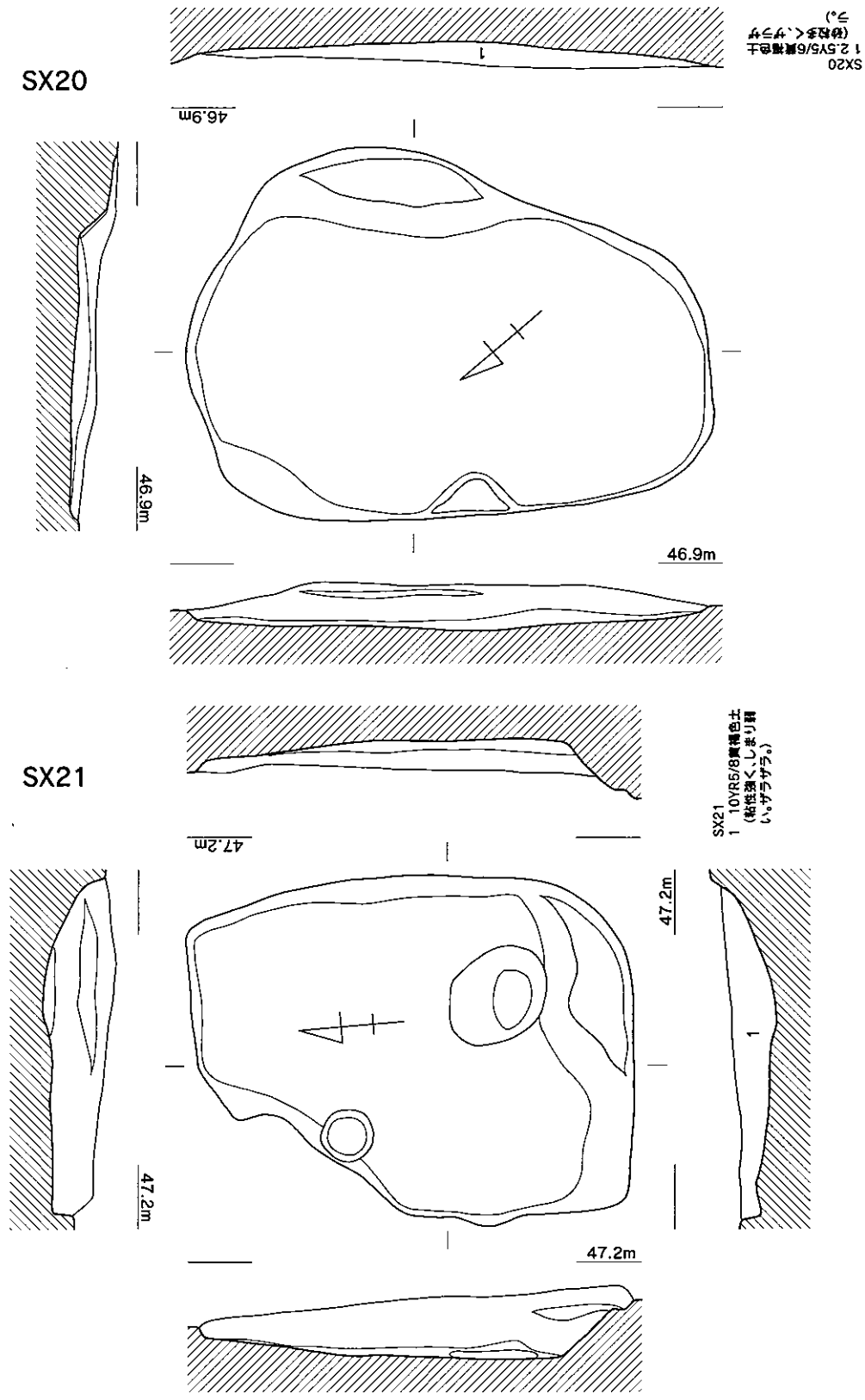
出土遺物（第30～32図・図版40・41）

弥生土器（87～104）　87～92は壺で、87は大型品、88～92は中型品である。いずれも口縁部・頸部・体部の境は不明瞭である。87は肩がはる器形で、頸部はしまり、口縁部は大きく外反する。頸基部に三角突帯を施し、口縁部上面に幅狭の粘土帯を貼り付け肥厚する。口縁部から肩部内面にかけてはヨコナデ、頸部内面は横ハケ、肩部内面はナデである。口縁端部は強いヨコナデによ

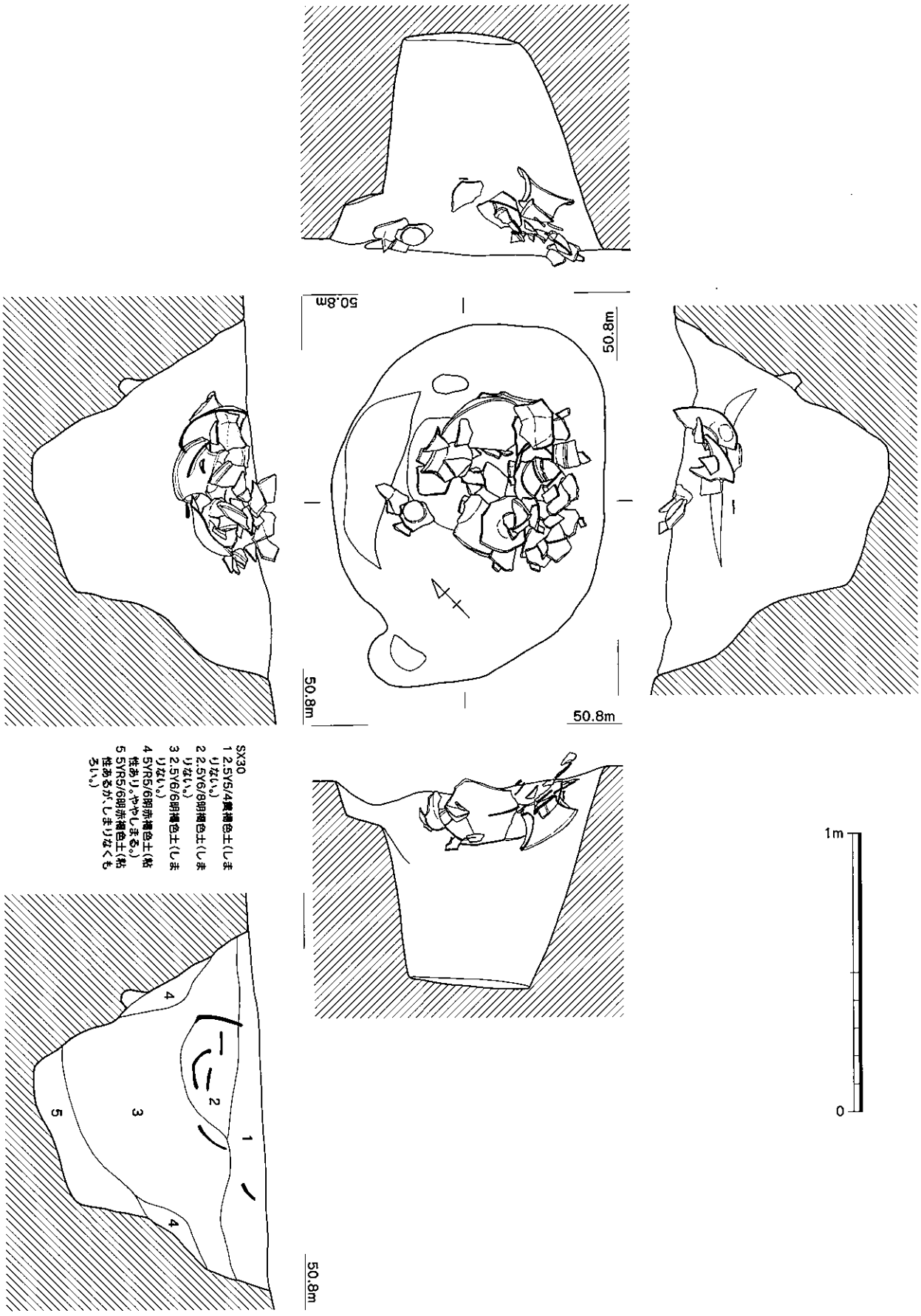


第27図　薬師の森遺跡第４次調査SX14・16・19出土遺物実測図（1／3）

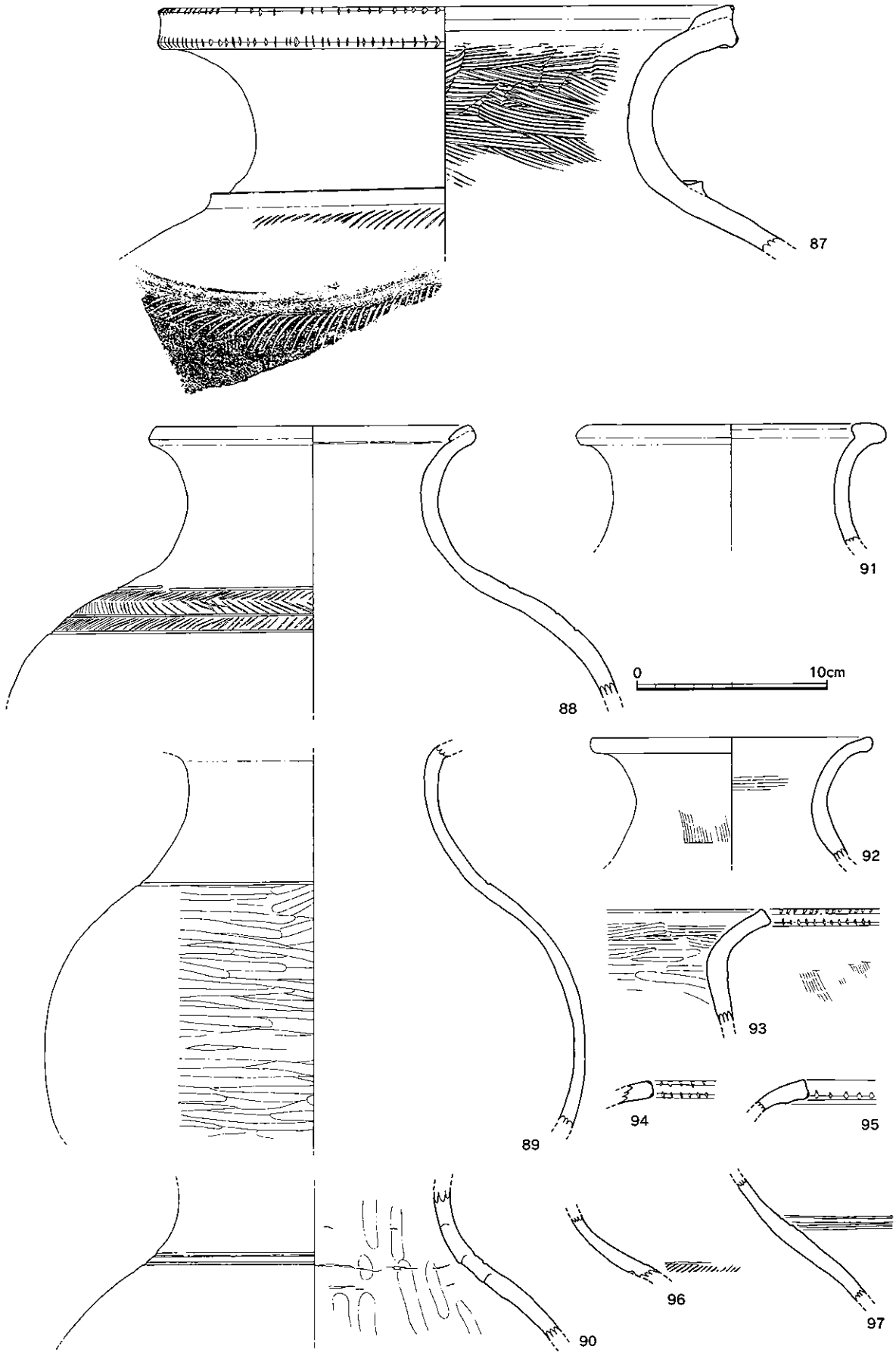
り凹面をなし、上下端に浅く細い刻目を施す。肩部外面にタマキガイ科と考えられる貝殻により斜線文を施す。88は肩がはり、偏球形に近い胴部と考えられる。頸部は曲線的で、口縁部は緩やかに外反する。口縁部上面は幅狭の粘土帯を貼り付け肥厚する。粘土帯貼り付け部分の調整は粗く、接合痕が明瞭に残り、粘土帯の多くは剥離し、擬口縁を呈す。口縁部ヨコナデ、他は内外面ともに丁寧なナデを施す。肩部を３条の沈線により区画し、ヘラ描き無軸羽状文、ヘラ描き斜線文を施す。外面の一部に黒斑が認められる。89は口縁部と底部を欠く。胴部は球形を呈し、頸基部は段状の沈線で、頸・胴部を区画する。頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は外側に屈曲する。外面は頸部ヘラナデ、胴部は粗い横位ミガキ、内面は摩滅するが、一部にナデが確認できる。胴部下半に黒斑がある。90は頸肩部の破片で、肩部はナデ肩、頸部は内傾して立ち上がる。頸基部に２条の沈線を施し、頸・胴部を区画する。内面はナデで、頸基部に接合痕が明瞭に残る。外面は摩滅するが、ナデであろう。91・92は口頸部の破片で、頸部が緩やかに外反する器形である。91は口縁部上面に粘



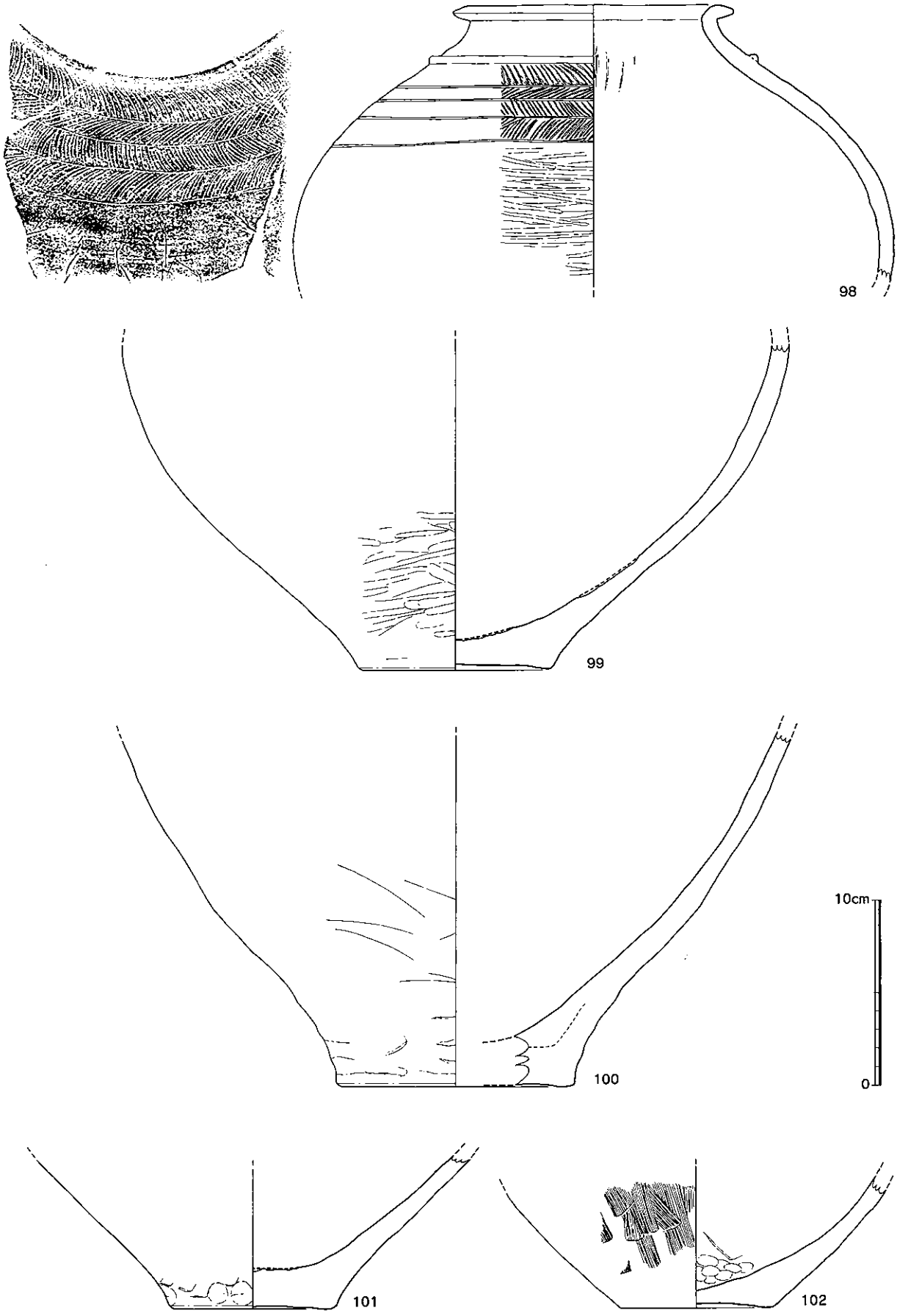
第28図　薬師の森遺跡第４次調査SX20・21実測図（1／40）



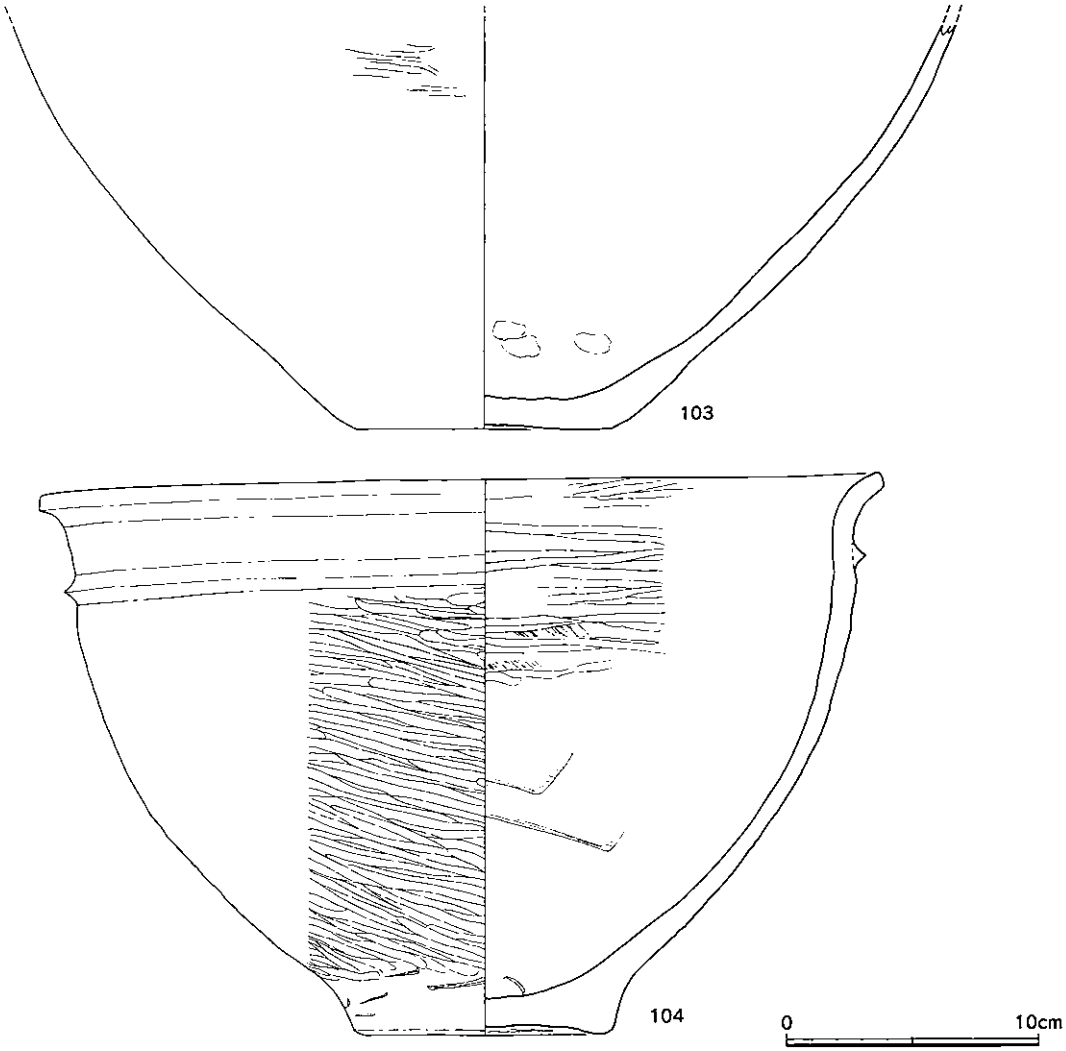
第29図　薬師の森遺跡第４次調査SX30実測図（1／40）



第30図　薬師の森遺跡第４次調査SX30出土遺物実測図（1）（1／3）



第31図　薬師の森遺跡第４次調査SX30出土遺物実測図（2）（1／3）



第32図　薬師の森遺跡第４次調査SX30出土遺物実測図（3）（1／3）

土帯を貼り付け肥厚し、断面鋤先状を呈す。内外面摩滅するが、外面の一部にナデが確認できる。92は口縁部ヨコナデ、外面粗い縦ハケ、内面摩滅するが一部ヨコハケが残る。93～95は口縁部の破片で、93は大甕、94・95は壺ないし甕であろう。93は口縁部は強く屈曲し、断面「く」字形を呈す。口縁端部は断面方形を呈し、上下端にヘラ工具により浅く細い刻目を施す。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ミガキで、内面に黒斑がある。94・95は端部のみの破片で、内外面ヨコナデを施す。94は上下端に、95は下端に刻目を施す。96・97は肩部片で、いずれも強く内傾する。ともに外面ナデ、内面は摩滅する。96は頸基部に沈線とヘラ描き斜線文、97は頸基部に２条の沈線を施す。98は短頸壺で、球形の胴部に短い口縁部がつく。口縁部は強く折り曲げて成形し、口縁部下に１条の三角突帯を施す。口縁部はヨコナデ、外面はやや密な横位ミガキ、内面はナデ・指オサエで、頸部内面にはシボリ痕が残る。肩部に４条の沈線を施し、沈線間をタマキガイ科と考えられる貝殻により施文する。文様は４段の斜線文を互い違いに施し、２段の有軸羽状文を構成する。施文順序は右→左、上→下の順に行い、沈線の方向は、始点・終点が判明する部分では時計回りである。外面胴部最大径の位置に黒斑が確認できる。99～103は底部片で、100は甕の可能性があるが他は壺で

あろう。99・103は大型品で胴部は丸みを帯びる。99の外面は粗いミガキ、内面は摩滅のため調整不明、103の外面はミガキ、内面はナデである。100は底部径13.0cm、厚さ３cmほどあり、大型器種であろう。胴部は緩やかに外傾して直線的に立ち上がる。外面はヘラナデで、一部ミガキのような光沢が残る。内面は器面剥落するが一部にヘラナデの痕跡が残る。101・102は中型品で、101は直線的、102は内湾して立ち上がる。101の外面は単位不明だがミガキ、底部側面指オサエ、内面は摩滅する。102の外面はハケ、内面ナデ、底部内面は指頭圧痕が明瞭に残る。104は中型の鉢で、口縁部から体部にかけて１／３ほど欠くが完形に近い。口縁部は弱く屈曲し、端部は断面方形を呈す。口縁部下に三角突帯を１条施すが、貼り付けが雑で直線的にはならず蛇行する。口縁部は雑なヨコナデ、外面は粗いミガキで、一部に一次調整のハケ目が残る。底部外面もミガキを施す。内面はヘラナデ後、上半部は粗いミガキを施す。口縁部に２ヶ所、胴部に３ヶ所黒斑が認められる。

石製品（164・180）　164は黒曜石製の打製石鏃で、全体に扁平である。凹基式で全長2.8cm、幅2.2cm、厚さ0.4cmを測る。180は黒曜石の剥片である。

SX33（第33図・図版20）

調査区中央の緩斜面に位置する焼土坑である。平面長方形で、長さ1.32m、幅0.64m、深さ0.1mを測る。埋土は焼土・炭化物を多く含む褐色土である。南壁が顕著に被熱を受け、底面付近に炭化材が分布する。遺物は出土していない。

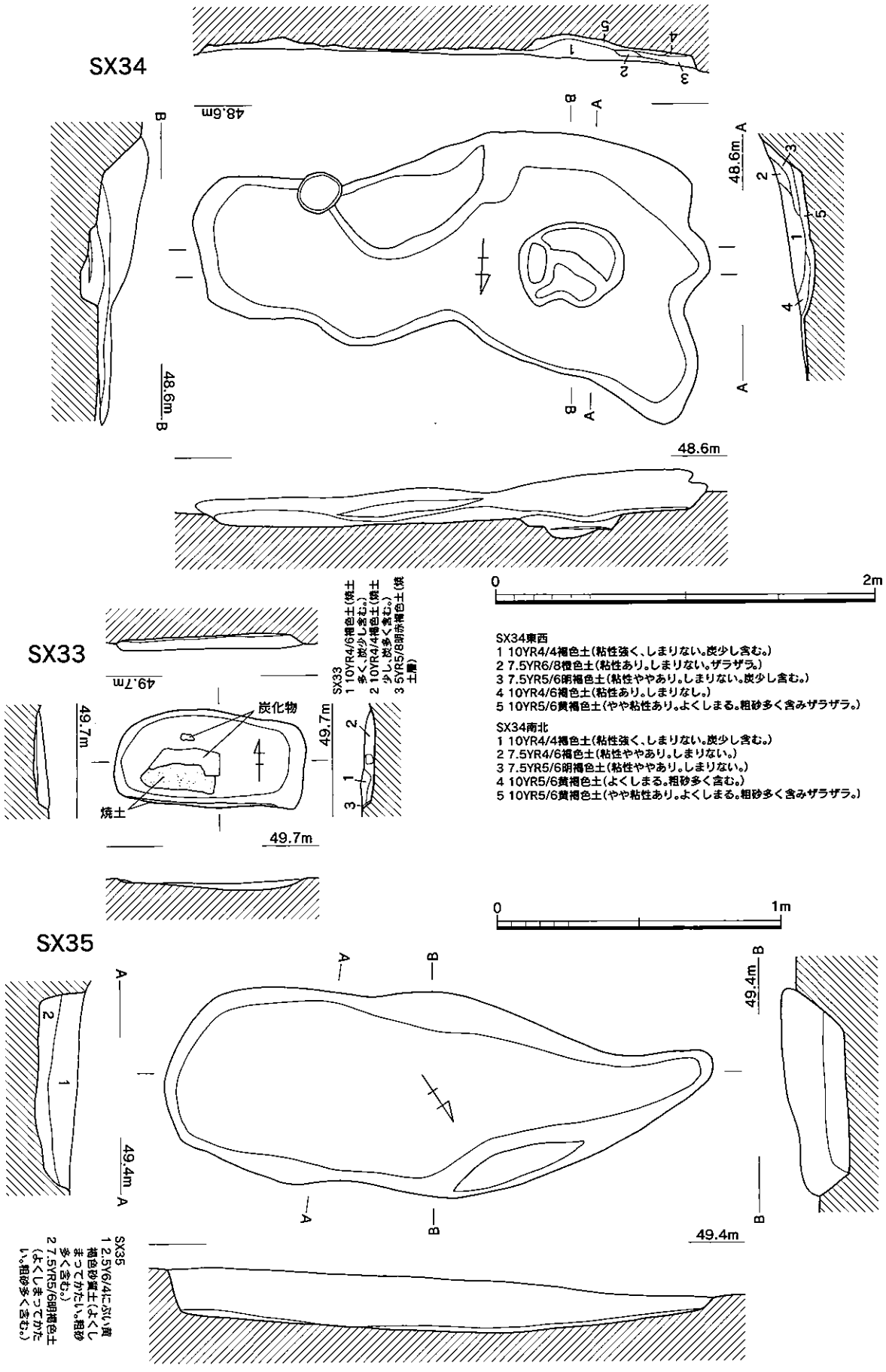
SX34（第33図・図版20・21）

調査区中央北側の緩斜面に位置し、SB05の柱穴に切られる。平面不整形を呈し、東西に長い大型土坑である。北壁側は大きく削平されるが、現状で長さ5.35m、幅2.52m、深さ0.63mを測る。埋土はレンズ状の堆積を呈し、南側から流入したような状況である。床面は平坦で、中央西側にピット状の落ち込みがある。壁面は緩やかに立ち上がり、南壁側の中央にテラスを有す。遺物の多くは１層底面で出土し、須恵器杯身、土師器甕片・杯・椀などがある。

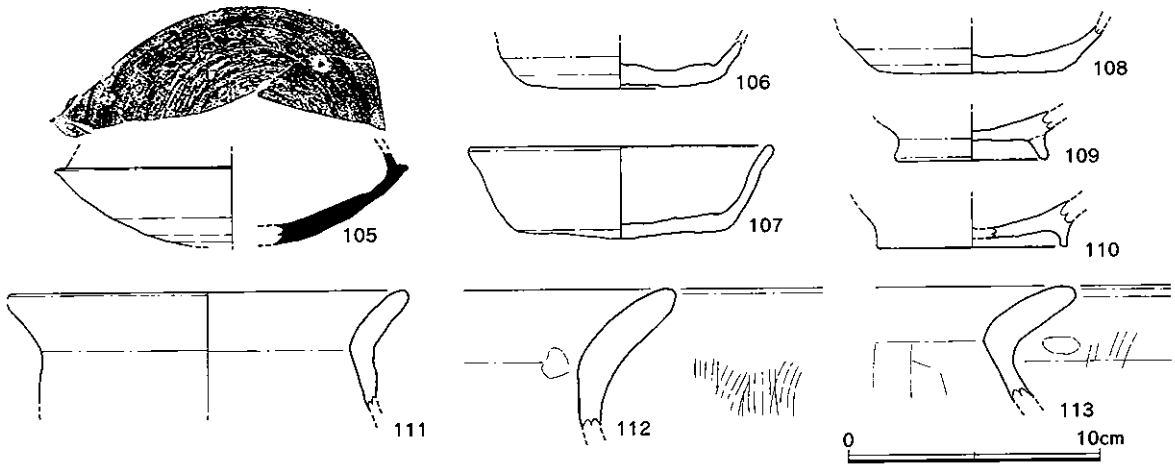
出土遺物（第34図・図版41）

須恵器（105）　杯H身で、口縁部は内傾し、底部は丸みがある。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部から内面は回転ナデで、底部内面に同心円当具痕が残る。底部外面にはヘラ記号と考えられる痕跡がある。

土師器（106～113）　106は口縁部摩滅のため、端部が生きているか死んでいるかの判断が難かしいが、欠損しているものとして図化した。したがって杯と考える。復元口径9.6cm、器高1.8cmを測る。全体に摩滅するが、口縁部はヨコナデ、底部外面はヘラ切りで、底部内面はナデであろうか。107・108も杯である。口縁部から内面はヨコナデ、底部に板状圧痕が残る。底部は摩滅するがヘラ切りか。108は復元口径11.9cm、器高3.7cmを測る。口縁部・体部はヨコナデで、底部は内外面摩滅するがヘラ切りであろう。109・110は椀の底部片で、復元底径は109が5.9cm、110が7.4cmを測る。109は高台が内傾、110は直立気味に立ち上がる。109は摩滅のため調整不明、110は内外面回転ナデである。111～113は甕の口縁部片で、111・113は口縁部の屈曲強く「く」字を呈し、112は屈曲が弱い。111は摩滅のため調整不明、112・113は口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ目である。



第33図　薬師の森遺跡第４次調査SX33～35実測図（SX34は1／60、他は1／40）



第34図　薬師の森遺跡第４次調査SX34出土遺物実測図（1／3）

SX35（第33図）

調査区中央部の緩斜面に位置する。東西に長い大型土坑で、長さ3.84m、幅1.85m、深さ0.43mを測る。埋土は上層がにぶい黄褐色土、下層が明褐色土でいずれも砂質を帯びる。床面は平坦で、壁面は直立気味に立ち上がり北壁側の中央に小さなテラスを有す。遺物は黒曜石製の打製石鏃と剥片が出土した。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（172）　黒曜石製の鍬形鏃で、先端部と基部を一部欠損する。残存長1.9cm、推定最大幅1.7cm、厚さ0.4cmを測る。

SX38（第35図・図版22）

調査区中央部南端の尾根部に位置する。平面不整形で、長さ1.93m、幅1.52m、深さ0.76mを測る。埋土は基本的にレンズ状の堆積で、四方から流れ込んだような状況である。北側と西側にテラスを有し、壁面は緩やかに立ち上がり断面擂鉢状を呈す。底面はすぼまり、直径20cmほどの平坦部となる。遺物は埋土中に散在して弥生土器が少量出土した。

出土遺物（第37図）

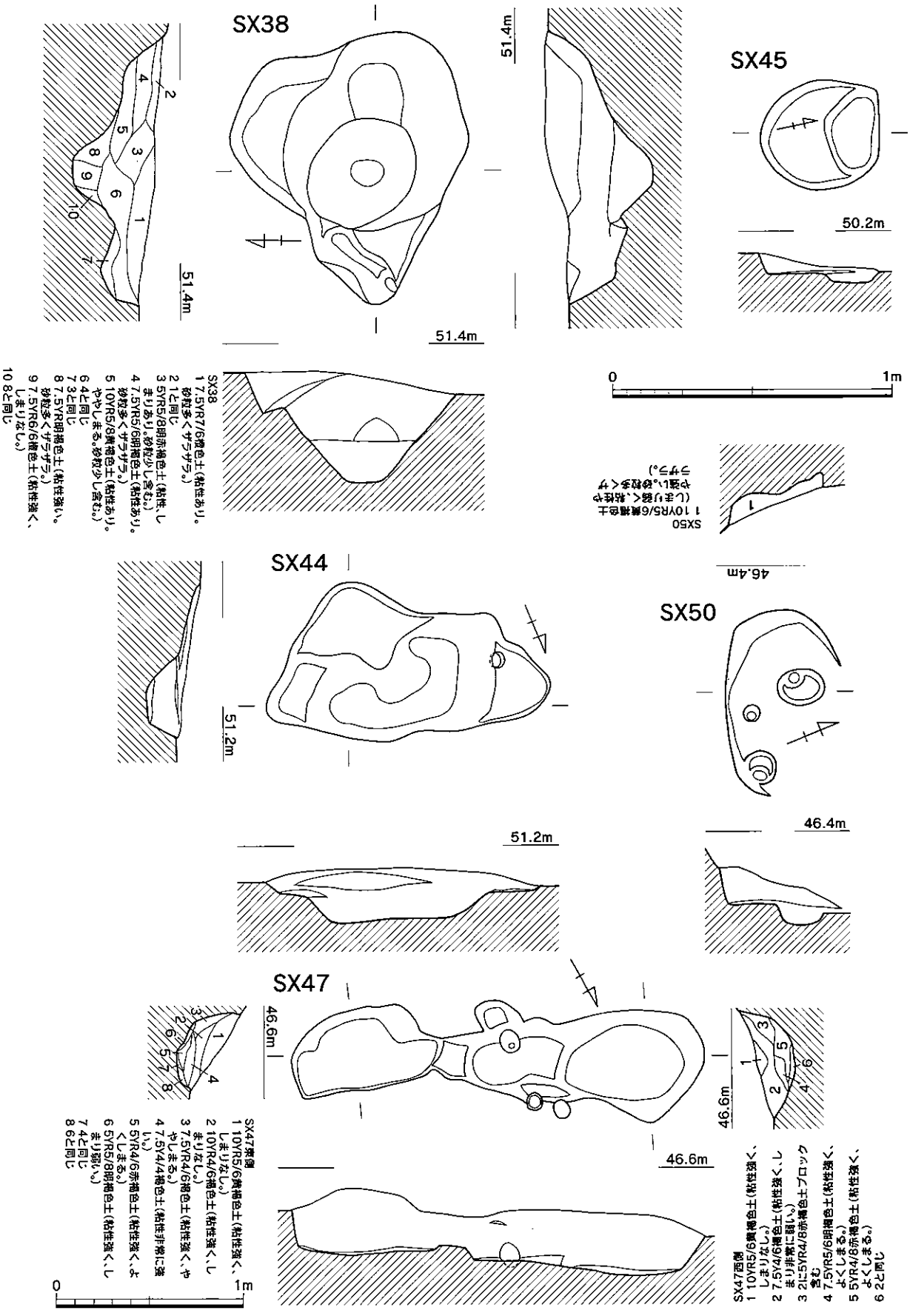
弥生土器（121・122）　121は壺の口縁部片で大型の器種になるものであろう。内面に粘土帯を貼り付けて肥厚し、端部は面取りする。外面ヨコナデ、内面は摩滅のため調整不明。122は壺の頸部片で、頸基部に低い三角突帯を１条施す。頸部は内傾し、外面ヨコナデ、内面はナデである。

SX44（第35図）

調査区中央部の緩斜面に位置する。平面不整形で、長さ1.94m、幅1.11m、深さ0.39mを測る。埋土は白灰色粘質土の単層である。東西壁と南壁にテラスを有し、中央北側が一段深くなる。遺物は埋土中からナイフ形石器が出土したが、遺構に伴うものかは不明である。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（162）　二側辺加工のナイフ形石器で、全長3.4cm、刃部長2.2cm、刃部幅1.2cmを測る。安山岩製。



第35図　薬師の森遺跡第４次調査SX38・44・45・47・50実測図
（SX47は1／60、他は／40）

SX45（第35図）

調査区中央部の緩斜面に位置する。平面円形で、長さ0.85m、幅0.78m、深さ0.14mを測る。埋土は砂質を帯びた灰色土の単層である。南側がテラスとなり、北側が一段深く、壁面は直立気味に立ち上がる。遺物は埋土中から黒曜石製の打製石鏃が出土したが、遺構に伴うものかは不明である。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（167）　黒曜石製の打製石鏃で、先端部と基部を一部欠損する。残存長2.3cm、残存幅1.6cm、幅0.4cmを測る。

SX47（第35図）

調査区中央北側の急斜面に位置し、SX53を切り、西側にSX50が隣接する。北壁は削平により消滅するが、長さ4.4m、幅は東側で0.85m、西側で1.2m、深さは東側で0.7m、西側で0.65mを測り、東西に長い平面形である。埋土は基本的にレンズ状堆積を呈し、南側から流れ込んだような状況である。床面は平坦であるが、東側が一番高く、西側に向かって段々と低くなる。壁面はほぼ直立して立ち上がる。遺物は埋土中で須恵器甕片、土師器甕片・椀、黒色土器椀が出土した。

出土遺物（第37図）

須恵器（114～115）　甕の胴部片である。114の外面は斜位平行タタキ、内面は平行当具ないし無文当具の可能性がある当具痕をナデ消す。115の外面は斜位の擬格子タタキ後一部ナデ、内面は平行当具痕を雑にナデ消す。

土師器（116・117）　116は甕口縁部片で内外面摩滅のため調整不明。117は椀の底部片でやや丸みのある底部に細く高い高台を貼り付ける。内外面摩滅のため調整不明だが、底部外面に板状圧痕と考えられる凹凸がわずかに確認できる。

黒色土器（118～120）　いずれもA類椀の底部片である。118のみ高台が残存し、丸みのある体部に細くやや高い高台を貼り付ける。内外面摩滅するが、高台部は回転ナデ、内面は一部に光沢がありミガキと考える。119・120は平らな底部で、内外面摩滅のため調整不明。

SX50（第35図）

調査区中央北側の急斜面に位置する。北壁・東壁は削平により消滅するが、平面楕円形で、長さ1.3m、幅0.8m、深さ0.28mを測る。埋土はやや砂質を帯びた黄褐色土の単層である。壁面は直立気味に立ち上がり、底面にピットを有する。埋土中から黒色土器が出土した。

出土遺物（第37図）

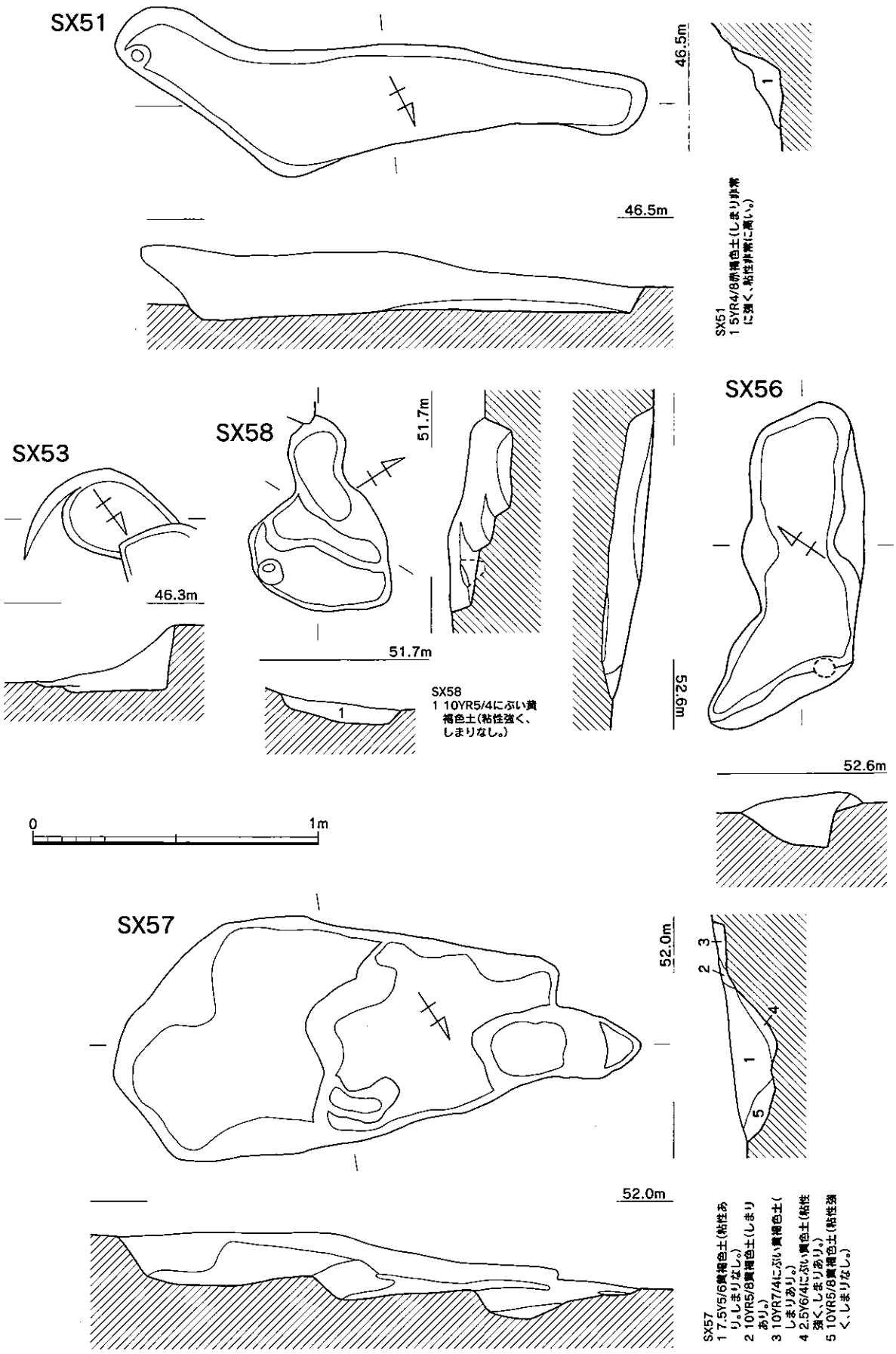
黒色土器（123）　椀A類の底部から体部にかけての破片である。体部は丸みを帯び、平坦な底部に断面台形の低い高台が付く。内外面摩滅するが、底部に板状圧痕が残る。

SX51（第36図）

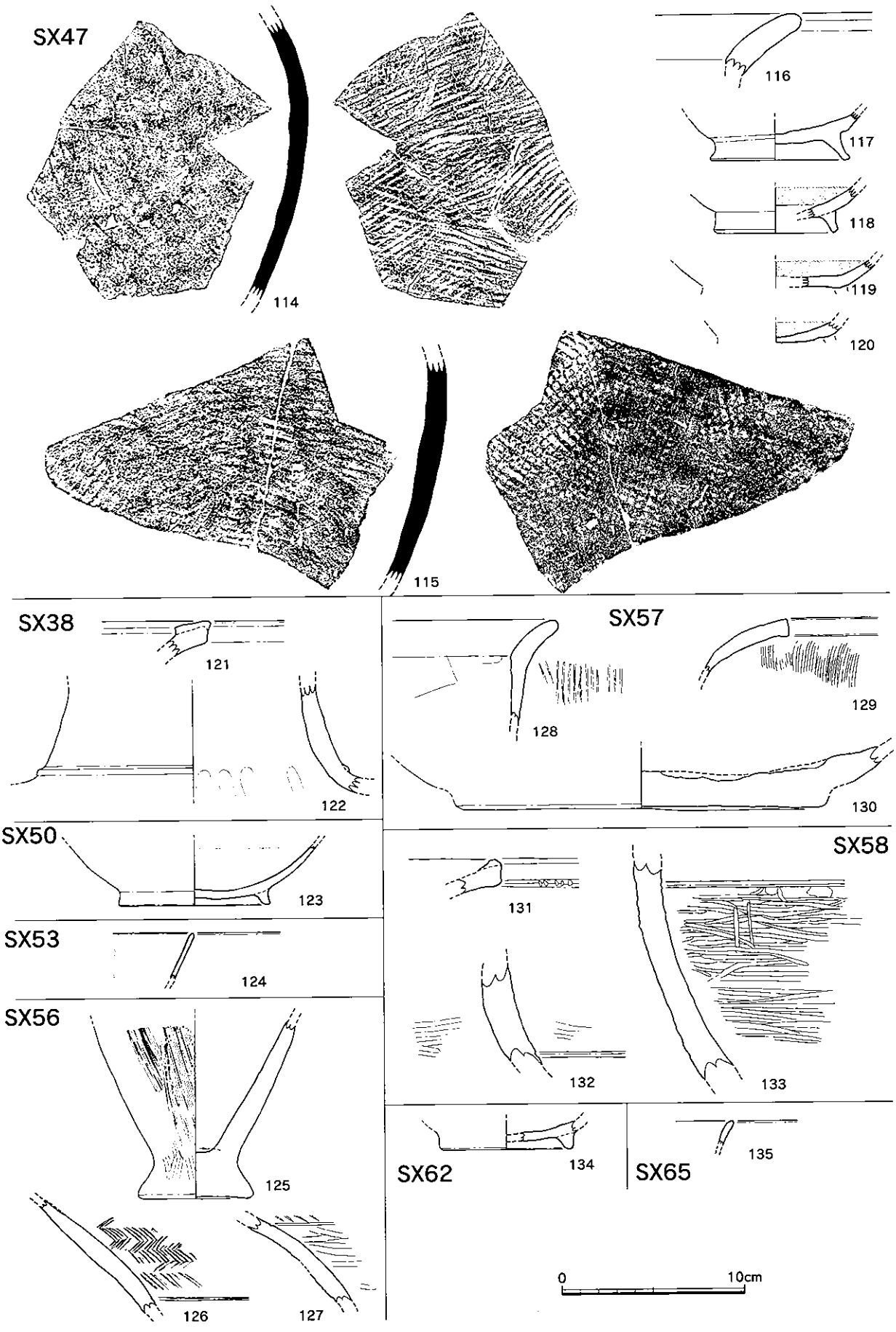
調査区中央北側の急斜面に位置する。北壁は削平により消滅するが、平面は不整形で東西に長く、長さ3.14m、幅0.7m、深さ0.48mを測る。埋土は粘性が強く非常にしまった赤褐色土の単層である。床面は平坦で、壁面はやや直立気味に立ち上がる。出土遺物はない。

SX53（第36図）

調査区中央北側の急斜面に位置する。北側をSX47に切られ、東壁は削平により消滅する。平面は



第36図　薬師の森遺跡第４次調査SX51・53・56～58実測図（1／40）



第37図　薬師の森遺跡第４次調査SX38・47・50・53・56～58・62・65
出土遺物実測図（1／3）

楕円形で、長さ1.0m、幅0.77m、深さ0.4mを測る。床面は平坦で、壁面は直立して立ち上がる。埋土は褐色土の単層で、埋土中から黒曜石剥片と黒色土器が出土した。

出土遺物（第37図）

黒色土器（124）　椀A類の口縁部片で、外傾して直線的に立ち上がる。内外面摩滅のため調整不明。

SX56（第36図）

調査区南東側の尾根部に位置する。平面は不整な長方形で、長さ2.02m、幅0.85m、深さ0.25mを測る。床面は平坦で、北・西側の壁面は緩やかに、南・東側の壁面は直立気味に立ち上がる。埋土は灰褐色土の単層で、遺構上面・埋土中で弥生土器の甕・壺が出土した。

出土遺物（第37図・図版41）

弥生土器（125～127）　125は甕底部片で、厚い脚台状を呈す。内面摩滅、外面ハケ目、底部外面はナデである。126・127は壺の肩部片である。126は肩部外面に沈線と貝殻による文様を施し、内面はナデである。文様は最低でも6段の斜線文で構成され、3段の無軸羽状文となる。施文具はタマキガイであろうか。127は肩部に沈線とヘラ描き斜線文を施す。外面はミガキ、内面は摩滅する。

SX57（第36図）

調査区東側の緩斜面に位置する。平面不整形で、長さ3.67m、幅1.66m、最深部で0.45mを測る。東側と中央にやや広いテラスを有し、西側がピット状に深くなる。埋土は黄褐色土を主体とし、自然堆積した状況である。遺物は遺構上面にまとまっており、土師器甕・弥生土器壺が出土した。

出土遺物（第37図）

土師器（128）　甕の口縁部片で口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヘラケズリである。

弥生土器（129・130）　129は壺として図示したが、天地が逆で蓋の可能性もある。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面は摩滅する。口縁端部はヨコナデにより面取りする。130は復元底径19.4cm、厚さ2cmほどの底部片で甕棺などの大型器種になるものである。内外面ともに摩滅するが、底部側面に指オサエの痕跡が残る。

SX58（第36図）

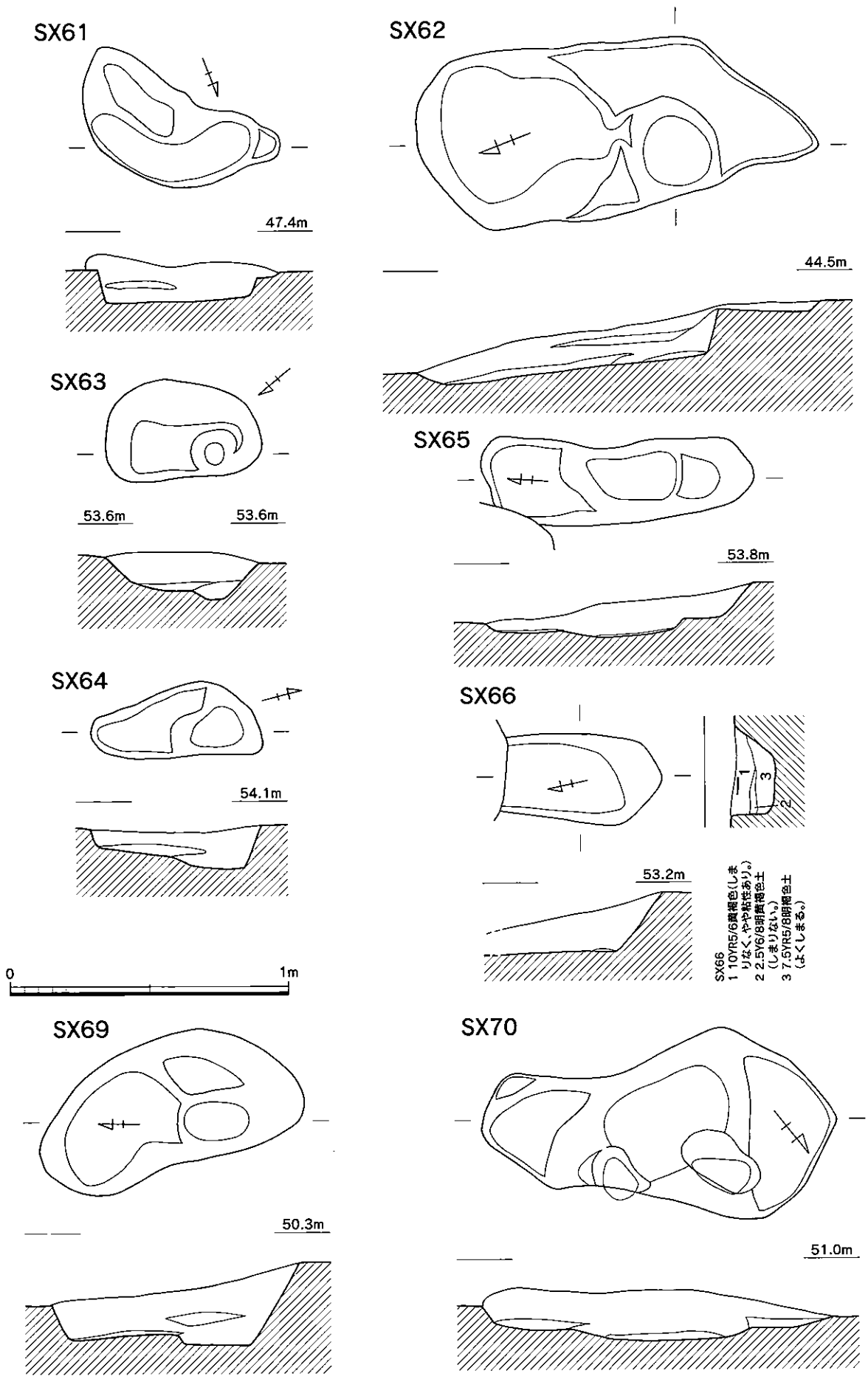
調査区東側の緩斜面に位置する。平面不整形で、長さ1.32m、幅0.81m、深さ0.3mを測る。東側と中央にテラスを有し、西側が深く、階段状となる。壁面は直立気味に立ち上がる。埋土はにぶい黄褐色土の単層で、埋土中に散在して土師器甕片・弥生土器壺片が出土した。

出土遺物（第37図）

弥生土器（131～133）　色調・胎土・焼成の類似から同一個体の可能性高いが、接合しない。器壁は1.5～2.0cmと厚く、甕棺ほどの大きさになろう。131は口縁端部片で、内面に断面三角形の粘土紐を貼り付け肥厚し、下端に刻目を施す。132・133は内傾する胴部片で、いずれも1条の沈線を確認できる。132は内外面粗いミガキ、133は外面粗いミガキ、内面は器面が剥落する。

SX61（第58図）

調査区北東側の急斜面に位置する。平面不整形で、長さ1.3m、幅0.7m、深さ0.25mを測る。南側と西側に小さなテラスを有し、北側が一段深い。床面は平坦で、壁面は直立して立ち上がる。埋土中で、弥生土器と考えられる土器片が出土したが、細片のため図化できない。



第38図　薬師の森遺跡第４次調査SX61～66・69・70実測図（1／40）

SX62（第38図）

調査区北東側の緩斜面に位置する。平面は南北に長い不整形で、長さ2.69m、幅1.25m、深さ0.34mを測る。南東側にやや広いテラスを有し、北側が一段低くなり、南西側がピット状に浅くくぼむ。埋土中で土師器椀の破片が出土した。

出土遺物（第37図）

土師器（134）　椀の底部片で、平坦な底部に断面台形の低い高台がつく。内外面摩滅する。

SX63（第38図）

調査区南東側の尾根部に位置する。平面は楕円形で、長さ1.1m、幅0.65m、深さ0.33mを測る。北側にテラスを有し、南側がピット状に深い。埋土中で黒曜石の剥片が4点出土した。

SX64（第38図）

調査区南東隅の尾根部に位置する。平面は楕円形で、長さ1.21m、幅0.54m、深さ0.28mを測る。南側がテラスとなり、北側がピット状に深い。埋土中で黒曜石製の石鏃が出土した。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（176）　黒曜石製石鏃の基部の破片である。残存長1.0cm、残存幅0.9cm、厚さ0.2cmを測る。鍬形鏃になる可能性がある。

SX65（第38図）

調査区南東隅の尾根部に位置する。平面は隅丸長方形で、長さ1.92m、幅0.58m、深さ0.25mを測る。北側と南側がテラスとなり、中央が一段深い。床面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。埋土上面で土師器の細片が出土した。

出土遺物（第37図）

土師器（135）　口縁部の細片で、杯であろうか。内外面回転ナデである。

SX66（第38図）

調査区東側の緩斜面に位置し、北側は樹根により撹乱を受ける。平面は長い楕円形で、長さ1.13m、幅0.63m、深さ0.32mを測る。埋土は上層の黄褐色土と下層の明褐色土に分かれ、上層で弥生土器がややまとまって出土したが、細片のため図化できない。なお第39図151は北側の樹根から出土しており、本来は本遺構に伴う可能性がある。

SX69（第38図）

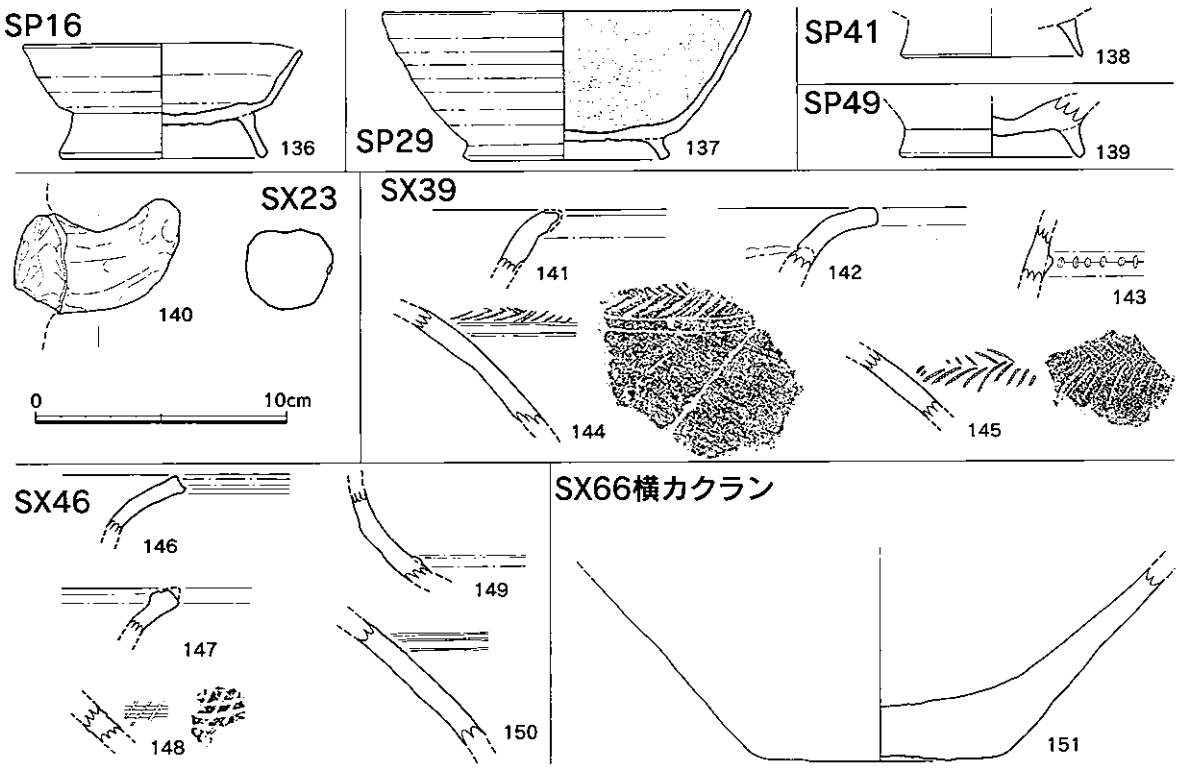
調査区北東側の緩斜面に位置する。平面は楕円形で、長さ1.79m、幅0.94m、深さ0.5mを測る。北側と東側がテラスとなり、南側がピット状に深い。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は黄褐色土の単層である。埋土中から安山岩製の石鏃が出土した。

出土遺物（第41図・図版42）

石製品（177）　安山岩製の打製石鏃で、先端部と基部を一部欠損する。残存長1.9cm、推定最大幅1.8cm、厚さ0.3cmを測る。

SX70（第38図）

調査区北東側の緩斜面に位置する。平面は不整な楕円形で、長さ2.55m、幅1.06m、深さ0.36mを測る。西側と東側にやや広いテラスがあり、中央が一段深くなる。北側壁面では2ヶ所に直径



第39図　薬師の森遺跡第４次調査その他の出土遺物実測図（1）（1／3）

30cmほどのピットがある。南側がピット状に深い。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は黄褐色土の単層である。埋土中から弥生土器の大型器種の破片が出土したが、傾き等が不明のため図化できない。

（5）その他の出土遺物

第39図136～139はピット、140～150は風倒木、151は撹乱、第40図は遺構検出時の出土遺物および採集品である。

SP16（第39図・図版41）

土師器（136）　高台付杯で、体部は直線的に開き、平底の底部に細く長い高台を貼り付ける。内外面回転ナデで、底部外面はヘラ切りである。

SP29（第39図・図版41）

黒色土器（137）　A類椀で、体部は直線的に開き、平底の底部に断面方形の高台が付く。内面は単位不明であるがミガキ、外面は回転ナデであろうか。高台は回転ナデで底部外面はヘラ切りである。

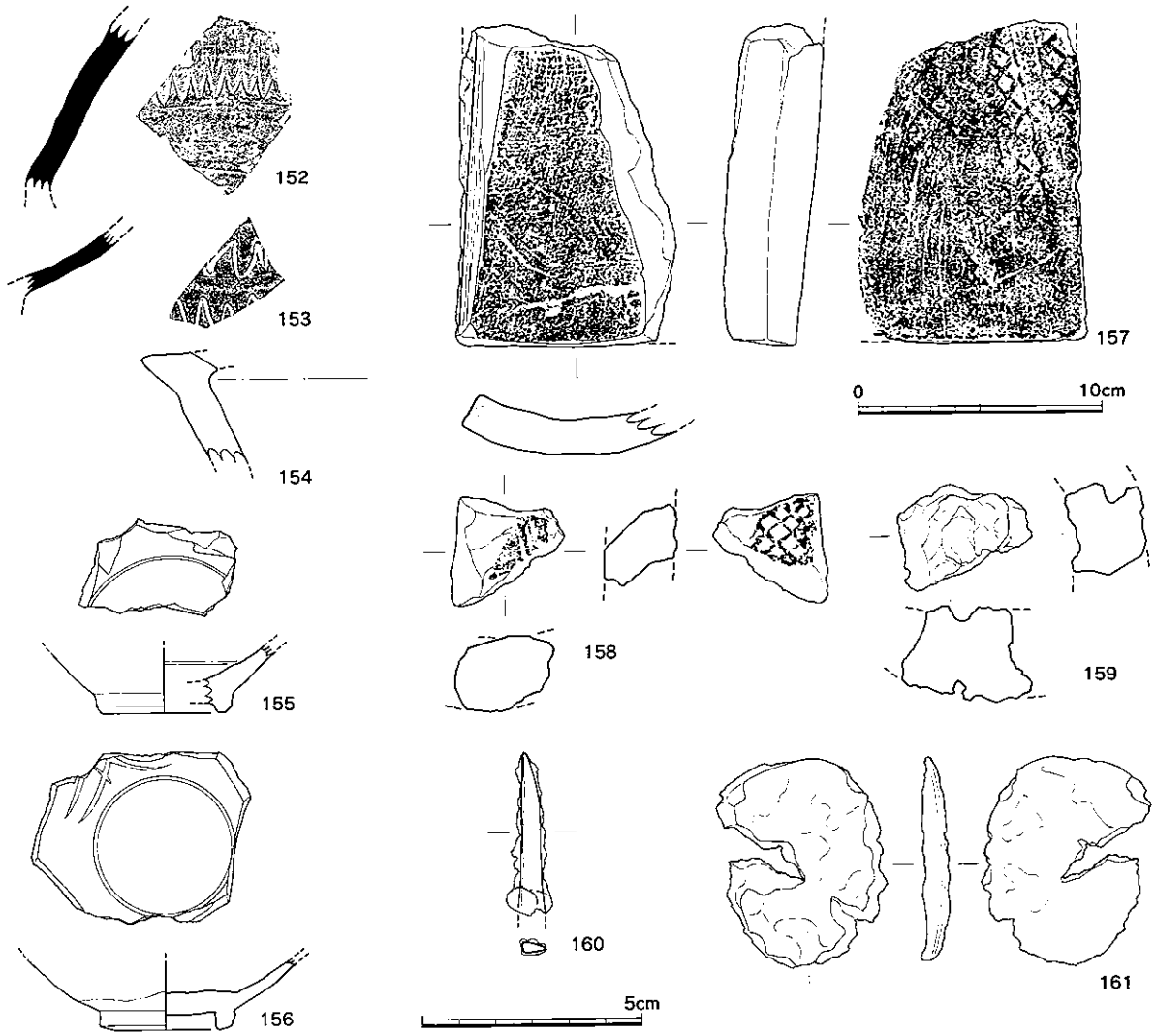
SP41（第39図）

土師器（138）　椀の高台部片で内外面摩滅、内面は黒色を呈す。

SP49（第39図）

土師器（139）　椀の底部片で、全体に摩滅するが内外面回転ナデであろう。底部内面が大きくくぼむ。

SX23（第39図）



第40図　薬師の森遺跡第４次調査その他の出土遺物実測図（2）
（159・160は1／2、他は1／3）

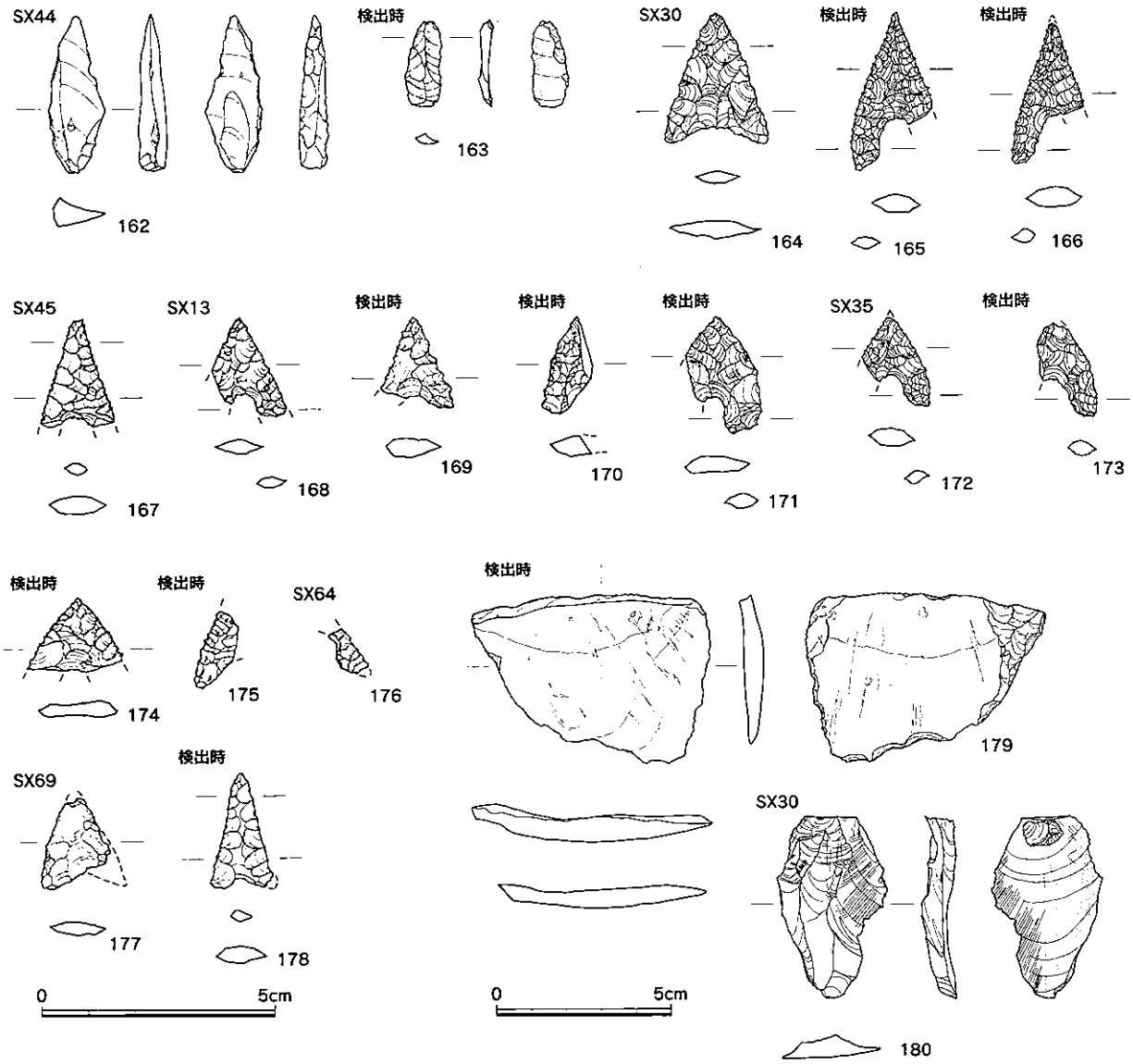
土師器（140）　甑の把手片で、ナデ・指オサエによって成形する。挿し込みにより体部と接合したようで、破断面は擬口縁状を呈する。

SX39（第39図・図版41）

弥生土器（141～145）　141は甕、他は壺である。141・142は口縁部片で、外反して立ち上がる。141は内面ヨコナデ、外面摩滅、142は内面摩滅、外面ヨコナデである。143は胴部の細片で、外面に断面三角の突帯を巡らし、頂部に細く浅い刻目を施す。内面ナデ、外面ヨコナデである。144・145は肩部片である。144は２条の沈線の上位にヘラ描きで無軸羽状文を施す。内面はナデ、外面はミガキである。145は外面にタマキガイ科の貝により無軸羽状文を施す。

SX46（第39図）

弥生土器（146～150）　いずれも壺で、146・147は口縁部片、148・149は頸～肩部片である。146は大きく外反する口縁部で端部は面取、外面ヨコナデ、内面は摩滅する。147は口縁部を肥厚し、内外面ヨコナデである。148は細片であるが、外面に２条の沈線と斜線文を施す。149は頸部が内傾して立ち上がるもので、外面に低い三角突帯を施す。内外面摩滅のため調整不明。150は外面に沈線を３条施し、内外面ナデである。



第41図　薬師の森遺跡第４次調査出土石器実測図（179・180は1／2、他は2／3）

SX66横撹乱（第39図）

弥生土器（151）　厚さ２cmほどの壺底部片で、内面ナデ、外面は器壁の剥落顕著で調整不明である。

遺構検出時・採集品（第40・41図）

須恵器（152・153）　152は甕の頸部片で、内外面回転ナデ、外面に波状文を施す。153は器台の杯部片であろうか。内外面回転ナデで、外面に2条の波状文を施す。

弥生土器（154）　甕の口縁部片で外側の端部を欠く。頸部内傾し、口縁部が内側に突出するため、断面は鋤形に近い。内面はヨコナデ、外面は摩滅する。

白磁（155）　椀Ⅳ類の底部片で、見込みに浅い段を有する。内面に灰白色の釉を施し、外面は露胎。

青磁（156）　同安窯系青磁椀Ⅰ-1a類の底部片である。内外面灰オリーブ色の釉を施し、底部外面と体部外面下半は露胎となる。体部内面はヘラ状工具により施文する。

瓦（157・158）　平瓦である。157の凹面は布目圧痕、凸面は格子タタキ後ヘラナデを施す。側面・端面はヘラによる分割痕が残る。158は凸面格子タタキ、凹面は布目と考えられる痕跡が残る。

鉄製品（159・160）　159は楕形滓である。160は残存長4.4cmを測り、断面二等辺三角形を呈す。刃部らしき稜があり、刀子の可能性がある。

不明製品（161）　円盤状を呈するもので、表裏面は土師質か。芯の部分は鉄分が多いようで赤い。

石製品（第41図、163・165・166・169～171、173～175、178、179）　163は細石刃もしくは調整剥片である。全長1.85cm、幅0.75cmを測る。黒曜石製。165・166・169～171、173～175、178は打製石鏃で178は安山岩製、他は黒曜石製、いずれも凹基式で、165・171・173は鍬形鏃である。165は基部を一部欠損する。抉りが深く、全長3.4cm。166は先端部と基部を一部欠損する。抉り深く全長3.0cm。169は全長1.9cmを測る。170は残存長2.1cmで、基部と側縁の一部を欠損する。171は全長3.0cmで、基部を一部欠損する。173は残存長2.1cmで、先端部と基部を一部欠損する。174は残存長1.6cmで、基部を一部欠損する。175は残存長1.6cmで、先端と一方の基部を欠く。178は全長2.5cmの細長い二等辺三角形で、基部を一部欠損する。179はスクレーパーで、側縁に調整を施す。全長4.7cm、幅6.7cm、厚さ0.7cmを測る。

C．小結

薬師の森遺跡第４次調査では、各時代の多様な遺物・遺構が出土した。以下では主要遺構の時期について述べる。

旧石器～縄文時代　当該期の明確な遺構は不明であるが、遺物はナイフ形石器（162）があり、後期旧石器に位置づけられよう。また石鏃のうち165・166など基部の抉りが深いものは、縄文時代早期の所産である可能性が高い。

弥生時代　当該期の遺物を含む遺構はSX30・38・39・46・56～58があるが、SX30以外は当該期の遺構であるか不明で、性格も不明である。SX30出土土器は板付II式に位置づけられる。詳細についてはVI章で述べる。

古墳時代　SX17・24・26とした竪穴住居があるほか、性格不明の土坑としてSX04～06・16・19がある。竪穴住居はいずれもⅢA期～ⅢB期古相の須恵器が出土しており、６世紀中頃に位置づけられよう。SX05はⅢB期、SX16はⅢA期～ⅢB期古相の須恵器が出土している。

平安～鎌倉時代　土壙墓、掘立柱建物、土坑がある。土壙墓は埋納品の土師器杯からSX28が９世紀中頃～後半、SX12が９世紀末～10世紀初頭に位置づけられる。SX02・27は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類を埋納しており、12世紀中頃～後半に、SX01は龍泉窯系青磁椀IIｃ類が出土しており、IIｃ類のなかでも内面見込みに草花文を施すものは時期的に下るとされ、13世紀中頃～14世紀初頭に位置づけられよう。掘立柱建物は出土遺物が少なく時期決定が難しいが、SB02・03以外は平安時代の土器が出土しており、当該期の所産である可能性が高い。SB04は黒色土器A類が出土しており、高台の形状や体部の立ち上がりから10世紀末～11世紀中頃の所産と考えられ、SB02は主軸方向や位置からSB04に近い時期が考えられる。土坑としてSX14・34があり、SX34は出土土師器より９世紀後半に位置づけられる。SX14はSB04を切っており、土師器椀の底部片が出土していることから、平安時代後半～鎌倉時代の可能性が高い。このほか、SX47・50・53、SP16・29では黒色土器A類や土師器杯が出土しており、当該期の遺構である可能性が高い。

薬師の森遺跡第６次調査

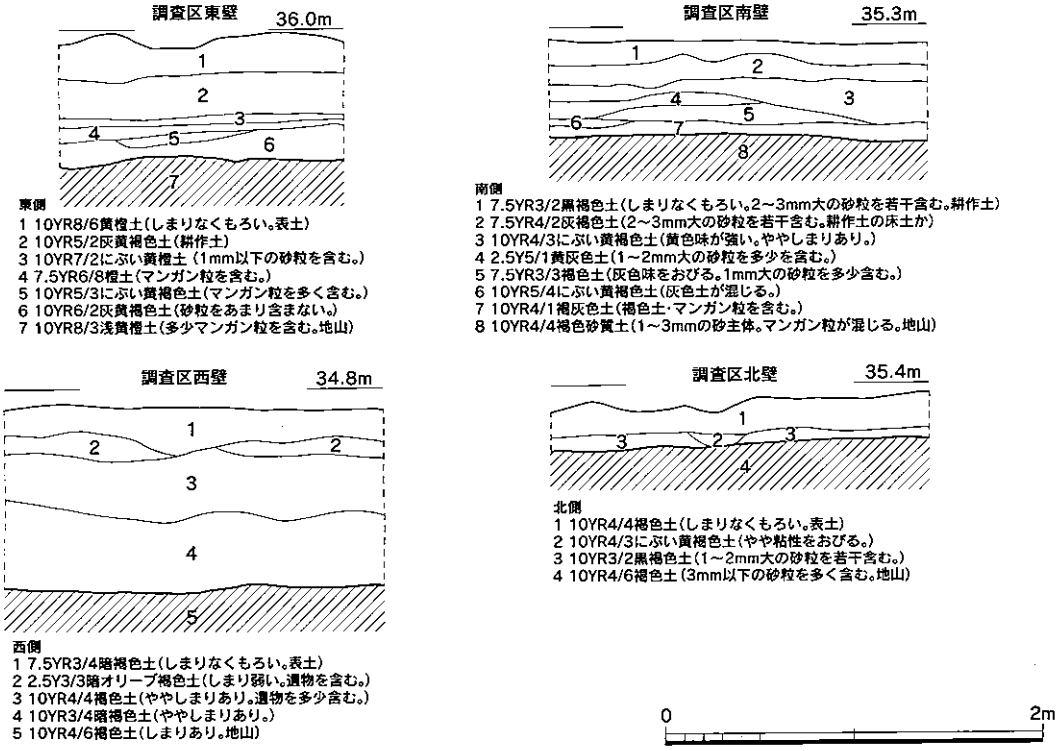
Ⅳ．薬師の森遺跡第6次調査

A．調査概要

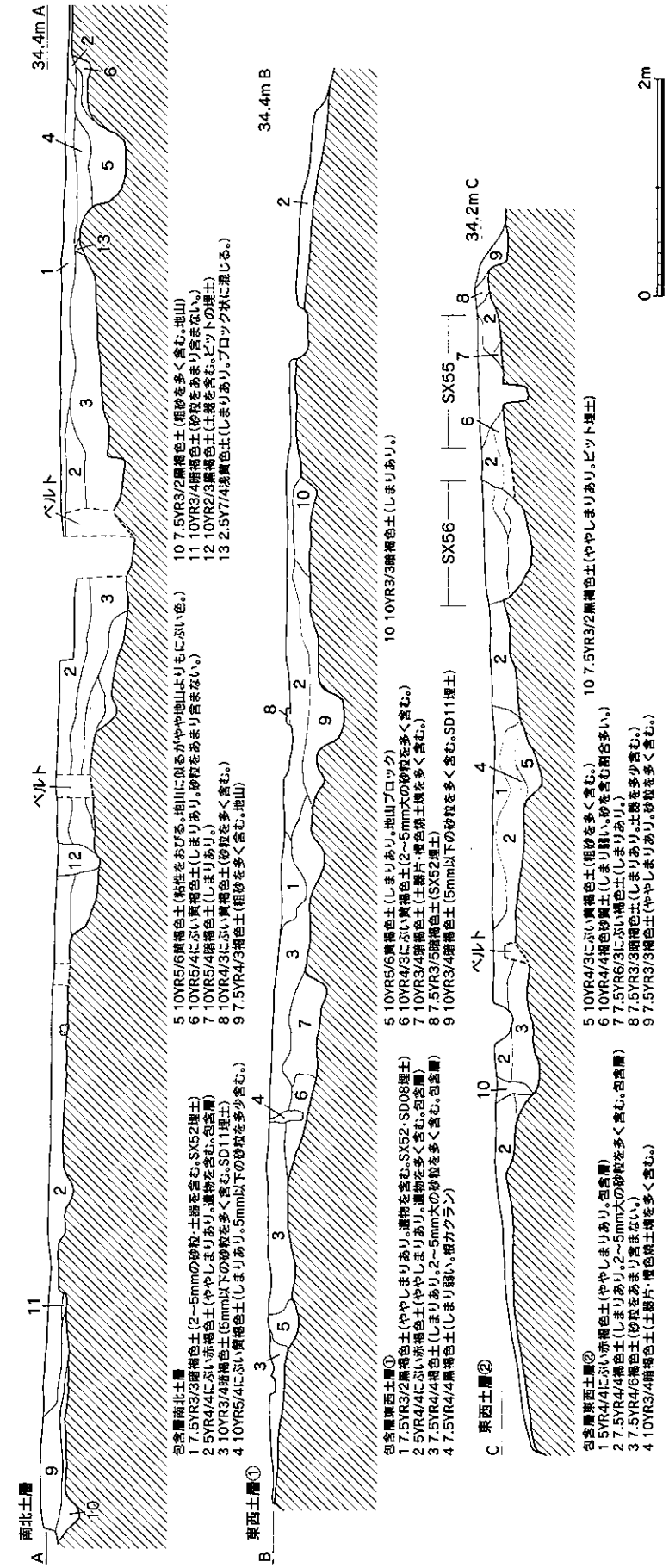
薬師の森遺跡は四王寺山・乙金山から西側に向かって派生する丘陵に位置する。調査地は丘陵北側の緩斜面上にあり、大野城市乙金3丁目401、410、411－1、411－2にあたる。調査面積は約1,300㎡である。調査前は東側を畑、西側を車庫として利用されていた。

平成20年12月25日から重機により表土の除去を開始し、平成21年1月8日より作業員を投入して発掘調査を行った。また、調査は排土処理の都合で表土を西側と東側に反転して行った。2月20日に調査区の東側半分の調査が終了し、2月24日から重機による東側調査区の埋め戻しと西側調査区の表土（第42図）の除去を開始した。3月9日から再び作業員を西側調査区に投入して調査を開始した。調査区の地山は、東側が浅黄橙色・灰色・褐色の砂質土で、それらがまだら状に展開し、砂質土は細砂主体のものと3mm大の粗砂主体のものがあり、地点により土質が異なる。西側では粗砂主体の褐色砂質土や褐色土が地山である。また、西側調査区の西部には、遺物を含むにぶい赤褐色土と暗褐色土が地山上に広く堆積しており、黒褐色土を埋土とする遺構が多数切り込んでいた(第43図)。したがって、にぶい赤褐色土と暗褐色土を遺物包含層と考え、包含層上面から掘りこんだ遺構を第１面、包含層下の地山上に掘りこんだ遺構を第２面として調査を行った。4月22日に第１面の調査を終え、4月23日に包含層の掘削を開始した。包含層は人力により地山まで掘り下げ、その後第2面目を調査した。6月４日にすべての遺構の掘削・記録を終了し、機材を撤収して調査を完了した。

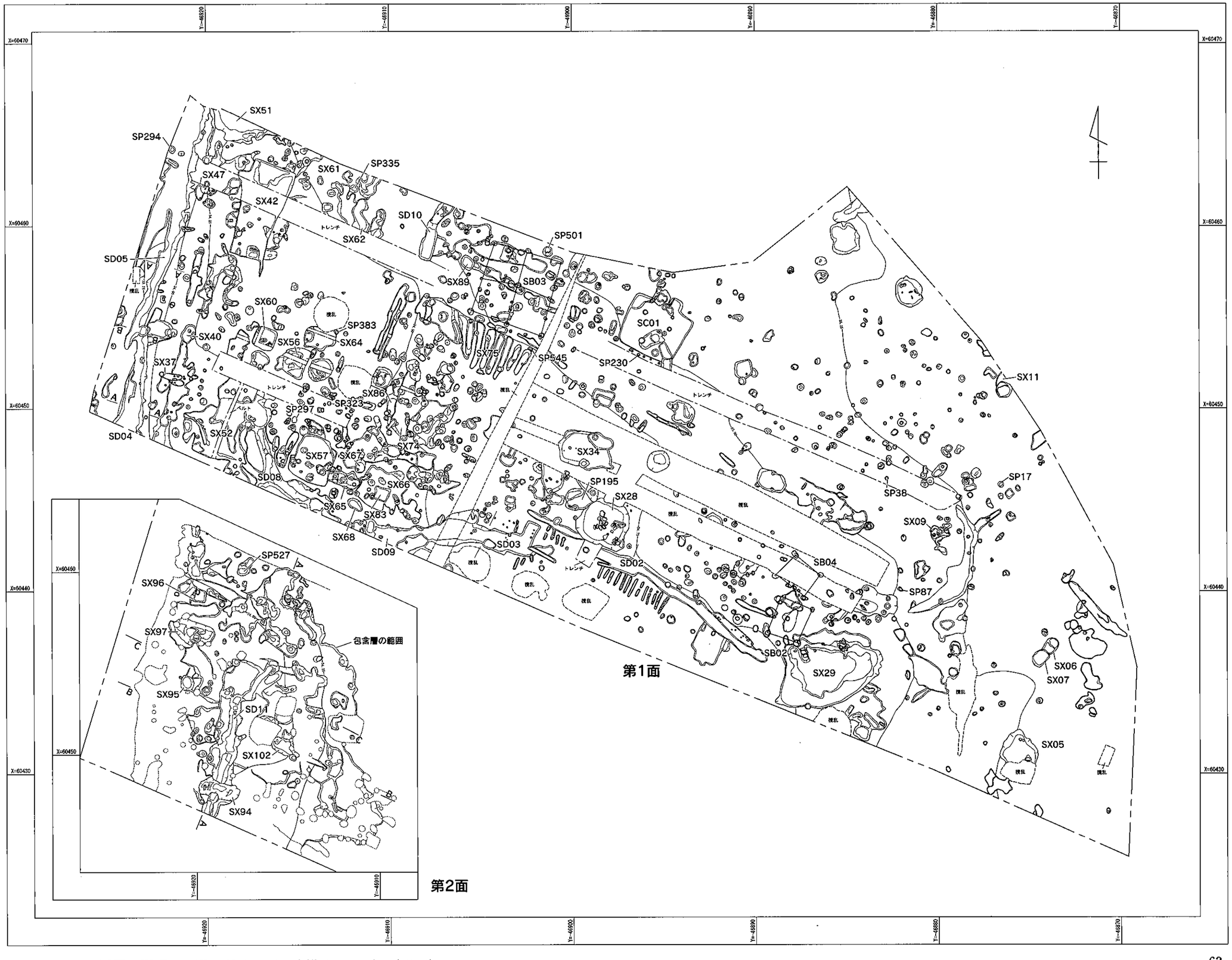
調査の結果、掘立柱建物3棟、竪穴住居１軒、溝状遺構11条の他、多数の土坑・ピットを確認した。遺構の大半が削平を受け、遺存状態は悪かった。遺構は西側で密度を増し、奈良時代と中世の遺構を検出した。遺物は、須恵器・土師器・縄文土器・青磁・白磁・陶器・瓦・土壁・石製品・鉄



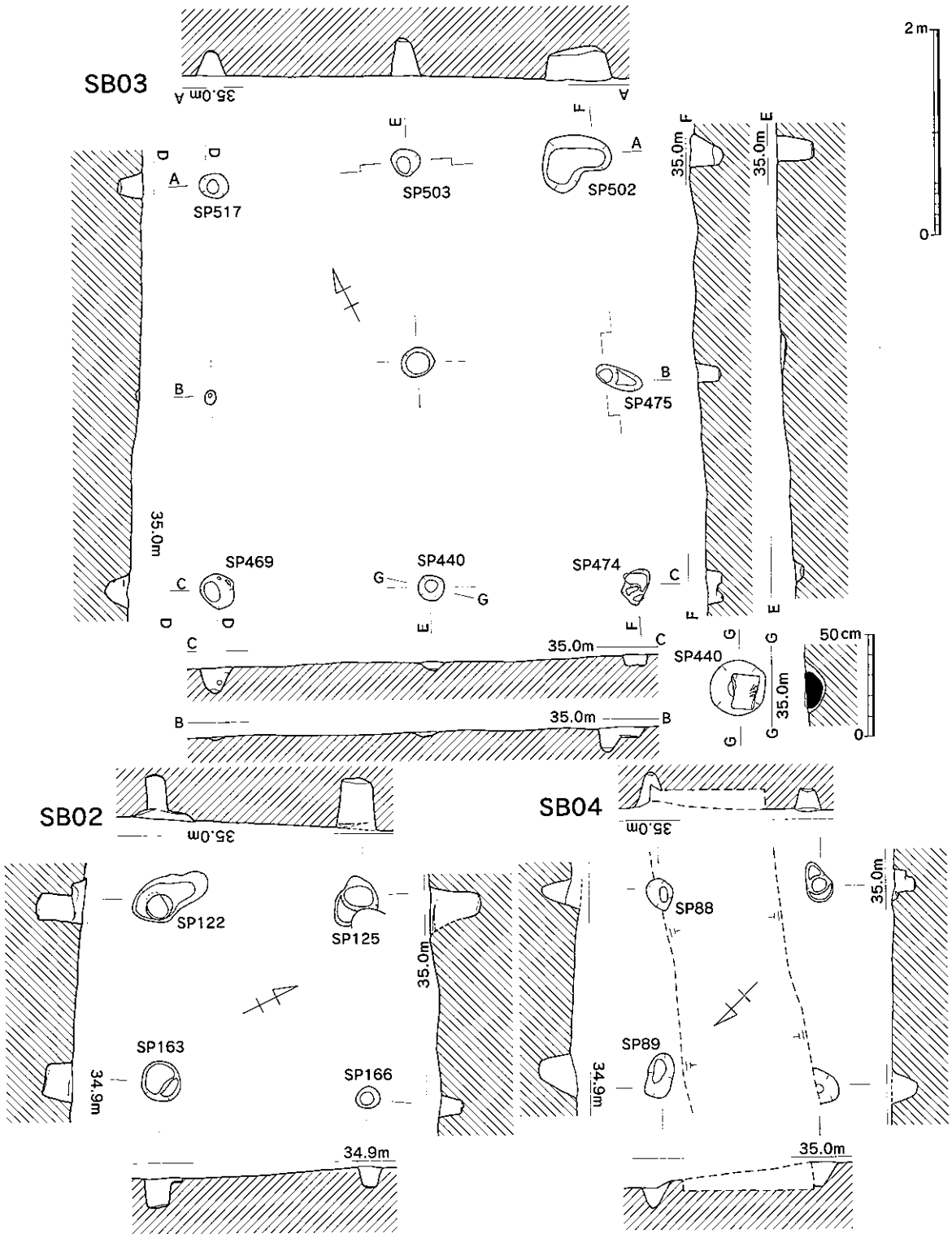
第42図　薬師の森遺跡第６次調査区壁面土層実測図（1／40）



第43図　薬師の森遺跡第６次調査包含層土層実測図（1／60）



第44図　薬師の森遺跡第６次調査遺構配置図（1／200）



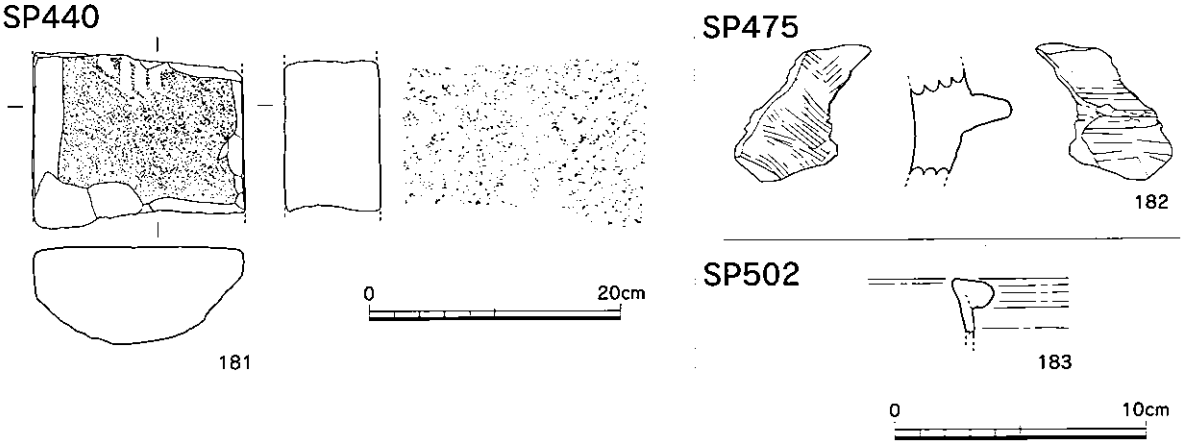
第45図　薬師の森遺跡第６次調査SB02～04実測図（SP440は１／30、他は１／60）

製品・鉄滓が出土した。

B．遺構と遺物

（1）掘立柱建物

SB02（第45図）



第46図　薬師の森遺跡第６次調査SB03（SP440・475・502）出土遺物実測図（181は1／6、他は1／3）

調査区東部南側で検出した。SX29を切る。南北1間(2m)、東西1間(2m)の規模で、面積は約4.0㎡である。主軸はN－31°00′－Eを指す。柱穴は径0.2～0.4mの円形と不整形ピットで構成される。柱痕は確認できなかった。遺物は柱穴から瓦器、土師器、陶器が出土したが小片のため図化できない。

SB03（第45図・図版34）

調査区中央北側で検出した。南北２間(4.2m)、東西２間(4.1m)の規模の総柱建物で、面積は約17.2㎡である。南北主軸はN－23°50′－Eを指す。柱穴は径0.25～0.3mの円形、楕円形が基本であるが不整形を呈するものもある。柱痕は確認できなかったが、SP440では板碑を転用した根石を検出した。遺物は柱穴から須恵器・土師器の小片のほか、褐釉陶器、滑石製石鍋、焼土塊が出土した。

出土遺物（第46図・図版43）

砂岩製板碑（181） SP440から出土した。破片のため全形は不明である。横断面が蒲鉾型を呈す。表面は平滑に整えられ、梵字が薬研彫りされる。梵字は上半部を欠損するが、「キリーク（阿弥陀）」であろう。裏面には鑿痕が見られる。残存長14.0cm、幅16.7cm、厚さ7.7cmを測る。

滑石製石鍋（182） SP475から出土した。鍔部分の破片である。鍔は断面細長台形を呈し、内外面ともに工具痕が残る。

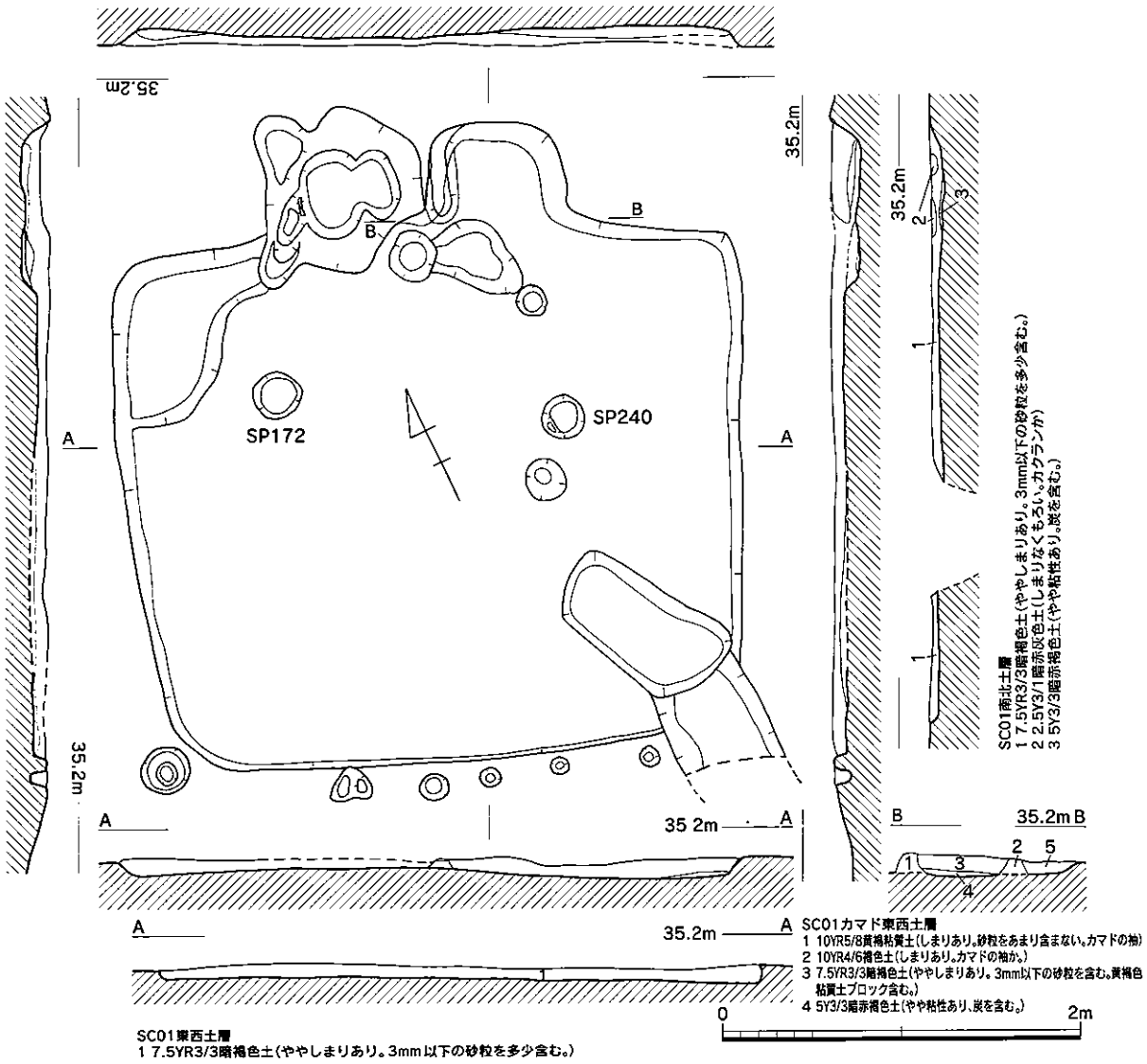
褐釉陶器（183） SP502から出土した破片で、鉢の口縁部であろう。体部の立ち上がりは口縁に向かって内湾し、口縁端部は玉縁状を呈する。褐色の釉を施し、口縁上端面と玉縁下半の釉を掻き取る。

SB04（第45図）

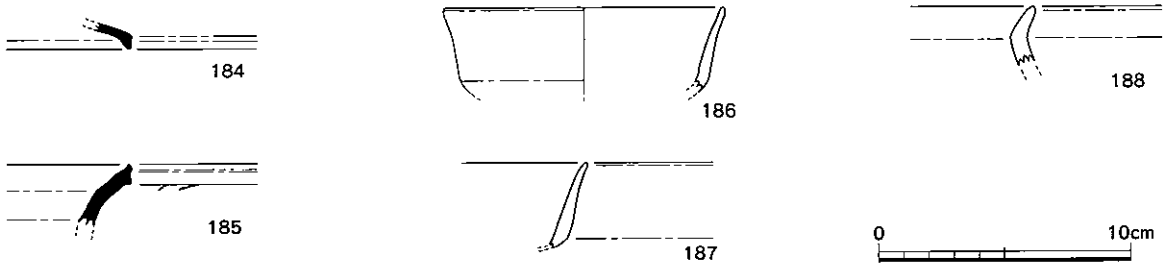
調査区東部南側で検出した。南北1間(1.6m)、東西1間(1.94m)の規模で、面積は約3.1㎡である。主軸はN－43°50′－Wを指す。柱痕は確認できなかった。柱穴は径0.2～0.4mの円形、長楕円形を呈する。遺物は土師器が出土したが、小片のため図化できない。

（2）竪穴住居跡

SC01（第47図・図版24・25）

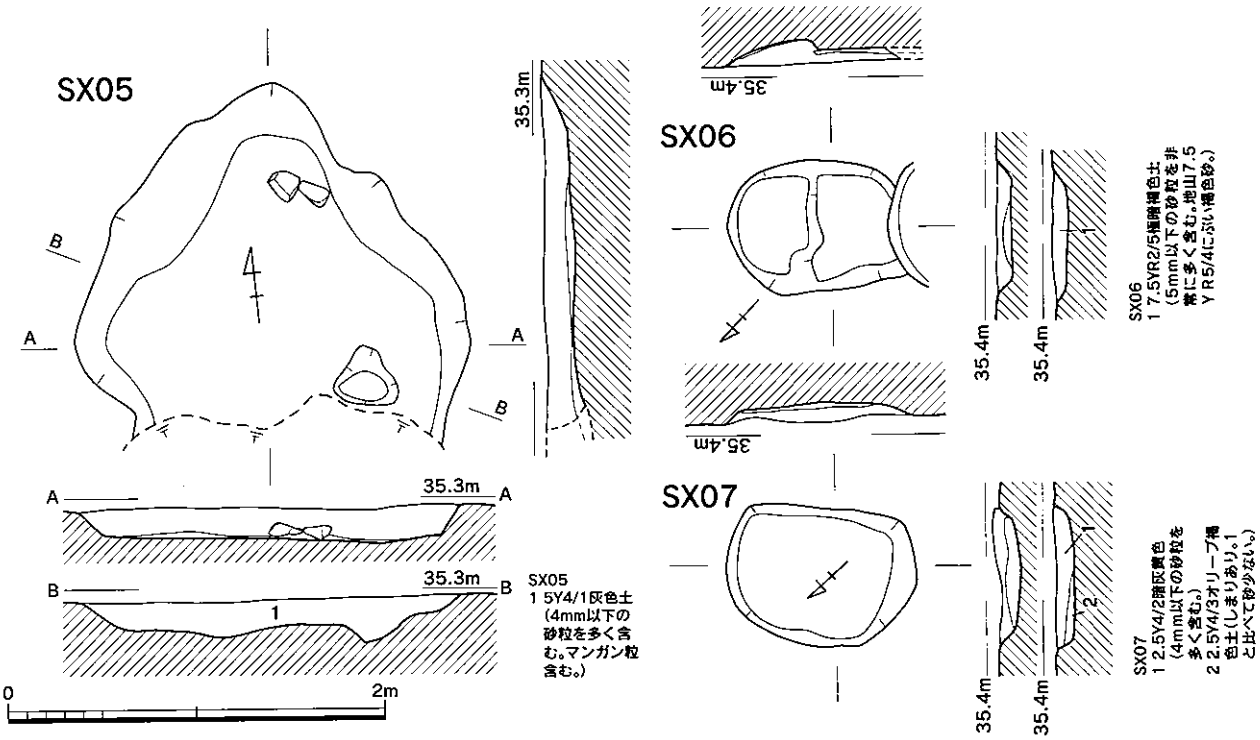


第47図　薬師の森遺跡第６次調査SC01実測図（1／60）



第48図　薬師の森遺跡第６次調査SC01出土遺物実測図（1／3）

調査区中央北側で検出した。SX25～27の他、複数のピットに切られる。規模は南北3.6m、東西3.5mを測る。平面は正方形で、北側のカマド部分が0.5mほど突出し、凸状を呈する。深さは最深部で0.1mほどである。埋土は暗褐色土を主体とし、自然埋没したものと思われる。床面は平坦で、主柱穴は北側の２ヵ所(SP172・240)で確認したが、他は不明である。柱痕は確認できなかったが、いずれも直径20～30cm、深さ約20cmを測る。カマドは北壁中央付近にあり、カマドの袖は黄褐色粘質土や褐色土で構成される。カマドの内部埋土は暗褐色土が主体で、最下層には炭の混じる極暗



第49図　薬師の森遺跡第６次調査SX05～07実測図（1／40）

褐色土層が堆積する。カマドは残りが悪く、火床や支脚等は確認できなかった。住居の南壁の外側に、南壁と平行して直径15cmほどのピット列が並び、住居に伴う可能性がある。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第48図）

須恵器（184・185） 184は蓋である。口縁端部を嘴状に下方へ折り曲げる。内外面とも回転ナデを施す。185は壺ないしは甕の口縁部である。口縁は外反して開く。内外面とも回転ナデを施す。

土師器（186～188） 186・187は杯、もしくは高杯の杯部である。口縁部はやや外反しながら立ち上がる。188は甕の口縁部である。体部の立ち上がりは頸部で屈曲して口縁部は外傾する。

（3）土坑

SX05（第49図・図版26）

調査区東部南側で検出した平面不整形の土坑である。南側を撹乱により削られる。長さ1.8m以上、幅2.2m、深さ0.18mを測る。床面の南東部に不整形のピットがある。埋土は灰色土が堆積しており、拳大の礫を少し含む。遺物は陶器、須恵器、土師器、鉄滓が出土した。

出土遺物（第51図・図版43）

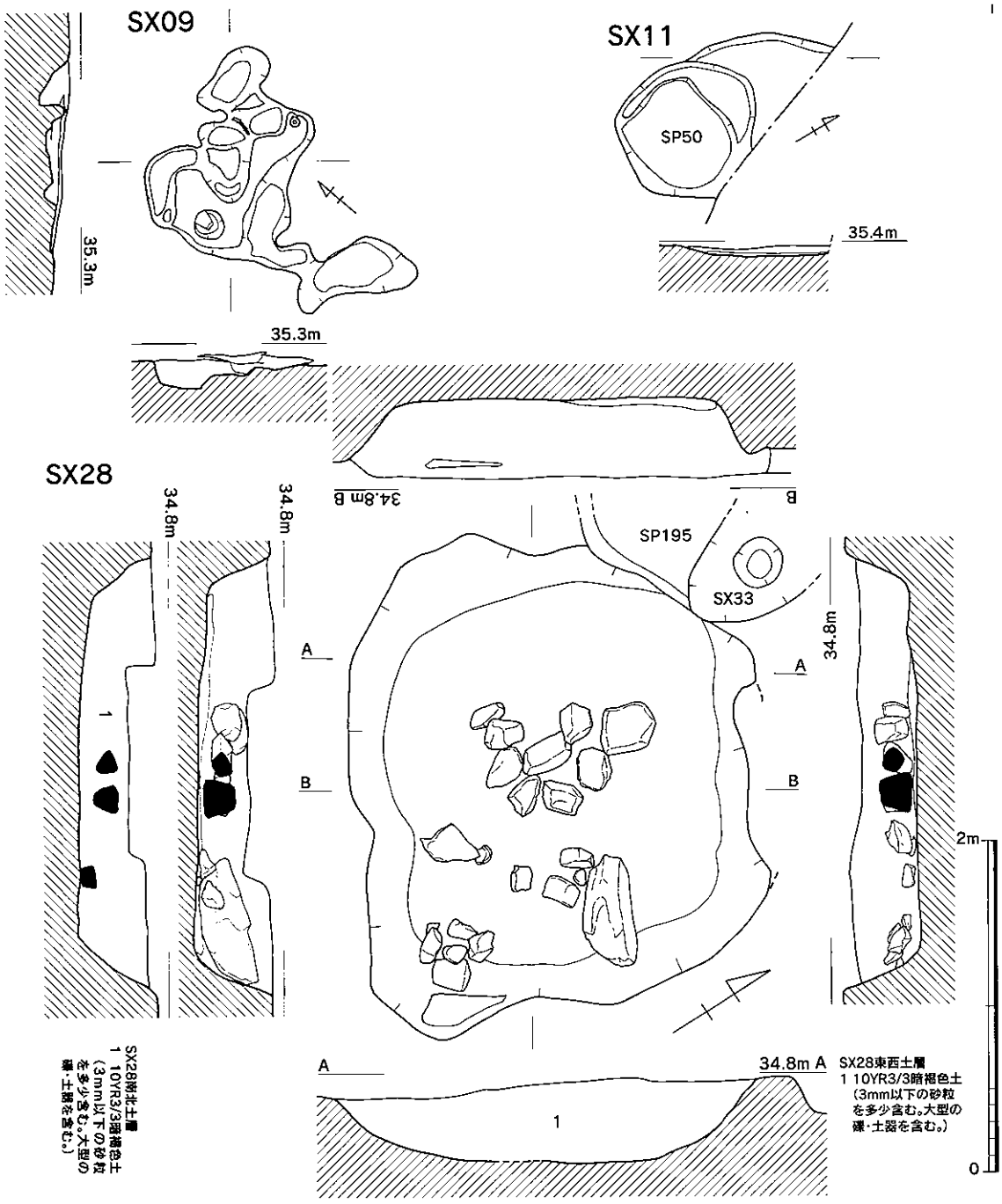
土師器（189） 189は小皿である。底部は回転糸切りで、板状圧痕が見られる。

陶器（190） 190は鉢の口縁部である。端部を肥厚し、外面は直立する。

鉄滓（191） 表面上、メタル部分は見られない。気泡がみられ、表面に砂粒が付着する。磁着する。

SX06（第49図・図版27）

調査区東部に位置する土坑である。SX07に切られるため全形は不明であるが、平面長楕円形を呈



第50図　薬師の森遺跡第6次調査SX09・11・28実測図（1／40）

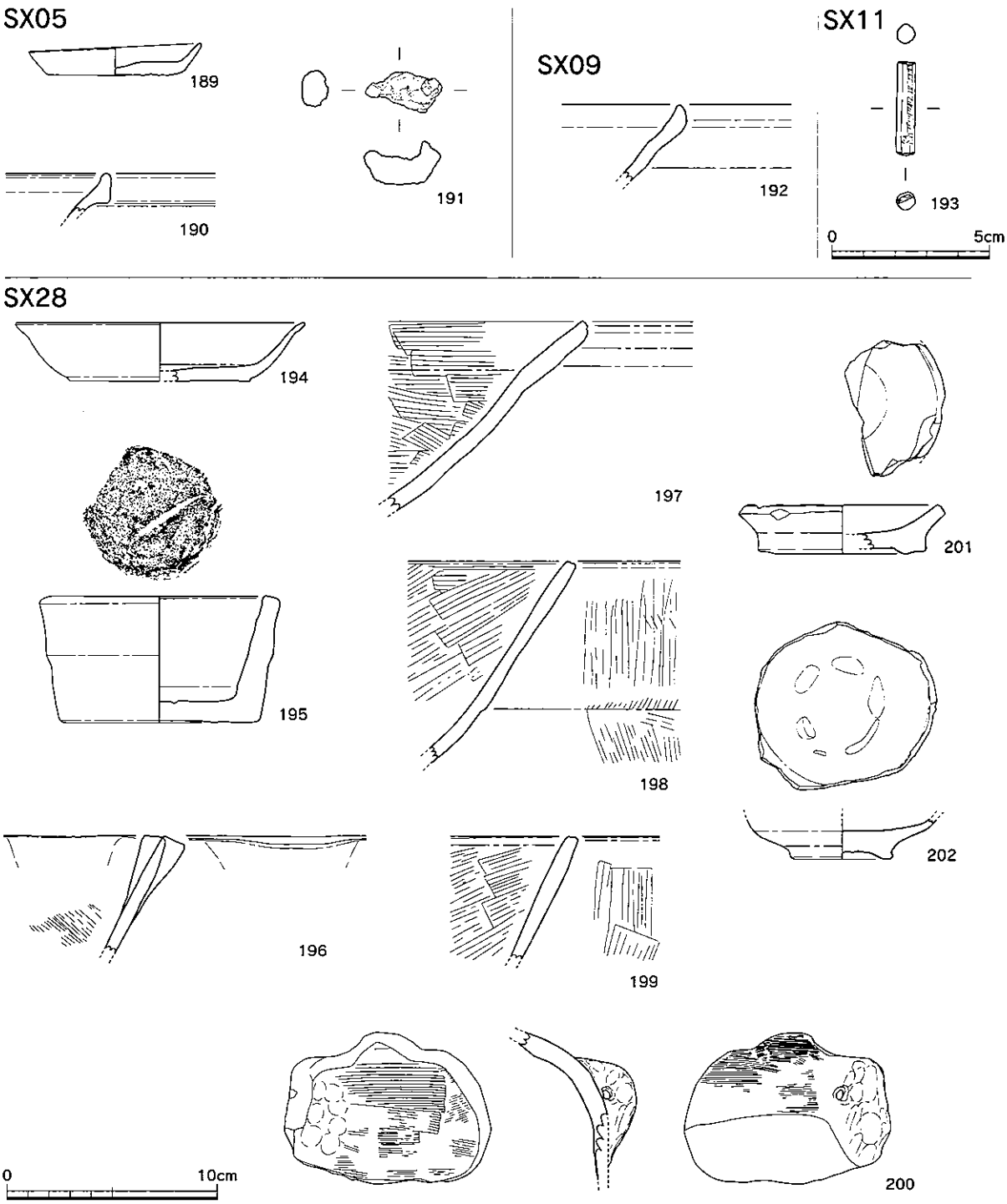
するものと思われる。長さ0.8m以上、幅0.65m、深さ0.15mを測る。南側半分がテラスとなる。埋土は極暗褐色土が堆積し、埋土中から土師器の小片が出土したが、図化できない。

SX07（第49図・図版27）

調査区東部に位置する土坑である。平面長楕円形を呈する。長さ1.0m、幅0.75m、深さ0.1mを測る。埋土は上層に暗灰黄色土、下層にオリーブ褐色土が堆積する。遺物は土師器、焼土塊が出土した。

SX09（第50図）

調査区東部に位置する土坑である。平面不整形を呈し、床面も凹凸が激しい。長さ1.6m、幅



第51図　薬師の森遺跡第6次調査SX05・09・11・28
出土遺物実測図（193は1／2、他は1／3）

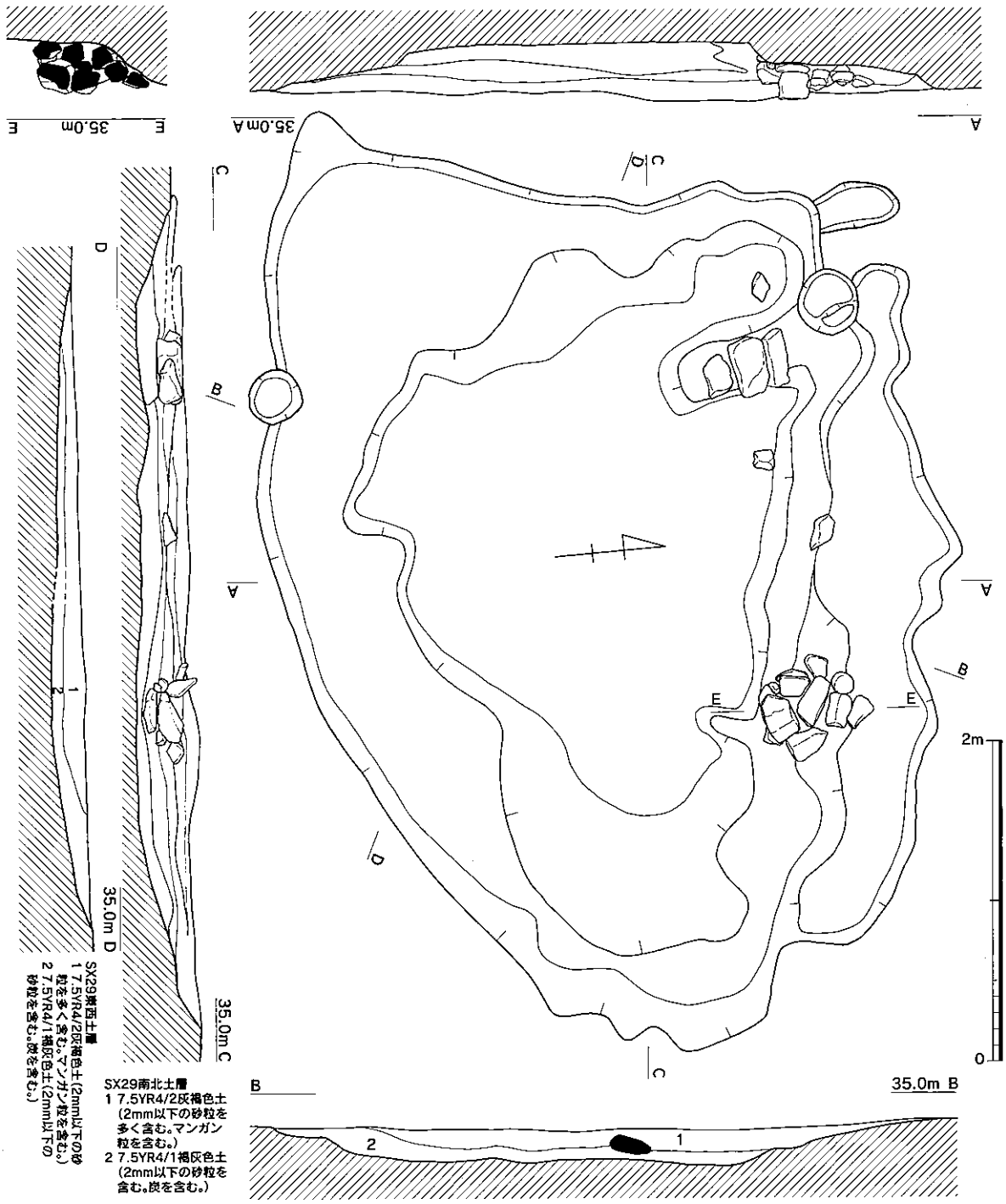
0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は灰色土が堆積する。遺物は青磁、白磁、瓦質土器、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第51図）

瓦質土器（192） 鉢の口縁部である。端部はやや肥厚する。内外面ともに回転ナデを施す。

SX11（第50図）

調査区東部に位置する土坑で、南側をSP50に切られ、東側は調査区外のため全体は不明である。



第52図　薬師の森遺跡第6次調査SX29実測図（1／40）

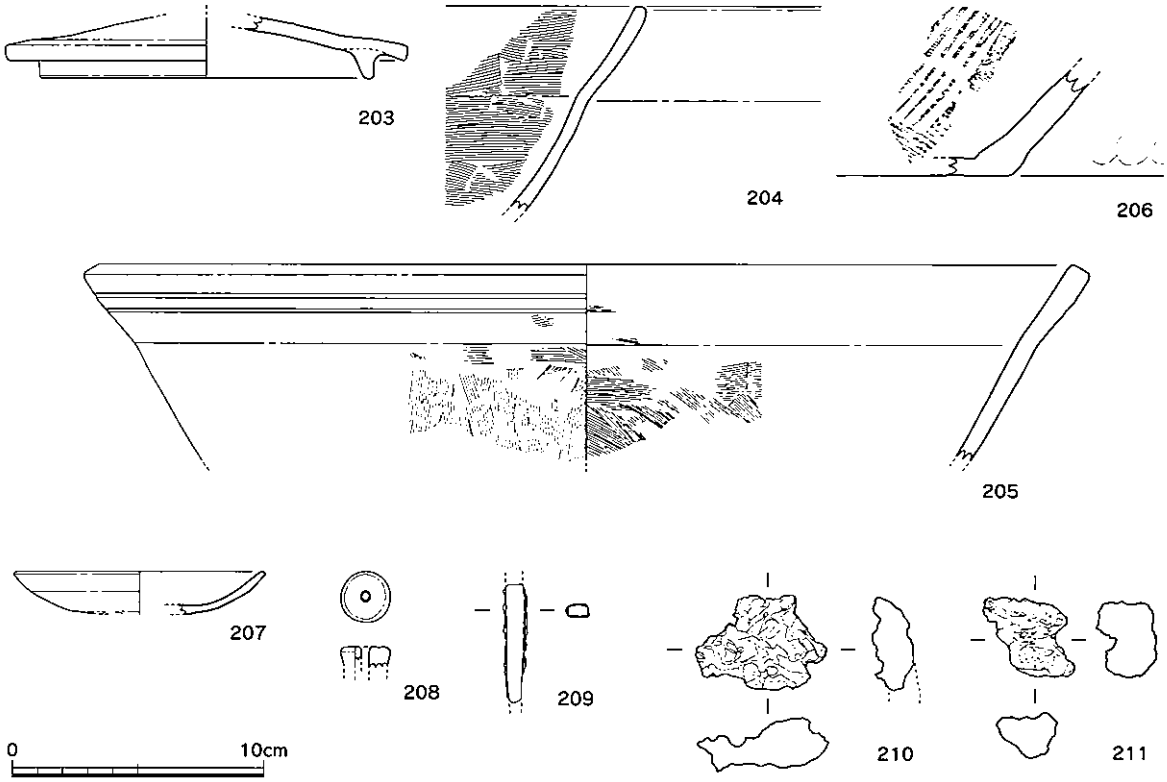
長さ0.7m以上、幅0.7m以上、深さ0.08mを測る。埋土は褐色土が堆積する。遺物は土師器と滑石製品が出土した。

出土遺物（第51図・図版43）

石製品（193）細い棒状の滑石製品で、断面は多角形～円形を呈す。外面は粗く研磨される。用途は不明で、管玉の未成品であろうか。

SX28（第50図・図版28）

調査区中央に位置する土坑である。平面隅丸方形を呈し、壁面は直立気味に立ち上がる。南西部



第53図　薬師の森遺跡第6次調査SX29出土遺物実測図（1／3）

をSX33・SP195に切られ、北側の一部を試掘トレンチにより破壊される。長さ3.0m、幅2.4m、深さ0.48mを測る。埋土は暗褐色土が堆積し、遺物とともに拳大～人頭大の礫が多く出土した。遺物は青磁、陶器、瓦器、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第51図・図版43）

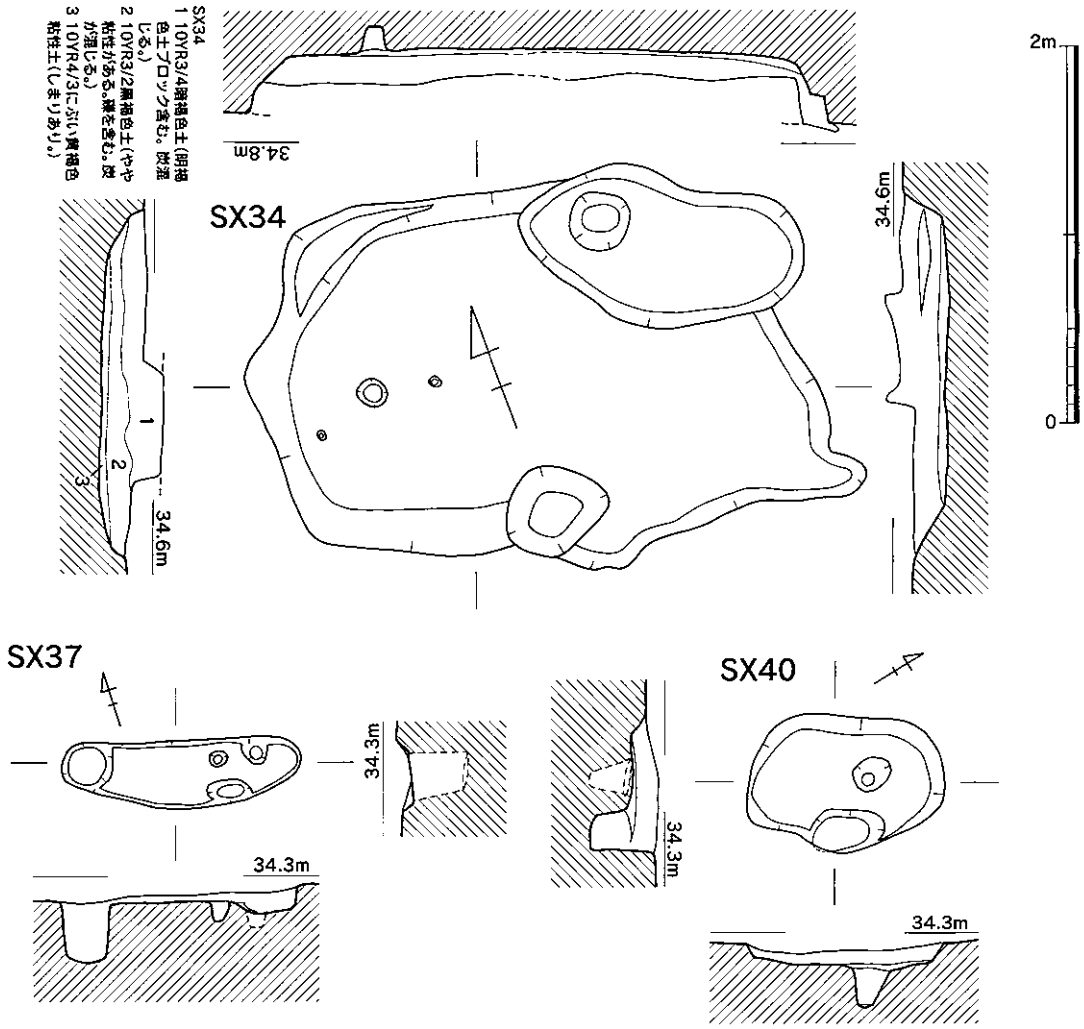
土師器（194～200） 194は杯である。底部は回転糸切りである。195は鉢である。底部から口縁部の立ち上がりは直立気味で、胎土も粗く、器壁も厚い。底部内面にヘラ記号状の線刻「一」が施される。二次焼成を受ける。196～199は鉢である。いずれも口縁部は外傾して開き、内面にハケメを施す。196は注口部分である。いずれも外面に煤が付着する。200は釜の耳部分で穿孔を施す。器壁の内外面にハケメを施す。

磁器（201） 白磁椀Ⅳ類の底部付近の破片である。二次焼成を受け、釉は透明感がなく白濁し、ざらつく。内面にのみ施釉し、外面は露胎である。

陶器（202） 朝鮮王朝産の皿である。乳白色の施釉をし、見込み部分に砂目が残り、高台は削り出す。

SX29（第52図・図版29）

調査区東部南側に位置する。平面は楕円に近い不整形を呈し、壁面の立ち上がりは緩やかである。長さ5.3m、幅4.5m、深さ0.36mを測る。埋土は上層に灰褐色土、下層に褐灰色土が堆積する。埋土中に拳大の礫を多く含み、一部に人為的な石積み状の集石が見られた。遺物は青磁、白磁、瓦器、土師器、焼土塊、鉄器片、鉄滓が出土した。



第54図　薬師の森遺跡第６次調査SX34・37・40実測図（1／40）

出土遺物（第53図・図版44）

土師器（203～206） 203は蓋である。受け部は貼り付け、直立気味である。全面ナデ調整。204・205は鉢である。ともに口縁部はやや屈曲した後、外傾して開く。内面ハケメ調整で、外面に煤が付着する。204は煤のため外面調整は不明で、205は外面にハケメを施す。206は擂鉢の底部である。内面にはハケメ後擂り目を施す。擂り目は5本確認できる。

白磁（207） 小皿の口縁部である。小片で断定できないが、Ⅵ類かⅦ類と思われる。

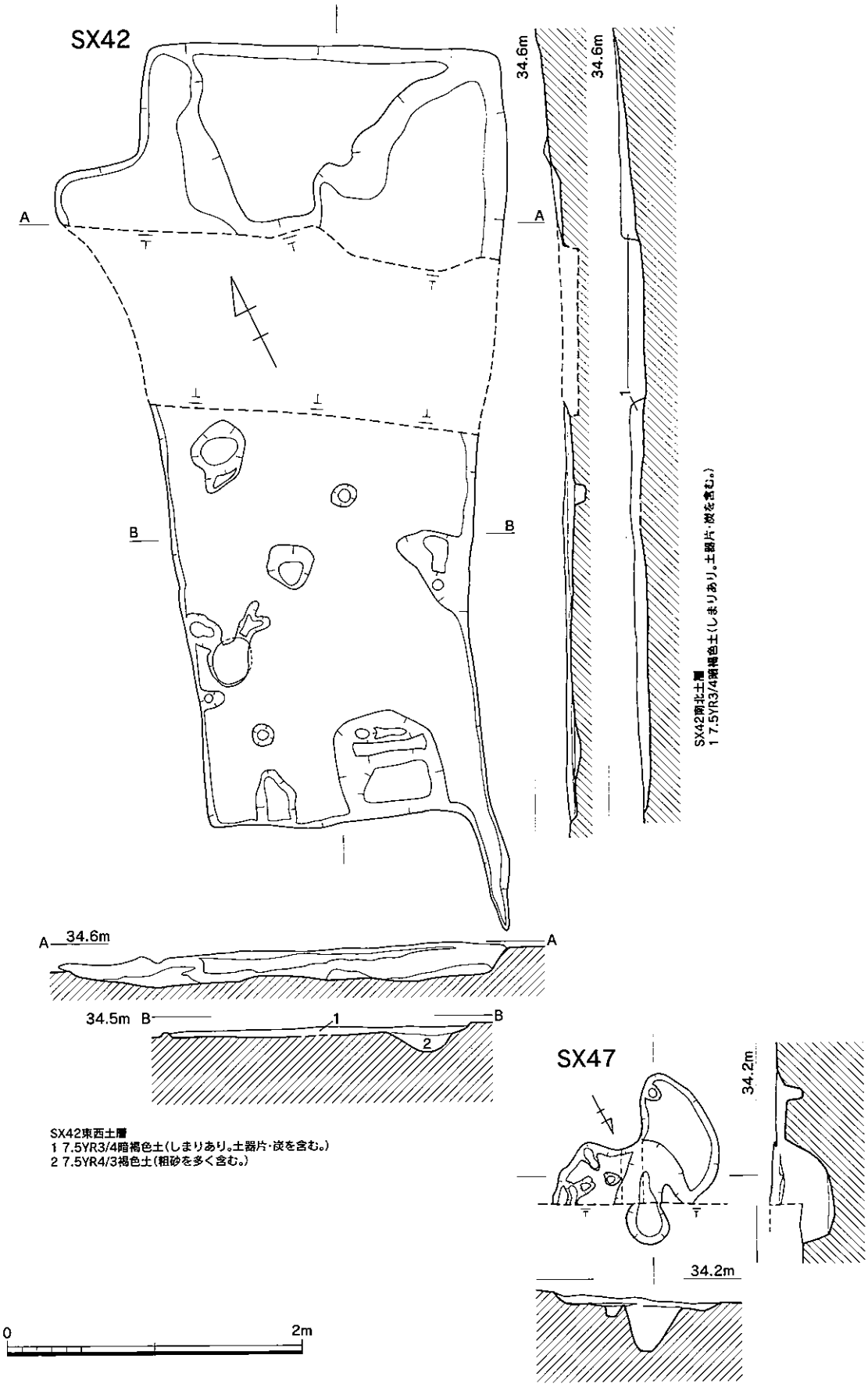
土製品（208） 不明土製品である。小片で全体は不明である。土師質で、須恵器杯蓋の摘み部分に穿孔を施したような形である。ナデを施す。

鉄製品（209） 小片で全体は不明である。鉄鏃の頸部か茎部の破片であろう。

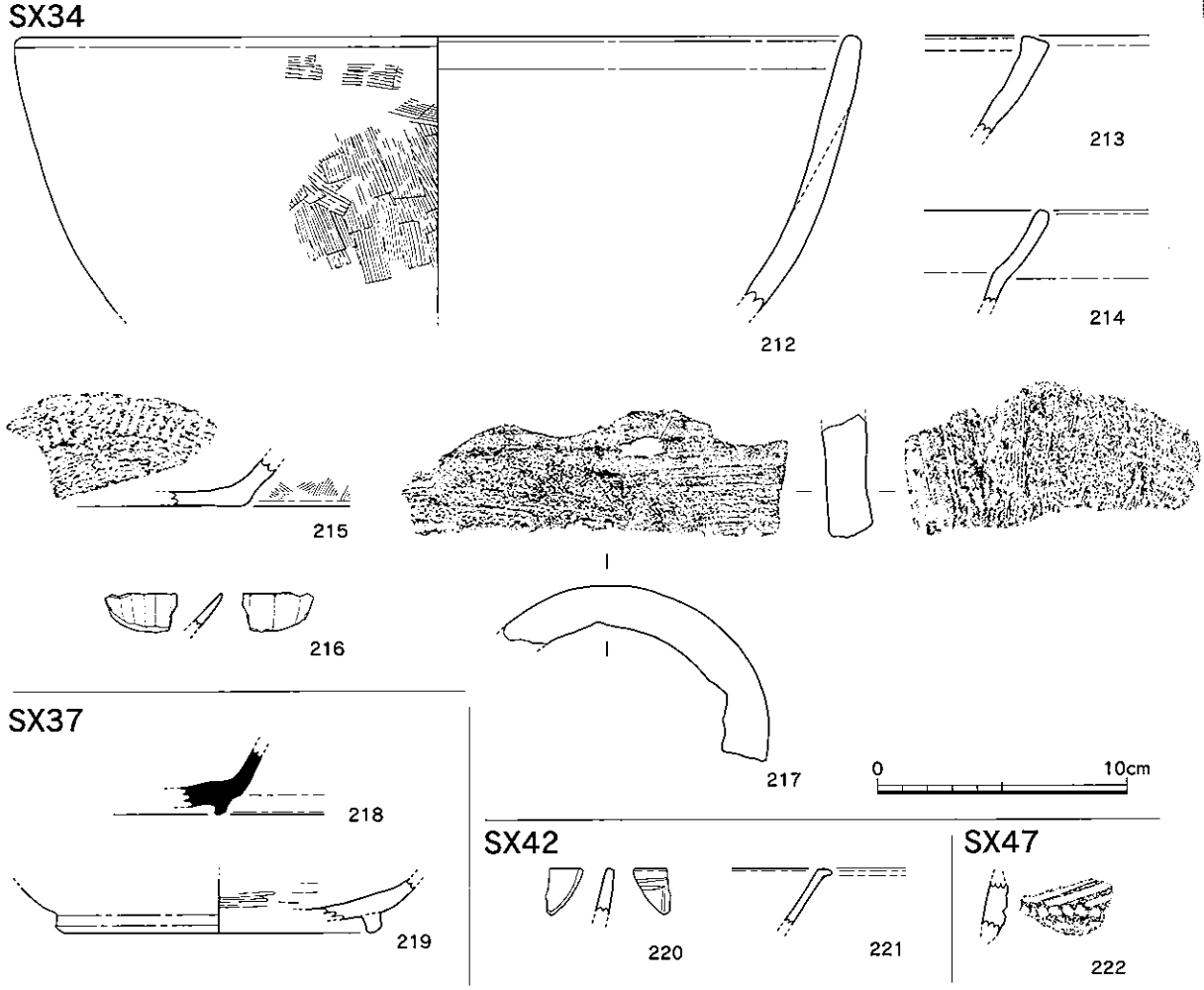
鉄滓（210・211） 210は椀形滓の破片である。211には炭化物の痕跡が見られる。製錬滓か鍛冶滓かは不明。ともに磁着する。

SX34（第54図・図版30）

調査区中央に位置する土坑である。SX35やSP196に切られる。平面は東西にやや長い不整形を呈する。長さ3.1m、幅1.9m、深さ0.34mを測る。遺構壁面の立ち上がりは緩やかである。床面に



第55図　薬師の森遺跡第６次調査SX42・47実測図（1／40）



第56図　薬師の森遺跡第６次調査SX34・37・42・47出土遺物実測図（1／3）

はピットが見られる。埋土は3層からなり、上から暗褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色粘質土が堆積し、埋土中に拳大の礫を多く含む。遺物は青白磁、青磁、須恵器、土師器、砥石が出土した。

出土遺物（第56図・図版44）

土師器（212～215） 212～214は鉢である。212は口縁部がゆるやかに内湾しながら開く。213は擂鉢の可能性もあろう。214は口縁部が屈曲して内側に反る。215は擂鉢の底部である。擂り目は摩耗する。

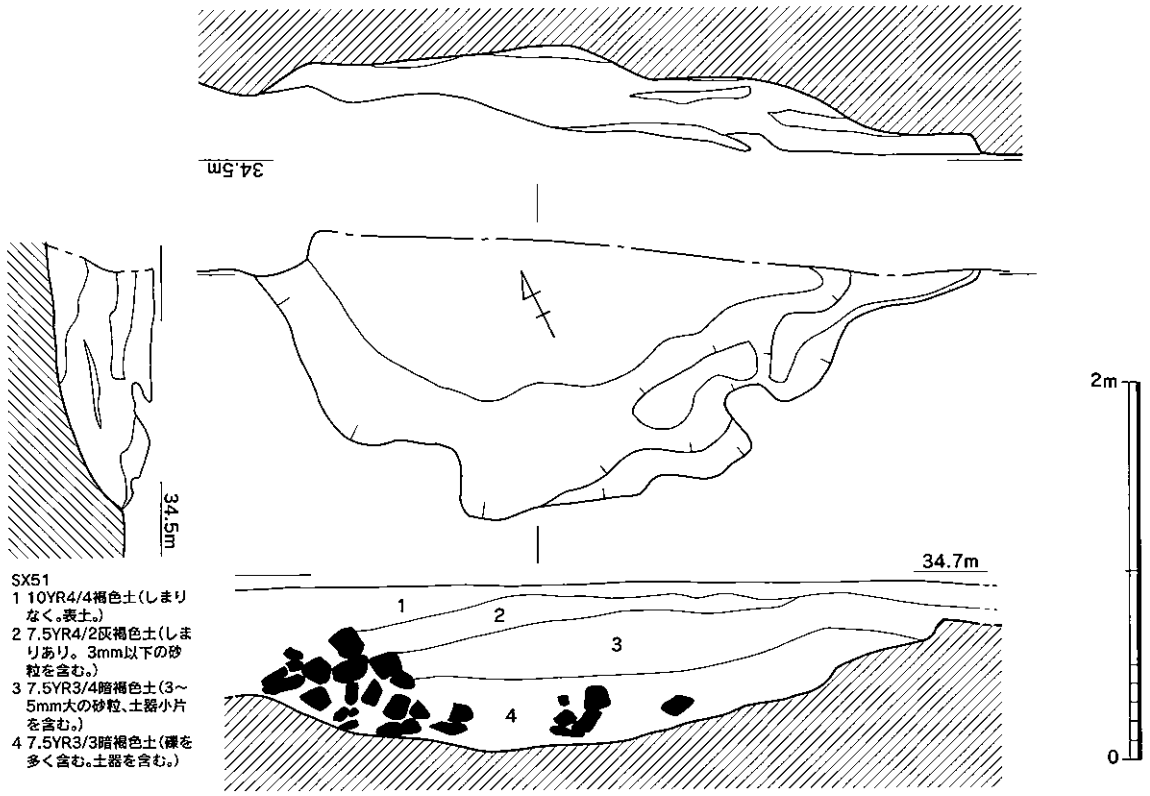
白磁（216） 花弁様を呈する小皿の小片である。

瓦（217） 丸瓦の玉縁部である。外面ヨコナデで、内面に粗い布目痕が残る。側面部に分割用の切り込み痕が見られる。

SX37（第54図）

調査区西部に位置する土坑である。東西に細長い土坑で、長さ1.24m、幅0.38m、深さ0.36mである。床面の西側に径25cmほどのピットを１つ、東側に径10cmほどのピットを３つ有す。遺物は陶磁器、須恵器、土師器片が出土した。

出土遺物（第56図）



第57図　薬師の森遺跡第6次調査SX51実測図（1／40）

須恵器（218） 杯B身の底部片である。高台は貼り付ける。内外面とも回転ナデを施す。

土師器（219） 杯の底部である。高台は貼り付けし、内面にミガキを施す。

SX40（第54図）

調査区西部に位置する土坑である。平面楕円形を呈し、遺構壁面は緩やかに立ち上がる。長さ1.06m、幅0.74m、深さ0.16mを測る。床面の中央付近と東側にピットが掘り込まれる。遺物は須恵器、土師器が出土した。

SX42（第55図）

調査区西部に位置する土坑である。平面は南北に細長い長方形を呈し、長さ5.3m、幅2.5m、深さ0.1mを測る。床面はやや凹凸がある。埋土は暗褐色土が堆積し、遺物は青磁、白磁、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第56図・図版44）

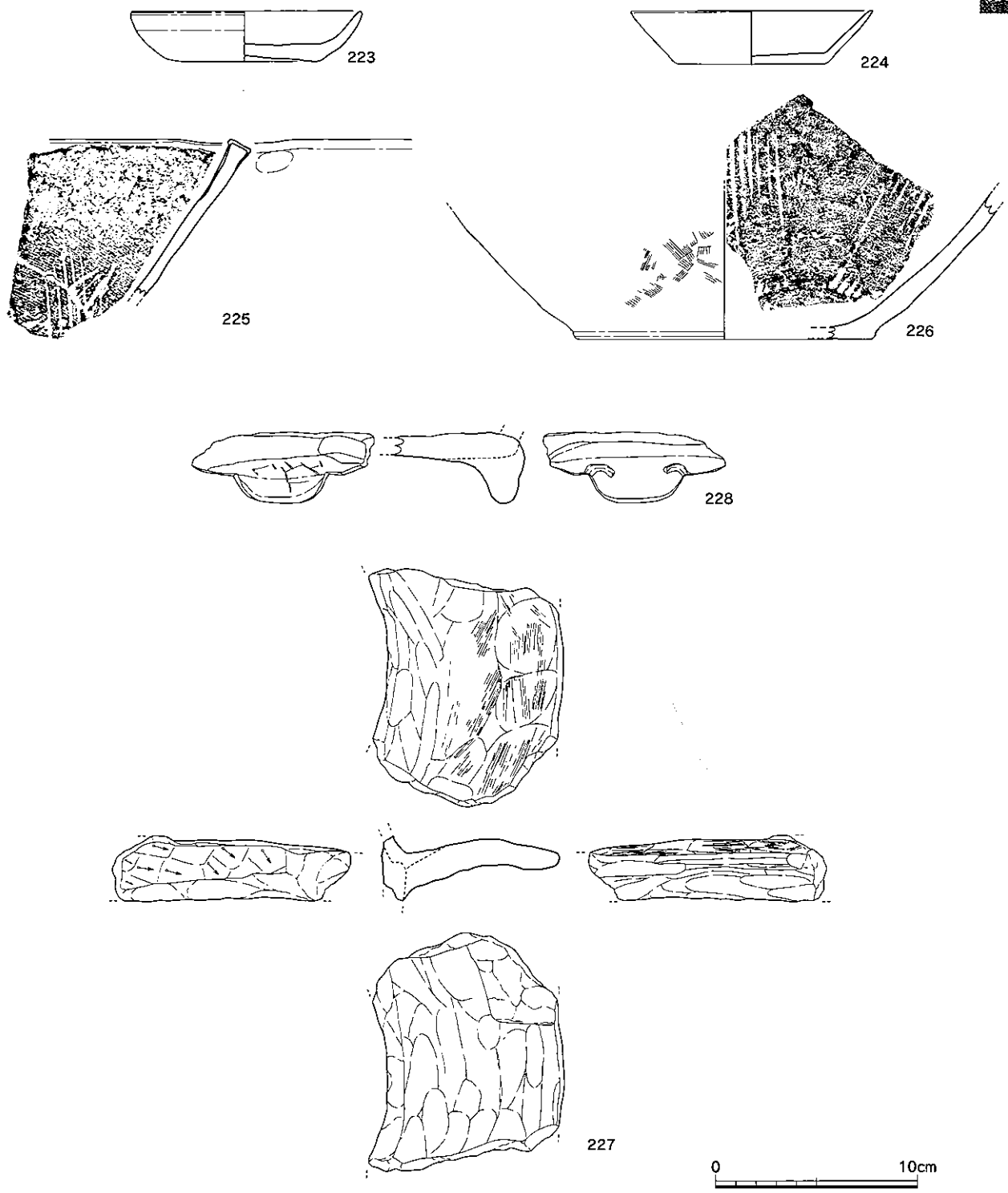
青磁（220） 高麗青磁で椀の口縁部か。白色土を象嵌する。釉は貫入が見られ、透明な緑灰色を呈す。

白磁（221） 椀Ⅴ類の口縁部である。口縁端部を外側に屈曲させ、上面を平坦にする。

SX47（第55図）

調査区西部に位置する不整形土坑で、北側は削平される。現状で長さ0.9m、幅1.08m、深さ0.4mを測る。遺物は縄文土器、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第56図・図版44）

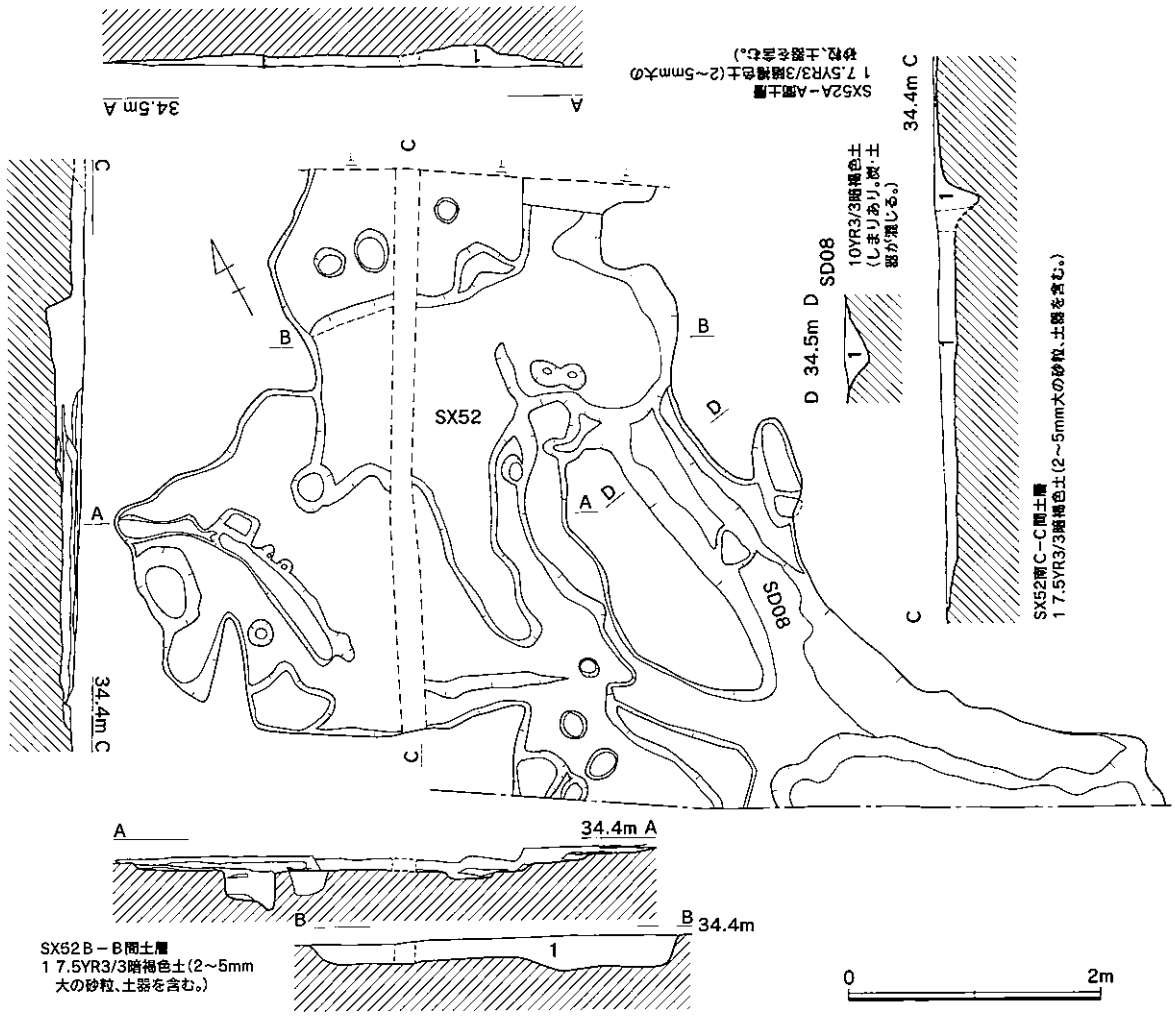


第58図　薬師の森遺跡第６次調査SX51出土遺物実測図（1／3）

縄文土器（222）曽畑式土器であろうか。表面に列点文と斜線文を施す。

SX51（第57図・図版31）

調査区西部北側に位置し、北側は調査区外に広がるため全形は不明であるが、平面不整形の土坑であろう。現状で長さ4.0m、幅1.4m以上、深さ0.58ｍを測る。壁面の立ち上がりは緩やかで、東側はテラスがついて立ち上がる。埋土は暗褐色土が堆積し、西側を中心に拳大の礫を非常に多く含



第59図　薬師の森遺跡第６次調査SX52実測図（1／60）

む。遺物は瓦器、須恵器、土師器、鉄製品が出土した。

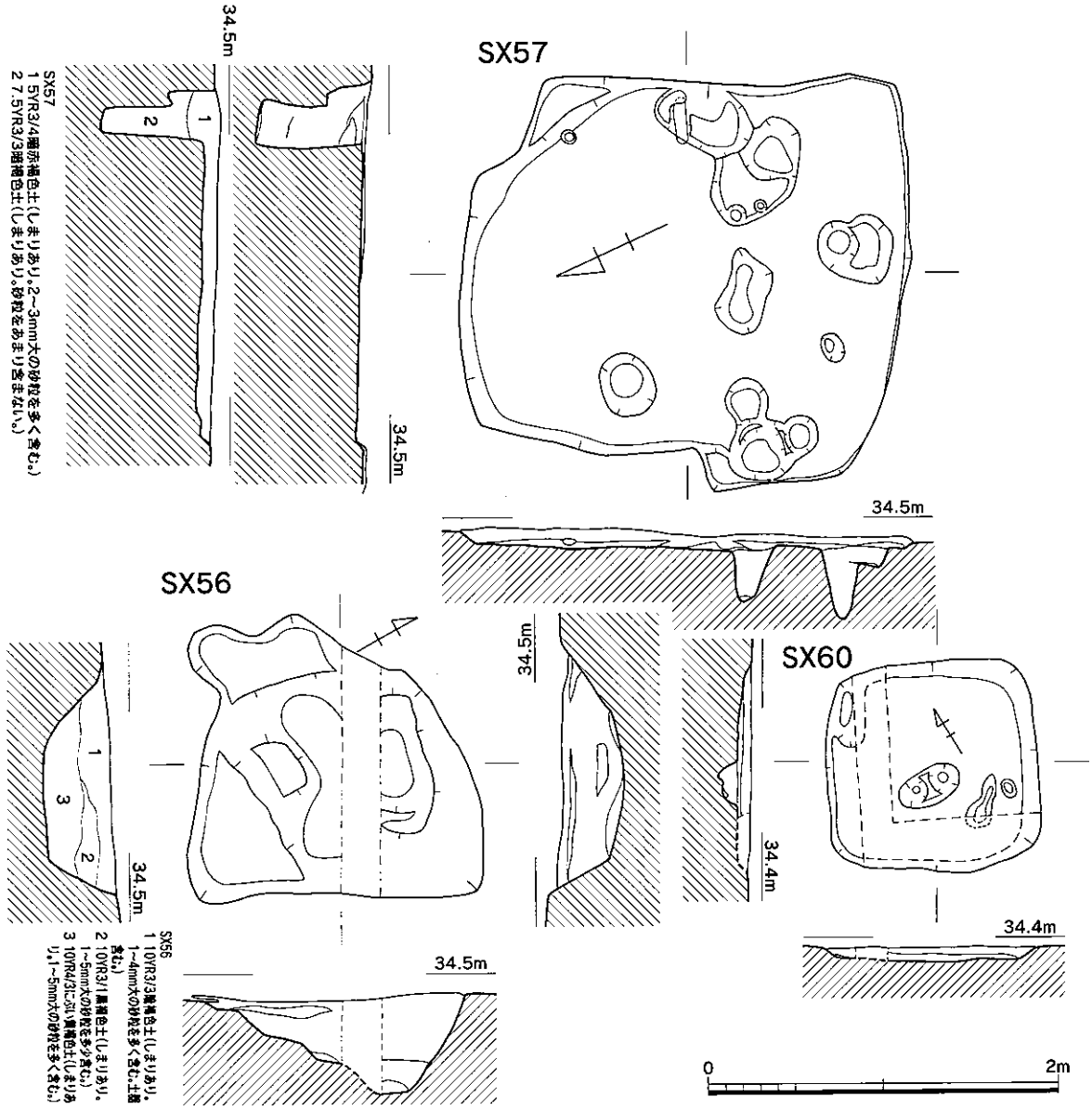
出土遺物（第58図・図版44）

土師器（223～227） 223、224は杯である。ともに底部は回転糸切りで、他は回転ナデを施す。223は体部が内湾気味に立ち上がる。224は体部～口縁部が外傾して開く。内外面に煤が付着する。225、226は擂鉢である。225は口縁部で、体部の立ち上がりは外傾して開く。端部を四角くおさめ、やや内側につまみ出す。擂り目は5本である。226は底部である。擂り目は６本で摩耗する。227は移動式カマドの庇部分である。庇部分からの立ち上がりが著しく薄いため、鍔形土器の可能性もあるが、調整等から移動式カマドとする。内面にケズリを施し、庇の上面にハケメ、下面にナデを施す。

瓦質土器（228） 火鉢の脚部分である。

SX52（第59図）

調査区西部南側に位置する。大型の不整形土坑で、東側が二股に分かれ、SD08とつながる。検出の時点でSD08と切り合いは認められなかった。別遺構の可能性を考えて別々に記録したが、SX52とSD08は一連の遺構の可能性がある。北側を撹乱に切られ、南側は調査区外である。長さ4.9m以上、幅3.7m、深さ0.3mを測る。埋土は暗褐色土が堆積する。遺物は青磁、瓦器、須恵器、土師器、



第60図　薬師の森遺跡第６次調査SX56・57・60実測図（1／40）

滑石製紡錘車、鉄滓が出土した。

出土遺物（第62図）

土師器（229） 鉢である。口縁部はやや屈曲して開く。内面にハケメを施す。

青磁（230） 同安窯系青磁皿Ⅰ類である。見込みに櫛点描文がみられる。

石製品（231） 滑石製紡錘車である。表面は摩耗するが、穿孔部分には横方向の擦痕とそれを切る縦方向の擦痕が見られる。

SX56（第60図・図版32）

調査区西部に位置する土坑である。隅丸三角形に近い平面形を呈する。長さ1.68m、幅1.6m、深さ0.56mを測る。壁面は緩やかにテラスがついて立ち上がる。埋土は暗褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土が堆積する。遺物は青磁、白磁、須恵器、土師器、鉄製品が出土した。

出土遺物（第62図）

土師器（232） 小皿である。口縁部は内湾気味に開く。底部に回転糸切りが見られ、他は回転ナデを施す。

SX57（第60図）

調査区西部南側に位置する土坑で、床面にピットが複数掘り込まれる。平面は隅丸方形を呈し、長さ2.54m、幅2.1m、深さ0.12mを測る。SX65を切る。埋土は暗赤褐色土が堆積し、遺物は青白磁、青磁、白磁、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第62図）

土師器（233） 鉢である。口縁部は内湾気味に開く。内面ハケメ調整で、外面には煤が付着する。

青白磁（234） 合子の蓋である。上面は型押しして装飾するが、小片のためモチーフは不明。口縁端部の釉は掻き取り、内面は露胎である。釉は明緑灰色を呈す。

SX60（第60図）

調査区西部に位置する土坑である。平面方形プランで、長さ1.2m、幅1.2m、深さ0.08mを測る。壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は須恵器、土師器、焼土塊、鉄製品が出土した。

出土遺物（第62図）

須恵器（235） 杯B身の底部である。回転ヘラ切り後、高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデを施す。焼け歪む。

SX61（第61図）

調査区西部北側に位置する。SX42に切られる。自然の落ち込みであろう。長さ4.1m、幅2.9m、深さ0.15～0.4mを測る。平面形は不整形で、床面の凹凸も激しく、所々にピット状のくぼみが見られる。遺物は須恵器、土師器、焼土塊が出土した。

出土遺物（第62図）

須恵器（236） 杯B蓋の口縁部である。口縁端部を嘴状につまみ出す。天井部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデを施す。

土師器（237） 甕、もしくは甑の口縁部である。口縁部は屈曲して外反する。体部内面にはケズリ、他はナデを施す。

SX62（第61図）

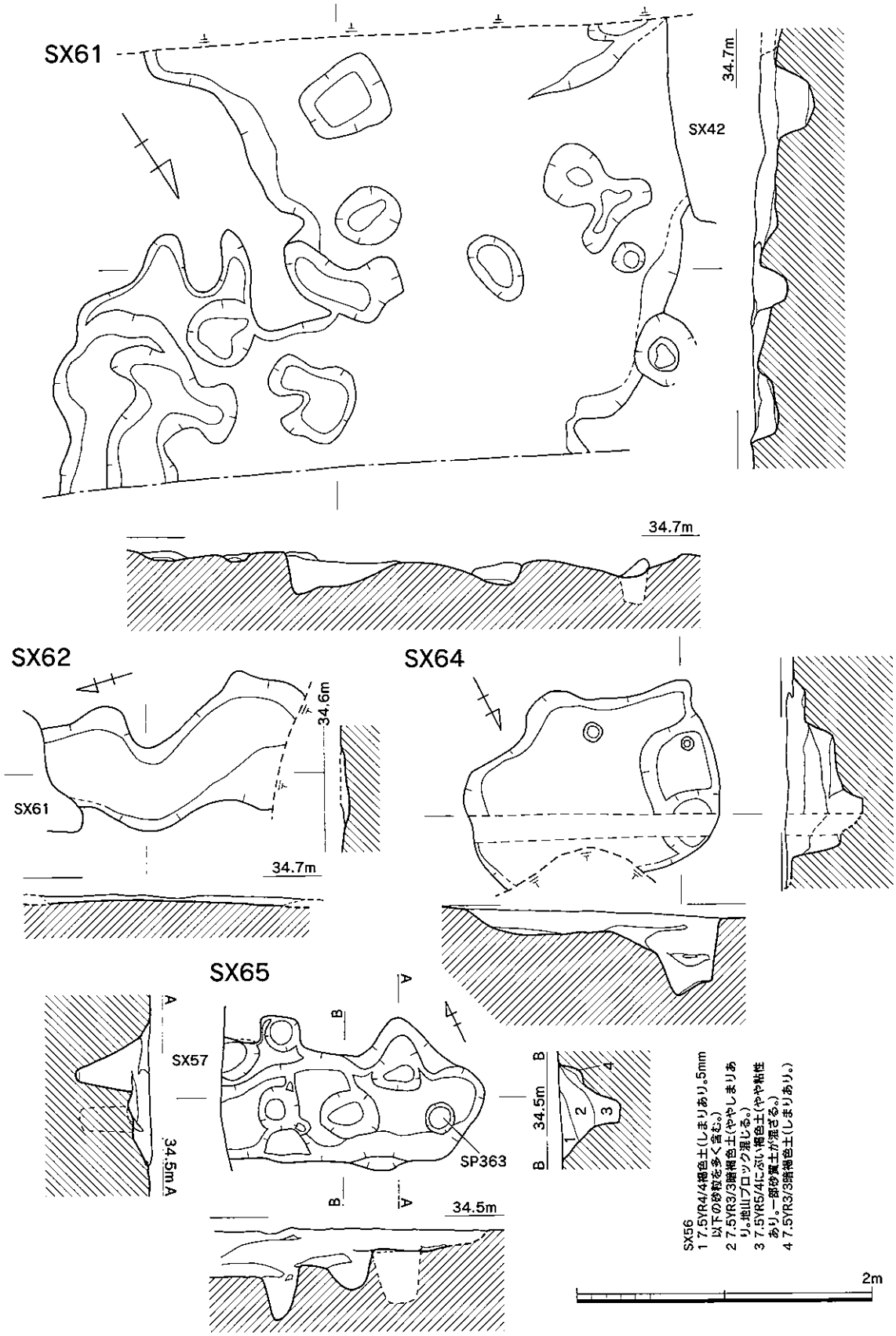
調査区西部北側に位置する土坑である。北側をSX61に切られ、南側は削平される。平面プランは不整形で、現状で長さ1.7m、幅0.7m、深さ0.06mを測る。遺物は須恵質土器、土師器、焼土塊が出土した。

出土遺物（第62図）

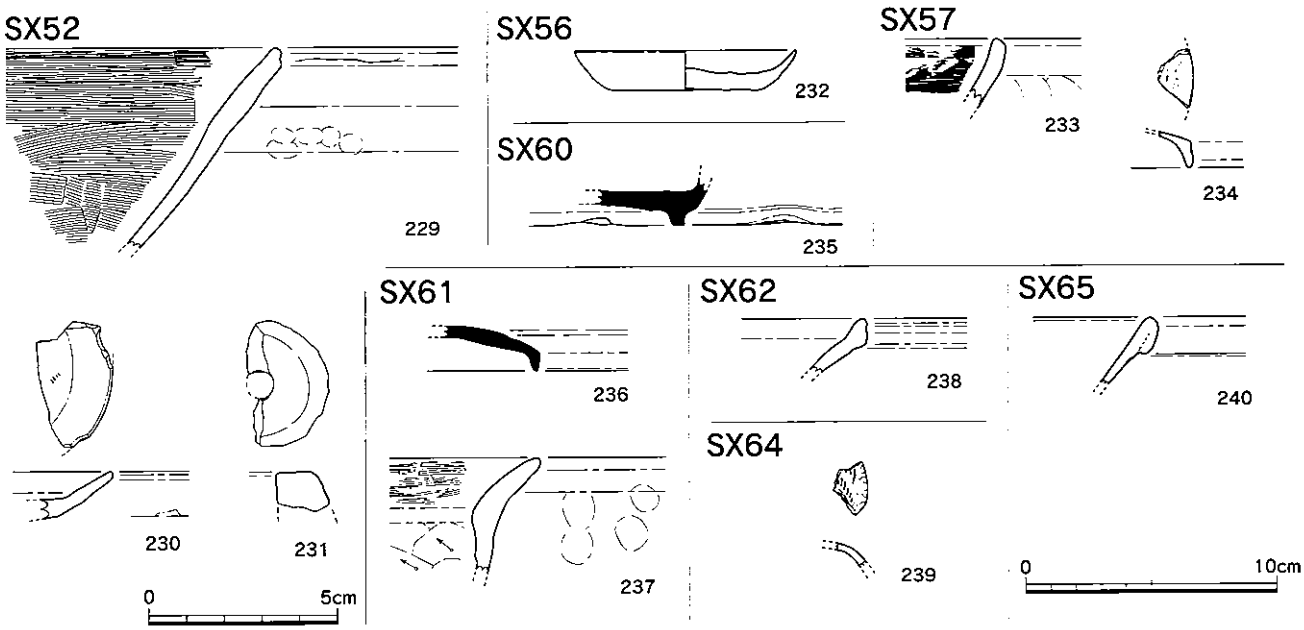
須恵質土器（238） 鉢の口縁部である。端部はつまみあげ、端部の外面には沈線をめぐらす。内外面とも回転ナデを施す。

SX64（第61図）

調査区西部中央に位置する土坑で、北側を撹乱により削平される。平面形は不整形プランで、長さ1.76m、幅1.2m、深さ0.54mを測る。床面の西側はテラスがついて階段状に掘りくぼむ。壁面の立ち上がりは、西側は緩やかであるが他は直立気味である。遺物は青白磁、青磁、須恵器、土師



第61図　薬師の森遺跡第６次調査SX61・62・64・65実測図（1／40）



第62図　薬師の森遺跡第６次調査SX52・56・57・60～62・64・65
出土遺物実測図（231は1／2、他は1／3）

器が出土した。

出土遺物（第62図）

青白磁（239） 合子の蓋である。型押し後、施釉するが小片のためモチーフは不明である。釉は透明な明緑灰色で貫入が見られる。

SX65（第61図）

調査区西部南側に位置し、SX57、SP363に切られる。平面は不整形を呈する。長さ1.76m、幅0.1m、深さ0.15～0.4mを測る。床面にはピットが掘りこまれる。

出土遺物（第62図）

白磁（240） 椀Ⅳ類である。口縁端部は折り曲げて玉縁とする。釉は透明な灰白色である。

SX66（第63図・図版32）

調査区中央部南側に位置する不整形土坑である。長さ3.9m、幅2.5m、深さ0.1～0.3mを測る。床面にSX83の他、複数のピットが掘りこまれる。上面から遺構の切り合いを確認することはできなかった。埋土は主に暗褐色土が堆積し、遺物は須恵器、土師器が出土したが、小片のため図化できない。

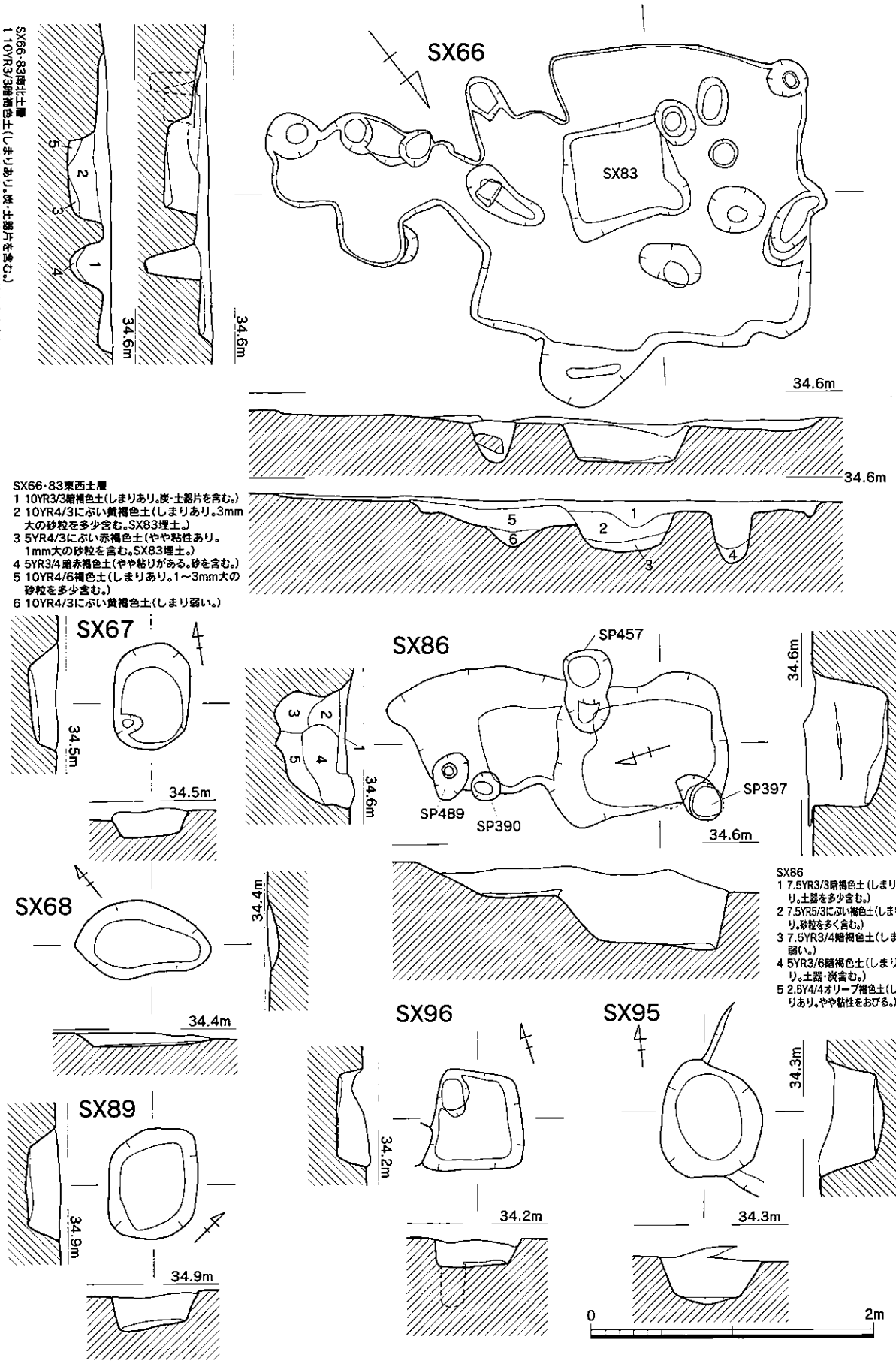
SX67（第63図）

調査区中央部南側、SX66の西側に位置する土坑である。平面は楕円形で、壁面はやや緩やかに立ち上がる。長さ0.74m、幅0.54m、深さ0.18mを測る。埋土は暗褐色土が堆積し、遺物は須恵器、土師器が出土したが、小片のため図化できない。

SX68（第63図）

調査区中央部南側、SX66の南に位置する土坑である。平面は楕円形で、長さ0.96m、幅0.56m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器が出土した。

出土遺物（第65図）



第63図　薬師の森遺跡第6次調査SX66～68・83・86・89・95・96
実測図（1／40）

土師器（241） 擂鉢の口縁部である。立ち上がりは外傾し、端部は肥厚させる。内面はハケメを施し、外面はハケメ後、ナデを施す。擂り目は4本である。

SX78（第44図）

調査区中央部に位置する。近～現代の畑の畝状遺構である。遺物は須恵器、土師器、染付、銅塊が出土した。

出土遺物（第65図）

銅塊（242） 青みがかった金属塊で、銅滓の可能性もある。時期不明である。

SX83（第63図・図版32）

調査区中央南側、SX66の床面で検出した。平面方形で西側をピットに切られる。壁面は直立気味に立ち上がる。長さ0.72m、幅0.8m、深さ0.3mを測る。埋土はにぶい黄褐色土、にぶい赤褐色土が堆積し、自然堆積によるものであろう。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第65図）

土師器（243） 鉢の口縁部で、体部の立ち上がりは屈曲後やや内湾する。調整は内面にハケメ・ナデ、外面にナデを施す。外面には煤が付着する。

SX86（第63図・図版33）

調査区中央西寄りに位置し、SX74、SP390・397・457・458・489に切られる。平面は南北にやや長い不整形を呈する。長さ2.16m、幅1.04m、深さ0.5mを測る。壁面は、北側にテラスがつき緩やかに立ち上がるが、他は直立気味に立ち上がる。埋土はにぶい褐色土、暗褐色土、オリーブ褐色土が堆積する。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第65図）

土師器（244） 小皿である。体部の立ち上がりは短く外傾する。底部に回転糸切りが見られ、他は回転ナデを施す。

SX89（第63図）

調査区中央北側に位置する土坑である。平面は楕円形で、長さ0.76m、幅0.62m、深さ0.25mを測る。遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第65図）

須恵器（245） 杯H身の小片である。口縁部の立ち上がりは短く内傾する。底部外面に回転ヘラケズリを施し、他は内外面とも回転ナデを施す。

SX94（第64図）

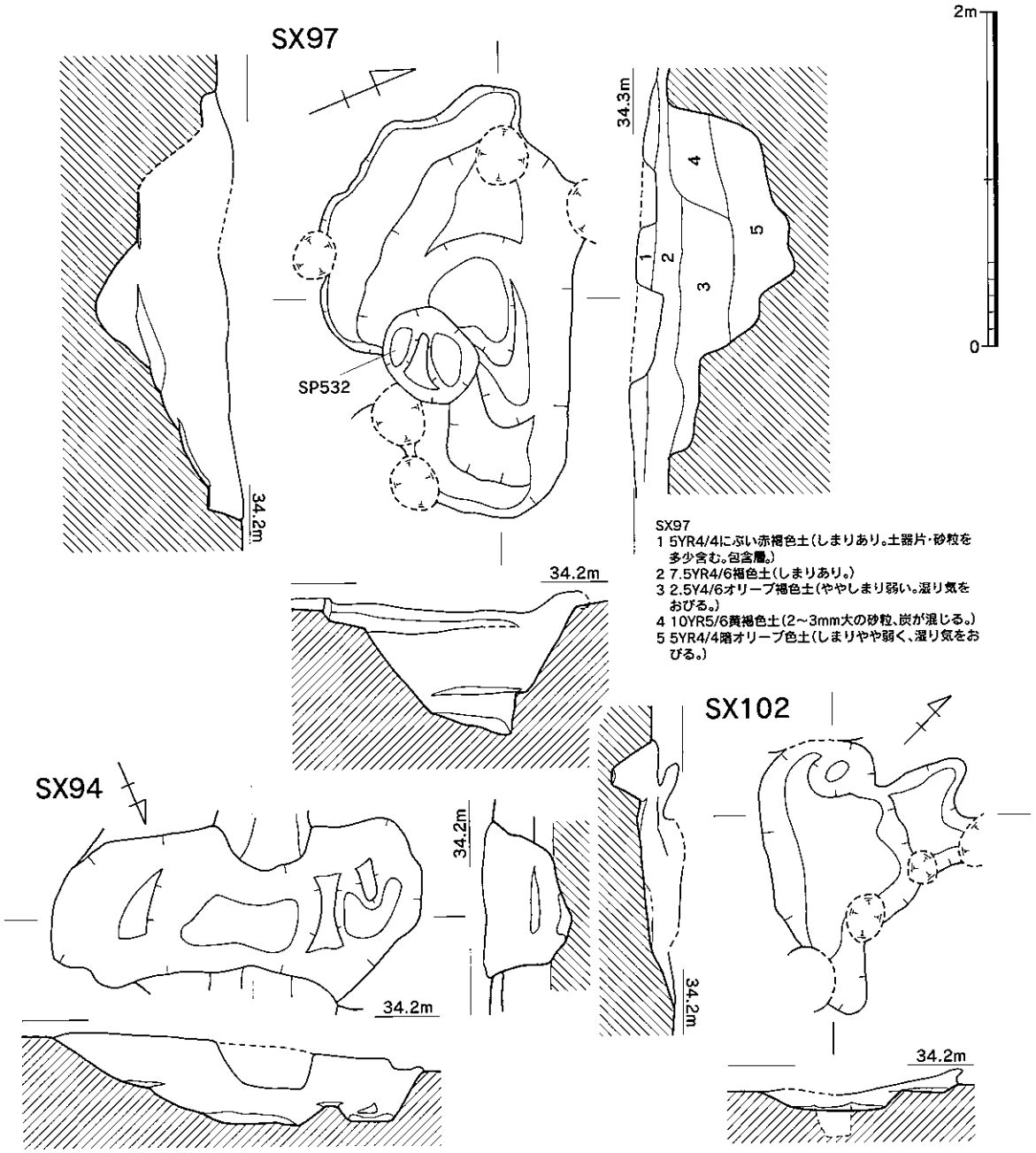
調査区西部南側に位置し、第2面で検出した。SX93を切り、SD11に切られる。東西に長い不整形を呈し、西側はやや凹凸が付く。遺物は須恵器が出土したが、小片のため図化できない。

SX95（第63図・図版33）

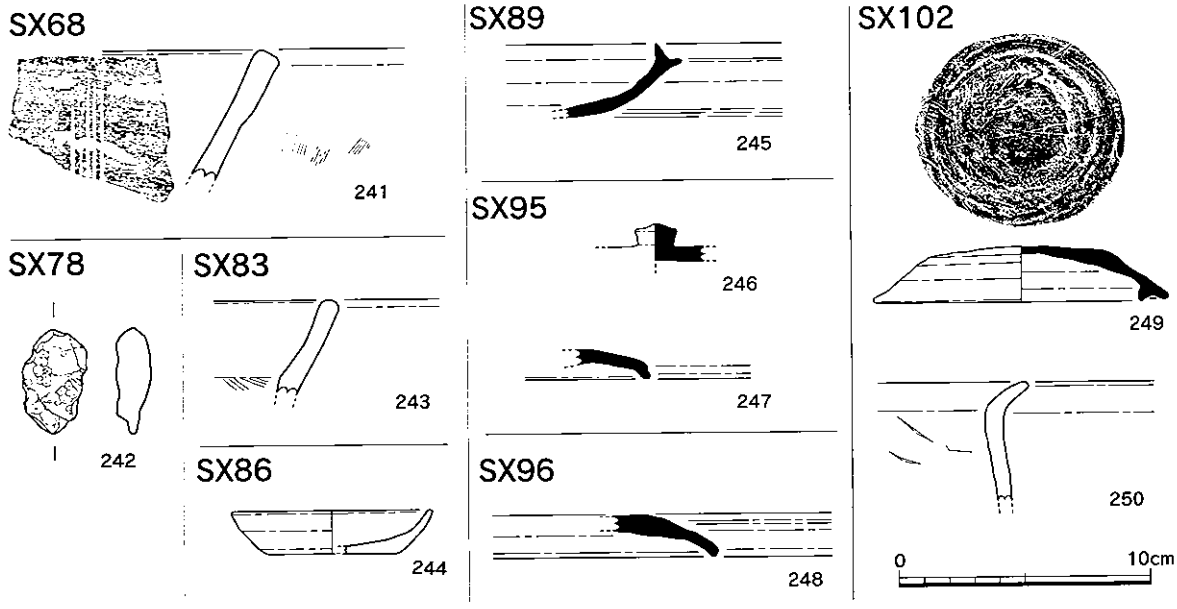
調査区西側南部に位置し、第2面で検出した。平面は楕円形を呈し、壁面は直立気味に立ち上がる。長さ0.8m、幅0.75m、深さ0.4mを測る。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第65図）

須恵器（246・247） 246は杯B蓋のつまみ部分で、乳頭状のつまみがつく。内外面とも回転ナデ



第64図　薬師の森遺跡第6次調査SX94・97・102実測図（1／40）



第65図　薬師の森遺跡第6次調査SX68・78・83・86・95・96・102
出土遺物実測図（1／3）

を施す。247は杯B蓋の口縁部である。端部を下方に屈曲させ、側面に沈線を施す。

SX96（第63図・図版33）

調査区西部北側に位置し、第2面で検出した。平面台形状で、長さ0.68m、幅0.6m、深さ0.25～0.44mを測る。壁面は直立気味である。北西部にピット状の掘り込みがある。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第65図）

須恵器（248） 杯B蓋の口縁部である。端部は丸く突出させる。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他は回転ナデを施す。内面は回転ナデ後ヨコナデを施す。

SX97（第64図）

調査区西部に位置し、第2面で検出した。平面は東西に長い不整形で、SP532他、ピットに切られる。長さ2.5m、幅1.25m、深さ0.74mを測る。各方面とも階段状にテラスがつき、中心に向かって緩やかに深くなる。埋土はオリーブ褐色土、黄褐色土、暗オリーブ褐色土が堆積する。遺物は土師器が出土したが、小片のため図化できない。

SX102（第64図）

調査区西部に位置し、第2面で検出した。平面は不整形で、長さ1.64m、幅1.16m、深さ0.12～0.25mを測る。北側にテラスがつき、北西部はピット状にくぼむ。遺物は須恵器、土師器、焼土塊が出土した。

出土遺物（第65図・図版44）

須恵器（249） 杯G蓋である。かえり部分は短く内傾する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、他は回転ナデ調整。内面は回転ナデ後不定ナデを施す。天井部外面に「×」状のヘラ記号が施される。

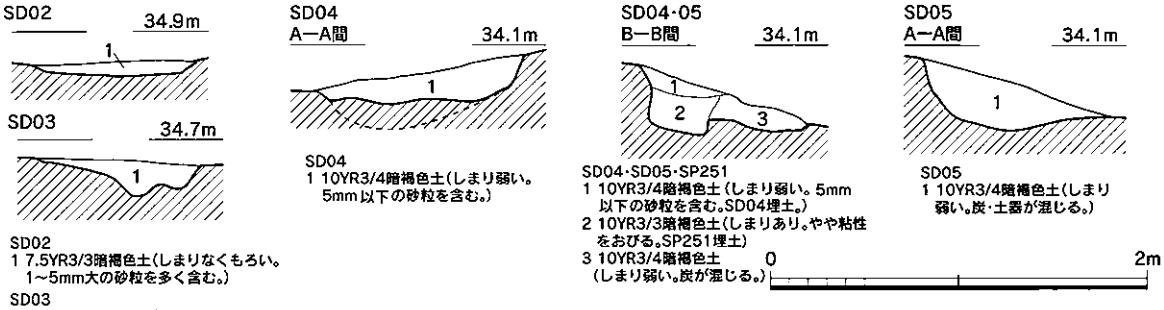
土師器（250） 甕の口縁部である。頸部で屈曲し、口縁部は外反する。胴部内面にケズリを施すが、他は摩耗し不明である。

（4）溝状遺構

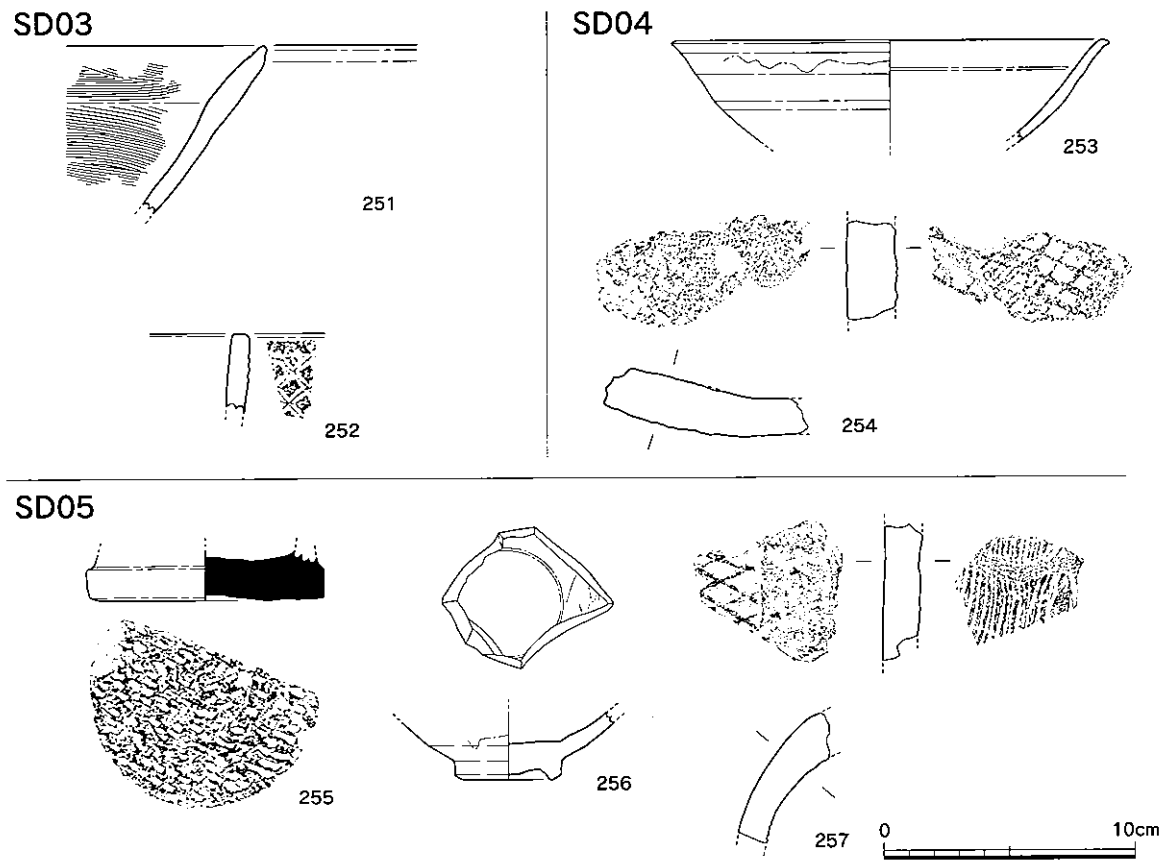
SD02（第44・66図）

調査区中央～西部の南側に位置する。北西から南東方向に、長さ15mにわたってのびる。幅0.5～0.9m、深さ0.06mを測る。埋土は暗褐色土が堆積し、遺物は青磁、須恵器、土師器が出土した。

SD03（第44・66図）



第66図　薬師の森遺跡第6次調査SD02～05土層実測図（1／40）



第67図　薬師の森遺跡第６次調査SD03～05出土遺物実測図（1／3）

調査区中央南側にあり、東西方向にのび、西側は調査区外へと続く。SD09と一連のものである。幅0.5～1.2m、深さ0.23mを測る。埋土は暗褐色土が堆積する。遺物は染付、須恵器、土師器が出土し、近世以降の溝である。

出土遺物（第67図）

土師器（251） 鉢の口縁部で、立ち上がりは外傾して広がる。端部外面を沈線状にくぼませる。内面ハケメ調整で、外面に煤が付着する。

瓦質土器（252） 鉢の口縁部であろう。口縁部は直立し、外面に斜格子目状の文様を施す。

SD04（第44・66図）

調査区西部に位置し、南北方向にのびる。北端はSD05を切り、南端は調査区外へと続く。暗褐色土が堆積する。遺物は青磁、白磁、瓦器、瓦、須恵器、土師器が出土した。

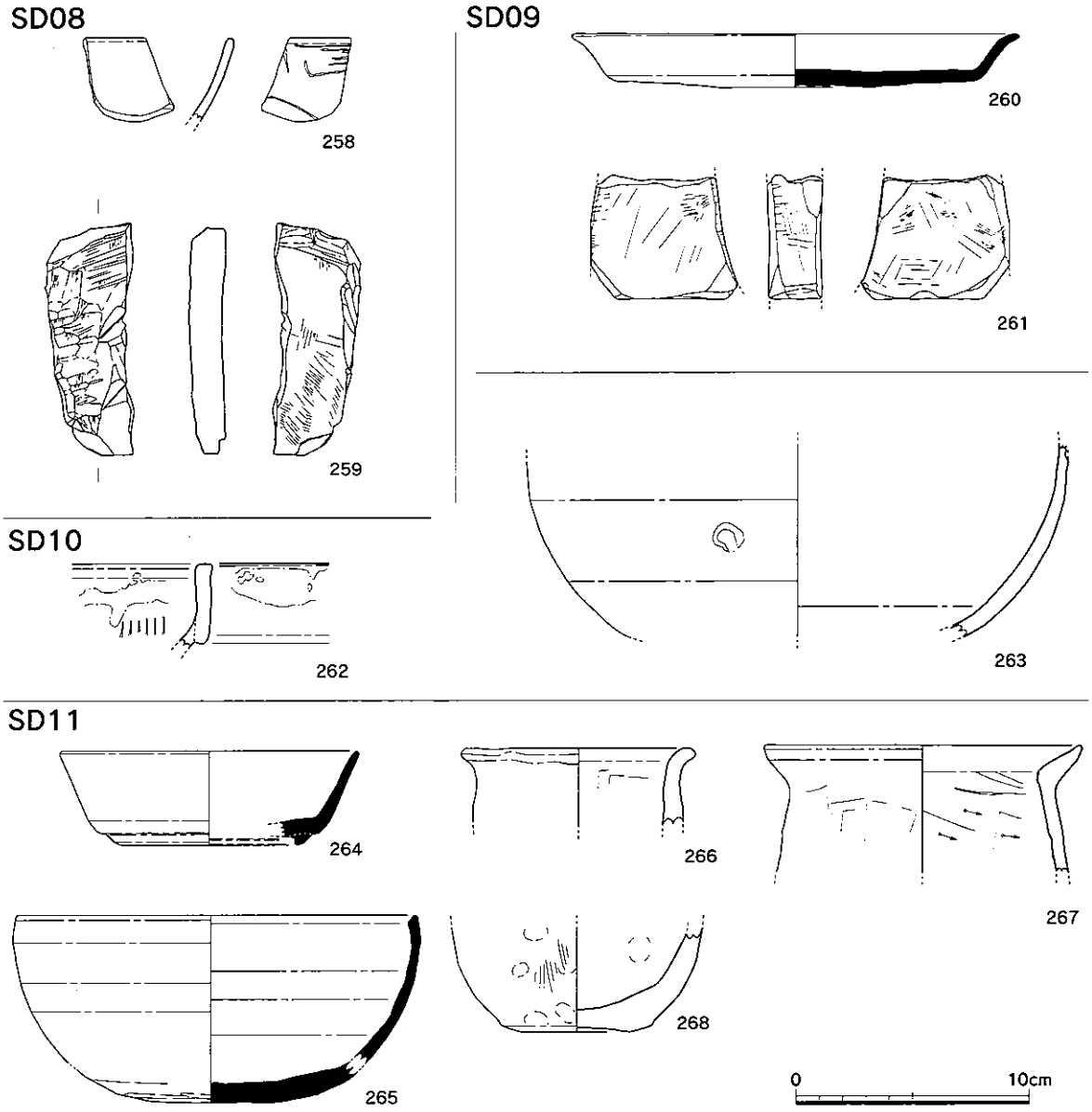
出土遺物（第67図・図版45）

白磁（253） 椀Ⅴ類である。口縁端部は屈折し、上端部は水平にする。内面には口縁下に沈線をめぐらせる。

瓦（254） 平瓦で、凸面に斜格子目タタキを施し、内面に粗い布目痕が残る。

SD05（第44・66図）

調査区西部に位置し、南北方向にのびる。北端はSD07 に切られ、南端はSD04に切られる。暗褐色土が堆積し、遺物は白磁、瓦、須恵器、土師器が出土した。



第68図　薬師の森遺跡第６次調査SD08～11出土遺物実測図（1／3）

出土遺物（第67図・図版45）

須恵器（255） こね鉢の底部である。底部は厚い円盤状を呈する。底部外面の全体に断面三角形の鋭利な工具で多くの刺突を施す。

青磁（256） 同安窯系青磁椀である。底部は露胎となる。Ⅰ類であろうか。

瓦（257） 丸瓦である。凸面に斜格子目タタキを施し、凹面に布目痕が残る。布目は1.5mmほどの縦糸に1.0mmほどの横糸がとおり、横糸は偏りがみられる。

SD08（第59図）

調査区西部に位置し、SX52につらなる。幅0.6～1.4ｍ、深さ0.2ｍを測る。先述したようにSX52との切り合いは不明確で、一連の遺構の可能性がある。埋土は暗褐色土が堆積していた。遺物は須恵器、土師器、鉄製品、滑石製品、安山岩片が出土した。

出土遺物（第68図・図版44）

青磁（258） 椀の口縁部である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、外面の端部付近には雷文を刻む。

石製品（259） 滑石製品である。わずかに反ることから滑石製石鍋の再加工品であろう。内外面ともに鑿の痕跡が残る。

SD09（第44図）

調査区中央南側にあり、東西方向にのび、西側は調査区外へと続く。SD03と一連のものである。遺物は瓦、須恵器、土師器、砥石、鉄滓が出土した。

出土遺物（第68図・図版44）

須恵器（260） 皿である。体部の立ち上がりは外反する。体部に回転ナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面には不定方向のナデを施す。復元口径19.2cm、器高2.25cm、底径15.5cmを測る。

石製品（261） 砂岩製の砥石である。四面は使用の痕跡が残るが、他は欠損する。

SD10（第44図）

調査区中央北側に位置し、北東から南西方向に延びる。長さ3.2m以上、幅0.5～0.8m、深さ0.1～0.2mを測る。南端を削平されるが、SX79・80と一連である可能性もある。遺物は褐釉陶器、瓦器、須恵器、土師器、焼土塊が出土した。

褐釉陶器（262・263） 262は中国陶器の擂鉢である。口縁部は内湾気味に直立し、肥厚する。口縁部内外のみに褐色の釉を施す。擂り目は6本まで確認できる。鉢II－1a類と思われる。263は中国陶器の鉢か水注の胴部片である。内外面とも褐色の釉を施す。胴部の下半には回転ヘラケズリを施す。外面に目跡が残る。

SD11（第43・44図）

調査区西部南側に位置し、第2面で検出した。北北東から南南西方向に、9mにわたってのび、南端は調査区外へ続く。幅1～2.7m、深さ0.5mを測る。両側にテラスがついて中央が一段低くなり、中央部の段落ちの幅は0.5～0.9mである。埋土は暗褐色土が堆積する。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第68図）

須恵器（264・265） 264は杯身である。口縁部は外傾する。復元口径12.8cm、器高4.0cm、復元底径8.2cmを測る。265は鉄鉢形土器である。口縁部は内湾して立ち上がり、端部は内側に傾斜させる。底部は丸底である。底部外面に手持ちヘラケズリを施し、底部内面に不定方向のナデ、他は回転ナデを施す。表面は灰色だが、断面は赤褐色を呈す。復元口径17.3cmを測る。

土師器（266～268） ともに小型の甕である。266は口縁部を外反させる。267は頸部で屈曲させる。内面にケズリを施す。268は底部の破片で平底を呈する。外面にハケメ・ナデ、内面にケズリを施す。

（5）ピット・包含層・その他出土遺物（第69～71図・図版45～48）

SP17出土遺物（第69図）

土師器（269・270） ともに杯である。269は口縁部が内湾気味に立ち上がる。底部外面に回転糸切り痕が残る他は回転ナデ調整。復元口径11.2cm、器高2.85cm、復元底径5.2cmを測る。270は

口縁部が外反してひらく。底部に回転糸切り痕と板状圧痕が残る。他は回転ナデ調整。復元口径13.0cm、器高2.65cm、復元底径7.3cmである。

SP38 出土遺物（第69図・図版45）

砥石（271） 頁岩製の砥石である。一面を除いて使用の痕跡が見られるが、使用度に差がみられる。

SP87 出土遺物（第69図・図版45）

土製品（272） 土錘である。円柱形の中心に4mmほどの孔を穿つ。

SP195 出土遺物（第69図）

石製品（273） 滑石製石鍋の底部片である。内外面とも工具痕が残り、煤が付着する。

SP230 出土遺物（第69図・図版46）

瓦（274） 丸瓦の破片である。凸面に「四王」銘のある斜格子目タタキを施し、凹面に粗い布目痕が残る。「四王」銘の「四」部分はやや欠損するが、おそらく「四王」であろう。二ヵ所で叩き板の叩打が認められる。

SP294 出土遺物（第69図）

土製品（275） 土玉である。直径1.3～1.5cmほどの大きさである。

SP297出土遺物（第69図・図版45）

遺物はSP297を掘削中に検出したが、SP297を掘りすぎて下の包含層の遺物を取り上げている可能性がある。

須恵器（276） 杯B蓋である。かえりは断面三角形状で短い。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他は回転ナデを施す。焼成不良である。

土師器（277） 杯である。立ち上がりは外傾する。内面に暗文を施し、底面付近は螺旋状、側面は放射状に施す。外面にはナデ、手持ちヘラケズリを施す。畿内系の暗文土師器である。

SP323出土遺物（第69図・図版46）

鉄製品（278） 不明鉄製品である。錆が厚く覆う。やっとこ状を呈する。

SP335出土遺物（第69図・図版46）

石器（279） 安山岩製のスクレイパーである。側縁部に刃部を作り出すが、片側には刃部を作り出さない。

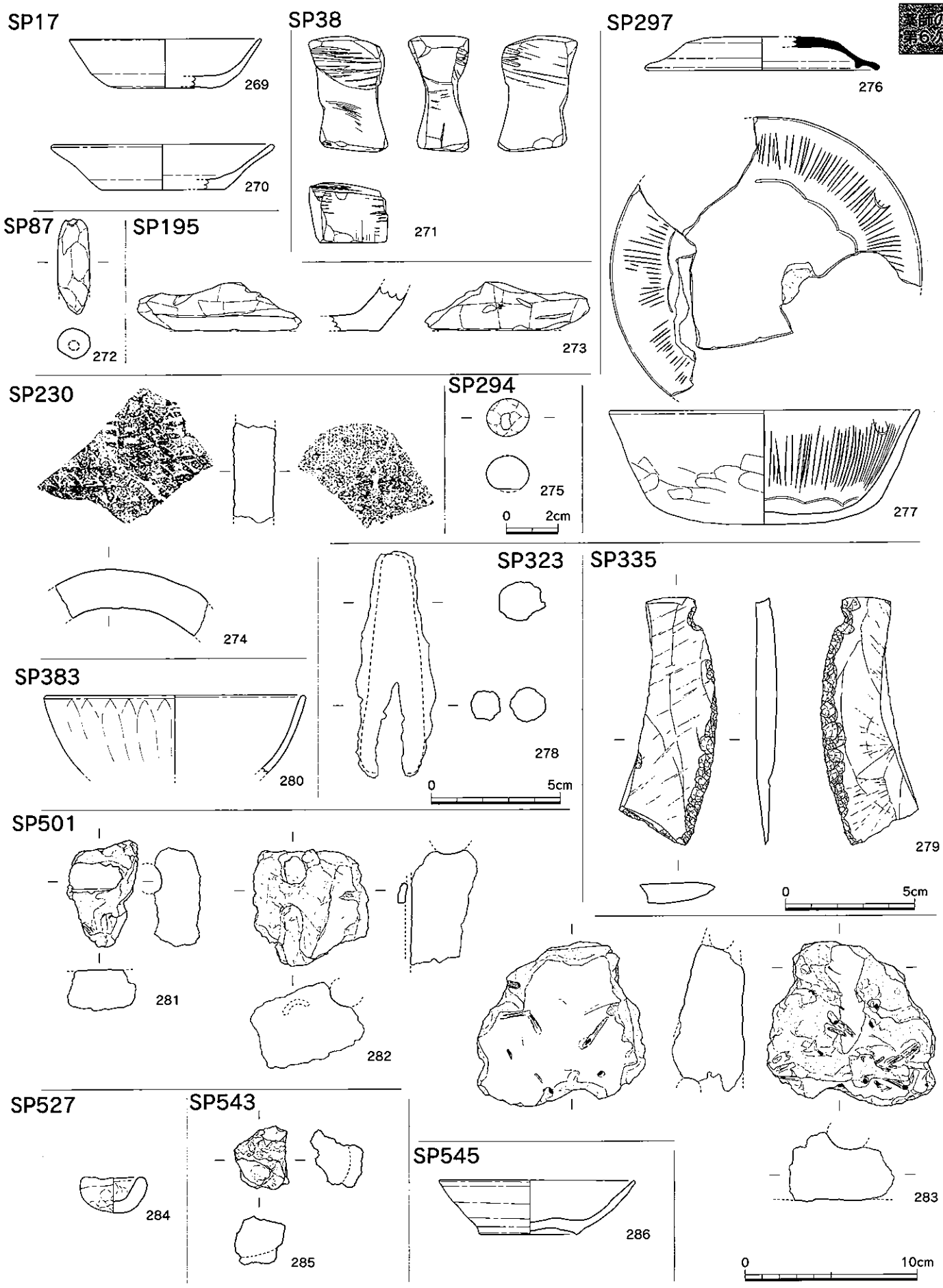
SP383出土遺物（第69図・図版45）

白磁（280） 口縁部は内湾して立ち上がる。外面に鎬連弁状の文様がはいる。復元口径15.2cmである。文様は龍泉窯系青磁Ⅲ類に類似するが、白磁で未分類。

SP501出土遺物（第69図・図版46）

土壁（281～283） 281は面として生きる部分はないが、断面円弧状の芯材痕跡が認められる。282は半裁竹管状の芯材痕跡と断面円弧状の芯材痕跡があり、縦方向に2本、横方向に1本確認できる。半裁竹管が確認できる裏の一面は壁面の可能性がある。283は壁面が残存し、横方向に2本、縦方向に1本の芯材痕跡が認められる。いずれもスサが多く混ぜ込まれ、焼かれた痕跡は認められない。なお、便宜上、縦・横方向として記述しているが、上下左右は不明である。

SP527出土遺物（第69図・図版46）



第69図　薬師の森遺跡第６次調査SP出土遺物実測図
（275・278・279は1／2、他は1／3）

土製品（284） ミニチュア土器で、手づくね成形である。

SP543出土遺物（第69図・図版46）

鉄滓（285） 気泡は少なくメタル分の強い部分と、細かい気泡を多く含む層に分かれる。ともに磁着する。

SP545出土遺物（第69図）

土師器（286） 杯である。体部の立ち上がりは内湾気味に外傾する。底部に回転糸切り痕が残り、他は回転ナデを施す。

包含層出土遺物（第70図・図版47・48）

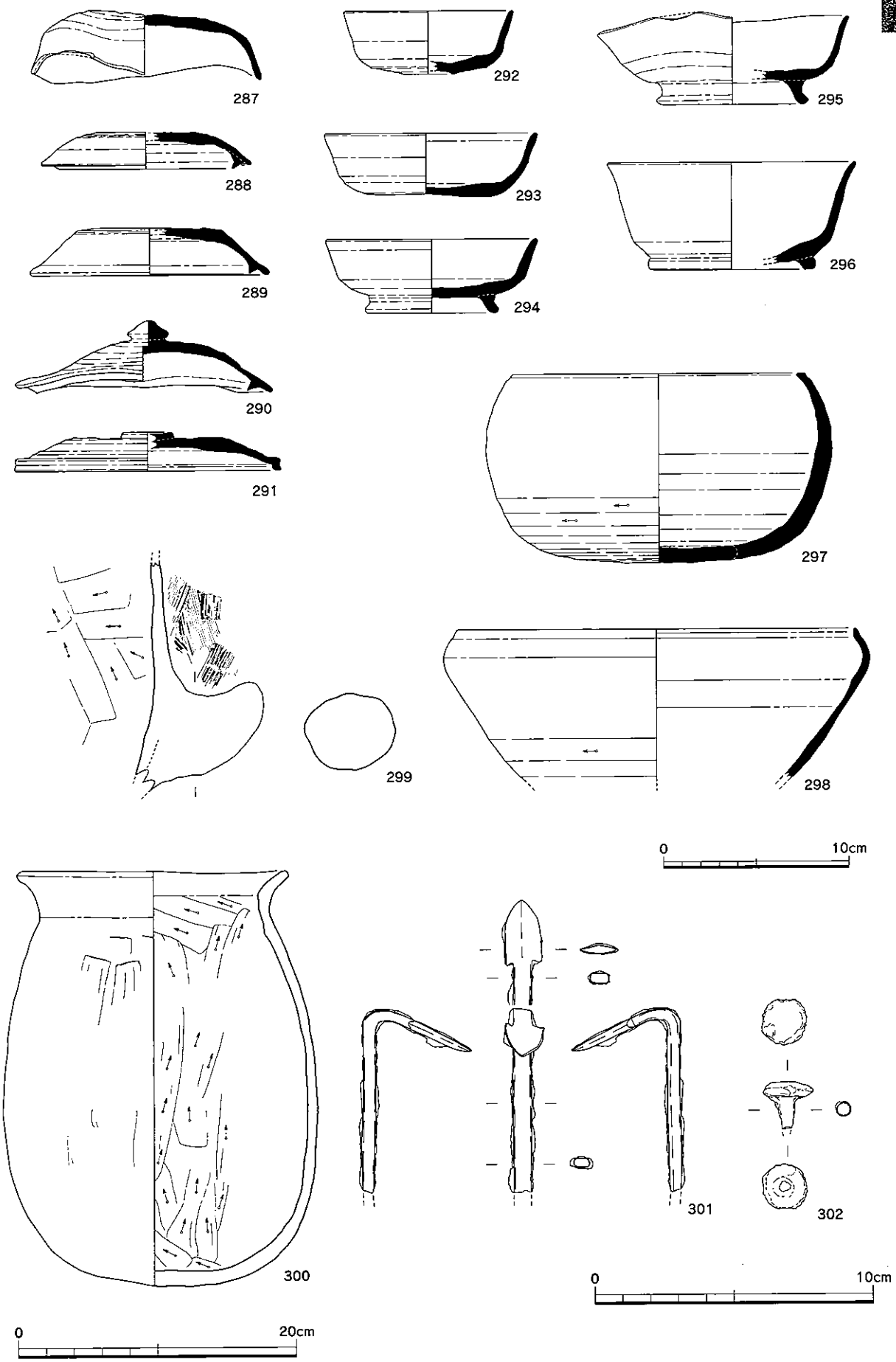
須恵器（287～298） 287は杯H蓋である。口縁端部は丸く収める。天井部外面は回転ヘラ切り後、弱いナデを施す。他は内外面とも回転ナデを施す。焼け歪む。288、289は杯G蓋である。ともにかえりを貼り付け、内傾するようにつまみ出す。288は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。他は内外面ともに回転ナデを施す。復元口径9.5cm、復元受部径12.4cm、器高2.0cmを測る。289はかえりをつまみ出すが、受け部よりも突出しない。天井部は平坦で、回転ヘラ切り後粗くナデを施す。他は内外面ともに回転ナデを施す。復元口径10.8cm、復元受部径13.0cm、器高2.5cmを測る。290は杯B類の蓋である。天井部に扁平な宝珠形のつまみが付く。かえりは低く内傾する。天井部は回転ヘラケズリ後、回転ナデを施し、「w」状のヘラケズリを施す。内面は回転ナデ後、不定方向ナデを施す。291は杯B蓋である。全体的に扁平な形状で天井部にボタン状のつまみが付く。口縁部は下方につまみ出し、外反させる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデを施す。内面は回転ナデ後不定方向ナデを施す。復元口径14.4cm、器高2.1cmを測る。292、293は杯G身である。口縁部は外反気味に立ち上がる。292は底部外面がヘラ切り未調整で、他は内外面ともに回転ナデを施す。復元口径9.2cm、器高3.4cmを測る。293は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。他は回転ナデ調整で、底部内面は不定ナデを施す。復元口径11.5cm、器高3.4cmを測る。294～296は杯B身である。口縁部は外反気味に立ち上がり、294、295の高台は高く、踏ん張るように取り付く。296は高台が低く、断面台形状である。297、298は鉄鉢形土器である。297は口縁部が内湾して立ち上がり、端部上面を平坦にする。器壁は厚く、丸底を呈す。外面は、下半から右回転の回転ヘラケズリを施し、底面にヘラ記号を施す。内面は底部に不定ナデを施し、他は回転ナデである。298は、立ち上がりは外傾して広がり、口縁部付近で内湾し、端部をつまみ上げる。器壁は薄い。底部は欠損するが、おそらく尖底状であろう。底部下半に回転ヘラケズリを施す。

土師器（299・300） 299は甑か鍋の把手である。把手は牛角状を呈し、ユビオサエによる成形である。内面にケズリを施し、外面にハケメを施す。300は甕である。頸部で屈曲して口縁部が外反する。胴部は長胴で、丸底を呈し、内面はケズリ上げ、外面にハケメを施す。

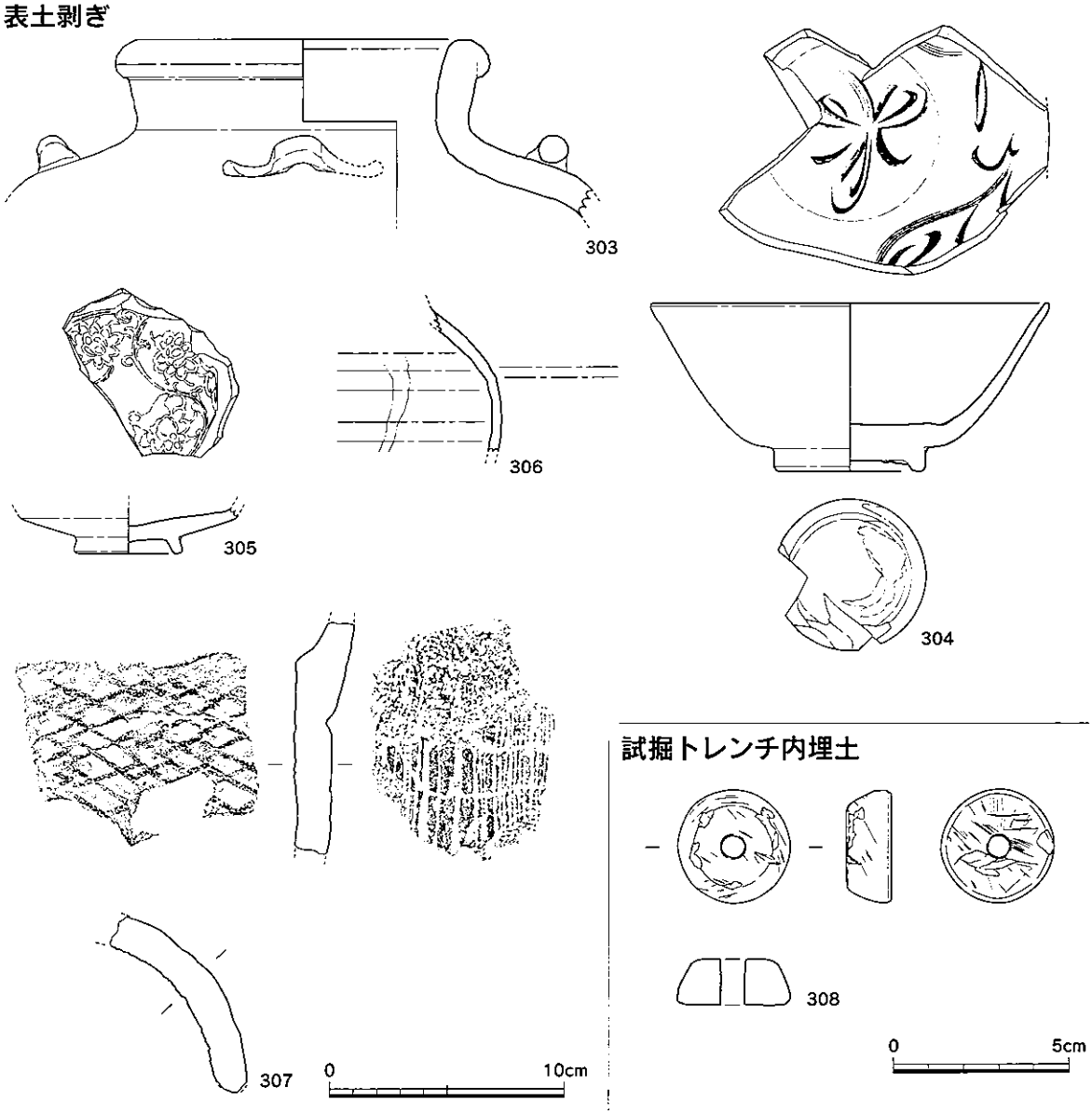
鉄製品（301・302） 301は鉄鏃である。三角形式の長頸鏃で逆刺が入る。頸部が折り曲げられ、頸部下半は欠損する。302は鋲である。円盤形の鋲頭に断面円形の鋲脚が付く。

表土剥ぎ時出土遺物（第71図・図版48）

陶器（303） 四耳壺である。口縁部が直立し、端部は玉縁状である。外面全体に降灰し、内面はにぶい褐色、断面は灰褐色を呈す。胎土は粗い。備前系の陶器であろう。



第70図　薬師の森遺跡第６次調査包含層出土遺物実測図
（300は1／4、301・302は1／2、他は1／3）



第71図　薬師の森遺跡第6次調査表土剥ぎ・その他
出土遺物実測図（308は1／2、他は1／3）

青磁（304） 304は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類である。内側の側面と底面に片彫蓮華文を有す。高台は削り出す。高台と高台内面を除く全体に明オリーブ灰色の釉をかける。一部高台内まで釉がかかり、焼き台の一部が釉着する。

白磁（305・306） 305は枢府系の白磁椀で、底部内面に印花文を型押しする。底部のみの破片であるが、口縁部は屈曲後、外反するタイプのものであろう。胎土は精良な灰白色で、釉は青みを帯びた乳白色を呈す。釉は高台端まで施され、畳付け部分の釉は削り取る。高台内面は削りを施す。306は白磁の耳壺の破片である。肩部の破片で、沈線を二条めぐらす。内外面ともに灰オリーブ色の釉がかけられる。

瓦（307） 丸瓦の破片である。凸面に斜格子目のタタキを施し、凹面に粗い布目と粗い紐を綴じ合わせたような痕跡が残る。

試掘トレンチ内埋土（第71図・図版48）

石製品（308） 滑石製紡錘車である。断面台形で、中央に径7mmの孔をあける。直径3.2cm、高さ1.3cmを測る。

C．小結

薬師の森遺跡６次調査では縄文時代～室町時代の遺物が出土し、飛鳥～室町時代の遺構を検出した。以下、主要な遺構の時期について述べる。

飛鳥～奈良時代

この時期の遺構はSC01とSD11がある。SC01は出土した須恵器からⅦA期（８世紀初頭～８世紀前半）に位置づけられる。SD11はⅦA～ⅦB期（８世紀）に位置づけられる。包含層からは、ⅣB～ⅦB期にかけての遺物が出土する。また、包含層は8世紀以降に堆積したものと考えられる。

平安～室町時代

この時期の遺物は瓦、陶磁器、土師器、瓦器が出土する。平安～室町時代の主な遺構としてSB02～04やSX28・29・34・51、SD08・10がある。SB03は、根石にしていた板碑が15世紀頃のものと考えられるため、建物築造時期はそれ以降と考えられる。同様にSB02やSB04は、ピットから土師器小皿の小片等が出土するため、中世以降に位置づけられる。SX28は出土した朝鮮王朝産陶器から、16世紀後半であろう。SX29は16世紀頃の遺構と考えられる。SX34は15～16世紀頃に位置づけられよう。SX51は15～16世紀頃の遺構であろう。また、SX28・29・34・51は拳大～人頭大の礫が多く出土するなどの共通点が認められる。遺物の出土量は多くないが、廃棄土坑であろうか。SD08は14世紀中頃～15世紀後半で、SD10が13世紀～14世紀前半と考えられる。遺構は基本的に中世後期に位置づけられるものが多い。中世の遺物は古いものは12世紀までさかのぼるが、主要な遺構で12世紀までさかのぼるものはなかった。



薬師の森遺跡第６次調査風景（東から）

雉子ヶ尾遺跡第３次調査

Ⅴ．雉子ヶ尾遺跡第3次調査

A．調査概要

調査地は事業地南側にあたり、大野城市大字乙金120－1ほかに所在する。調査面積は約670㎡である。調査地は四王寺山から西側に向かって派生する丘陵上にあたり、調査前は野球グランドとして整地されていた。旧地形図によると、昭和30年代ごろは小谷や尾根が入りくむ丘陵地であった。九州縦貫自動車道の整備や宅地造成、土取りによって丘陵上部は削平され、当時の景観は殆ど残っていない。調査地もグランドの真下から小谷状の急斜面を検出したような状況であった。

重機により谷部の埋土を除去すると、谷部の地山上(花崗岩バイラン土)に黒色土の遺物包含層が確認できた。平成20年11月19日より作業員を投入し、人力による掘削に平行して、写真・測量により記録をおこなった。平成20年12月3日に包含層の掘削・記録を終了し、機材を撤収、調査を完了した。調査の結果、土坑1基、遺物包含層を確認した。遺物は須恵器、土師器が出土した。

B．遺構と遺物

(1) 土坑

SX01（第73図・図版35・36）

調査区の南側、谷部の西側斜面に位置する。不整形を呈し、南北2.1m、東西1.3mで、床面の凹凸が激しい。遺構というよりは自然の窪地に土が堆積した可能性がある。遺物は須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第75図）

須恵器（309）甕の胴部片である。外面平行タタキ、内面に同心円の当具痕が残る。

土師器（310）甕もしくは甑の口縁部である。口縁部は緩やかに外湾する。調整は摩滅のため不明である。

(2) 谷部包含層

谷部包含層（第74図・図版36）

調査区の南側に入りこむ谷の斜面裾部に堆積した遺物包含層である。標高44.5m付近から42.5mにかけて、最大2.5mの幅で確認した。埋土は黒色粘質土を主体として、所々に灰オリーブ色粘質土層等を含み、厚さ20～40cmほどある。包含層自体は北側に向かって続いていたが、包含層に含まれる遺物量も極めて少なかったため、標高42.5m付近で埋土の掘削を止めた。

出土遺物（第75図）

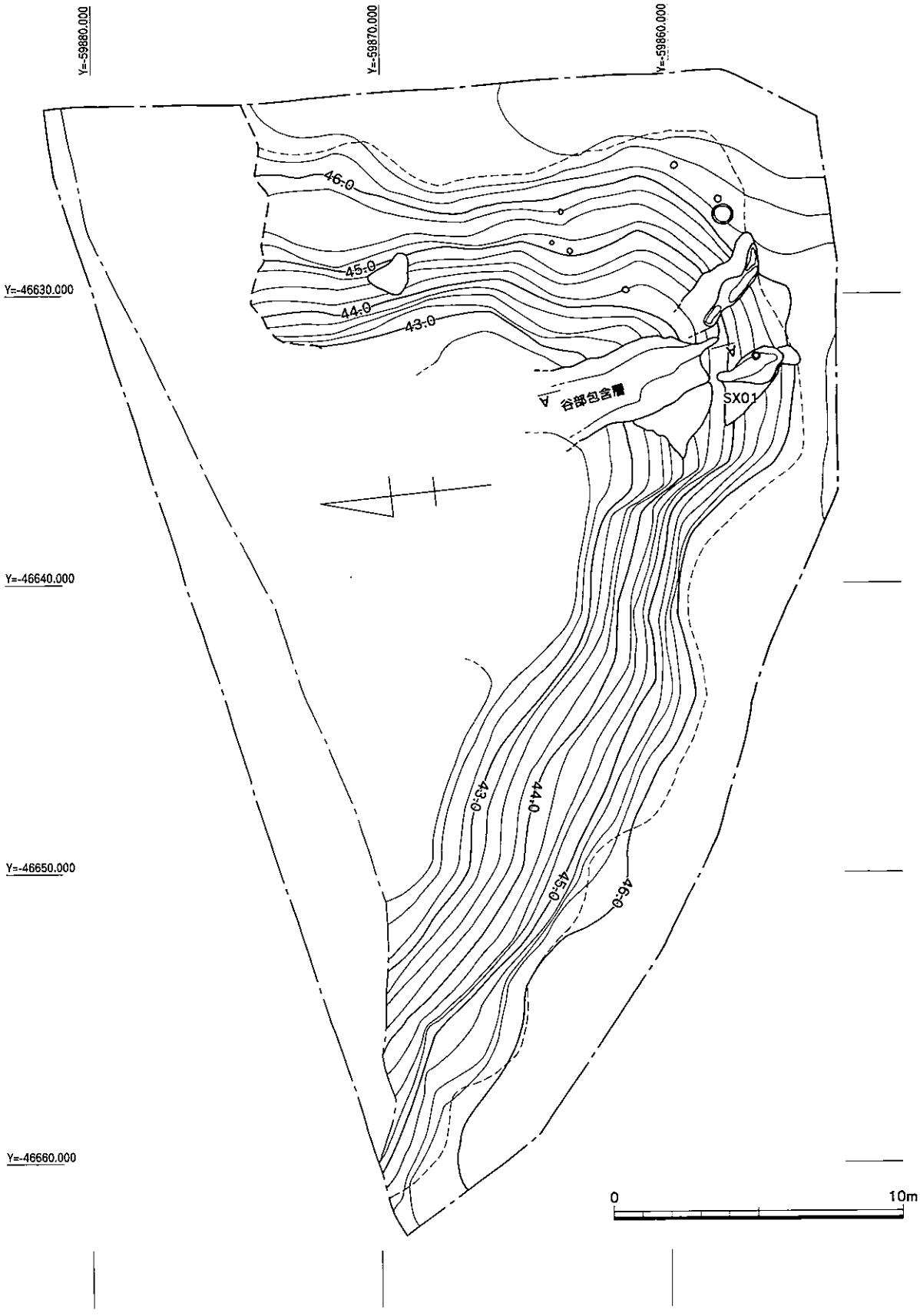
須恵器（311）杯もしくは皿の底部片である。底部外面に回転ヘラケズリを施す。

土師器（312・313）312は甕もしくは壺である。調整は摩滅し不明。313は甕もしくは甑で、口縁部は緩やかに外湾する。口縁部はナデ、体部外面はハケメ、内面にはケズリを施す。

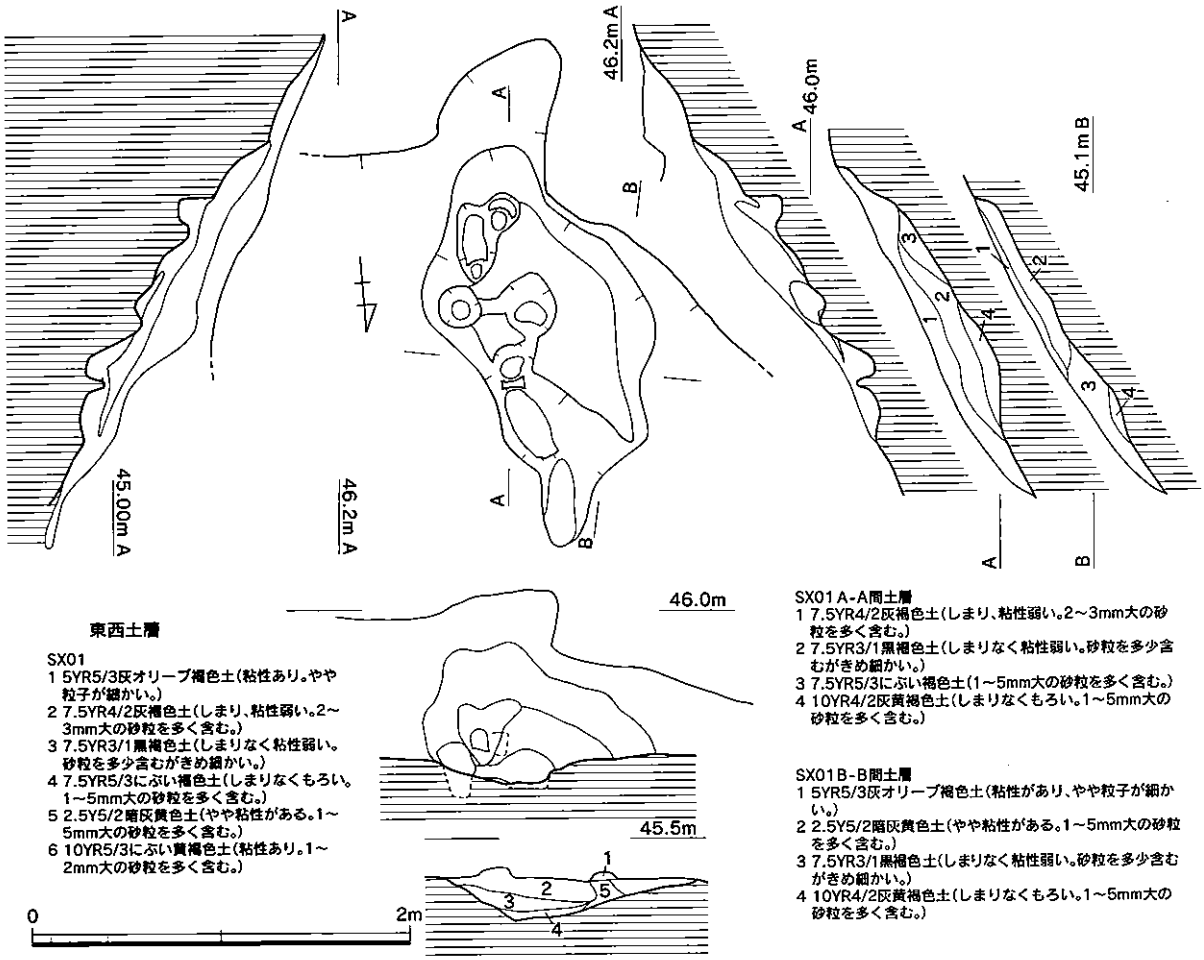
(3) その他遺物

試掘調査時出土（第76図・図版48）

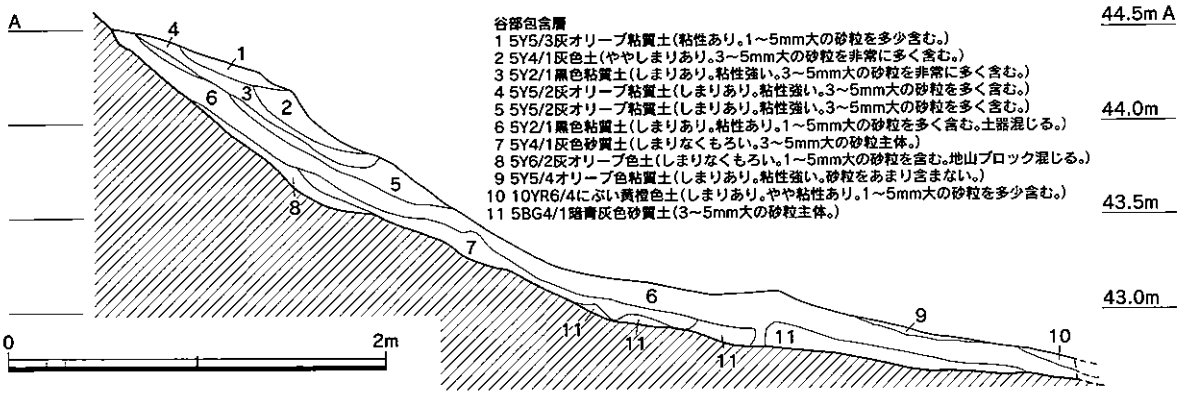
須恵器（314）杯H身で、口縁部の立ち上がりは低く内傾し、底部外面は右回転の回転ヘラケズリ



第72図　雉子ヶ尾遺跡第３次調査遺構配置図（1／200）



第73図　雉子ヶ尾遺跡第３次調査SX01実測図（1／40）

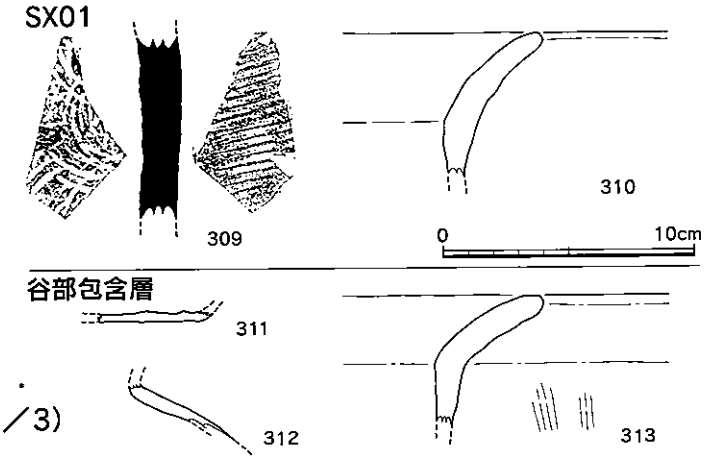


第74図　雉子ヶ尾遺跡第３次調査谷部包含層土層実測図（1／40）

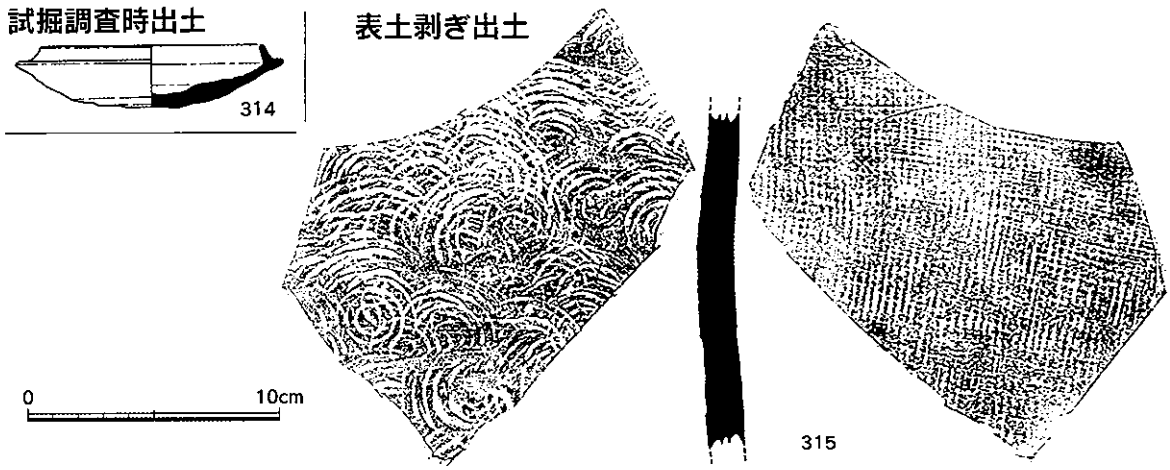
後、ナデを施す。口径8.7cm、受け部径10.6cmを測る。杯蓋の可能性もある。

表土剥ぎ（第76図）

須恵器（315） 甕の胴部片である。外面擬格子目タタキで、内面は同心円の当具痕が残る。



第75図　雉子ヶ尾遺跡第３次調査SX01・谷部包含層出土遺物実測図（1／3）



第76図　雉子ヶ尾遺跡第３次調査試掘調査時・表土剥ぎ時出土遺物実測図（1／3）

C．小結

本調査では土坑・遺物包含層を検出した。SX01で出土した遺物と谷部に堆積する遺物包含層から出土した遺物が接合したことから、遺物は斜面上から流れ込んだものと考えられる。遺物は須恵器、土師器が出土し、時期が分かるものはⅣB～Ⅴ期の杯身があり、７世紀前半から中頃のものと想定できる。他の遺物も同時期のものであろう。したがって包含層の形成時期もそれ以降であろう。

本調査地の周辺では、雉子ヶ尾窯跡や雉子ヶ尾古墳群が調査されている。近接しているが、いずれも丘陵の南側斜面に位置し、北側斜面に位置する本調査地点との直接的な関連性は薄い。雉子ヶ尾窯跡・古墳群の調査報告書によれば、土取りによって丘陵上部が削平される際、古墳時代の住居跡が多数破壊されたようで、これら集落に由来する遺物が流入した可能性も考えられよう。

VI. まとめ

A．薬師の森遺跡第４次調査地の土地利用の変遷

薬師の森遺跡第４次調査地では旧石器～鎌倉時代までの遺構・遺物を確認した。ここでは各時代の主要遺構・遺物について述べ、４次調査地の土地利用の変遷についてまとめる。

旧石器時代

もっともさかのぼる遺物としてナイフ形石器（第41図162）が出土しており、後期旧石器に位置づけられよう。遺構に伴うものとは考えられず、当該期の遺構については不明である。大野城市域においては釜蓋原遺跡や雉子ヶ尾遺跡など乙金山・四王寺山山麓で後期旧石器時代に属する石器が出土しており、本調査地も当時の活動範囲の一部であったと考えられる。

縄文時代

石鏃が多数出土しており、このうち基部のくり込みが深い第41図165・166などは縄文時代早期の所産であろう。明確に遺構と判断できるものはないが、SX13は地山に似た埋土で、他の遺構埋土とは異なっており、調査時の所見では古い時代の埋土と感じた。埋土中から石鏃のほか、剥片・チップがややまとまって出土しており、断定はできないが、当該期の遺構の可能性がある。隣接する薬師の森遺跡第３・７次調査地点で、おとし穴状遺構や押型文土器が出土していることから、縄文時代早期には本調査地が位置する丘陵が狩猟の場として利用されていたと想定できる。

弥生時代

弥生時代の遺物を含む遺構としてSX30・38・56～58や風倒木としたSX39・46があるが、SX30以外は当該期の遺構であるか不明で、性格も不明である。SX30の出土遺物は非常に良好な一括遺物であり、時期は板付II式期に位置づけられる。これについては後述する。また第37図130、133など甕棺と考えられる大型器種が出土している。133は頸部が内傾することや沈線の存在から金海式に位置づけられよう。この他、第40図154も大型の口縁部片で、口縁断面がT字を呈し、城ノ越式のものであろうか。出土遺物からみると、周辺に墓地が形成されていた可能性もあるが、遺構は確認できず、具体的な土地利用の様相は不明である。

古墳時代

SX17・24・26とした竪穴住居があるほか、性格不明の土坑としてSX04～06・16・19がある。竪穴住居は北側緩斜面に集中し、出土遺物の時期やそれぞれが15m程離れて独立していること、主軸方位が同一であることから同時併存していた可能性が高い。出土した須恵器から６世紀中頃(ⅢA期～ⅢB期古相)に位置づけられよう。須恵器が非常に多く、焼け歪むもの・焼けはじけたものがあり、調査地付近に須恵器窯跡が存在する可能性がある。またSX17からは皮袋形須恵器が出土しており、注目できる。これについては後述する。ⅢB期以降の遺物は非常に少なく、集落は短期間で消滅するようである。調査区より北側にどの程度居住域が展開していたかは不明だが、切合がないこ

とや、調査区内で当該期の遺物が少ないことなどから、集落は短期間・小規模なものであったと考えられる。

平安時代

飛鳥～奈良時代の遺構・遺物は確認されておらず、再び活動が確認できるのは平安時代になってからである。当該期でもっともさかのぼる遺構はSX28とした土壙墓で、丘陵尾根に単独で営まれる。遺物の出土状況や埋土の堆積状況から木蓋土壙墓と考える。時期は9世紀中頃～後半に位置づけられる。これと近い時期の遺構としてSX34とした性格不明の土坑があり、出土した土師器から9世紀後半に位置づけられる。これに続いて、土壙墓SX12がつくられる。SX28同様丘陵尾根に単独で営まれており、時期は9世紀末～10世紀初頭に位置づけられる。掘立柱建物のSB04は黒色土器A類椀が出土しており、高台の形状や体部の立ち上がりから10世紀末から11世紀中頃に位置づけられよう。またSB02は主軸方位からSB04と同時並存の可能性あるが、両者の距離が2.5～3mほどと近接することから、軒先を考慮すると同時並存は難しい。主軸方位の同一性や位置からSB02はSB04と前後する時期である可能性が非常に高い。先後関係は不明であるが、建て替えを想定しておく。このほか、SB03はSB02・04と平行し、位置も近接することからSB04と近い時期と考えたい。SB01は細片ではあるが、土師器椀が出土しており、当該期の可能性が高い。またSB05はSX34に後出する。SX14はSB04に後出し、遺構の平面形や深さから、井戸の可能性を考えたが、埋土の堆積状況からは滞水した状況は伺えず、湧水もないため性格は不明である。土師器椀の底部片が出土しており、細片のため時期は確定できないが、当該期に位置づけられよう。以上のように当該期の前半（9～10世紀代）には墓地が二時期にわたって営まれ、後半段階（10世紀末以降）になると居住域が展開していたようである。

平安時代末～鎌倉時代

平安時代の末になると、SX02・27とした土壙墓が営まれる。いずれも龍泉窯系青磁椀Ⅰ類を埋納しており、12世紀中頃～後半に位置づけられる。遺物の出土状況や埋土の堆積状況から、ともに木蓋土壙墓を想定できる。SX01は龍泉窯系青磁椀Ⅱc類が出土している。Ⅱc類のなかでも内面見込みに草花文を施すものは時期的に下るとされており、13世紀中頃～14世紀初頭に位置づけられよう。以上のように、当該期の遺構は墓のみであり、群集せず散在して分布することは特徴的である。薬師の森遺跡3・7・9次調査の成果を併せて考えると、本調査地が位置する丘陵南側では当該期の墓以外の遺構は確認されておらず、12世紀中頃以降13世紀代を通じて墓地が展開する様子がうかがえる。

（上田）

B．薬師の森遺跡第6次調査地の土地利用の変遷

薬師の森遺跡6次調査では主に飛鳥～室町時代の遺構を検出した。以降で6次調査地の土地利用の

様子をまとめる。

出土した遺物を見ていくと、本調査地からは縄文土器やスクレイパーが出土しており、縄文時代の活動痕跡がうかがえる。その後、弥生時代～古墳時代中期までの遺物・遺構はなく、再び遺物が確認できるのは、古墳時代後期以降である。５・８次調査地といった古墳時代後期の竪穴住居を多く検出した地点と近接しているにもかかわらず、古墳時代後期の遺構は確認できなかった。竪穴住居SC01がかなり削平を受けていたことを踏まえると、古墳時代の遺構は削平を受けて失われた可能性もあるが、遺物も非常に少なく、古墳時代後期には集落の周縁部であったと考える。

奈良時代

この時期の主な遺構はSC01とSD11がある。SC01は出土した須恵器からⅦA期に位置づけられる。SD11はⅦA～ⅦB期であろう。奈良時代には集落が展開していたようである。また、包含層からは、ⅣB～ⅦB期にかけての遺物が出土し、８世紀代の溝SD11が包含層下の第２面で検出されていることから、包含層は８世紀以降に形成したものと考えられる。

平安時代

瓦が数点あり、このうち「四王」銘のタタキ目がある丸瓦が出土しており注目できる。瓦はいずれも小片で、とても瓦葺き建物の存在を想定できる出土量ではない。周辺の調査地からも瓦が数点出土しており、当地域の瓦利用の在り方については今後検討する必要がある。

鎌倉～室町時代

本調査地で注目されるのは15～16世紀の遺構・遺物が中心であることで、SB03 やSX28・29・34・51、SD08がおおよそこの時期と考えられ、集落の一部を確認したことになる。薬師の森遺跡では6次調査地以外でも中世の遺構、遺物を多く確認しており、建物・井戸・溝などの生活遺構や墓のほか、水田といった生産遺構がある。現在までの調査では、12～14世紀の遺構・遺物が中心であり、15～16世紀の遺構・遺物はほとんど確認されていない。本調査地で15～16世紀の集落が確認されたことは、乙金地区における集落変遷や中世後期の集落景観を復元するうえで、大きな成果といえる。今後、他の地点の調査成果と合わせて検討することによって、乙金地区の中世集落の変遷や当時の景観が明らかになろう。

(中島)

C．薬師の森遺跡第４次調査SX30について

薬師の森遺跡第４次調査SX30の土坑から弥生土器の良好な一括遺物を検出した。出土状況が非常に良好であることや、市域ではこれまで出土例がなかった貝殻施文土器が含まれる点で注目できる。ここではSX30出土土器の時間的位置づけを行い、さらに遺構の性格について検討したい。

（1）SX30出土土器の時間的位置づけ

SX30から出土した土器のほとんどが壺で、他にほぼ完形品の鉢が１個体、大甕の口縁部片が１個

体ある。本文と重複する部分もあるが、ここではまず主な土器について特徴を述べる。

壺は大型・中型に大別できるほか、短頸壺がある。87は口径30.3cmを測る大型品である。肩部がややはり、頸部は強く外湾して口縁部につながる。頸基部に三角突帯を貼り付け、貝殻により短斜線文を施す。口縁部内面に幅２cmほどの粘土帯を貼り付けて肥厚し、口縁端部は強いヨコナデにより面をなし、凹線状を呈す。非常にシャープな口縁部形態である。88～92は中型品である。88はやや扁球形の胴部で、頸部は曲線的に外湾して、そのまま口縁部につながる。肩部に羽状文と短斜線文を施す。口縁内面は87と同様、粘土帯を貼り付けて肥厚する。粘土帯は幅1.5cmほどである。粘土帯の貼り付けは雑で、断面が丸みを帯びている点や、口縁端部に丸みがある点で、87とは異なり異質である。89は球形胴に、やや直線的に内傾する頸部がつく。口縁部直下は直立し、外側に屈曲して口縁部につながる。頸基部に段状の沈線がある。胴部のミガキは粗く、乾燥が進行していない段階に施したためか器面の凹凸が顕著である。91・92は中型品のうちでもやや小型で、いずれも頸部は緩やかに外湾して立ち上がる。91は口縁部内面に三角形状の粘土帯を貼り付け肥厚する。口縁端部は内外面とも丸みを帯び、シャープさを欠く。98は短頸壺で、球形の胴部に、短く屈曲する口縁部がつく。肩部に三角突帯を貼り付け、二段の羽状文を貝殻により施文する。外面は密なミガキである。104は鉢で、口縁部は緩やかに屈曲し、口縁直下に三角突帯を施す。底部はやや厚くわずかに上底となる。底部の立ち上がりは直立気味で、胴部下半は丸みをもち立ち上がる。内外面粗いミガキで、89と同様に器面の凹凸が顕著である。

以上、主要な土器について概観した。壺の多くは、口縁部・頸部・胴部の境界が曖昧で器形が曲線的である。口縁部外面を肥厚するものはなく、口縁部と頸部の境は段ではなく沈線であることなどから、前期の壺のなかでも新しい様相が伺える。また、87・88・91のように口縁部内面を肥厚する壺がある。口縁部内面を肥厚する壺は板付II式になって出現するものであり、粘土帯の幅が狭いことから古い要素といえる。さらに89は頸部の立ち上がりがやや直線的であることや、頸基部の沈線が段状を呈する点で、古い様相を備えている。これらの特徴から、SX30出土の土器は板付II式の範疇で捉えられる。壺の器形が曲線的なものが主体であることや口縁部外面を肥厚するものがないことから、板付IIa式段階までさかのぼるものではない。また87・88・91などの口縁部内面肥厚粘土帯は幅が狭いことや、89のように頸部が直線的で、頸部・胴部の境界が段状を呈するなど、古い要素をもつものもあるため、前期末までは降らない。したがって、既往の編年と対応すると、吉留秀敏氏の編年の７～８式（註１）、田崎博之氏の編年の⑦式（板付II式中段階）（註２）に位置づけられよう。本資料は遺物の出土状況が良好であることのほか、遺構の切りあいがなく、周囲に同時期の遺構がほとんどないことから、混ざり込みの危険がない点で、非常に良好な一括遺物であることを強調しておきたい。器種構成に甕を欠くが、壺はいくつかのバリエーションがあり、当該期の壺の組成を知るうえで、重要な資料といえる。

（2）遺構の性格

遺物の出土状況を検討すると、完形品の状態で出土したものはなく、すべて破片である。また、正置した状態ではなく、多くが逆位や横位の状態である。土器群は２層から３層上面にかけて出土しており、３層埋没の最終段階で土坑内に一括投棄したものと考えられる。また２層は３層とほぼ同一の土質・土色で、土器群中に流入したような状態であったため、３層の土に由来するものと考える。このほか４・５層は遺構床面上と壁面沿いに堆積しており、自然堆積した状況を示す。埋土は地山に非常に近い土であることから、土坑掘削後周囲の土や壁面の土が流れ込んだものであろう。２・３層上半以外から、遺物はほとんど出土していないが、最下層の５層中で黒曜石製の石鏃・剥片が出土している。石鏃（第41図164）は薄く扁平で、調査地内で出土している他の石鏃とは異質で、弥生時代の石鏃である可能性が非常に高い。したがって遺構の掘削時期は弥生時代以降と考えられる。遺物の出土状況と埋土の堆積状況より、①平面楕円形・断面擂鉢形の土坑を掘削。②遺構は一定期間開放状態であり、この間に４・５層が流入・堆積。③３層が形成され、最終段階で土器群を一括投棄、という遺構の形成過程を復元できる。

次に出土土器の組成であるが、土器のほとんどが壺であり、ほかに鉢１点と大甕の口縁部片が１点出土している。弥生時代早・前期の器種構成の比率を分析した田崎氏によると、当該期の壺の比率は全体のなかで、３～４割ほどであるとする（註２）。これに対し、SX30出土土器は甕を欠き、大半が壺で占められることは、同時期の一般的な土器組成とは大きく異なる。また調査区内で同時期の住居や貯蔵穴といった生活遺構が確認されていないことは、本遺構が単なる日用品の廃棄行為のために営まれたものではないことを示す。

以上、遺物の出土状況と土器の組成についてみてきた。安易に祭祀行為と結びつけることは危険であるが、土器一括投棄については、非日常的な性格を帯びていると想定したい。土坑掘削の契機については、土器一括投棄と時間差があるため、直接関連付けることはできず、不明といわざるを得ない。今回は、本遺構のみの検討に終始したため、同様の調査事例については触れられなかった。今後、同様の事例を分析することにより、SX30の性格を明確にしていきたい。

（上田）

D．薬師の森遺跡第４次調査出土皮袋形須恵器について

薬師の森遺跡第４次調査SX17より皮袋形須恵器の破片が出土した。全国的な集成は愛知県陶磁資料館による図録「装飾須恵器展」（註３）のなかで行われ、48例が知られる。福岡県内については、児玉真一氏（註４）や宮田浩之氏（註５）によって集成され23例26遺跡がある。宮田氏の集成以降、10年が経過し、再度集成を試みたが、福岡県内で出土例が４例増加するにとどまった（27遺跡30例）。福岡県以外については悉皆的な集成を行っていないので全容はわからない。

宮田氏は九州から出土する皮袋形須恵器を、形態・文様によって4段階の変遷にまとめ、大型品から小型品へ、皮の合わせ目や縫目部分の表現の有無の変化、文様の無文化(竹管文→ヘラ書き文→刺

突文→カキ目→無文化)という変化の方向を指摘する。今回出土した皮袋形須恵器は、外面に三角突帯を貼り付け、その両側に竹管文を密に施すもので、皮の合せ目・縫目を忠実に表現する。内面は回転ナデが見られ、ロクロにより作成した杯状のものを二つに折り曲げ成形したと想定される。体部のわずかな破片であるが、厚さ1cmを測り大型品となろう。大型品であることや装飾的な特徴から、宮田氏の1段階にあたる。SX17からは皮袋形須恵器とともに須恵器蓋杯を中心に多くの土器が出土しており、時期はⅢA期～ⅢB期古相に位置づけられる。宮田氏は1段階をⅢB期の古相～新相に比定しており、本資料は宮田氏の変遷や年代観をおおむね追認するものであるが、1段階の皮袋形須恵器が6世紀中頃までさかのぼることが明らかになった点で重要な資料といえる。

県内の分布の様相を見ていくと、福岡平野南部にやや集中する他は各地から散発的に出土する。ただ、一点出土すると同じ小地域から出土することが多く、偏在的なあり方を示す。出土状態がわかるものの大半が古墳からの出土で、副葬品として石室内に納められる場合や、墳丘で破砕される場合もある。その他は窯跡や集落からの出土が稀に見られる。用途は液体を入れたものと考えられ、古墳祭式の場で多く用いられたようである。全国的な分布をみると、中部地方以西を中心に分布し、中でも岐阜や奈良・島根・北部九州に集中する傾向がある。皮袋形須恵器は全国的に見てもほぼ同様の特徴を示すが、モチーフとなった皮袋が同じなのか、同じ技術体系の関係で捉えられるのか不明である。

皮袋形須恵器は、騎馬民族の携帯する革製の容器を模したものといわれる。そのため渡来系の様相を示すものとして捉えられることが多いが、宮田氏や野末浩之氏（註6）も指摘するように今のところ朝鮮半島からは出土していない。皮袋を意識したような異形の土器はあるが、日本の皮袋形須恵器とはかなり隔たりがある。

以上、福岡県内の皮袋形須恵器の集成を行ない、薬師の森遺跡第4次調査SX17出土例の位置づけをおこなったが、分布・時期ともに宮田氏の論考を追認する結果となった。ただし、本資料は、豊富な共伴遺物とともに住居から出土しており、皮袋形須恵器の年代を決定する上で重要な資料といえる。系譜や存在意義など問題は山積みであるが、今後の課題としたい。

(中島)

註

(註1) 吉留秀敏「板付式土器成立期の土器編年」『古文化談叢』第32集　1994年

(註2) 田崎博之「夜臼式土器から板付式土器へ」『牟田裕二君追悼論文集』1994年

(註3) 愛知県陶磁資料館『古代の造形美　装飾須恵器展』図録　1995年

(註4) 児玉真一「皮袋形土器について」『奴山古墳群』津屋崎町文化財調査報告書第3集　1981年

(註5) 宮田浩之「皮袋形須恵器資料集成」『福岡考古』18福岡考古懇話会　1999年

(註6) 野末浩之「特殊須恵器の器種と特徴」『古代の造形美　装飾須恵器展』愛知県陶磁資料館

1995年

(註7) 三輪町教育委員会『乃木松古墳群』三輪町文化財調査報告書第3集　1977年

(註8) 佐賀県立博物館『古代のくらしのなかの器展』図録　1978年

(註9) 久留米市教育委員会『平成16年度久留米市内遺跡群』久留米市文化財調査報告書第211集
2005年

(註10) 高山明編『埋もれていた朝倉文化』—朝高創立60周年記念—　福岡県立朝倉高等学校
1969年

(註11) 宇美町教育委員会『観音浦古墳群』宇美町文化財調査報告書　1981年

(註12) 那珂川町教育委員会『観音山古墳群』那珂川町文化財調査報告書第8集　1982年

(註13) 那珂川町教育委員会『観音山古墳群』那珂川町文化財調査報告書第17集
1988年

(註14) 那珂川町教育委員会『片縄山古墳群』那珂川町文化財調査報告書第61集　2003年

(註15) 大野城市教育委員会『牛頸塚原古墳群』大野城市文化財調査報告書第44集　1995年

(註16) 春日市教育委員会『春日市最新発掘情報』1999年

(註17) 福岡市教育委員会『元岡・桑原遺跡群6』福岡市文化財調査報告書第909集　2006年

(註18) 福岡市教育委員会『羽根戸古墳群6』福岡市文化財調査報告書第915集　2006年

(註19) 前原市立伊都歴史資料館『再見！糸高の博物館』1997年

(註20) 福岡市教育委員会『丸尾古墳』福岡市文化財調査報告書第114集　1985年

(註21) 前原市教育委員会『荻浦』前原市文化財調査報告書第58集　1995年

(註22) 津屋崎町教育委員会『奴山古墳群』津屋崎町文化財調査報告書第3集　1981年

(註23) 児島隆人・藤田等編『嘉穂地方史』—先史編—　1973年

(註24) 穂波町教育委員会『穂波地区遺跡群』穂波町文化財調査報告書第9集　1994年

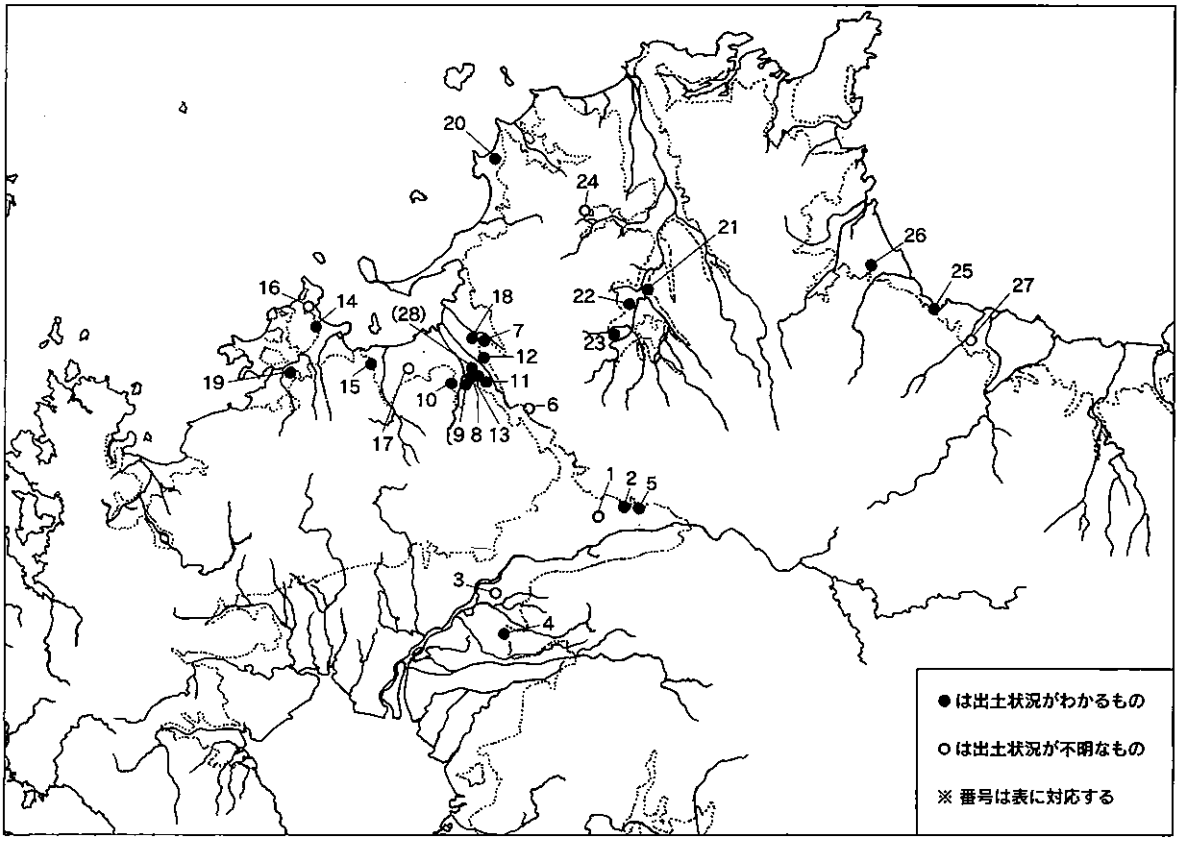
(註25) 豊前市教育委員会『黒部古墳群』豊前市文化財調査報告書　1979年

(註26) 築城町教育委員会『船迫窯跡群』築城町文化財調査報告書第6集　1998年

(註27) 春日市教育委員会『赤井手遺跡』春日市文化財調査報告書第6集　1980年

福岡県内皮袋形須恵器集成表

	遺跡名	所在地	点数	時　期	遺　構	共伴遺物	文　献
1	出土地不詳	朝倉郡筑前町（旧三輪町）	1	6C	不明		註5
2	乃木松古墳	朝倉郡筑前町（旧三輪町）	1	7C	周溝		註7
3	西鳥銚子塚古墳？	久留米市	1	7C	不明		註8
4	浦山24号墳	久留米市	1	7C前半	石室埋土	須恵器	註9
5	大岩西部1号墳	朝倉市(旧甘木市)	1	6C末～	前庭部	須恵器	註10
6	高雄古墳	太宰府市高雄	1	6C末～	不明		註5
7	観音浦17号墳	粕屋郡宇美町	1	7C	石室		註11
8	観音山8号墳	筑紫郡那珂川町	1	6C後半～	石室		註12
9	観音山33号墳	筑紫郡那珂川町	3	6C末～	墳丘・墓道	須恵器・土師器	註13
10	片縄山古墳群白石支群Ⅱ－1号墳	筑紫郡那珂川町	1	7C初～	墓道	須恵器・土師器	註14
11	牛頸塚原15号墳	大野城市	1	6C後半～	周溝	須恵器・土師器	註15
12	薬師の森遺跡4次	大野城市乙金	1	6C中	住居跡		本報告
13	塚原古墳群	春日市塚原台	1	7C	墓道	須恵器	註16
14	元岡石ヶ原古墳	福岡市西区元岡	1	6C中	墳丘	須恵器	註17
15	羽根戸N－16号墳	福岡市西区	1	6C後～7C前	墳丘	須恵器	註18
16	出土地不詳	福岡市西区小田	1	6C末～	不明		註19
17	出土地不詳	福岡市西区野芥	1	6C後半？	不明		註3
18	丸尾古墳	福岡市博多区	1	7C前半～	表採	須恵器	註20
19	石川1号墳	前原市	1	6C後半～	前提部		註21
20	奴山33号墳	福津市(旧津屋崎町)	1	6C後半～	墳丘供献土器群	須恵器	註22
21	川島古墳	飯塚市	1		不明		註23
22	見原2号墳	嘉穂郡穂波町	1		墳丘周辺		註23
23	塚原17号墳	嘉穂郡穂波町	1	6C後半～	周溝	須恵器	註24
24	宮ノ辻古墳	宮若市(旧若宮町)	1		不明		註4
25	黒部2号墳	豊前市	2	6C末～	墓道墳丘下	須恵器・土師器	註25
26	茶臼山東1号窯跡	築上郡築城町	1	6C後半～	窯跡灰原		註26
27	雉隈山遺跡	築上郡新吉富村	1				註3
(28)	赤井手遺跡	春日市	1	4C	18号住居跡	土師器	註27



福岡県内の皮袋形須恵器の分布図

第1表　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
1	土師器	椀	SB01(SP22)	②〈0.7〉	内外面ともに不明瞭	A1mm以下の白色粒を含み、1mm以下の赤色斑点が目立つB良好 C内外.橙7.5YR7/6	
2	須恵器	杯蓋	SB02(SP28)	②〈1.7〉	内面は回転ナデ、外面は回転ケズリ	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰N6/0 外.オリーブ灰 2.5GY6/1	
3	須恵器	杯蓋	SB03(SP06)	②〈1.4〉	内面は回転ナデ、天井部に当て具痕が残る、外面は回転ケズリ	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰N6/0 外.灰5Y5/1	
4	須恵器	壺類	SB03(SP06)	②〈2.6〉	内面は回転ナデ、外面は不明瞭	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内外.灰N6/0	外面降灰
5	黒色土器 A類	椀	SB04(SP10)	②〈3.5〉	内面はミガキ(黒色処理)、外面は回転ナデ	A1mm以下の白色粒を含み、2mm以下の赤色斑点が目立つB良好 C内.黒褐色2.5YR3/1外.にぶい黄橙10YR7/4	
6	黒色土器 A類	椀	SB04(SP24覆方)	②〈2.1〉③〈5.8〉	内面は回転ナデ(黒色処理)、外面は不明瞭	A2mm以下の白・褐色粒を含むB良好C内.黄灰2.5YR4/1外.浅黄橙 10YR8/4	
7	土師器	椀	SB04(SP25)	②〈1.4〉	内外面ともに不明瞭	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰黄褐色10YR5/2外.明黄褐 10YR7/6	
8	黒色土器A 類	椀	SB04(SP10)	②〈1.3〉	外面はナデ、高台の一部にユビオサエ	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内外.明黄褐10YR7/6	
9	土師器	甕	SB05(SP33)	②〈4.7〉	内面口縁部はヨコナデ、頸部はヘラケズリ、外面はハケメ後ナデ	A3mm以下の花崗岩片、褐色粒を含むB良好C内外.橙7.5YR7/6	
10	須恵器	杯蓋	SX17 一段下げ・SX18	①〈11.6〉②4.5	内面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部はヨコナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.緑灰7.5GY6/1	焼け歪み
11	須恵器	杯蓋	SX17 C区黒褐色土	①〈12.4〉②4.6	内面は回転ナデ、天井部の一部にシッタ痕、外面口縁部～天井部は回転ナデと、一部にヘラ状工具擦痕、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰N5/0	
12	須恵器	杯蓋	SX17 B区黒褐色土	①12.2＋α②4.0	内面は回転ナデ、天井部に静止ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の石英粒、白色砂粒を少し含むB良好C内.灰N5/1外. 灰N4/1～6/1	外面にヘラ記号有
13	須恵器	杯蓋	SX17 一段下げ・A・B区 黒褐色土	① 〈11.8〉②4.3	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が目立つ B良好C内.青灰5PB5/1外.灰N5/0～灰白N7/0	
14	須恵器	杯蓋	SX17 B区黒褐色土	①〈12.2〉②4.3	内面は回転ナデ、天井部はヨコナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が目立つ B良好C内.灰白N7/0外.灰N6/0～灰白N7/0	外面にヘラ記号有
15	須恵器	杯蓋	SX17 一段下げ・C区黒褐色土	①12.4②4.7	内面は回転ナデ、天井部に当て具痕残る、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A3mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰N6/0	
16	須恵器	杯蓋	SX17 C区黒褐色土	①〈12.6〉②〈4.1〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰N6/0～N5/0	
17	須恵器	杯蓋	SX17 B区黒褐色土	①〈12.9〉②〈4.2〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の石英粒、微細な白色砂粒を多く含むB良好C内.青灰 5PB5/1外.灰N4/0～7.5Y4/1	外面降灰
18	須恵器	杯蓋	SX17 一段下げA・B区 黒褐色土	①12.5②4.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が目立つ B良好C内外.灰N6/1	
19	須恵器	杯蓋	SX17 一段下げC区黒褐色土	①〈13.0〉②5.1	内面は回転ナデ、天井部にシッタ痕残る、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内.灰N5/0外.灰N4/0	
20	須恵器	杯蓋	SX17 A区黒褐色土	①14.0②4.5	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は手持ちヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰白7.5YR7/1	
21	須恵器	杯身	SX17 B区黒褐色土	①10.3②3.4	内面は回転ナデ、底部静止ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の白色砂粒を少し含むB良好C内.灰N6/0外.オリーブ黒 5Y3/1・灰5Y4/1～浅黄2.5Y7/3	
22	須恵器	杯身	SX17 A区黒褐色土	①〈10.0〉②4.0	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A3mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰N5/0	
23	須恵器	杯身	SX17 一段下げB区黒褐色土	①〈10.5〉②3.5	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点がみられる B良好C内外.灰5Y6/1	
24	須恵器	杯身	SX17 A区黒褐色土	①〈10.2〉②4.2	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A3mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が少数みられる B良好C内外.灰N6/0	
25	須恵器	杯身	SX17 A区黒褐色土	①〈10.0〉②4.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点がみられる B良好C内外.灰N6/0	
26	須恵器	杯身	SX17 B区黒褐色土	①〈11.0〉②4.3	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.灰N6/0	
27	須恵器	杯身	SX17 A区黒褐色土	①〈10.8〉②〈4.4〉	内面は回転ナデ、底部静止ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ	A3mm以下の白色砂粒を少し含むB良好C内.オリーブ灰2.5GY6/1 外.灰N5/0	
28	須恵器	杯身	SX17 C区黒褐色土SX25	①〈10.6〉②4.8	内面は回転ナデ、底部にシッタ痕残る、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は手持ちヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が目立つ B良好C内外.灰7.5Y6/1	
29	須恵器	杯身	SX17 B区黒褐色土	①〈11.6〉②〈4.0〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を多く含み、外面に黒色斑点が目立つ B良好C内外.灰N5/0	
30	須恵器	杯身	SX17 一段下げC区黒褐色土	①〈11.8〉②4.4	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を含み、1mm以下の赤色粒を微量に含み、外面に黒色斑点が目立つB良好C内外.灰7.5YR6/1	
31	須恵器	杯身	SX17 C区黒褐色土	①〈12.0〉②〈3.55〉	内外面ともに回転ナデ	A微細な白色砂粒をわずかに含むB良好C内.灰10Y6/1外.灰10Y6/1 ～N5/0	
32	須恵器	高杯	SX17 一段下げ	①〈8.8〉②〈4.1〉	内面は回転ナデ、外面は回転ナデ、体部に平行沈線2条と櫛状工具による刺突文が施される	A2mm以下の白色砂粒を少し含み、黒色斑点がみられるB良好 C内外.灰10Y6/1	
33	須恵器	盤	SX17 一段下げC区黒褐色土	①〈12.2〉②〈1.9〉	内外面ともに回転ナデ	A2mm以下の石英を少し含むB良好C内.灰5Y5/1外.灰N6/0	内面降灰
34	須恵器	壺	SX17 一段下げB・D区 黒褐色土	①〈18.4〉②〈4.0〉	内外面ともに回転ナデ	A2mm以下の白色砂粒を非常に多く含むB良好C内外.黄灰2.5YR4/1	
35	須恵器	皮袋形 須恵器	SX17 一段下げ	――	――	A3mm以下の白色粒を含むB良好C内.青灰10BG6/1外.黄灰2.5Y4/1	
36	土師器	甑	SX17 A・B区黒褐色土	①〈33.0〉②〈19.8〉	内面口縁部はナデ、体部はヘラケズリ、口縁部付近に一部ユビオサエ残る、外面口縁部はナデ、体部はハケメ・ヘラケズリ、把手部はナデ・ケズリ	A4mm以下の白色粒、褐色粒を多量に含むB良好C内外.橙5YR7/8	
37	土師器	椀	SX17 A区黒褐色土	②〈3.6〉	内外面ともにナデ	A微小な長石を少量含むB良好C内外.橙5YR6/6	
38	土師器	ミニチュア 土器	SX17 A区黒褐色土	②〈3.3〉	内外面ともにナデ	A2mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内外.明黄褐10YR7/6	
39	石製品	紡錘車	SX17 北ベルト黒褐色土	直径4.1高さ1.1孔径0.7	回転擦痕、放射状擦痕	――	滑石製
40	須恵器	杯蓋	SX24黒褐色土	②〈2.1〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰N6/0外.暗オリーブ灰5GY4/1	外面降灰
41	須恵器	高杯	SX24上面	①〈8.6〉②〈2.9〉	内面は回転ナデ、外面は回転ナデ、体部に平行沈線1条と櫛状工具による刺突文が施される	A黒色粒を多く含み微細な砂粒をわずかに含むB良好C内外.緑灰 10GY5/1	
42	須恵器	甕	SX24黒褐色土	②〈7.5〉	内面は同心円当て具痕、外面は平行タタキ後カキメ	A砂粒をあまり含まないB良好C内.緑灰7.5GY6/1外.暗緑灰10GY4/1	
43	須恵器	甕	SX24黒褐色土	②〈15.7〉	内面は同心円当て具痕、外面は平行タタキ後カキメ	A砂粒をあまり含まないB良好C内外.灰　N6/0	
44	須恵器	器台	SX24黒褐色土	②〈6.0〉	内面は回転ナデ、外面はカキメ後1条の沈線と波状文が施される	A微細な黒粒をわずかに含むB良好C内外.灰白5Y7/2	外面降灰
45	土師器	甕	SX24黄褐色土	②〈4.8〉	内面口縁部はヨコナデ、体部はケズリ、外面口縁部はヨコナデ、体部はハケメ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.橙7.5YR6/6	
46	土師器	甕	SX24黒褐色土	②〈3.1〉	内外面ともにナデ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.にぶい黄2.5Y6/4	
47	須恵器	杯蓋	SX26上面D区黒褐色土	①〈12.5〉②4.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の黒色粒を含み、黒色斑点が目立つB良好C内.灰7.5ZY 6/1外.灰7.5Y5/1	
48	須恵器	杯蓋	SX26A区灰褐色土・B区 黄褐色土	① 〈13.4〉②3.5	内面は回転ナデ、外面口縁部～天井部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.灰5N5/0	
49	須恵器	杯蓋	SX26西側ベルト黒褐色土	①〈12.4〉②2.7	内外面ともに回転ナデ	A1mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.青灰5PB5/1	外面ヘラ記号有
50	須恵器	杯身	SX26東側ベルト黒褐色土	①〈10.2〉②3.9	内外面ともに回転ナデ	A黒色斑点が多くみられるB良好C内外.灰オリーブ7.5Y6/2	
51	須恵器	杯身	SX26B区黒褐色土・A区灰褐色 土・B区灰褐色土	①〈10.9〉②4.9	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ	A1mm以下の白色砂粒を含み、黒色斑点が多くみられるB良好 C内外.灰5Y6/1	
52	須恵器	壺	SX26上面西側ベルト 黄褐色土	②〈7.8〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.灰N5/0	
53	須恵器	壺	SX26A・B・D区黒褐色土・B区 灰褐色土	①〈14.0〉②〈10.4〉	内面口縁部は回転ナデ、体部は同心円当て具痕後ナデ消し、外面口縁部は回転ナデ、肩部は平行タタキ後回転ナデ	A2mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.灰10Y6/1	
54	土師器	高杯	SX26A区黒褐色土	②〈2.0〉	摩滅のため不明	A精製B良好C内外.明黄褐10YR7/6	
55	土師器	甑か？	SX26B区黄褐色土	②〈5.8〉	内外面ともに不明瞭	A2mm以下の花崗岩片、1mm以下の白色粒を含むB良好C内.橙 7.5YR7/6外.橙5YR6/8	
56	土師器	甑	SX26R－1	②〈14.8〉	内面はケズリ、外面はハケメ、把手部はユビオサエ・ナデ	A5mm以下の花崗岩片、2mm以下の白色粒を含むB良好C内外.橙 7.5YR7/6	

第1表　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、〈残存値〉	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
57	土師器	鉢	SX26A・B区黒褐色土・R-1周辺	①(20.4)②10.8	内面口縁部はヨコナデ、体部はユビオサエ・ナデ、外面は粗いハケメ、口縁部に接合痕残る	A2mm以下の白色粒を含むB普通C内.明黄褐10YR7/6外.橙7.5YR6/6	
58	弥生土器	壺	SX26A区黒褐色土	②〈4.4〉	記載無し	A3mm以下の花崗岩片、2mm以下の白色粒を多く含むB良好C内外.橙7.5YR7/6	
59	焼土塊	焼土塊	SX26A区黒褐色土	長3.9幅2.9厚さ2.5	―	A5mm以下の花崗岩片を多く含むC橙7.5YR6/6	
60	粘土塊	―	SX26	長2.9幅2.1厚さ2.1	―	A1mm以下の角閃石、雲母、石英、白色粒を多く含むC明黄褐10YR7/6	
61	花崗岩	カマド支脚	SX26	高(17.6)最大幅11.9最大厚9.2	―	―	
62	花崗岩	カマド支脚	SX26	高23.4最大幅10.1最大厚8.0	―	―	
63	青磁	椀	SX01R-1	①15.2～16.1②8.6③5.3	内外面ともに施釉、底部外面はケズリにより露胎、外面には鎬蓮弁文、内面見込みには草花文印刻を施す	A精緻B良好C内外.明緑白	龍泉窯系青磁椀Ⅱ－C類
64	青磁	椀	SX02R-1	①16.2②6.9③6.4	内外面ともに施釉し貫入が多い、高台は露胎で一部釉垂れ、底部外面は回転ヘラケズリ	A精緻B良好C内.明緑灰外.明緑灰露胎.にぶい黄橙10YR7/4	龍泉窯系青磁椀Ⅰ－4a類、底面に墨書
65	鉄製品	小刀	SX02R-2	刃部長21.0刃部幅2.8全長27.8厚0.8	―	―	
66	土師器	杯	SX12R-1	①11.2②2.7③8.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	A2mm以下の白色砂粒を多く含むBやや良C内.にぶい黄2.5Y6/4外.黄灰2.5Y6/1	
67	土師器	杯	SX12R-2	①(12.4)②2.7③9.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB不良C内外.浅黄2.5Y8/3～浅黄橙2.5Y7/4	
68	土師器	杯	SX12	②〈1.2〉③7.4	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB良好C内.灰褐7.5YR6/2外.褐灰7.5YR6/1	
69	青磁	椀	SX27	①16.3②6.6③5.8	内外面ともに施釉し貫入が多い、高台は露胎で一部釉垂れ、底部外面は回転ヘラケズリ、内面体部に片彫蓮花文、内面見込みに花文を施す	A0.5mm以下の砂粒をわずかに含むB良好C内外.淡緑露胎.灰赤10YR6/2	龍泉窯系青磁椀Ⅰ－2a類
70	土師器	杯	SX28R-2	①11.5②3.6③6.1	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	Aほとんど砂 粒を含まない精土B不良C内外.にぶい橙7.5YR7/4	
71	土師器	杯	SX28R-6	①12.4②4.2③6.8	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	Aほとんど砂 粒を含まない精土B不良C内外.浅黄7.5YR7/4	
72	土師器	杯	SX28R-3	①12.9②4.2③5.5	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB不良C内外.にぶい橙7.5YR7/4	
73	土師器	杯	SX28R-5	①13.2②3.8③5.7	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB不良C内外.浅黄橙7.5YR8/4	内面底部に明黄褐10YR7/6の付着物有
74	土師器	杯	SX28R-4	②〈0.9〉	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り	Aほとんど砂粒を含まない精　土B不良C内.灰白7.5Y7/2外.灰5Y6/1	
75	鉄滓	―	SX28R-1	長3.0幅2.6④12.4	―	―	
76	土師器	甕	SX04	①(16.2)②〈6.0〉	内面口縁部は回転ナデ、肩部は同心円当て具痕後ナデ、体部は同心円当て具痕が残る、外面口縁部は回転ナデ、肩部は平行タタキ後ナデ、体部は平行タタキ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むBやや良好C内外.にぶい黄橙10YR4/6	
77	土師器	甕	SX04	①(18.0)②(3.2+13.1)	内面口縁部はナデ、体部はタタキ後ナデ消し、外面口縁部はナデ、体部は平行タタキ	A2mm以下の砂粒をわずかに含むB良好C内外.明黄褐10YR6/6	
78	須恵器	杯蓋	SX05・06	①12.2②3.6	内面は回転ナデ、底部静止ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ	A2mm以下の砂粒をわずかに含むB良好C内.オリーブ灰2.5GY6/1外.緑灰7.5GY6/1	ヘラ記号有
79	土師器	甑	SX05	②〈9.8〉	全面にナデ・ユビオサエ	A4mm以下の白色砂粒を多く含むB良好Cにぶい橙2.5YR6/4	
80	土師器	甑	SX14R-1	①28.6＋α②31.3③孔径(8.3)	内面口縁部はハケメ、把手差込部はケズリ、体部は不明瞭、外面口縁部はナデ、体部はナデ後ハケメ、把手部はナデ	A2mm以下の粗砂を多量に含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4橙5YR6/6外.橙7.5YR7/6	外面一部に煤付着　口縁部に接合痕明瞭に残る
81	土師器	杯	SX14R-1	②〈3.6〉	内外面ともにナデ	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB不良C内外.にぶい黄橙10YR7/4	外面に煤付着
82	土師器	椀	SX14R-1	②〈1.0〉	内面は回転ナデ、外面はナデ(高台剥離)	A1mm以下の砂粒をわずかに含むB良好C内外.浅黄2.5Y7/3	
83	須恵器	杯身	SX16一段下げ	①(12.0)②〈2.9〉	内外面ともに回転ナデ	A3mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.緑灰7.5GY6/1	降灰
84	須恵器	杯身	SX16一段下げ	②〈1.5〉	内外面ともに回転ナデ	A1mm以下の黒色砂粒を含むB良好C内外.灰白2.5Y7/1	
85	土師器	甕	SX16一段下げ	②〈2.9〉	内外面ともにナデ	A3mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.橙5YR6/6外.橙7.5YR7/6	
86	土師器	鉢	SX17一段下げ・SX19R-1・2	①19.8②11.4③7.7	内面口縁部はナデ、体部はケズリ、底部はナデ、外面はナデ	A3mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.橙7.5YR6/8	
87	弥生土器	壺	SX30　2・3層	①30.3②〈12.4〉	内面口縁部端は粘土帯貼り付け後ヨコナデ、頸部はヨコハケメ、肩部はナデ、外面口唇部は刻目を施し、口縁部～頸部はヨコナデ、肩部には連続貝殻斜線文を施す	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.橙5YR7/6	
88	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-2	①16.4②〈14.4〉	内面は丁寧なナデ、口縁部は粘土帯貼り付け後ヨコナデ、外面は口縁部ヨコナデ、体部は丁寧なナデ、肩部に3条の平行沈線と羽状文を施す	A6mm以下の花崗岩片、2mm以下の白色砂粒を含むB良好C内外.淡黄2.5YR8/4	黒斑有
89	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-9	②〈19.6〉	内面は不明瞭、外面頸部はタテ・ナナメ方向の工具ナデ、体部はミガキ	A3mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.浅黄橙10YR8/4	
90	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-10	②〈8.0〉	内面はユビオサエ、外面はナデ、肩部に2条の平行沈線を施す	A2mm以下の花崗岩片を多く含むB良好C内.黄橙10YR8/6外.浅黄橙10YR8/4	
91	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-13	①(16.4)②〈6.1〉	内面は不明瞭、外面はナデ	A2mm以下の白色砂粒を非常に多く含むB不良C内外.明褐7.5YR5/8	
92	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-10	①(14.6)②〈6.6〉	内面はヨコハケメ、外面はタテハケメ	A2mm以下の花崗岩片を多含むB良好C内外.浅黄橙10YR8/4	
93	弥生土器	大甕	SX30　黄色土	②〈6.0〉	内面はミガキ、外面口唇部は刻目を施し、頸部はヨコナデ・ハケメ	A3mm以下の花崗岩片を多く含むB良好C内.灰N4/0外.浅黄橙10YR8/3	
94	弥生土器	壺 or 甕	SX30　2・3層	②〈1.2〉	内面はヨコナデ、外面口唇部は刻目を施し、体部はヨコナデ	A1mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.浅黄橙7.5YR8/4	
95	弥生土器	壺 or 甕	SX30　2・3層	②〈1.6〉	内面はヨコナデ、外面口唇部は刻目を施し、体部はヨコナデ	A1mm以下の砂粒、雲母を多く含むB良好C内外.浅黄橙10YR8/4	
96	弥生土器	壺	SX30	②〈3.1〉	内面は不明瞭、外面はナデ、肩部に1条の平行沈線と連続斜線文を施す	A3mm以下の白色砂粒を非常に多く含むB良好C内外.浅黄5YR7/4	
97	弥生土器	壺	SX30	②〈6.2〉	内面は不明瞭、外面はナデ、肩部に2条の平行沈線を施す	A3mm以下の白色砂粒をに多く含むB良好C内.にぶい橙7.5YR6/4外.橙7.5YR7/6	
98	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-16	①(15.2)②〈15.0〉	内面口縁部は回転ナデ、外面口縁部は回転ナデ、肩部は有軸貝殻羽状文と4条の平行沈線を施し、体部はヨコミガキ	A3mm以下の白色・透明砂粒を多く含むB良好C内外.黄橙10YR7/8	
99	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-15	②〈17.6〉③10.6	内面は不明瞭、外面体部はミガキ、底部はナデ	A2mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.黄橙10YR7/4	
100	弥生土器	壺 or 甕	SX30　2・3層R-8	②〈18.7〉③(13.0)	内面は不明瞭、外面体部はヘラナデ、底部はハケメ後工具ナデ、底面は工具ナデ	A5mm以下の白色砂粒を多く含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4	
101	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-1	②〈8.0〉③9.2	内面は不明瞭、外面体部ミガキ底部ユビオサエ後工具ナデ底面ナデ	A5mm以下の白色砂粒を非常に多く含むB不良C内外.灰白5Y8/2	
102	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-4	②〈6.3〉③8.2	内面体部は工具ナデ、底部はユビオサエ、外面体部はハケメ、底部はナデ	A3mm以下の砂粒、雲母片を多く含むB良好C内外.浅黄橙7.5YR8/4	
103	弥生土器	壺	SX30　2・3層R-14	②〈16.0〉③(10.0)	内面はナデ、外面はミガキ	A2mm以下の粗砂粒を多く含むB良好C内.浅黄橙10YR8/4外.灰オリーブ7.5YR5/2	底面に圧痕有
104	弥生土器	鉢	SX30　2・3層R-7	①33.2②22.3③10.3	内面口縁部は雑なヨコナデ、体部は工具ナデ後ヨコミガキ、外面口縁部は雑なヨコナデ、体部はタテハケ後斜め方向ミガキ、底部はミガキ	A4mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.にぶい橙7.5YR7/4	外面に黒斑有
105	須恵器	杯身	SX34黒褐色土	②〈3.6〉	内面口縁部～底部は回転ナデ、底部は当て具痕後ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ、体部にヘラ擦痕残る	A1mm以下の砂粒を少し含むB良好C内.灰N4外.灰N5	
106	土師器	杯	SX34黒褐色土R-1	①(9.6)②1.8③6.0	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部はヘラ切り後板状圧痕	A3mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.橙7.5YR7/6外.浅黄橙10YR8/4	
107	土師器	杯	SX34一段下げ	②(1.8)③7.2＋α	内面は回転ナデ、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部に板状圧痕	A3mm以下の石英粒を少量含み、微小白粗砂を多く含むB良好C内.浅黄橙10YR8/4外.浅黄橙7.5YR8/4	
108	土師器	杯	SX34黒褐色土R-1	①(11.9)②3.7③8.6	内面は不明瞭、外面口縁部～底部は回転ナデ、底部は板状圧痕後ナデ	A3mm以下の石英粒を多く含む、微小雲母・長石を多く含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4外.にぶい黄橙10YR7/4、橙7.5YR7/6	
109	土師器	椀	SX34一段下げ	②(1.9)③(5.9)	内外面ともに不明瞭	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.浅黄橙10YR8/4	
110	土師器	椀	SX34黒褐色土	②(1.8)③(7.4)	内面は回転ナデ・ナデ、外面は回転ナデ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4	

第1表　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、〈残存値〉	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
111	土師器	甕	SX34黒褐色土	①〈15.5〉②〈4.8〉	内外面ともにナデ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/3、橙7.5YR7/6	
112	土師器	甕	SX34黒褐色土	②〈5.6〉	内面口縁部はヨコナデ、頸部はヘラケズリ、外面口縁部はヨコナデ、頸部はハケメ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.にぶい黄橙10YR6/3、黒褐2.5Y3/1外.にぶい黄橙10YR7/3、褐灰10YR5/1	
113	土師器	甕	SX34黒褐色土	②〈4.6〉	内面口縁部はヨコナデ、頸部はヘラケズリ、外面口縁部はヨコナデ、頸部はハケメ、頸部にユビオサエ残る	A3mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4外.にぶい黄橙10YR7/4	
114	須恵器	甕	SX47	②〈15.2〉	内面は平行当て具痕後丁寧なナデ、外面は平行タタキ	A5mm以下の白色礫、灰色礫を含むB良好C内.オリーブ灰2.5GY6/1外.灰N5/0	
115	須恵器	甕	SX47	②〈12.1〉	内面は平行当て具痕後ナデ、外面は疑格子タタキ後ナデ	A3mm以下の花崗岩片を含むB良好C内.にぶい橙7.5YR7/4外.にぶい橙7.5YR6/4～黄橙7.5YR7/8	
116	土師器	甕	SX47	②〈3.4〉	内外面ともに不明瞭	A3mm以下の花崗岩片を含むB良好C内.にぶい橙7.5YR7/4外.にぶい橙7.5YR6/4～黄橙7.5YR7/9	
117	土師器	椀	SX47褐色土	②〈2.6〉③7.0	内面は回転ナデ、外面は回転ナデ、高台部はナデ付け、底部板状圧痕	A3mm以下の白色粒、花崗岩片を含むB良好C内外.黄橙10YR7/4	
118	黒色土器 A類	椀	SX47	②〈2.6〉③〈6.4〉	内面は回転ナデミガキ(黒色処理)、外面は不明瞭、高台部はナデ付け	A4mm以下の花崗岩片を含むB良好C内.黒褐2.5Y3/2外.浅黄橙7.5YR8/7	
119	黒色土器 A類	椀	SX47一段下げ	②〈1.5〉	内外面共に不明瞭(黒色処理)	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰5Y4/1外.浅黄橙7.5YR8/5	
120	黒色土器 A類	椀	SX47一段下げ	②〈1.1〉	内外面共に不明瞭(黒色処理)	A1mm以下の白色粒を含むB良好C内.黄灰2.5Y4/1外.明黄褐10YR7/6	
121	弥生土器	壺	SX38	②〈2.0〉	内面は不明瞭、外面はヨコナデ	A3mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内.浅黄橙7.5YR8/6外.浅黄橙10YR8/4	
122	弥生土器	壺	SX38	②〈6.0〉	内面はナデ、一部にユビオサエ残る、外面はヨコナデ	A3mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内.浅黄橙10YR8/4外.明黄褐10YR7/6	
123	黒色土器 A類	椀	SX50上面	②〈3.3〉③〈8.1〉	内外面共に不明瞭、底部に板状圧痕	A微細な白色粗砂少量含むB良好C内.灰10YR4/1～暗灰10Y3/1外.橙7.5YR7/6	
124	黒色土器 A類	椀	SX53	②〈2.5〉	内面はミガキ、外面は回転ナデ	A1mm以下の石英、粗砂を多く含むB良好C内.黒褐2.5Y3/1外.橙7.5Y7/6	
125	弥生土器	甕	SX56上面	②〈9.4〉③〈5.6〉	内面はナデ、外面はナデ後ハケメ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.灰5Y5/1外.褐灰10YR5/1、にぶい黄橙10YR7/4	
126	弥生土器	壺	SX56上面	②〈6.3〉	内面？、外面は1条の沈線、無軸貝殻羽状文を施す	A2mm以下の石英粒を多く含むB良好C内外.明黄褐10YR7/6	
127	弥生土器	壺	SX56上面	②〈5.6〉	内面はナデ、外面体部はミガキ、肩部に1条の平行沈線、連続斜線文を施す	A1mm以下の石英粒を多く含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4	
128	土師器	甕	SX57上面	②〈5.9〉	内面口縁部はナデ、頸部はヘラケズリ、外面口縁部はナデ、頸部はハケメ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.橙7.5YR6/6、にぶい黄橙10YR7/4	
129	弥生土器	壺 or 蓋	SX57上面	②〈3.2〉	内面は不明瞭、外面口縁部はヨコナデ、頸部はハケメ	A3mm以下の石粒を多く含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4外.橙7.5YR6/6	
130	弥生土器	甕	SX57上面	②〈2.6〉③〈19.4〉	内面は不明瞭、外面は不明瞭、一部ユビオサエ	A3mm以下の砂粒を多く含む、10mm程度の小礫を極微量含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4.灰黄褐10YR6/2外.にぶい黄橙10YR7/4	
131	弥生土器	甕	SX58	②〈3.5〉	内面は不明瞭、外面口縁部はヨコナデ、口縁端部に刻目を施す、他はミガキ	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4、灰N4外.橙7.5YR7/6	
132	弥生土器	甕	SX58	②〈5.6〉	内面はミガキ、外面はミガキ、1条の平行沈線を施す	A2mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.明黄橙10YR7/6	
133	弥生土器	甕	SX58	②〈12.2〉	内面は不明瞭、外面はミガキ、1条の平行沈線を施す	A3mm以下の粗砂、微細な粗砂を多く含むB良好C内.浅黄橙10YR8/4外.明黄褐10YR7/6	
134	土師器	椀	SX62	②〈1.6〉③〈6.9〉	内外面ともに回転ナデ	A微細な白色粗砂微少に含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4.明黄褐10Y7/6	
135	土師器	杯	SX65一段下げ	②〈1.4〉	内外面ともに回転ナデ	A微細な粗砂微少に含むB良好C内外.淡黄2.5Y8/3、明黄褐10Y7/6	
136	土師器	杯	SP16	①11.0②4.6③8.0	内外面ともに回転ナデ、底面はヘラ切り	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内外.にぶい橙10YR7/4	
137	黒色土器 A類	椀	SP29	①〈14.4〉②5.9③7.6	内面は回転ナデ後横位ヘラミガキ(黒色処理)、外面は回転ナデ、高台はナデ付け、底部はヘラ切り	A1mm以下の白色粒を少量含むB良好C内.黒褐2.5YR3/1外.橙5YR6/6底部.明黄橙10YR6/6	
138	土師器	椀	SP41	②〈1.5〉③〈7.2〉	外面は回転ナデ	A2mm以下の黒色粒、0.5mm以下の赤色粒を含むB良好C内.褐灰10YR5/1外.灰10YR7/4	高台内黒斑有
139	土師器	椀	SP49周辺一段下げ	②〈2.4〉③〈7.0〉	内面は回転ナデ、外面は高台ナデ付け、底部はヘラ切り	A3mm以下の花崗岩片、赤褐色粒を含むB良好C内.明黄橙10YR7/6外.橙7.5YR7/6	
140	土師器	甑	SX23上面	②〈4.5〉	外面はナデ、一部にユビオサエ	A3mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内外.橙7.5YR7/5	
141	弥生土器	甕	SX39	②〈2.4〉	内面はヨコナデ、外面は不明瞭	A3mm以下の白色粒を多く含むB良好C内外.明黄橙10YR6/6	
142	弥生土器	壺	SX39	②〈2.6〉	内面は不明瞭、外面はヨコナデ	A2mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内外.にぶい橙7.5YR6/4	
143	弥生土器	壺	SX39	②〈2.3〉	内面はナデ、外面はヨコナデ、突帯部に刻目を施す	A2mm以下の白色粒を多く含むB良好C内.橙7.5YR7/6外.橙7.5YR6/6	
144	弥生土器	壺	SX39	②〈4.7〉	内面はナデ、外面羽状文平行沈線ミガキ	A3mm以下の白色・褐色粒を多く含むB良好C内外.黄橙10YR8/6	
145	弥生土器	壺	SX39	②〈2.9〉	内面はナデ、外面は無軸貝殻羽状文を施す	A3mm以下の白色粒を含むB良好C内外.橙7.5YR7/6	
146	弥生土器	壺	SX46	②〈2.4〉	内面は不明瞭、外面はヨコナデ	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内外.橙7.5YR7/6	
147	弥生土器	壺	SX46	②〈1.8〉	内外面ともにナデ	A3mm以下の白色粒を含むB良好C内外.浅橙10YR8/4	
148	弥生土器	壺	SX46	②〈1.7〉	内面は不明瞭、外面は2条の平行沈線後斜位平行沈線文を施す	A3mm以下の白色粒を含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4	
149	弥生土器	壺	SX46	②〈3.8〉	内面は不明瞭、外面はヨコナデ	A2mm以下の白色粒を多く含むB良好C内.橙7.5YR7/6外.にぶい橙7.5YR7/4	
150	弥生土器	壺	SX46	②〈5.1〉	内面はナデ、外面はナデ、肩部に3条の平行沈線を施す	A2mm以下の白色・黒色粒を含むB良好C内外.にぶい黄橙10YR7/4	
151	弥生土器	壺	SX66横の撹乱	②〈7.6〉③〈9.6〉	内面はナデ、外面は不明瞭	A3mm以下の砂粒を多量に含む、細かい粗砂多量に含むB良好C内.にぶい黄橙10YR7/4外.にぶい黄橙10YR7/4.黄橙7.5YR7/8	
152	須恵器	甕	H3グリッド	②〈6.8〉	内面は回転ナデ、外面頸部は波状文を施し、体部は回転ナデ	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内.灰7.5YR6/1外.灰10YR4/1	
153	須恵器	器台？	表採	②〈3.6〉	内外面回転ナデ	A2mm以下の白色粒を含むB良好C内外.オリーブ灰2.5GY7/1	
154	弥生土器	甕	南東側調査区外　表採	②〈4.6〉	内外面ともに不明瞭	A3mm以下の砂粒を多く含むB良好C内外.明黄褐10YR6/6	
155	白磁	椀	H2グリッド	②〈2.9〉③〈5.6〉	内面は施釉、外面は回転ケズリにより露胎	A1mm以下の白色粒、褐色粒を含むB良好C施釉.灰オリーブ5Y6/2露胎.浅黄2.5Y7/2	
156	青磁	椀	排土	②〈2.9〉③5.4	内外面は施釉、外面は回転ケズリにより露胎	A1mm以下の白色粒、褐色粒を含むB良好C施釉.灰白10Y7/1露胎.にぶい黄橙10YR6/4	同安窯系青磁椀
157	瓦	平瓦	I11グリッド	長〈12.0〉幅〈8.6〉厚1.5	凹面は布目圧痕後ナデ、凸面は斜格子目平行タタキ後ナデ、側面はヘラ切り	A2mm以下の黒色粒を多く含むB良好C凹.にぶい黄橙10YR6/3凸.にぶい黄橙10YR7/4	
158	瓦	平瓦	K15グリッド	長〈12.0〉厚3.0	凹面は布目圧痕、凸面は斜格子目平行タタキ	A3mm以下の花崗岩片、1mm以下の黒色粒を含むB良好C凸.明黄褐10YR7/6凹.にぶい黄橙10YR7/4	
159	鉄滓	椀形滓	G3グリッド	長3.7幅2.9厚2.2	――	――	
160	鉄器	刀子？	表土剥ぎ	長〈4.4〉	――	――	
161	土師質	円盤状 土製品	遺構検出中	長〈5.7〉最大厚0.68	――	A3mm以下の花崗岩片を多く含むB良好C内.黄橙10YR7/8外.明黄橙10YR6/8	
162	石器	ナイフ形 石器	SX44	全長3.4最大幅1.2最大厚0.6④1.8	――	――	安山岩
163	石器	細石刃？	L10グリッド	全長1.85最大幅7.5最大厚2.5④0.3	――	――	黒曜石(腰岳産)
164	石器	石鏃	SX30　5層	全長2.8最大幅2.2最大厚0.38④1.4	――	――	黒曜石(腰岳産)
165	石器	石鏃	L13グリッド	全長3.4最大幅(1.9)最大厚0.43④1.4	――	――	黒曜石(腰岳産)
166	石器	石鏃	J3グリッド	全長3.0最大幅1.8最大厚0.42④1.1	――	――	黒曜石(腰岳産)

第1表　薬師の森遺跡第4次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※〈復元値〉,(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
167	石器	石鏃	SX45	全長2.3最大幅(1.6) 最大厚0.4④1.0	—	—	黒曜石（腰岳産）
168	石器	石鏃	SX13	全長2.1最大幅(2.0) 最大厚0.32④0.7	—	—	黒曜石（腰岳産）
169	石器	石鏃	J10グリッド	全長1.9最大幅(1.7)④0.7	—	—	黒曜石（腰岳産）
170	石器	石鏃	L13グリッド	全長2.1幅0.9最大厚0.5 ④0.7	—	—	黒曜石（腰岳産）
171	石器	石鏃	G4グリッド	全長3.0最大幅1.9 最大厚0.42④1.3	—	—	黒曜石（腰岳産）
172	石器	石鏃	SX35	全長1.9最大幅(1.7) 最大厚0.42④0.7	—	—	黒曜石（腰岳産）
173	石器	石鏃	H4グリッド	全長2.1最大幅(1.8) 最大厚0.38④0.7	—	—	黒曜石（灰色を呈す）
174	石器	石鏃	J9グリッド	全長1.6最大幅2.0 最大厚0.34④0.9	—	—	黒曜石（腰岳産）
175	石器	石鏃	K8グリッド	全長1.6④0.3	—	—	黒曜石（腰岳産）
176	石器	石鏃	SX64	全長1.0最大厚0.23④0.1	—	—	黒曜石（腰岳産）
177	石器	石鏃	SX69	全長1.9最大幅1.4④0.6	—	—	安山岩
178	石器	石鏃	I8グリッド	全長2.5最大幅1.3 最大厚0.39④0.9	—	—	安山岩
179	石器	スクレイパー	F5グリッド	全長4.7最大幅6.7 最大厚0.7④25.1	—	—	安山岩
180	石器	剥片	SX30	全長5.2最大幅3.1④8.8	—	—	黒曜石

第2表　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※〈復元値〉,(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
181	石製品	板碑	SB03（SP440）	残長14.0　幅16.7 厚さ7.7	横断面溝鉢形　背面ノミ状工具による削り	C外.灰白7.5YR8/1　断面.明褐灰7.5YR7/2	梵字:キリーク?
182	石製品	石鍋	SB03（SP475）	①不明　②不明 残存高5.5	内外面ともに削り	C内.黒褐2.5Y3/1～灰N/　外.灰N/～にぶい黄橙10Y7/2	滑石製
183	陶器	鉢	SB03（502）	①不明　②不明 残存高2.4	内外面回転ナデ、褐釉施釉後口縁端部上面と口縁部下の釉を掻き取る	A微細な黒色粒・長石・石英を微量含む　B良好　C胎土.にぶい黄橙10YR7/2～灰褐7.5YR5/2　釉.暗赤褐5YR5/2	
184	須恵器	蓋	SC01カマド	①不明　②不明 残存高1.1	内外面ナデ?	A微細な黒粒を含む　B中良　C内外.明緑灰7.5GY7/1	
185	須恵器	壺 or 甕	SC01	①不明　②不明 残存高2.5	内外面回転ナデ	A微細な砂粒を含む　B良好　C内外.灰オリーブ5Y5/2	
186	土師器	杯	SC01カマド	①(11.2)　②〈3.4〉	内外面共ナデ?（摩滅する）	A精土で混じりが少ない　Bやや不良　C内外.灰オリ　ーブ5Y6/2	
187	土師器	杯	SC01カマド	①不明　②〈3.4〉	内外面摩滅し調整不明	A精土で混じりが少ない　B不良　C内外.にぶい黄橙10Y7/4	
188	土師器	甕	SC01カマド	①不明　②〈2.1〉	外面ナデ、胴部内面ケズリ	A1mm大の白色砂粒を多少含む　B不良　Cにぶい橙2.5Y 6/4	
189	土師器	小皿	SX05	①8.2　②1.35　③6.4	内外面共回転ナデ、底部外面回転糸切り後、板状圧痕	A微細な長石・雲母を微量含み、3mm以下の赤褐色粒を微量含む　B良　C内外.灰白10YR2/8～浅黄橙10YR3/8	
190	陶器	鉢	SX05	①不明　②〈2.3〉	内外面共回転ナデ	A微細な白色砂粒と雲母を微量含む　B良　C内.褐灰7.5YR1/5 外.褐灰7.5YR1/6　断面.にぶい褐7.5YR3/5	
191	鉄滓	—	SX05	長4.7　幅1.9　重量7.9g	—		磁着する 気泡が見られる
192	瓦質土器	鉢	SX09	①不明　②〈3.7〉	内外面共回転ナデ	A微細な黒色粒・長石・石英・金雲母を少量含む　B良好　C内.灰白2.5Y8/2　外.灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1	
193	石製品	管玉 未成品?	SX11	長3.0　幅0.6～0.65	側面を粗く研磨	C外.黒褐10YR3/1　断面.にぶい黄褐10YR6/3	滑石製
194	土師器	杯	SX28	①(13.8)　②2.8 ③(8.6)	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A微細な雲母が少量、微細な長石を微量含む　B良好　C内外.にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR5/1	
195	土師器	鉢	SX28	①(11.4)　②6.0 ③(9.5)	内外面共に磨滅し調整不明	A微細～2mmの長石・石英、微細な雲母をやや多量、微細～2mmの角閃石、微細な黒色粒を少量含む　B良好　C内.にぶい橙5YR7/4～灰N6/　外.赤橙10R6/6～灰白2.5Y7/1	
196	土師器	鉢	SX28	①不明　②〈5.65〉	外面ナデ、内面ナデ	A微細～3mmの長石をやや多量、微細な石英・雲母を微量含む　B不良　C内.浅黄橙7.5YR8/4　外.にぶい橙7.5YR7/3～黒7.5YR1.7/1　断面.にぶい橙7.5YR6/4～暗灰3/	外面にスス付着
197	土師器	鉢	SX28	①不明　②〈9.2〉	外面不明、内面ハケメ	A3mm以下の長石・石英・黒色粒、1mm以下の金雲母を少量、角閃石を微量含む　B良　C内.にぶい黄橙10YR3/7～黒褐7.5YR2/3 外.にぶい橙5YR4/6～黒褐5YR1/2　断面.にぶい橙5YR4/7～橙6/6	外面にスス付着
198	土師器	鉢	SX28	①不明　②〈9.65〉	内外面共にハケメ、口縁端部ヨコナデ	A3mm以下の長石・石英・黒色粒・赤褐粒を少量含み、3mm以下の金雲母を微量含む　B良　C内.にぶい橙5YR3/6～灰褐5YR3/4　外.褐灰5YR2/4～黒褐5YR1/2　断面.にぶい橙5YR4/6～5YR橙7/6	外面にスス付着
199	土師器	鉢	SX28	①不明　②〈5.6〉	内外面共にハケメ、口縁端部ヨコナデ	A2mm以下の長石・黒色粒・赤褐色粒、1mm以下の金雲母を少量含む　B良　C内.にぶい褐7.5YR4/5～灰褐7.5YR2/4　外.にぶい褐7.5YR3/5～灰褐7.5YR2/4　断面.橙5YR6/6～にぶい褐5YR4/5	外面にスス付着
200	土師器	釜	SX28	①不明　②〈7.2〉	内外面共にハケメ、耳部に指頭痕	A微細な雲母やや多量、微細～0.5mmの長石・石英を少量含む　B良好 C内.浅黄橙7.5YR8/4 外.浅黄橙10YR8/3 ～褐灰10YR4/1	外面にスス付着
201	白磁	椀	SX28	①(9.8)　②2.3 ③(8.0)	内面施釉、高台削り出し、底部からの立ち上がり部分を切断し、断面を研磨　釉.厚薄く、光沢・透明感・貫入・気泡なし	A微細～2mmの黒色粒を少量、微細な長石を微量含む　B良好　C内.灰白10YR8/2　露胎.浅黄橙10YR8/3	二次加工あり
202	陶器	皿	SX28	①不明　②〈1.9〉 ③2.85	全面施釉後、高台部の釉を掻き取る　釉.厚薄く、光沢・貫入あり	A微細な長石を微量含む　B内外.灰白10YR8/2　露胎.浅黄橙7.5YR8/3	見込みに砂目あり 朝鮮王朝系
203	土師器	蓋	SX29B区	①(13.3)　②〈2.4〉 ③16.0	内外面共に回転ナデか?	A微細～2mmの長石・石英を少量、微細～1mmの角閃石、赤褐色粒を少量含む　B良　C内.橙7.5YR7/6　外.浅黄橙7.5YR8/4	内面に黒斑あり
204	土師器	鉢	SX29A区	①不明　②〈8.2〉 ③不明	外面ナデ、内面ハケメ	A微細～1mmの長石・石英、金雲母を少量、微細～1mmの赤褐色粒を少量含む　B不良　C内.にぶい褐7.5YR5/3	外面にスス付着
205	土師器	鉢	SX29C区	①(40.0)　②〈7.8〉 ③不明	内外面共にハケメ	A微細～1mmの長石・石英、雲母を少量含む　B不良　C内.明褐7.5YR4/6	外面にスス付着
206	土師器	擂鉢	SX29B区	①不明　②〈4.2〉 ③不明	内面ハケメ後に擂り目を施す　外面ナデ、ユビオサエ	A微細～1mmの長石・石英、微細な雲母を微量含む　B良　C内.浅黄橙7.5YR8/4　外.橙5YR7/6 ～灰褐5YR5/2	
207	白磁	皿	SX29	①(10.0)　②1.65 ③不明	内外面底部以外に施釉	A微細な砂粒を少量含む　B良　C内外.灰オリーブ10Y8/1	
208	土師器	不明土製品	SX29	①2.0 ②0.85　③不明 孔径0.4	回転ナデか	A微細な長石・石英、雲母を微量含む　B良　C外面.橙5YR7/6	蓋の摘み部分か?
209	鉄器	不明鉄器	SX29	残長4.7　幅0.7　厚さ0.5	—		両端を欠損する
210	鉄滓	椀形滓	SX29	長5.2　幅3.2　重量40.6g	—		磁着する 気泡が見られる
211	鉄滓	—	SX29	長3.3　幅3.2　重量29.7g	—		磁着する 木炭痕跡あり 気泡あり
212	土師器	鉢	SX34	①(34.0)　②〈11.1〉 ③不明	外面ハケメ、内面摩滅し不明	A微細な長石・石英・金雲母を少量、微細な黒色粒、3～5mmほどの石英を微量含む　B良好　C外面.橙5YR7/6～黒褐5Y3/1内面.橙7.5YR7/6～黒N1.5/	外面にスス付着
213	土師器	鉢	SX34	①不明　②〈3.9〉 ③不明	内外面摩滅し不明	A微細～4mmの石英を少量含む　B不良　C内外.灰白10YR8/2 断面.黒褐10YR8/1	
214	土師器	鉢	SX34	①不明　②〈3.9〉 ③不明	内外面回転ナデ	A微細～1mmの長石・石英・角閃石・雲母を少量含む　B良　C内.浅黄橙10YR8/3　外.にぶい黄橙10YR7/3 断面.褐灰10YR4/1	

第2表　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
215	土師器	擂鉢	SX34	①不明　②(1.9)　③不明	外面ハケメ、摺り目摩滅気味	A微細～1mmの長石・石英・黒色粒・微細な雲母、1mmの角閃石を少量含む　B不良　C内外.浅黄橙10YR8/3　断面.褐灰10YR5/1	
216	白磁	椀or皿	SX34	①不明　②(1.4)　③不明	釉.釉厚薄く、光沢あり、貫入・気泡なし	A微細な長石を微量含む　B良好　C内外.明オリーブ灰5GY7/1 胎土.灰白5GY8/1	
217	瓦	丸瓦	SX34	長4.9～　幅10.65～ 厚1.75	外面ヨコナデ後ナデ、内面布目痕後一部ナデ、側端部に分割のための切り込みあり	A微細～2mmの長石・石英を少量含む　B良　C凹凸面.灰白2.5Y8/1	凹面の一部に黒色物付着
218	須恵器	杯身	SX37	①不明　②(2.7)　③不明	外面回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ	A微細～1mmの長石・石英・黒色粒を少量含む　B良　C内外.灰白7.5Y7/1	
219	土師器	杯	SX37	①不明　②不明　③(13.1)	外面摩滅し不明、内面ミガキ	A微細～2mmの長石と微細な雲母を少量含む　B不良　C内外.橙5YR7/8	
220	高麗青磁	椀	SX42	①不明　②(1.9)　③不明	象嵌後施釉　釉.内外面に貫入あり	A微細な砂粒を少量含む　B良　C内外.オリーブ灰10Y	
221	白磁	椀	SX42　E区	①不明　②(2.3)　③不明	内外面施釉	A微細な砂粒を少量含む　B良　C内外.灰白10Y7/1　胎土.7.5Y7/1	
222	縄文土器	鉢	SX47	①不明　②不明　③不明	外面に斜線文・刺突文、内面ナデ	A微細～1mmの長石・石英、微細な雲母を少量含む　B良　C内.灰黄褐10YR6/2　外.灰黄褐10YR4/2	
223	土師器	杯	SX51	①(11.45)　②2.5 ③6.8	内面回転ナデ後ナデ、外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A2mm以下の長石・石英・黒色粒、1mm以下の金雲母を微量含む　B良　C内外.浅黄橙7.5YR3/8～7.5YR4/8	
224	土師器	杯	SX51	①(11.8)　②2.6　③7.4	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り後板状圧痕	A2mm以下の長石・石英・黒色粒を少量、微細な金雲母を微量含む　B良　C内外.浅黄橙10YR3/8～10YR4/8	
225	土師器	擂鉢	SX51	①不明　②(7.8)　③不明	内面ハケメ後擂り目、外面摩耗し調整不明	A微細～3mmの長石・石英、微細な雲母をやや多量、微細～0.2mmの角閃石を少量含む　B良好　C内.浅黄橙7.5YR8/4 ～灰白7.5YTR8/2 外.浅黄橙7.5YR8/4	片口部の破片
226	土師器	擂鉢	SX51	①不明　②(7.35) ③(14.9)	内面ハケメ後擂り目、外面ハケメ、底部外面ナデ	A微細～3mmほどの石英をやや多量、2mmほどの角閃石を多量含む　B良　C内.浅黄橙10YR8/3　外.浅黄橙10YR8/3～灰褐7.5YR4/2	
227	土師器	移動式カマド	SX51	長8.7～　幅11.1～ 厚さ1.6	庇上面ハケメ、ナデ、庇下面ナデ、内面ケズリ	A微細～4mmの石英・長石、微細な雲母を多量含む　B良好　C内外.橙7.5YR7/6～7.5YR6/6	移動式カマドの庇部分もしくは鍔形土器
228	瓦質土器	火鉢	SX51	①不明　②(3.5)　③不明	内面工具ナデ後ナデ、外面ナデ	A微細～3mmほどの石英・長石をやや多量、1mmほどの金雲母・赤褐色粒を微量含む　B良　C内.浅黄橙10YR8/3　外.浅黄橙10YR8/3～灰褐7.5YR4/2	
229	土師器	鉢	SX52　A区	①不明　②(8.0)　③不明	内面ハケメ、外面ハケメ後ナデか	A微細～2mmの長石・石英、微細な金雲母をやや多量に含む　B良好　C内.にぶい橙5YR7/4～褐灰7.5YR4/1　外.橙5YR7/6～褐灰5YR4/1	内外面に黒斑あり
230	青磁	皿	SX52	①不明　②(1.9)　③不明	底部回転ヘラケズリ、見込みに櫛描き列点文、底部以外に施釉　釉.貫入なし	A微細な白色砂粒をわずかに含む　B良好　C釉.灰オリーブ5Y6/2 露胎.灰白2.5Y7/1　断面.黄灰2.5Y6/1	同安窯系青磁皿Ⅰ類
231	石製品	紡錘車	SX52　F区	長3.3～　幅2.15～　厚1.1	わずかに擦痕様のものが見られるが、ほぼ摩耗する	C外.明褐灰7.5YR7/2　断面.褐灰7.5YR5/1	滑石製
232	土師器	小皿	SX56	①(8.8)　②1.6　③(5.7)	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A微細～0.5mmの長石・石英・金雲母を少量、1mmの赤褐色粒を微量含む　B不良　C内外.にぶい黄橙10YR7/4	
233	土師器	鉢	SX57　C区	①不明　②(2.8)　③不明	内面ハケメ、外面ナデ、ユビオサエ	A微細～0.5mmの長石・石英・金雲母を少量含む　B良　C内.橙5YR7/8	外面にスス付着
234	青白磁	合子	SX57　A区	①不明　②(1.4)　③不明	天井部外面型押し、内面回転ナデ、外面施釉後、口縁端部の釉を掻き取る　釉.釉厚くむらあり	A微細な砂粒を少量含む　B良　C釉.明緑灰10GY6/1 胎土.2.5Y8/1	
235	須恵器	杯身	SX60	①不明　②(1.9)　③不明	内外面とも回転ナデ	A3mm以下の長石・黒色粒を少量、微細な雲母を微量含む　B良　C内外.灰N6/～N5/	高台に置き台の痕跡あり
236	須恵器	杯蓋	SX61　A区	①不明　②(1.8)　③不明	天井部外面回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ	A1mm以下の黒色粒・長石を含み、微細な雲母を微量含む　B良　C内外.灰白1/7～2/7	
237	土師器	甕	SX61　B区	①不明　②(4.65)　③不明	口縁部内面ヨコハケ、口縁部外面ハケ後ナデ、胴部内面ケズリ	A3mm以下の長石・黒色粒、微細～1mmの金雲母・石英を少量、1mm以下の角閃石を微量含む　B良　C内.にぶい橙7.5YR4/7 ～にぶい褐7.5YR3/5　外.橙5YR7/8～にぶい橙5YR4/6	
238	須恵質土器	鉢	SX62	①不明　②(2.1)　③不明	内外面回転ナデ	A3mm以下の長石・黒色粒・赤褐色粒を少量、微細な石英・雲母を微量含む　B良　C内.灰白5Y1/7～オリーブ黒5Y1/3 外.灰白5Y2/7～灰5Y1/5	口縁部外面に煤ね焼き痕あり
239	青白磁	合子蓋	SX64	①不明　②(1.0)　③不明	外面型押し、内面回転ナデ後施釉　釉.透明で光沢・貫入あり	A微細な黒色粒を微量含む　B良好　C釉.明緑灰7.5GY7/1 胎土.灰白2.5Y8/2	
240	白磁	椀	SX65	①不明　②(2.7)　③不明	回転ナデ、外面回転ヘラケズリ後施釉　釉.透明で光沢あり	A微細な黒色粒を微量含む　B良好　C釉.灰白5Y7/2 胎土.灰白5Y8/1	
241	土師器	擂鉢	SX68	①不明　②(5.2)　③不明	内面ハケメ後擂り目、外面回転ナデ後ハケメ	A微細な黒色粒を多量、微細な雲母を微量、微細～1mmの長石・石英を微量含む　B良好　C内外.灰白10YR8/2	
242	鋼滓	——	SX78-4	長4.2　幅2.55　厚さ1.35		C緑灰10GY6/1	
243	土師器	鉢	SX83	①不明　②(3.8)　③不明	口縁部回転ナデ、内面口縁部下ハケメ	A微細～3mmの長石・石英、微細な雲母をやや多量、微細～1mmの角閃石を少量含む　B良好　C内.浅黄橙10YR8/3 ～にぶい黄橙10YR6/3 外.浅黄橙10YR8/3～褐灰10YR5/1	外面にスス付着
244	土師器	小皿	SX86	①(8.0)　②1.7　③(6.0)	内面回転ナデ後ナデ、外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A微細な長石・石英を少量、微細な雲母をやや多量含む　B良好　C内外.浅黄橙10YR8/3	
245	須恵器	杯身	SX89	①不明　②(2.9)　③不明	内面回転ナデ、外面回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	A微細～1mmの長石を少量含む　B良好　C内外.灰6N/	
246	須恵器	杯蓋	SX95	①不明　②(1.45)　③不明 つまみ径1.6	内外面共に回転ナデ	A微細な長石を少量含む　B良好　C内外.灰7.5Y6/1	
247	須恵器	杯蓋	SX63	①不明　②(1.2)　③不明	内面回転ナデ、外面回転ナデ後回転ヘラケズリ	A微細～1mmの長石を少量含む　B良好　C内.明オリーブ灰2.5GY7/1　外.灰6N/～灰N5/	
248	須恵器	杯蓋	SX96	①不明　②(1.7)　③不明	内面回転ナデ、外面回転ナデ後回転ヘラケズリ	A微細な長石・金雲母を微量含む　B良　C内.灰赤7.5R4/2 外.灰赤2.5YR5/2　断面.灰N6/	
249	須恵器	杯蓋	SX102	①11.7　②2.2	内面回転ナデ後不定方向のナデ、外面回転ナデ、天井部回転ヘラ切り後ナデ　その後ヘラ記号	A微細～0.2mmの長石・石英を少量、1mm程の黒色粒を微量含む	ヘラ記号あり
250	土師器	甕	SX102	①不明　②(4.75)	内面ケズリ、他磨滅し不明	A微細～4mmほどの長石やや多量、1mm程の黒色粒・赤褐色粒を微量含む　B良　C内外.橙2.5YR6/8	
251	土師器	鉢	SD03	①不明　②(6.7)　③不明	内面ハケメ、外面ハケメ後ナデ	A微細～1mmの長石・石英を少量、微細～0.5mmの金雲母を少量含む　B良　C内.橙7.5YR7/6	外面にスス付着
252	瓦質土器	鉢	SD03C区	①不明　②(3.2)　③不明	内面ナデ、外面型押し	A微細な長石・石英・雲母を少量含む　B良　C内面.褐灰10YR5/1 外.灰黄褐10YR5/2　断面.黒褐10YR3/1～にぶい橙7.5RY7/3	
253	白磁	椀	SD04B区	①(17.4)　②(4.1) ③不明	内面回転ナデ後沈線、外面回転ヘラケズリ後内外面に施釉	A微細な砂粒を少量含む　B良　C釉.灰白5Y7/2　胎土.灰白5Y7/1	
254	瓦	平瓦	SD04	長(3.95)　幅(8.1) 厚2.0	凹面布目痕、凸面斜格子目タタキ	A微細～2mmの長石・石英、1mmの赤褐色粒、微細な雲母を少量含む　B良　C凸.灰白10Y7/1　凹.後橙5YR8/4	
255	須恵器	鉢	SD05D区	①不明　②(2.0)　③9.5	内外面回転ナデ、底部外面に多数の刺突を施す	A3～5mmの砂粒、微細な雲母を微量、微細～1mmの長石・石英を少量含む　B良　C内.灰N6/　外.灰白N7/	
256	青磁	椀	SD05C区	①不明　②(2.7)　③ (4.25)	高台削り出し、外面回転ヘラケズリ、内面へら描き文を施し、底部外面以外に施釉	A微細な砂粒を少量含む　B良　C釉.灰白2.5GY8/1　胎土.10YR8/2	同安窯系青磁Ⅰ類か
257	瓦	丸瓦	SD05D区	長5.45～　幅3.6～ 厚1.75	凸面斜格子目タタキ後ナデ、　凹面縄目痕	A微細～1mmの長石・石英、微細な雲母・黒色粒を少量含む　B良　C凸凹.灰10Y6/1	
258	青磁	椀	SD08A区	①不明　②(3.6)　③不明	外面に雷文、内外面とも施釉　釉.有色透明で光沢あり、やや大きめの貫入あり	A微細な黒色粒・長石・石英を微量含む　B良好　C釉.灰白2.5Y8/2　外.灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1	
259	石製品	——	SD08B区	長9.95　幅3.75　厚1.6	内外面とも削り	C灰白10YR8/1～褐灰10YR4/1	滑石製石鍋再利用？
260	須恵器	皿	SD09	①(19.8)　②2.25 ③(15.5)	内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ	A微細～1mmの長石・石英をやや多量含む　B良好　C内.灰白5Y7/1 外.灰6Y6/1	
261	石製品	砥石	SD09	長3.35～　幅6.4～ 厚2.35	欠損部以外の4面とも使用	Cにぶい橙5YR6/3～灰黄褐10YR6/2	
262	褐釉陶器	擂鉢	SD10A区	①不明　②(3.6)　③不明	内外面回転ナデ、内面に擂り目、口縁部周辺に施釉後、口縁上面の釉を掻き取る	A微細な長石を微量含む　B良　C内.暗赤褐5YR3/6～黒褐5YR2/1 外.暗赤褐5YR3/4　胎土.にぶい赤褐5YR5/3	口縁部上面に目跡
263	褐釉陶器	鉢or水注	SD10A区	①不明　②(8.3)　③不明	内外面施釉	A微細な長石・雲母を少量含む　B良　C内外.暗明褐2.5YR3/6～赤黒2.5YR1.7/	外面下半部に目跡
264	須恵器	杯身	SD11B区	①(12.8)　②4.0　③(8.2)	内外面回転ナデ、底部高台貼り付けのナデ	A微細～1mmの長石を少量、1mmの黒色粒をやや多量に含む	
265	須恵器	鉄鉢形土器	SD11C区	①(17.3)　②(8.0) ③不明	口縁部内外面回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、底部外面手持ちヘラケズリ	A微細～1mmの長石・石英を少量、微細な雲母を微量含む　B良　C内外.灰7.5Y5/1　断面.橙2.5YR6/6	
266	土師器	甕	SD11C区	①(10.0)　②(3.3) ③不明	内面ナデ・工具ナデ、外面摩滅し不明	A3mm以下の長石・黒色粒・赤褐色粒、微細な石英・雲母を少量含む　B良　C内.7.5YR6/7～褐灰7.5YR1/4　外.橙2.5YR6/6～暗赤灰2.5YR1/3　断面.にぶい黄橙10YR～灰黄褐10YR2/5	
267	土師器	甕	SD11C区	①(13.65)　②(5.5) ③不明	内面ケズリ、外面ハケメ後ナデ	A3mm以下の長石・石英・赤褐色粒を少量、微細な雲母を微量含む　B良　C内.橙2.5YR6/8～にぶい赤褐2.5YR4/5　外.明赤褐2.5YR6/5～赤灰2.5YR1/4　断面.明赤褐2.5YR6/5	

第2表　薬師の森遺跡第6次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
268	土師器	甕	SD11 C区	①不明　②(4.5)　③4.8	内面強いナデ、外面ナデ後ハケメ	A3mm以下の長石・石英・赤褐色粒を少量、微細な雲母を微量含む B良　C内.にぶい橙5YR4/6～にぶい赤褐5YR3/4　外.明赤褐2.5YR7/8～暗赤灰2.5YR1/3　断面.にぶい褐7.5YR3/6	
269	土師器	杯	SP17	①(11.2)　②2.85 ③(5.2)	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A微細～2mmの石英・微細～1mmの長石、微細な雲母を微量含む 不良　C内.灰白10YR8/2　外.にぶい黄橙10YR7/2	
270	土師器	杯	SP17	①(13.0)　②2.65 ③(7.3)	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り後板状圧痕	A微細な金雲母と長石を微量含む　B良　C内.にぶい黄橙10YR7/2 外.浅黄橙10YR8/3　断面.褐灰10YR5/1	
271	石製品	砥石	SP38	長6.7　幅4.6　厚3.5	3面が生たる使用面で他は自然面に近い	C橙5YR7/6～明褐灰5YR7/6	
272	土製品	土錘	SP87	長(5.55)　②1.9 ③1.95	全体的に表面が摩滅	A微細な長石・金雲母を少量、微細～1mmの石英を微量含む	
273	石製品	石鍋	SP195	①不明　②(2.65) ③不明	内外面削り	C内.灰白2.5Y7/1　外.暗灰黄2.5Y5/2　断面.明褐灰5YR7/1	外面にスス付着
274	瓦	丸瓦	SP230	長(7.4)　②幅(8.85) ③2.3	凸面「四王」銘斜格子目タタキ、凹面布目痕	A微細～3mmの石英・長石、微細な雲母をやや多量含む B良好 C黄灰2.5Y6/1～灰白2.5Y7/1	「四王」銘あり
275	土製品	土玉	SP294	長1.45　幅1.65　厚1.3～	前面ナデか	A微細な長石を少量含む　B良好　C橙5YR6/8～浅黄橙10YR8/3	
276	須恵器	杯蓋	SP297 SP316	①(13.6)　②2.0	内外面回転ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	A微細～1mmの白色砂粒を多く含む　B良　C内.浅黄橙10YR8/3 外.浅黄橙7.5YR8/6	
277	土師器	杯	SP297	①(18.0)　②6.6	内面回転ナデ後螺旋状と放射状に暗文を施す　外面ナデ後手持ちヘラケズリ	A1～2mm大の白色砂粒を多く含む　B良好　C橙7.5YR6/6	畿内系暗文土師器
278	鉄製品	不明	SP323	長8.7　幅3.0　厚1.5 重36.0	――	――	毛抜き？or やっとこ？
279	石製品	スクレイパー	SP335	長9.55　幅(2.8)厚0.8	側縁部に刃部を作り出す	C灰5Y5/1	
280	白磁	椀	SP383	①(15.2)　②(4.65) ③不明	全面施釉　釉.光沢・細かい貫入あり	A微細な黒色粒を微量含む　B良　C灰白10Y8/2	
281	土壁	――	SP501	長(5.7)　幅(3.8) 厚(2.4)	――	A1～3mmの砂粒を少し含む　Cにぶい黄橙10YR7/3	芯材・スサの痕跡あり
282	土壁	――	SP501	長(6.6)　幅(6.7) 厚(4.2)	――	A微細～3mmの砂粒・スサを多く含む　C外面.灰黄褐10YR6/2 断面.橙7.5YR7/6	芯材・スサの痕跡あり 芯材.半裁竹管状
283	土壁	――	SP501	長(8.6)　幅(9.7) 厚(4.2)	――	A3mmの砂粒・スサを多く含む　C外面.灰黄褐10YR6/2 断面.橙7.5YR7/6	芯材・スサの痕跡あり
284	土製品	ミニチュア土器	SP527	①3.95　②2.15	内外面ナデ、ユビオサエ	A微細～2mmの長石・石英・雲母を少量含む　B良　C内.浅黄橙7.5YR8/4　外.明褐灰7.5YR7/2～橙5YR7/6	
285	鉄滓	――	SP543	長(3.7)　幅(3.0) 重49.0	――	――	メタル多いが磁着弱い
286	土師器	杯	SP545	①11.4　②3.15　③5.8	内外面回転ナデ、底部外面回転糸きり後板状圧痕	A1mm以下の黒色粒を少量、微細な金雲母を微量含む　B良　C内.灰黄褐10YR2/6～褐灰1/5　外.灰黄褐10YR2/6～褐灰1/4	
287	須恵器	杯蓋	包含層F区	①11.2～13.5　②3.9	内外面回転ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	A1～3mmの砂粒を含む　B良　C内.緑灰7.5GY6/6　外.灰白2.5Y8/1～褐灰10YR5/1	焼き歪む
288	須恵器	杯蓋	包含層F区	①(9.5)　②2.0 受け部径(12.4)	内外面回転ナデ、天井部外面回転ヘラ切り	A1mm大の砂粒を多少含む　B良好　C内.にぶい黄橙10YR7/2 外.オリーブ灰5GY6/1	
289	須恵器	杯蓋	包含層F区	①(13.0)　②2.5	内外面回転ナデ、天井部内面ヨコナデ、天井部外面回転ヘラ切り後ナデ	A1～2mm大の白色砂粒を多少含む　B良好　C内外.緑灰7.5GY6/1	
290	須恵器	杯蓋	包含層F区	①13.9　②3.9	内面回転ナデ後ヨコナデ、外面回転ナデ後回転ヘラケズリ、つまみ付けのナデ	A微細な砂粒をわずかに含む　B良好 C内外.明オリーブ灰5GY7/1	焼き歪む　天井部外面に「W」状ヘラ記号
291	須恵器	杯蓋	包含層 東西ベルト①	①(14.4)　②2.1	内面回転ナデ後ヨコナデ、外面回転ナデ後回転ヘラケズリ、つまみ付けのナデ	A微細～0.5mmの白・黒粒を含む　B良　C内外.灰白10Y7/1	
292	須恵器	杯身	SX97上層包含層	①(9.2)　②3.4　③(6.2)	内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り未調整	A微細な砂粒を多少含む　B良好　C内外.緑灰10GY7/1	
293	須恵器	杯身	包含層F区	①(11.5)　②3.4　③6.9	内面回転ナデ後、ヨコナデ、外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ	A0.5mm大の砂粒をわずかに含む　B良　C内.橙2.5Y7/6 外.明黄褐2.5Y6/6	
294	須恵器	杯身	包含層F区	①(11.4)　②4.0　③(7.0)	内外面回転ナデ、底部外面高台貼付のナデ	A微細～1mmの白色砂粒を多く含む　B良　C内外.灰白7.5Y7/1	
295	須恵器	杯身	包含層H区	①(14.4)　②5.8　③10.2	内面回転ナデ後一部ヨコナデ、外面回転ナデ、底部高台貼付のナデ	A1mmの白色砂粒を多く含む　B良好　C内外.暗緑灰10GY4/1	焼き歪む　底部外面にヘラ記号
296	須恵器	杯身	包含層D区	①(13.4)　②5.8　③(8.8)	内外面回転ナデ、底部外面高台貼付のナデ	A微細～1mmの白色砂粒を多く含む　B良　C内外.緑灰10GY6/4	
297	須恵器	鉄鉢形土器	包含層F区	①(15.8)　②10.2	内面回転ナデ、内面底部ヨコナデ、外面回転ナデ、外面下半～底部回転ヘラケズリ	A1mm大の砂粒を多少含む B良好 C内外.赤灰2.5YR4/1～にぶい赤褐2.5YR5/3	底部外面にヘラ記号
298	須恵器	鉄鉢形土器	包含層D区	①(21.4)　②(8.2)	内面回転ナデ・ナデ、外面回転ナデ・回転ヘラケズリ	A1～2mmの白色砂粒を多少含む　B良好　C内外.灰N4/	
299	土師器	甑	包含層B区	①不明　②(12.5)	内面ケズリ、外面ハケメ、把手部分ユビオサエ	A2mm以下の石英粒少量、微小な白色砂粒を含む　B良 C内.にぶい橙10YR7/3　外.にぶい橙10YR7/3～橙5YR7/6	
300	土師器	甕	包含層F区	①19.6　②29.9	内面ケズリ、外面工具ナデ後ナデ	A1～4mmの砂粒を多く含む　B良好　C内外.にぶい赤褐5YR5/4	外面に黒斑あり
301	鉄製品	鉄鏃	包含層CD間ベルト	長(10.5)　幅1.7 重9.7g	――	――	折れ曲がる
302	鉄製品	鉄鋌	包含層B区	長(1.7)　幅1.6	――	――	先端を欠損
303	陶器	壺	西側表土剥ぎ	①(16.0)　②(7.6)	内面回転ナデ・ユビオサエ、外面降灰の為不明	A微細～6mmの長石と黒色粒、微細な雲母を少量含む　B良好 C内.にぶい褐7.5YR5/3～灰褐7.5YR4/2　断面.褐灰7.5YR6/1	外面激しく降灰
304	青磁	椀	西側表土剥ぎ	①(17.0)　②7.2　③(6.5)	内外面施釉、高台削り出し　釉.厚ムラあり、内外に貫入が見られる	A微細な砂粒と黒色粒を少量含む　B良　C釉.明オリーブ灰2.5GY7/1　胎土.灰白N8/～浅黄5YR8/3	底部外面に付着物あり
305	白磁	椀	西側表土剥ぎ	①不明　②(2.0)　③(4.6)	内面見込に型押し文、高台と底部以外に施釉	A微細な黒色粒を微量含む　B良好　C釉.明緑灰7.5GY8/1 胎土.灰白N8/	「枢府」系白磁
306	白磁	壺	西側表土剥ぎ	①不明　②(6.25) ③不明	内外面回転ナデ後施釉	A微細な砂粒を少量含む　B良　C釉.灰オリーブ5Y6/2	
307	瓦	丸瓦	西側表土剥ぎ	長(9.9)　幅(5.85) 厚1.55	凸面斜格子目タタキ・ナデ、　凹面布目痕・竹状模骨痕	A微細～2mmの長石・石英を少量、微細な雲母を微量含む　B良 C凸凹.灰黄2.5Y7/2	
308	石製品	紡錘車	試掘トレンチ内堆土	径3.2　高1.3　孔径0.75	全面に削痕	C灰7.5Y4/1	

第3表　雉子ヶ尾遺跡第３次調査出土遺物観察表

遺物番号	種　類	器　種	出土地点	①口径②器高③底径 ④重さ(cm・g) ※(復元値)、(残存値)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備　考
309	須恵器	甕	SX01	①不明　②不明	外面2/3平行タタキ、内面同心円文当具痕	A黒粒を多少含む　B良好　C内.暗赤灰5R4/1 外.緑灰10GY5/6	外面降灰
310	土師器	甕	SX01・包含層	①不明　②不明　残存高 5.8	内外面とも摩耗し不明	A1～3mm大の白色砂粒を多く含む　Bやや不良　C内外.にぶい黄橙10Y7/3	
311	須恵器	杯or皿	包含層	①不明　②不明	外面回転ヘラケズリ、他不明	A1～3mm大の白色砂粒を多少含む Bやや不良 C内外.灰白10Y8/1	
312	土師器	壺or甕	包含層	①不明　②不明　残存高 2.4	外面口縁部ナデ、体部ハケメ、内面口縁部ナデ、体部ケズリ	A1～3mm大の白色砂粒を多く含む B不良 C内外.浅黄橙7.5Y8/4	
313	土師器	甕or鉢	包含層	①不明　②不明　残存高 5.3	外面1/2回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A1～3mm大の白色砂粒、雲母片を多く含む　B良　C内外.にぶい黄橙10Y7/3	
314	須恵器	杯身	試掘26次表土剥ぎ	①8.7　②2.5　④10.6	外面1/2回転ヘラケズリ後ナデ、他回転ナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ	A1～2mm大の白色砂粒を多く含む　B良好　C内外.灰オリーブ5Y6/2	ロクロ右回転
315	須恵器	甕	表土剥ぎ	①不明　②不明	外面擬格子目タタキ、内面同心円文当具痕、ヨコナデ	A2～4mm大の白色砂粒を多く含む　B良好　C内.暗紫灰5P4/1 外.青黒5PB2/1	

図　　版

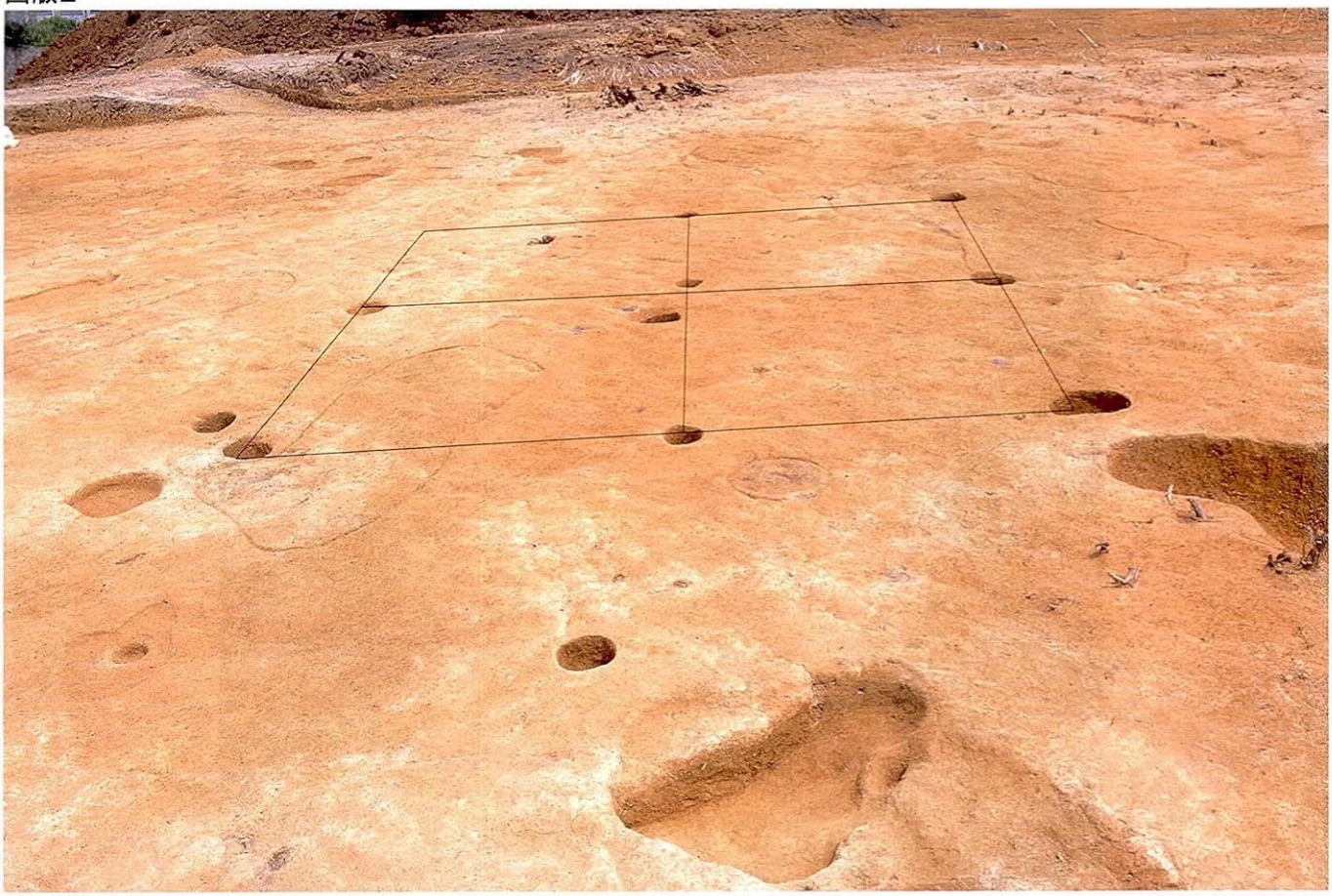


（1）薬師の森遺跡第４次調査区全景①（西上空から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査区全景②（西上空から）

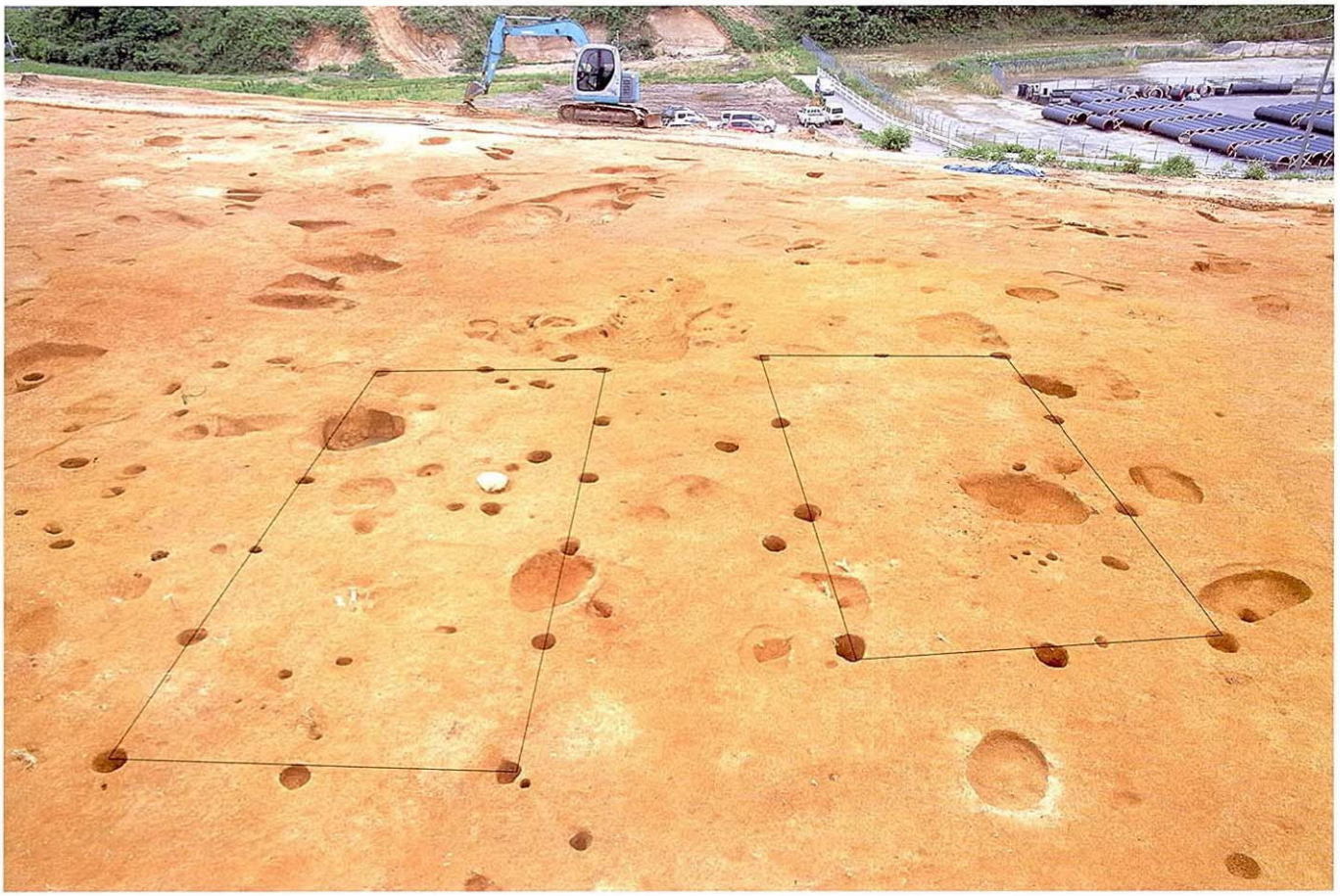
図版2



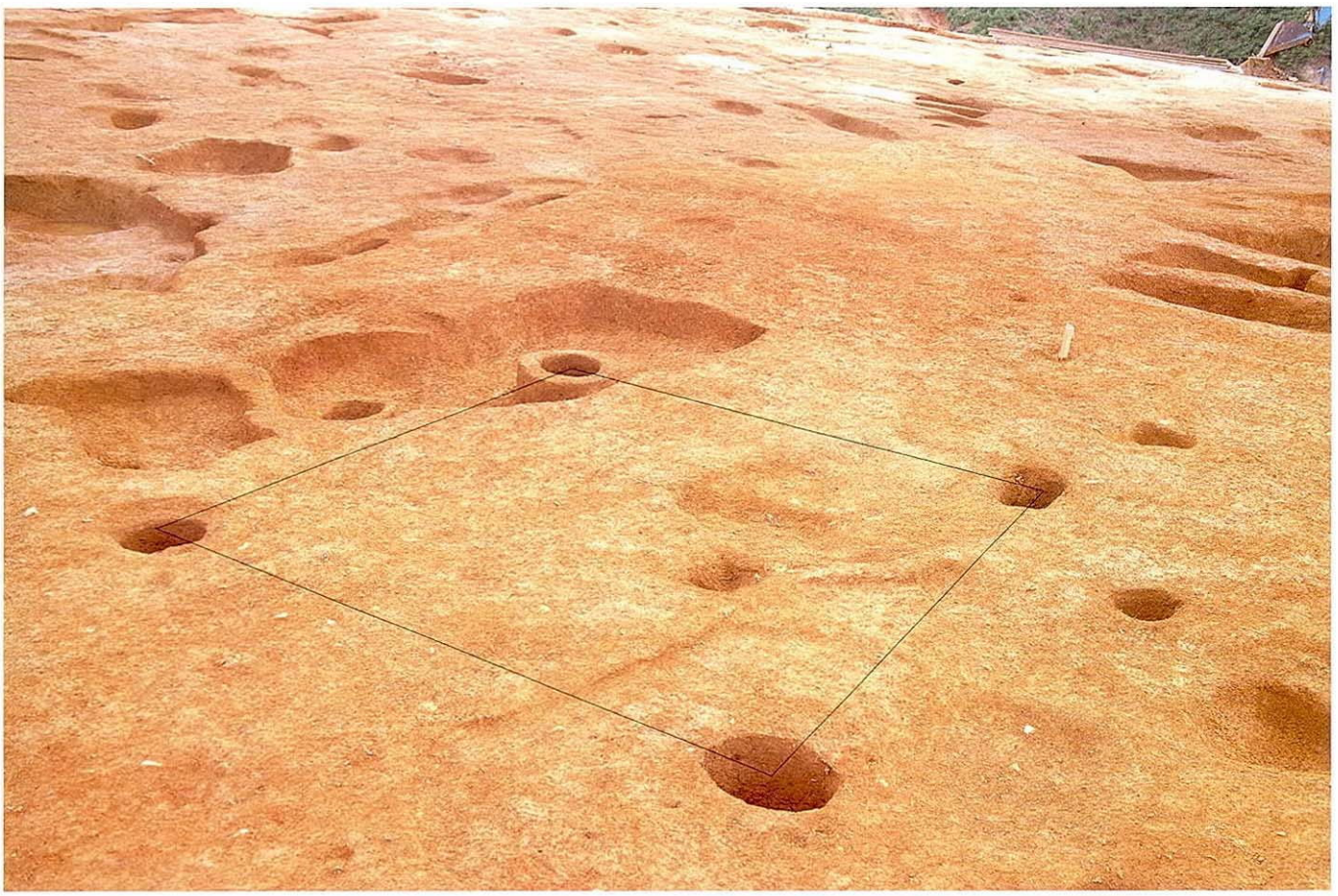
（1）薬師の森遺跡第４次調査SB01全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SB02・04全景（北西から）

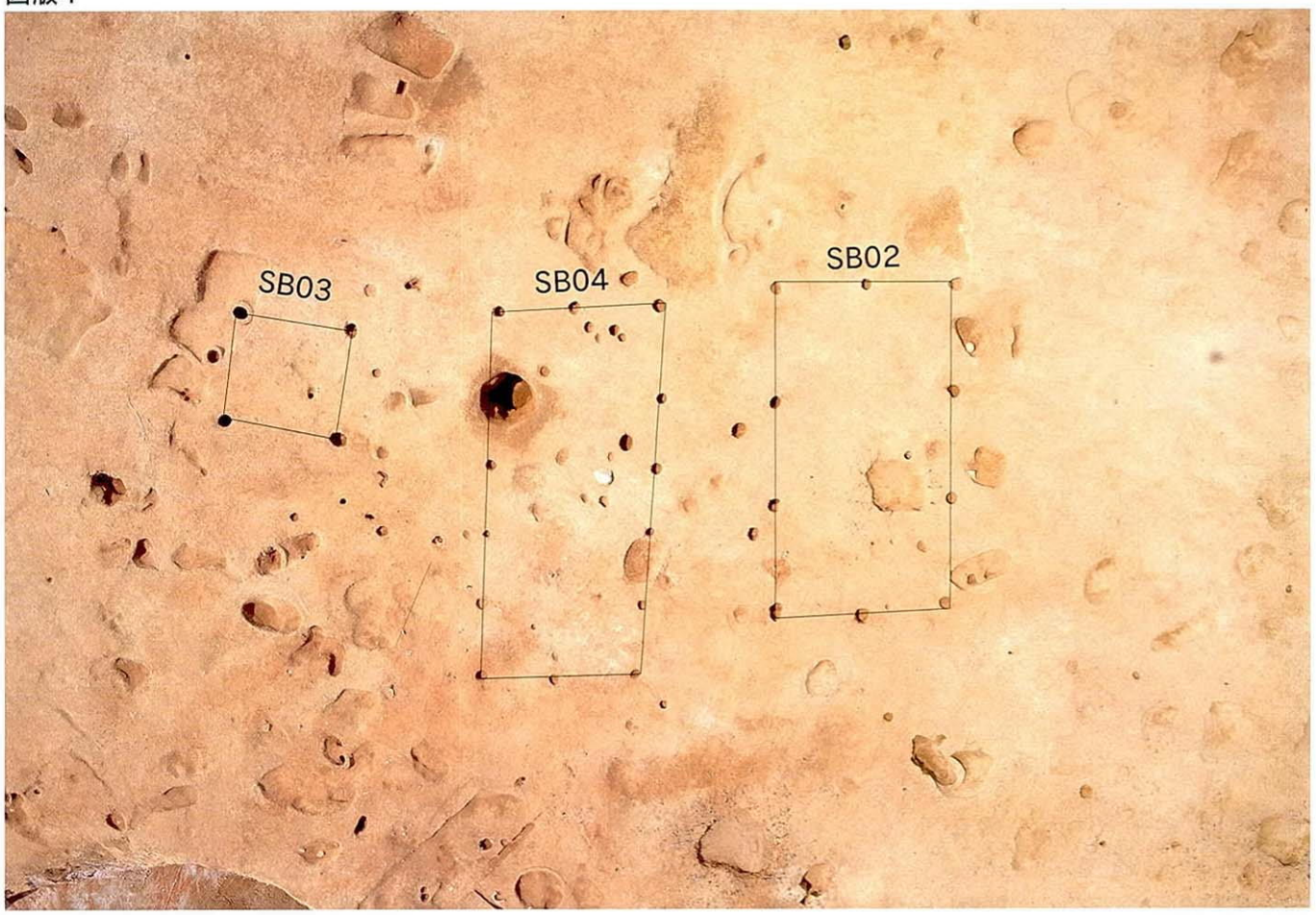


（1）薬師の森遺跡第４次調査SB02・04全景（北から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SB03全景（北から）

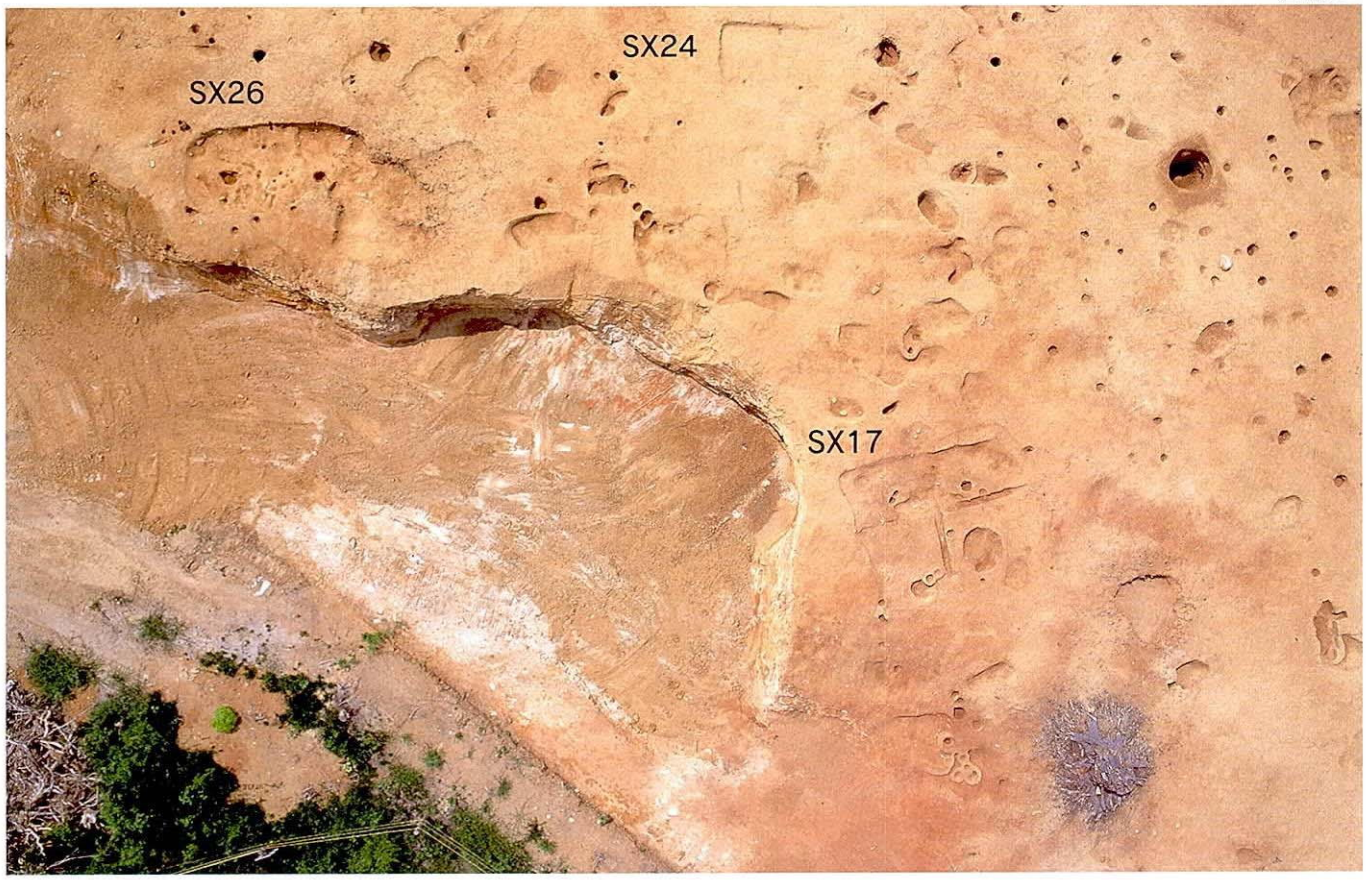
図版4



（1）薬師の森遺跡第4次調査SB02～04全景（真上から）



（2）薬師の森遺跡第4次調査SB05全景（西から）



（1）薬師の森遺跡第4次調査SX17・24・26全景（真上から）



（2）薬師の森遺跡第4次調査SX17・24・26全景（西上空から）

図版6



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX17全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX17遺物出土状況（南から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX17土層（東から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX17土層（南から）

図版8



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX24全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX24土層（西から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査SX24土層（南から）



（4）薬師の森遺跡第４次調査SX24カマド土層（西から）



（5）薬師の森遺跡第４次調査SX24カマド全景（西から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX26全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX26土層（東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査SX26土層（北西から）



（4）薬師の森遺跡第４次調査SX26焼土検出状況（北から）



（5）薬師の森遺跡第４次調査SX26焼土土層（北から）

図版10



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX01全景（南から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX01検出状況（南から）



（4）薬師の森遺跡第４次調査SX01土層（東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査SX01全景（西から）



（5）薬師の森遺跡第４次調査SX01土層（南から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX02全景（南東から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX02全景（南から）

図版12



（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX02土層（東から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX02土層（南から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX02全景（南から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX03全景（南から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX11全景（北から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX12全景（西から）

図版14



（1）薬師の森遺跡第4次調査SX27全景（南西から）



（2）薬師の森遺跡第4次調査SX27土層（西から）



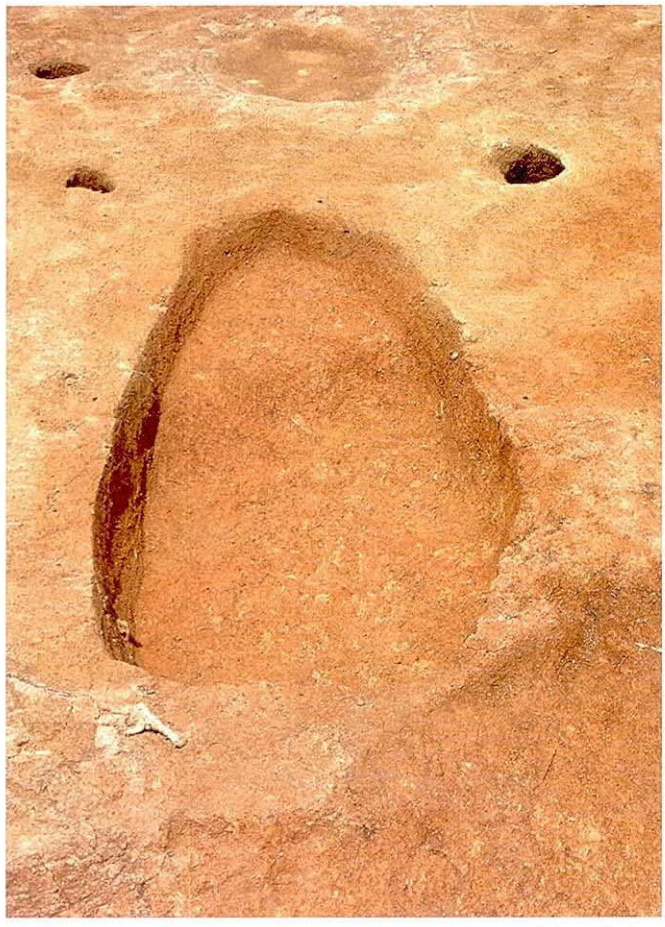
（1）薬師の森遺跡第４次調査SX28全景（南西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX28土層（東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査SX28土層（南から）



（4）薬師の森遺跡第４次調査SX28全景（南から）

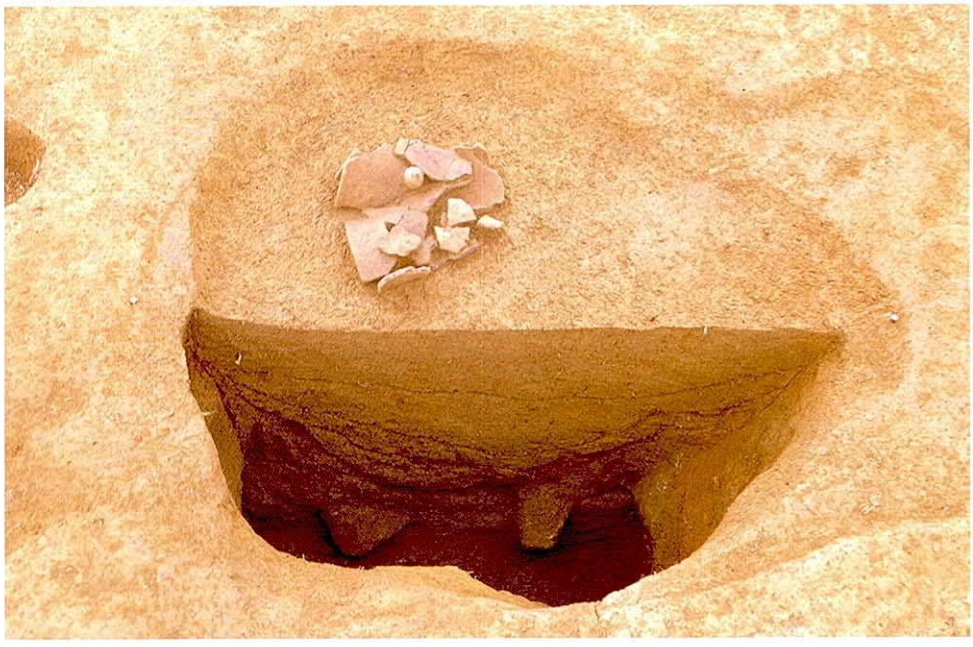
図版16



（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX13全景（北西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX14全景（東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX14土層・遺物出土
状況（南から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX18全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX19全景（西から）

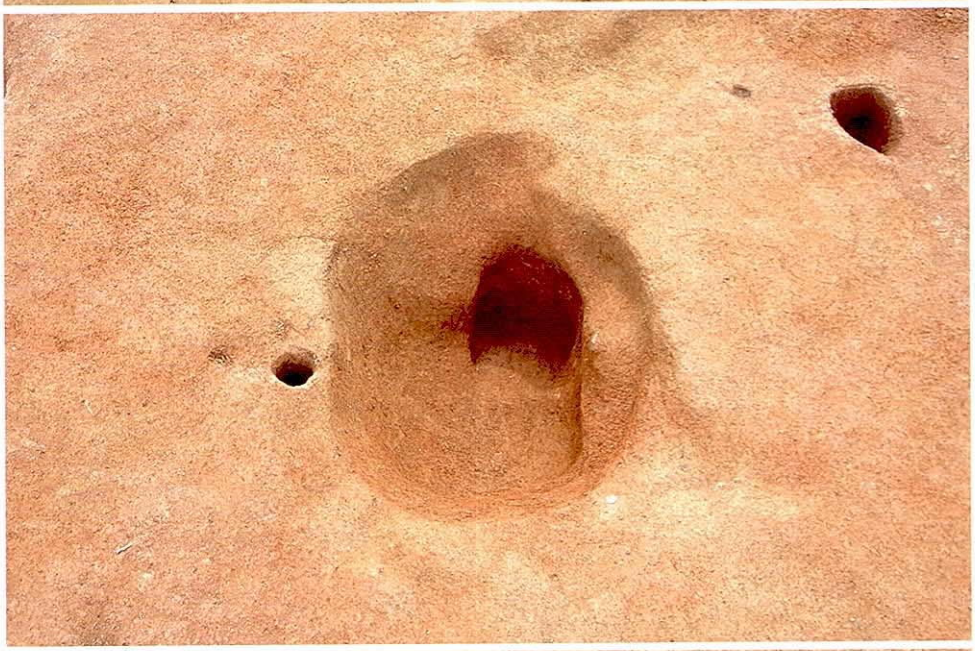


（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX20全景（西から）

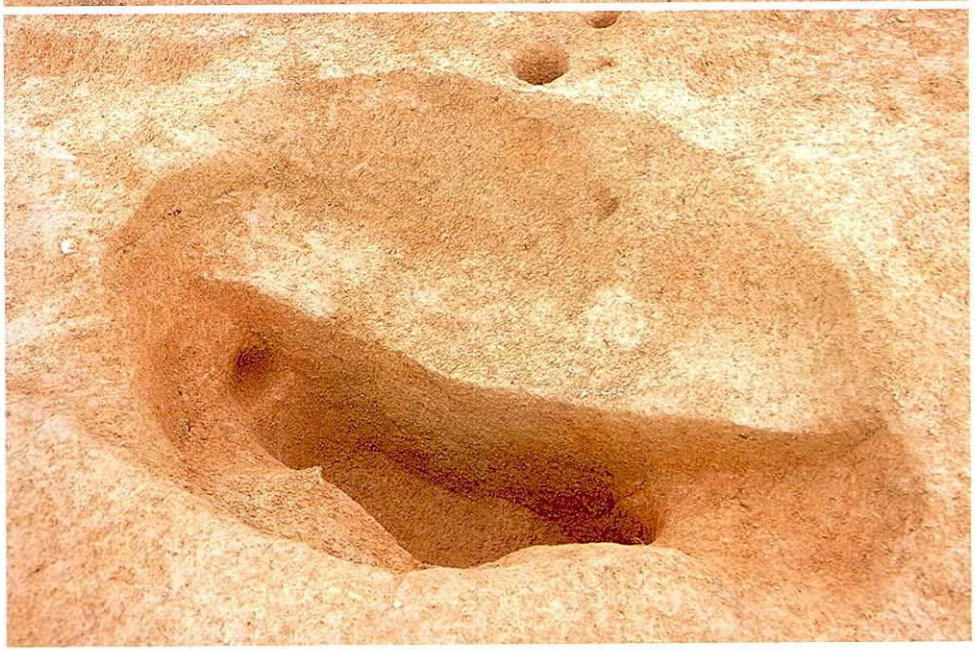
図版18



（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX21全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX30全景（北東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX30土層（南西から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX30土層（北から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX30遺物出土状況（北西から）

図版20



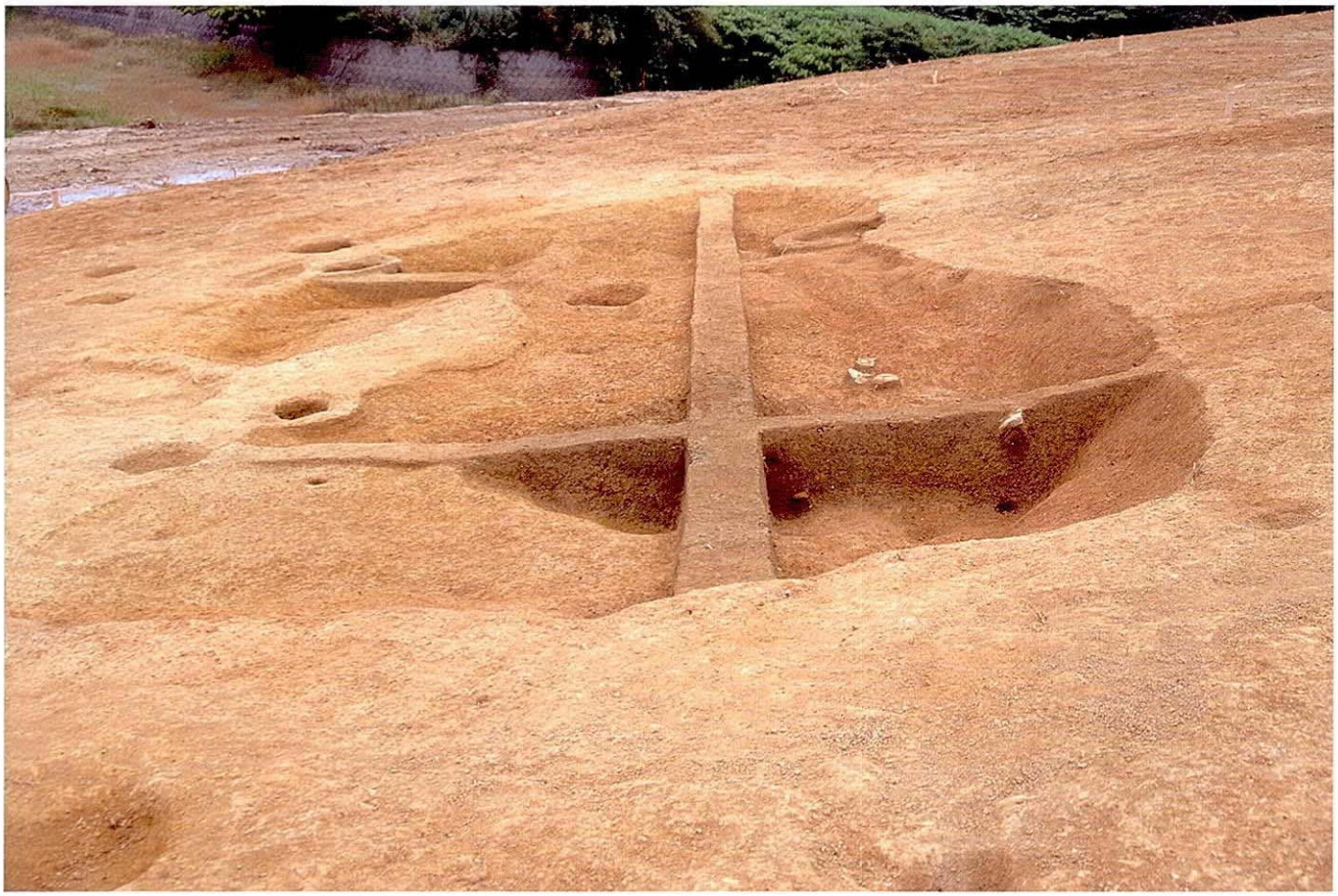
（1）薬師の森遺跡第４次調査
SX33土層（東から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査
SX33全景（東から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査
SX34土層（南から）



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX34土層（西から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX34全景（北東から）

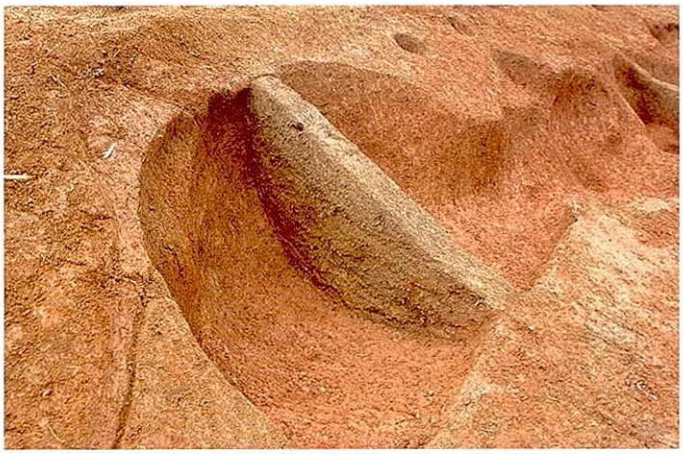
図版22



（1）薬師の森遺跡第４次調査SX38全景（南から）



（2）薬師の森遺跡第４次調査SX38土層（北から）



（3）薬師の森遺跡第４次調査SX50土層（東から）



（4）薬師の森遺跡第４次調査SX50土層（西から）



（5）薬師の森遺跡第４次調査SX50全景（北東から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査調査前風景（東から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査西側調査区全景（東から）

図版24



（1）薬師の森遺跡第６次調査SC01検出状況（東から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査SC01全景（東から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査
SC01カマド東西土層
（南から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査
SC01カマド南北土層
（東から）



（3）薬師の森遺跡第６次調査
SC01カマド全景
（南から）

図版26



（1）薬師の森遺跡第６次調査SX05全景（南から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査SX05土層（南から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査
SX06・07全景
（東から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査
SX06土層（南から）



（3）薬師の森遺跡第６次調査
SX07土層（南から）

図版28



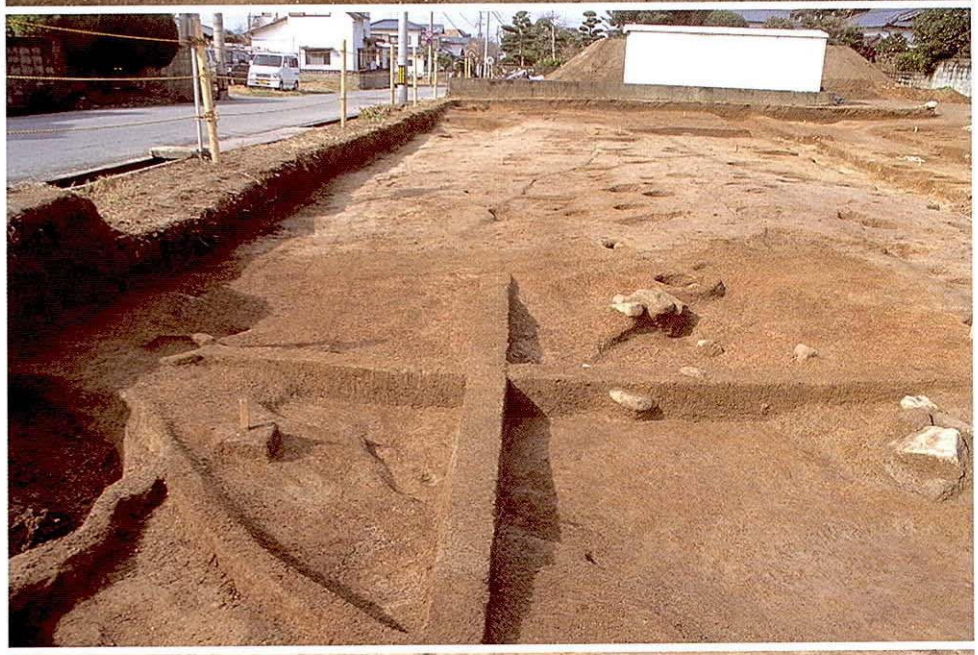
（1）薬師の森遺跡第６次調査SX28全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査SX28土層（南から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査
SX29全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査
SX29南北土層（東から）



（3）薬師の森遺跡第６次調査
SX29東西土層（南から）

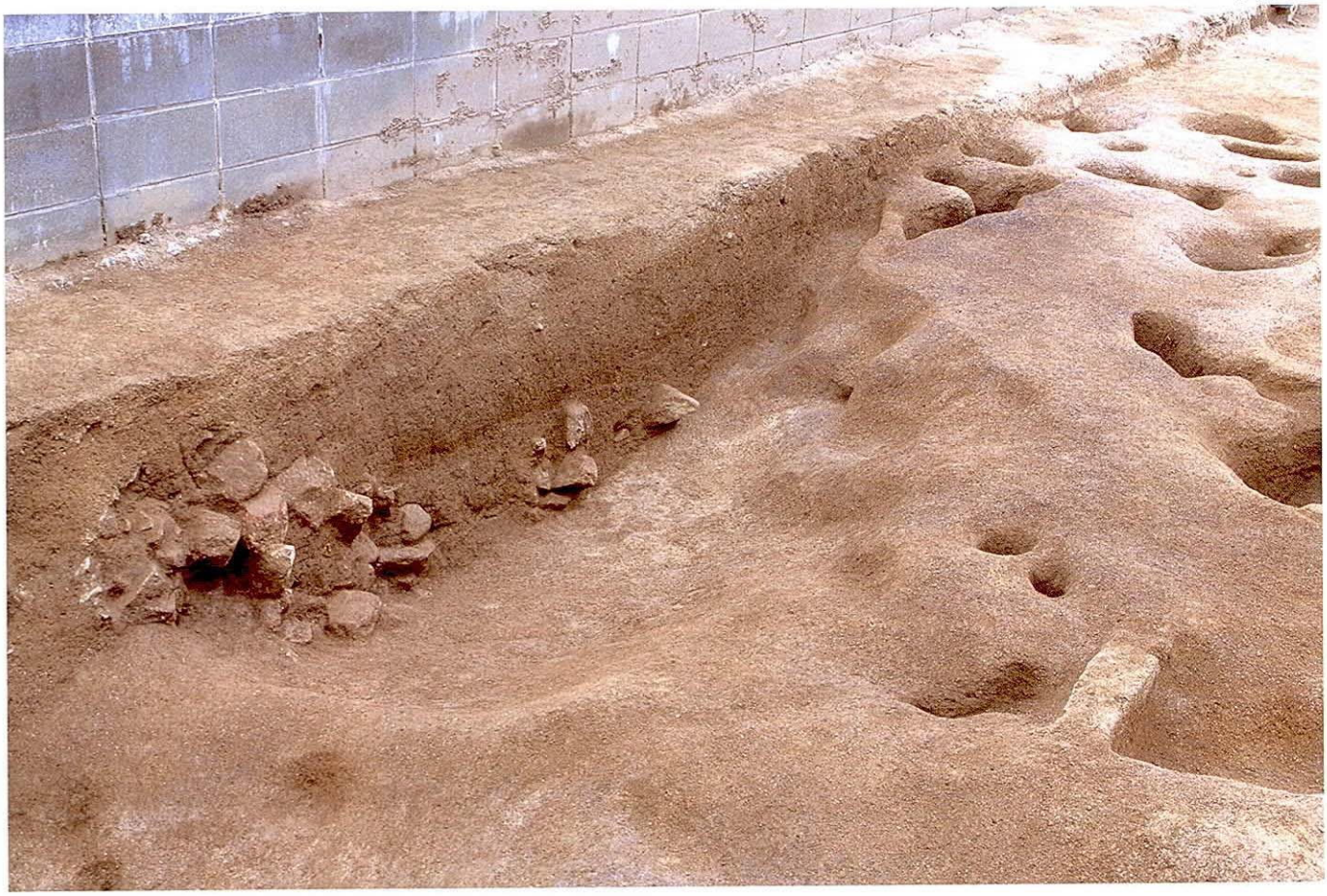
図版30



（1）薬師の森遺跡第６次調査SX34全景（南から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査SX34土層（西から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査SX51全景（南西から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査SX51土層（南から）

図版32



（1）薬師の森遺跡第６次調査
SX56土層（南から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査
SX66・83全景
（北から）



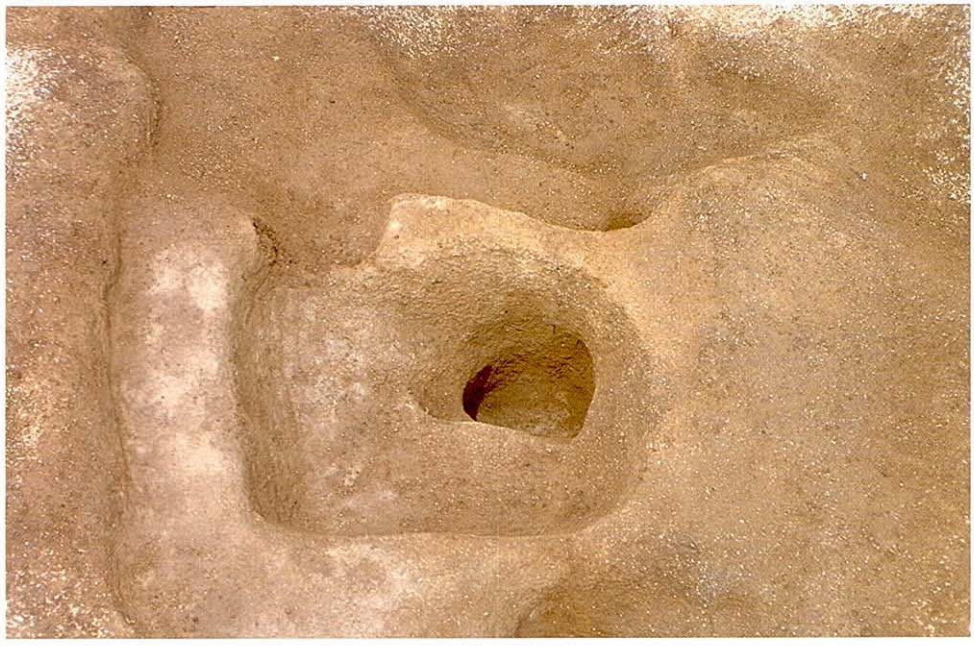
（3）薬師の森遺跡第６次調査
SX66・83土層
（北から）



（1）薬師の森遺跡第６次調査
SX86全景（西から）



（2）薬師の森遺跡第６次調査
SX95全景（東から）



（3）薬師の森遺跡第６次調査
SX96全景（東から）

図版34



(1) 薬師の森遺跡第６次調査
調査区西部第１面全景
(北東から)



(2) 薬師の森遺跡第６次調査
SB03（SP440）板碑
出土状況（東から）



(3) 薬師の森遺跡第６次調査
東側調査区遠景(北から)



（1）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
検出状況（北から）



（2）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
SX01東西土層（北から）



（3）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
SX01南北土層（東から）

図版36



（1）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
SX01全景（北から）



（2）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
谷部包含層土層（西から）

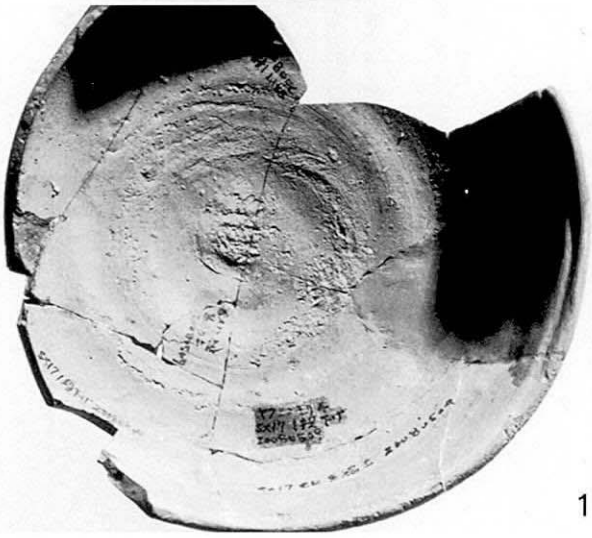


（3）雉子ヶ尾遺跡第３次調査
調査区全景（西から）


12


15




18


19

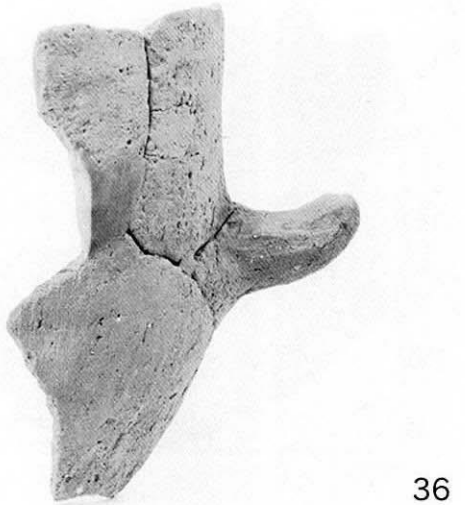

20

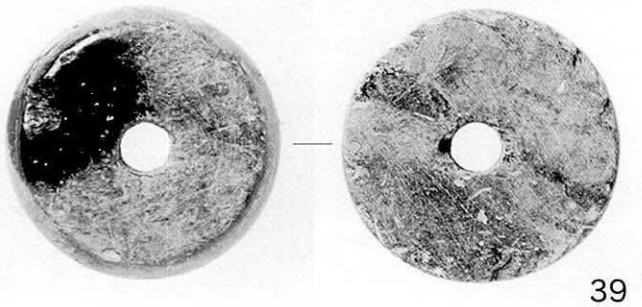

21


24


30


32


36

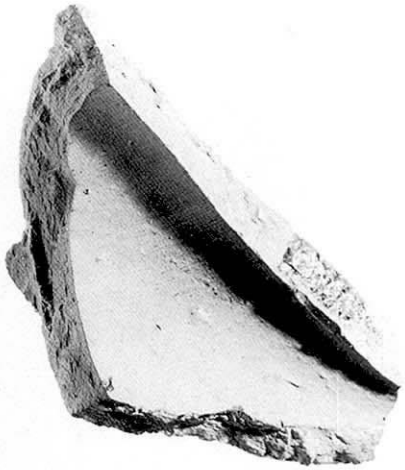

39

薬師の森遺跡第４次調査出土遺物①

図版38



35外面



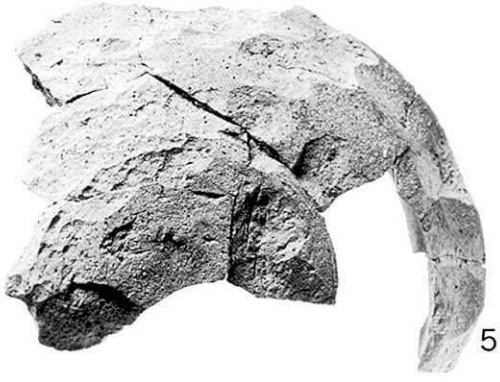
35内面



47



51



51外面



52



53



57



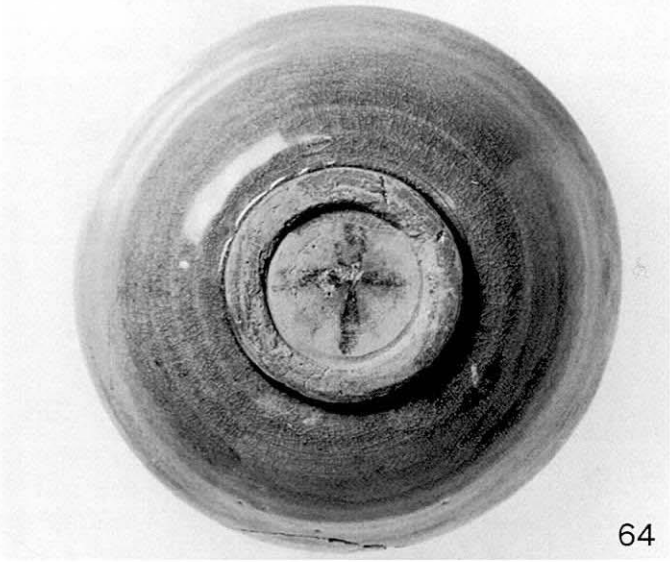


63

薬師の森遺跡第４次調査出土遺物②






64


70


66


67




69


71


65

薬師の森遺跡第４次調査出土遺物③

図版40


72


73


75


80


86

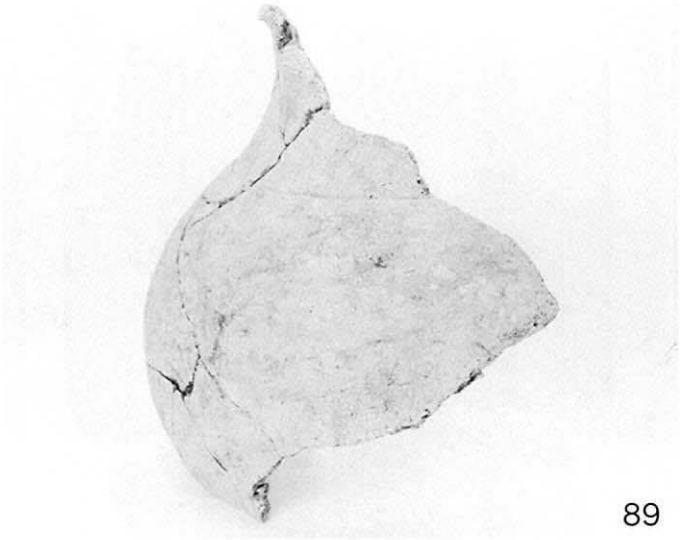

91


87

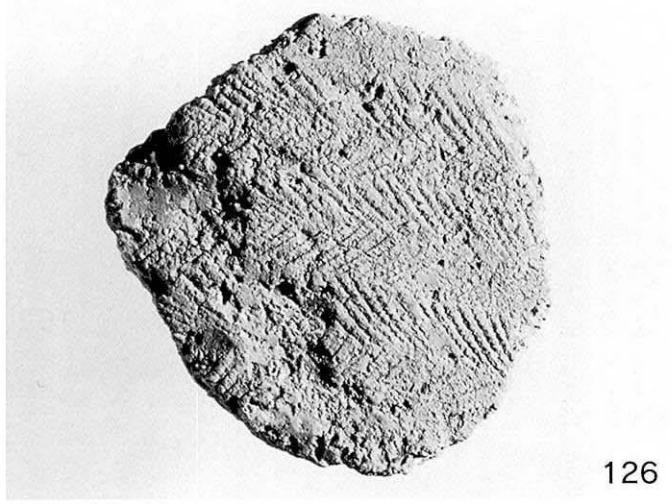

88


98


98



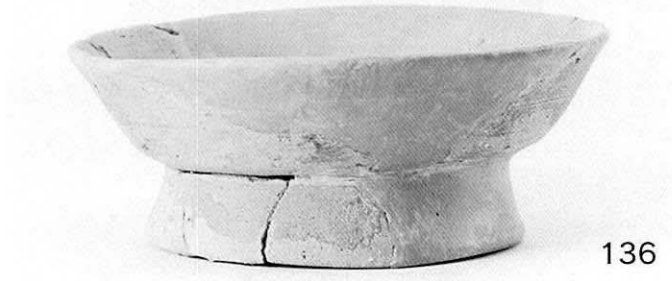
89



126



103



136



104



137



106



145



108



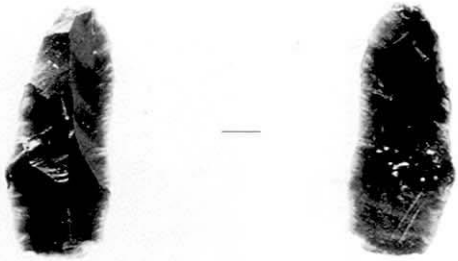
159

薬師の森遺跡第４次調査出土遺物⑤

図版42



162

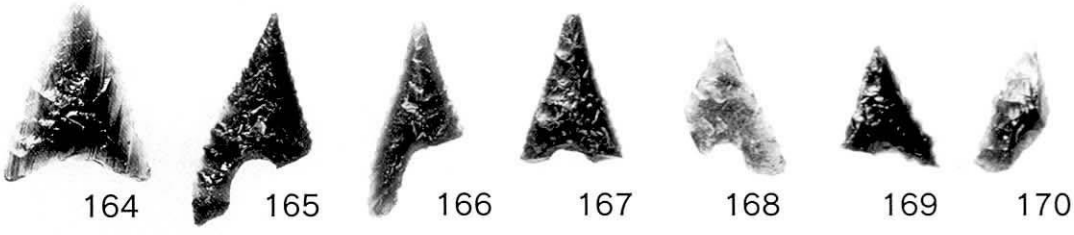


163



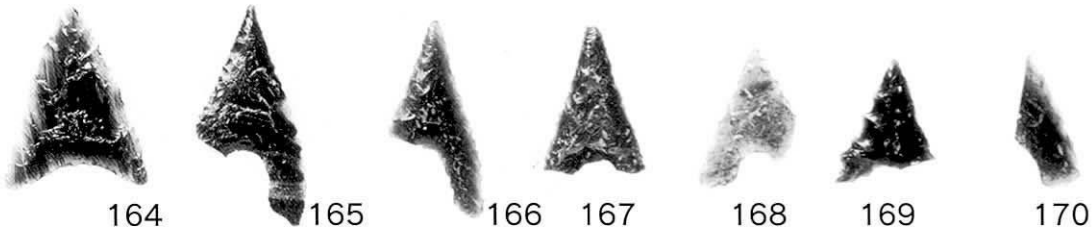


179



164 165 166 167 168 169 170

171 172 173 174 175 176 177 178



164 165 166 167 168 169 170

171 172 173 174 175 176 177 178

薬師の森遺跡第４次調査出土遺物⑥



181表



181裏



189





191



193



201







195



202

薬師の森遺跡第６次調査出土遺物①

図版44


208


220




210 211


222


249




259


227


261


217表


217裏

薬師の森遺跡第６次調査出土遺物②



271

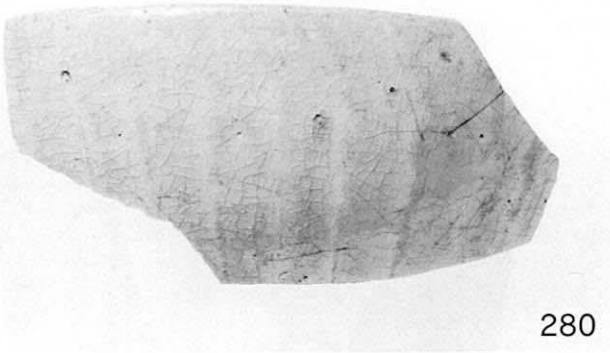


272



276





280



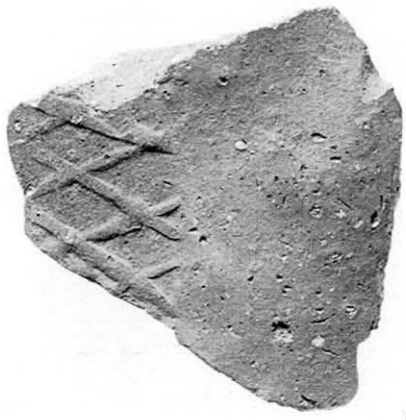
277



254凹



254凸面



257凸面

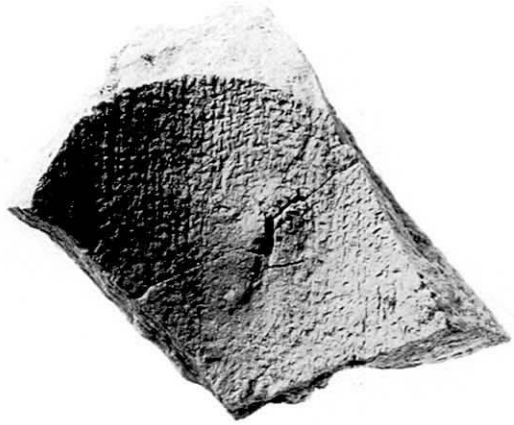


257凹面

薬師の森遺跡第６次調査出土遺物③



274凸面



274凹面



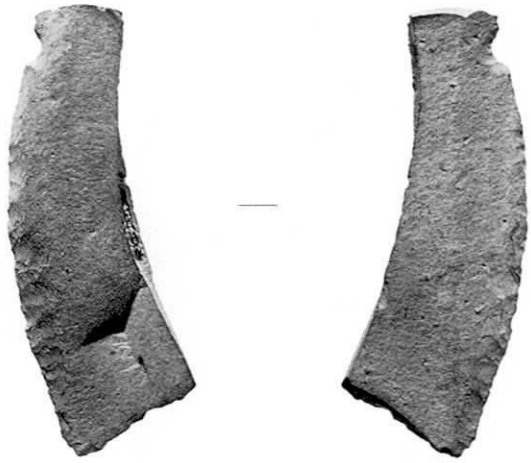
278



284



285

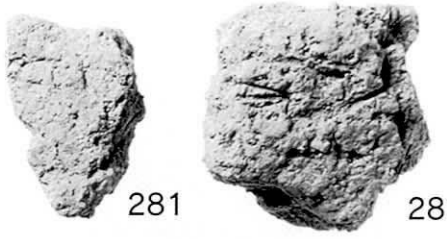


279





281　282



281　282



283



283



287

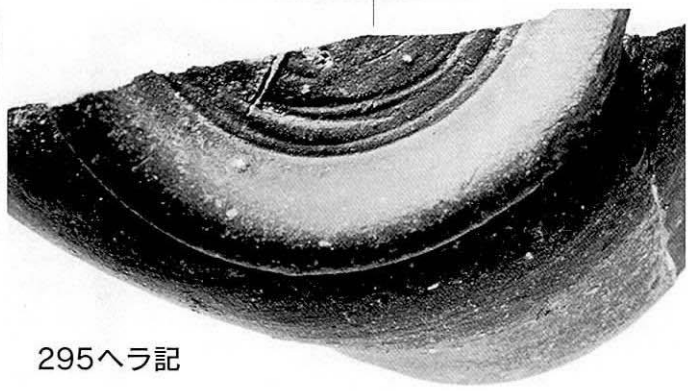


294





295



295ヘラ記



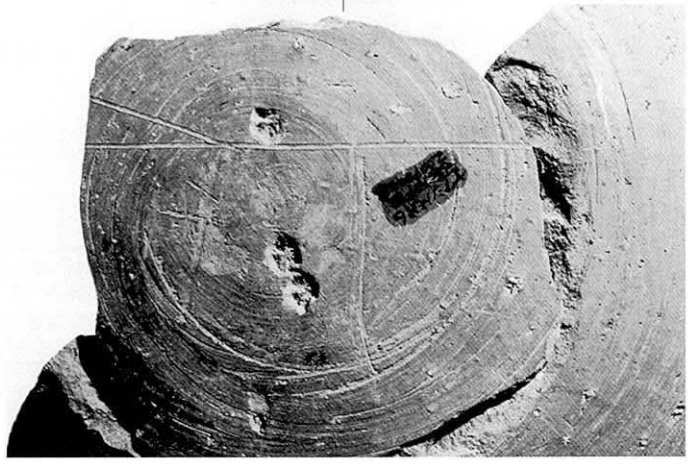
290



297



292





293

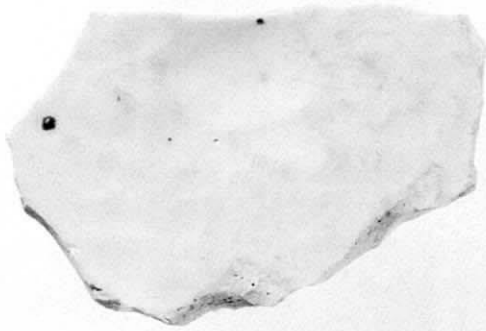
薬師の森遺跡第６次調査出土遺物⑤

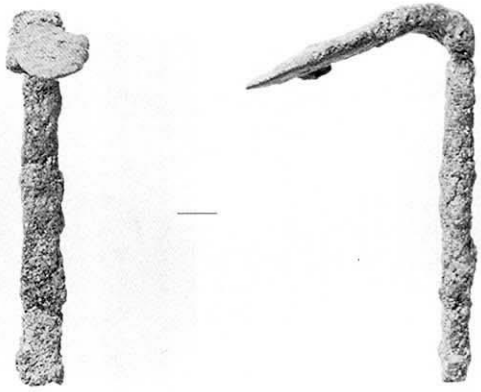


300



308





301



305



302



314

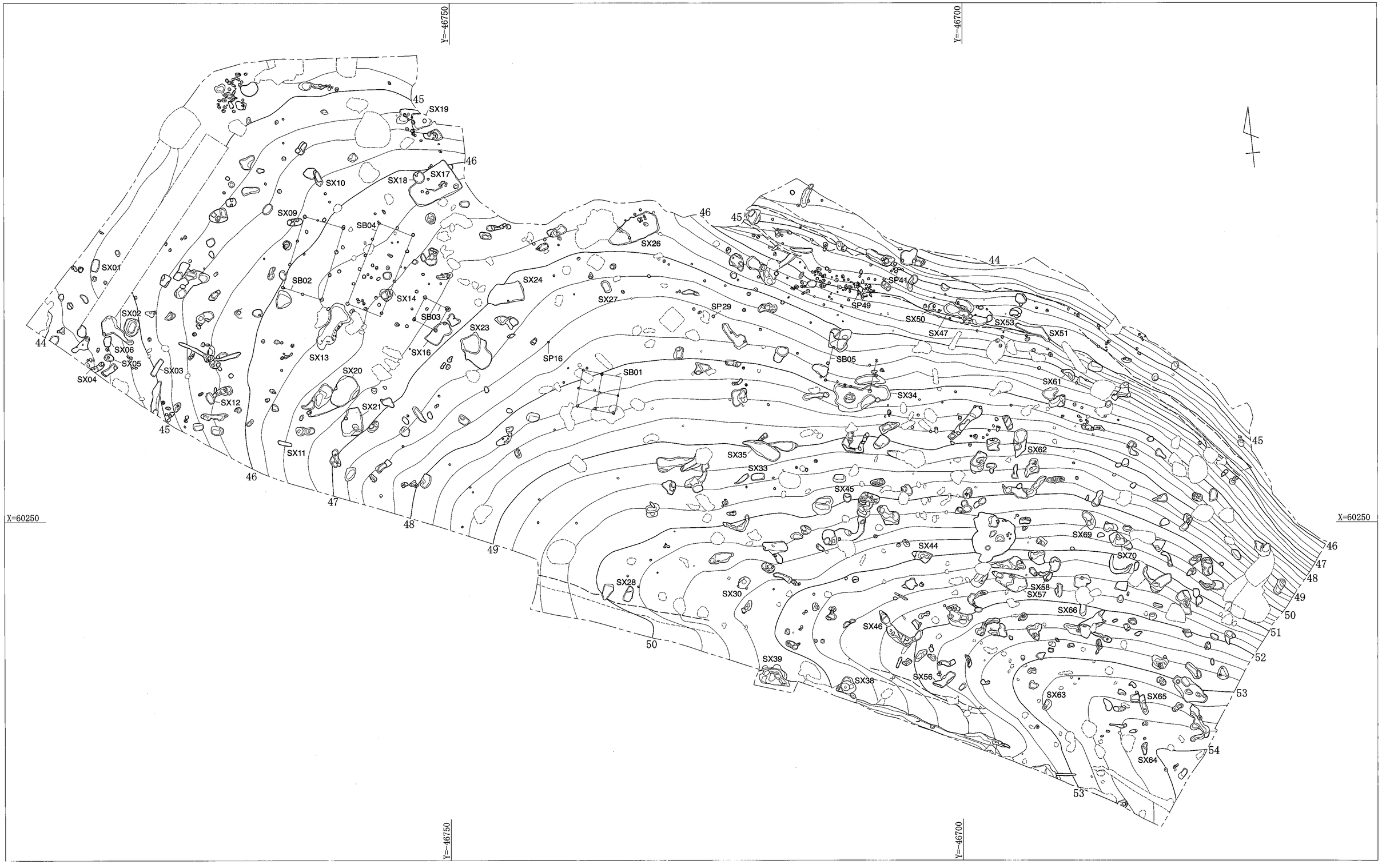


307凸面



307凹面

薬師の森遺跡第６次調査出土遺物⑥・雉子ヶ尾遺跡第３次調査出土遺物



薬師の森遺跡第４次調査遺構配置図　（1／200）

報告書抄録

ふりがな	おとがなちくいせきぐん　に
書名	乙金地区遺跡群　II
副書名	乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	II
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第92集
編著者名	上田　龍児・中島　圭・林　潤也
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話 092(501)2211
発行年月日	2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
やくしのもりいせき 薬師の森遺跡 第４次調査	ふくおかけんおおのじょうしおとがな 福岡県大野城市乙金 ３丁目５５１番他			33° 32′ 32″	130° 29′ 49″	2008.4.14 ～ 2008.7.25	約4,500㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師の森遺跡 第４次調査	集落遺跡	古墳・平安・鎌倉	竪穴住居跡 掘立柱建物 土壙墓・土坑	須恵器・土師器・弥生土器・陶磁器・石器・鉄製品	

要約

調査地は丘陵尾根および緩斜面上に位置し、旧石器・縄文時代～中世にいたる遺構・遺物を確認した。遺構は掘立柱建物・竪穴住居・土壙墓・土坑などがある。旧石器・縄文時代の遺物として、ナイフ形石器や打製石鏃が出土した。弥生時代の土坑からは前期後半段階の良好な一括遺物が出土し、当該期の好資料といえる。古墳時代には、後期に属する竪穴住居・土坑があり、小規模な集落があったと考えられる。平安時代には掘立柱建物や土師器を埋納した土壙墓があり、居住域・墓域として利用されていたことが明らかになった。平安時代末～鎌倉時代にかけては土壙墓が営まれ、薬師の森遺跡第３次調査の成果と併せて考えると、遺跡が立地する丘陵尾根から西側にかけて墓域が展開していたと推測される。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
やくしのもりいせき 薬師の森遺跡 第６次調査	ふくおかけんおおのじょうしおとがな 福岡県大野城市乙金 ３丁目401番他			33° 32′ 39″	130° 29′ 42″	2008.12.25 ～ 2009.6.4	約1,300㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師の森遺跡 第６次調査	集落遺跡	奈良・鎌倉・室町	竪穴住居跡 掘立柱建物 土坑・溝	須恵器・土師器・縄文土器・陶磁器・石器・鉄製品・鉄滓	

要約

調査地は乙金山から西側にのびる緩やかな丘陵上に立地する。遺構は竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、ピットを確認し、遺物は須恵器、土師器、鉄器、石製品、瓦器、陶磁器、鉄滓、焼土塊等が出土した。奈良時代の遺構は、竪穴住居や溝、土坑がある。竪穴住居は一軒検出し、時期は８世紀代と考えられる。中世の遺構は15～16世紀を中心とし、掘立柱建物や溝、土坑、ピットがある。掘立柱建物は２間×２間が１棟、１間×１間が２棟の計３棟を検出した。土坑は、廃棄土坑と考えられるものがあり、いずれも拳大～人頭大の礫多く含む。また、少量であるが鉄滓が出土しており、付近に製鉄炉か鍛冶炉があったものと想定できよう。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
きじがおいせき 雉子ヶ尾遺跡 第３次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざおとがな 福岡県大野城市大字乙金 120－1他			33° 32′ 21″	130° 29′ 51″	2008.11.5 ～ 2008.12.5	約670㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
雉子ヶ尾遺跡 第３次調査	集落遺跡	古墳～飛鳥	土坑・包含層	須恵器・土師器	

要約

調査地は乙金山・四王寺山から派生する丘陵の谷部にあたる。性格不明の土坑のほか、遺物包含層を検出した。遺物は須恵器、土師器が出土し、７世紀前半から中頃のものと想定できる。福岡県教育委員会による雉子ヶ尾窯跡・古墳群の調査報告書によれば、土取りによって丘陵上部が削平される際、住居跡が多数破壊されたようで、本調査地で確認した遺物は、これら集落に由来する遺物が流入した可能性も考えられよう。

大野城市文化財調査報告書　第92集

乙金地区遺跡群 II

平成22年3月31日

発 行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町２－２－１

印 刷　秀英社印刷株式会社
福岡県筑紫野市武蔵３丁目２番６号